

吹田市民の地域福祉に関する実態調査

報 告 書

(素案)

令和 2 年 2 月 7 日時点

吹 田 市

目次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の内容	1
3. 調査の方法	2
4. 回収の結果	2
5. 報告書の見方	2
II 調査結果	3
1. 回答者の属性	3
(1) 性別	3
(2) 年齢	3
(3) 同居家族	5
(4) 中学生以下の子供の有無	7
(5) 65歳以上の人の有無	7
(6) 現在の住まい	8
(7) 現在の住まいでの居住年数	8
(8) 居住地域	9
(9) 世帯の主な収入	9
(10) 経済的な状況	11
2. 相談や情報の入手などについて	12
(1) 日常生活で困っていることや不安なこと	12
(2) くらしや健康・福祉についての相談相手の有無	14
(3) くらしや健康・福祉についての具体的な相談相手	17
(4) くらしや健康・福祉に関する相談窓口の認知・利用状況	20
(5) くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法	22
3. 近所付き合いについて	28
(1) 隣近所との付き合いの程度	28
(2) 付き合いしている理由	30
(3) 近所付き合いが難しい理由	33
4. 地域で暮らす中での問題等について	37
(1) 地域生活の中で福祉について気になっていること	37
(2) 地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること	41
(3) 地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていること	45
(4) 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（住民の主体的な取組）	49
(5) 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（自身ができること）	53
(6) 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）	57
5. 地域活動やボランティア活動について	61
(1) 自治会への加入状況	61

(2) 自治会への加入理由.....	63
(3) 自治会に加入していない理由.....	65
(4) 地域活動への参加・取組状況.....	68
(5) 地域活動に参加してよかったこと.....	71
(6) 地域活動に参加していない理由.....	74
(7) 地域活動に参加しやすくするために必要なこと.....	77
(8) 福祉ボランティア活動への参加・取組状況.....	80
(9) 福祉ボランティア活動に参加していない理由.....	84
6. 社会福祉協議会やCSWについて.....	86
(1) 社会福祉協議会の認知状況.....	86
(2) 社会福祉協議会の取組として知っているもの.....	89
(3) CSWの認知状況.....	91
(4) CSWに期待すること.....	95
7. 成年後見制度について.....	97
(1) 成年後見制度の認知状況.....	97
(2) 成年後見制度の利用意向.....	99
(3) 援助者になってほしい人.....	100
(4) 利用したいと思わない理由.....	102
(5) 成年後見制度が利用しやすいものとなるために重要なこと.....	104
8. 災害から生命を守る取組等について.....	107
(1) 防災に関する取組や情報について知っているもの.....	107
(2) 災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき地域の取組.....	111
(3) 災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき行政の取組.....	113
(4) 大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動に対する関心度の変化.....	115
(5) 大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動の変化の状況.....	116
9. 再犯防止の取組等について.....	117
(1) 再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているもの.....	117
(2) 再犯や再非行を防止するために必要なこと.....	119
10. 自由意見.....	121

I 調査概要

1. 調査の目的

市民のくらしの課題や地域福祉活動に関する意識、行政に対する意見や施策ニーズなどを把握し、「第4次吹田市地域福祉計画」の基礎資料として活用するために実施しました。

2. 調査の内容

調査の目的を達成するために、以下の項目について調査を実施しました。

- (1) 回答者の属性……性別、年齢、同居家族、中学生以下の子供の有無、65歳以上の同居者の有無、現在の住まい、居住年数、世帯の主な収入、経済的な状況
- (2) 相談や情報の入手などについて……日常生活で困っていることや不安なこと、くらしや健康・福祉についての相談相手の有無・相談相手、くらしや健康・福祉に関する相談窓口の認知・利用状況、くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法
- (3) 近所付き合いについて……隣近所との付き合いの程度・付き合っている理由・近所付き合いが難しい理由
- (4) 地域で暮らす中での問題等について……地域生活の中で福祉について気になっていること、地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること、地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていること、地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組
- (5) 地域活動やボランティア活動について……自治会への加入状況・加入理由・加入していない理由、地域活動への参加・取組状況、地域活動に参加してよかったこと・参加していない理由、地域活動に参加しやすくするために必要なこと、福祉ボランティア活動への参加・取組状況・参加していない理由
- (6) 社会福祉協議会やCSWについて……社会福祉協議会の認知状況、社会福祉協議会の取組として知っているもの、CSWの認知状況、CSWに期待すること
- (7) 成年後見制度について……成年後見制度の認知状況、成年後見制度の利用意向・援助者になってほしい人・利用したいと思わない理由、成年後見制度が利用しやすいものとなるために重要なこと
- (8) 災害から生命を守る取組等について……防災に関する取組や情報について知っているもの、災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき地域の取組・行政の取組、大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動に対する関心度の変化、大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動の変化の状況
- (9) 再犯防止の取組等について……再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているもの、再犯や再非行を防止するために必要なこと
- (10) 自由意見……国や府、市などへの要望や意見など

3. 調査の方法

- (1) 調査地域 吹田市内
- (2) 調査対象 満 18 歳以上の市民
- (3) 標 本 数 2,000 人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査手法 郵送調査法（督促 1 回）
- (6) 調査時期 令和元年(2019年)10月31日（木）～12月1日（日）

4. 回収の結果

配布数	不到着	実質配布数	回収数	回収率
2,000件	10件	1,990件	1,124件	56.5%

〔居住地域別〕

居住地域	配布数	回収数	回収率
J R以南地域	195件	101件	51.8%
片山・岸部地域	292件	164件	56.2%
豊津・江坂・南吹田地域	373件	181件	48.5%
千里山・佐井寺地域	340件	179件	52.6%
山田・千里丘地域	436件	258件	59.2%
千里ニュータウン・万博・阪大地域	364件	220件	60.4%

5. 報告書の見方

- (1) 図表中の「n (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- (2) 回答結果の割合「%」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単一回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- (4) 図表中に以下の表示がある場合は、複数回答を依頼した質問を示しています。
 - ・ MA % (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・ 3 LA % (3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
- (5) 本文中のグラフや数表で、コンピュータの入力の都合上、回答選択肢の見出しを簡略化している場合があります。
- (6) 本文及び図中における「前回調査」とは、平成26年度に実施した「吹田市民の地域福祉に関する実態調査」の結果のことです。

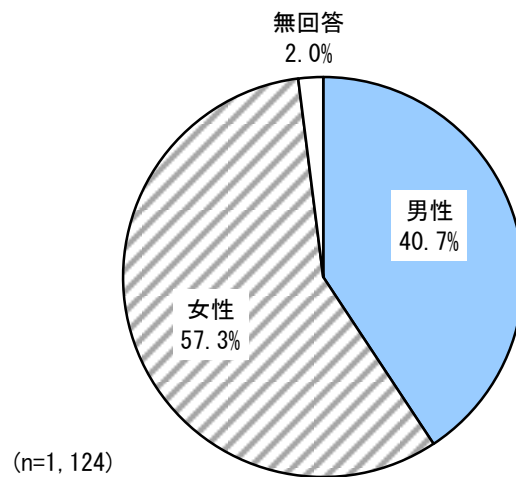
Ⅱ 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

問1 あなたの性別は。(○は1つ)

【図1-1 性別】

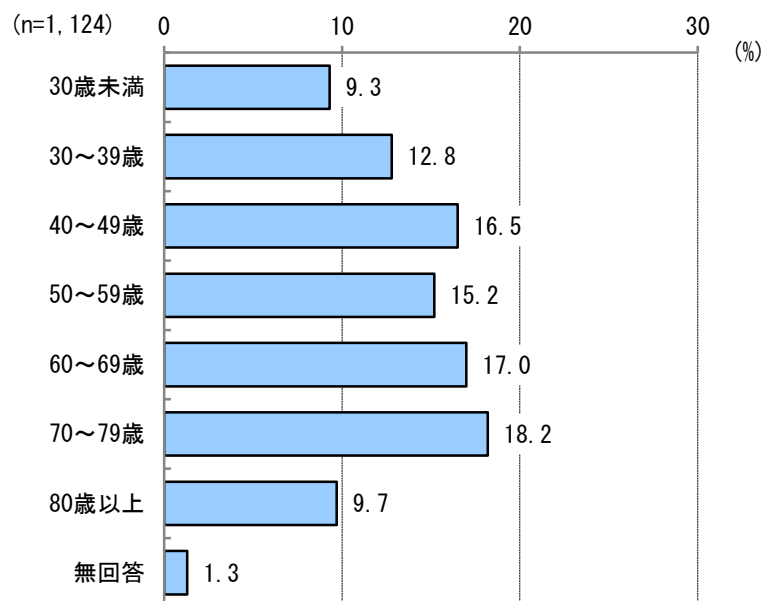


回答者の性別は、「男性」が40.7%、「女性」が57.3%となっています。(図1-1)

(2) 年齢

問2 あなたの年齢は。(令和元年11月1日現在)(○は1つ)

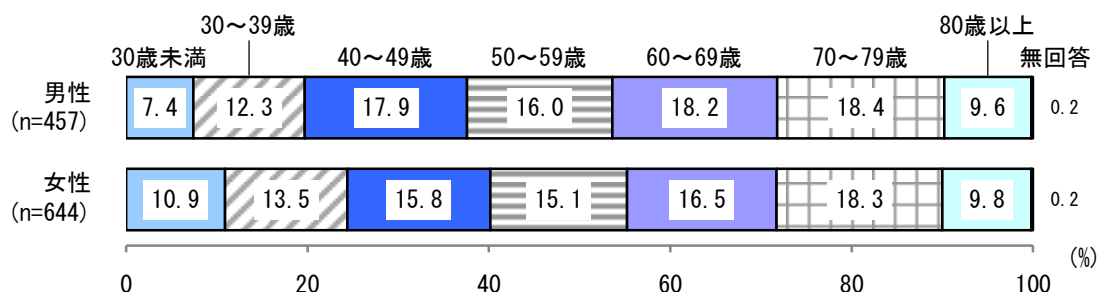
【図1-2 年齢】



回答者の年齢は、「70～79歳」が18.2%で最も多く、次いで「60～69歳」が17.0%、「40～49歳」が16.5%、「50～59歳」が15.2%となっています。(図1-2)

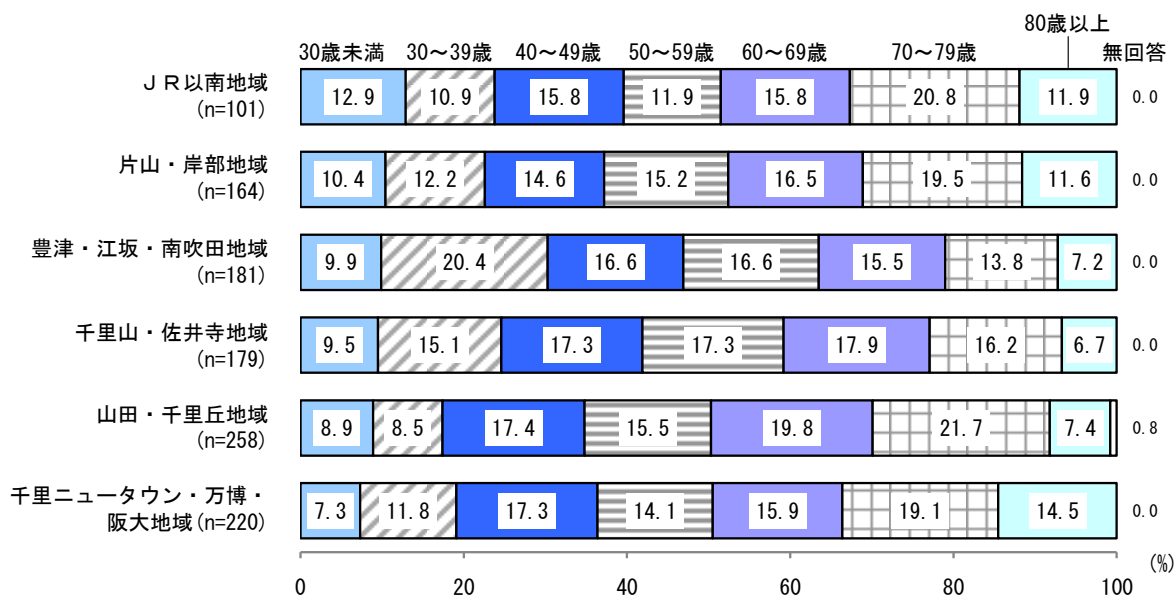
性別でみると、男女とも「70～79歳」が最も多く、男性18.4%、女性18.3%となっています。(図1-2-1)

【図1-2-1 性別 年齢】



居住地域別でみると、豊津・江坂・南吹田地域は「30～39歳」(20.4%)が、千里山・佐井寺地域では「60～69歳」(17.9%)が最も多いですが、それ以外の地域では「70～79歳」が最も多くなっています。(図1-2-2)

【図1-2-2 居住地域別 年齢】

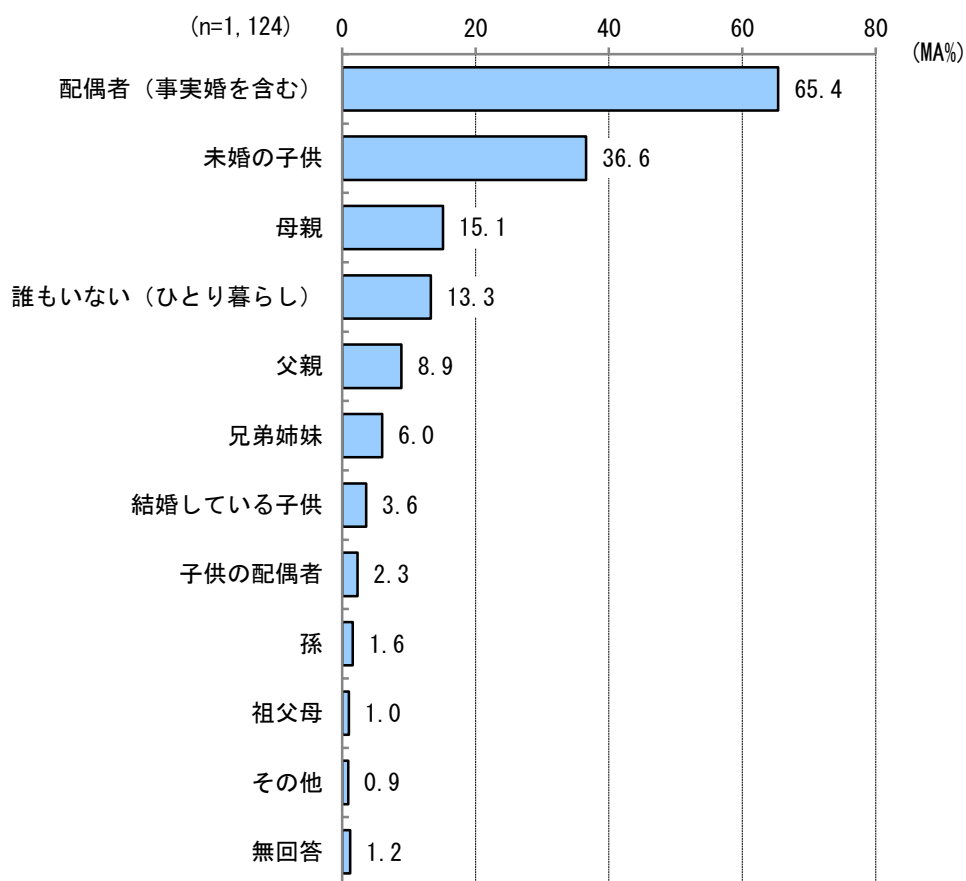


(3) 同居家族

問3 あなたと一緒に暮らしている人についてお答えください。

問3-1 一緒に暮らしている人はどなたですか。あなたからみた続柄でお答えください。
(〇はいくつでも)

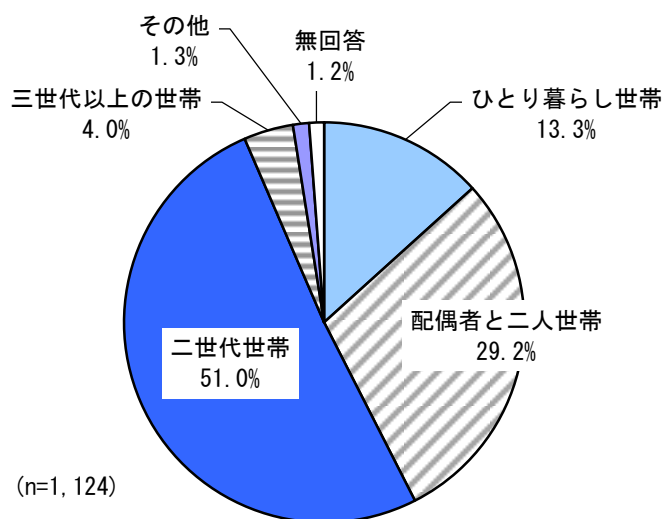
【図1-3 同居家族】



同居者の続柄は、「配偶者 (事実婚を含む)」が65.4%で最も多く、次いで「未婚の子供」が36.6%、「母親」が15.1%となっています。(図1-3)

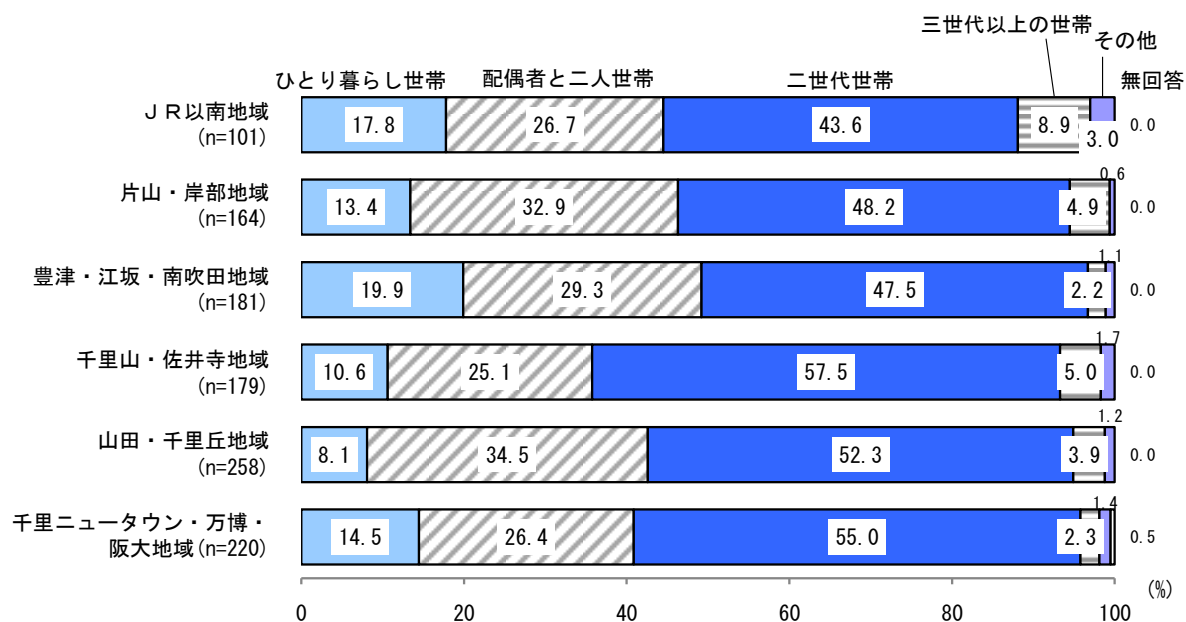
同居家族から家族構成をみると、「二世帯世帯」が51.0%で最も多く、次いで「配偶者と二人世帯」が29.2%、「ひとり暮らし世帯」が13.3%となっています。(図1-3-1)

【図1-3-1 家族構成】



居住地域別でみると、いずれの地域も「二世帯世帯」が40%以上を占め最も多くなっています。一方、「ひとり暮らし世帯」は豊津・江坂・南吹田地域が19.9%で最も高く、「配偶者と二人世帯」は山田・千里丘地域が34.5%で最も高くなっています。(図1-3-1-1)

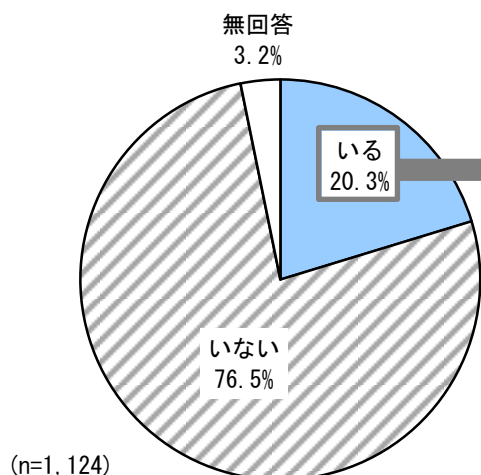
【図1-3-1-1 居住地域別 家族構成】



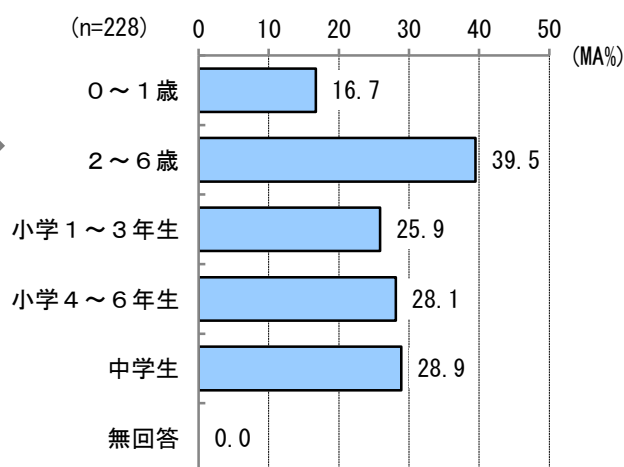
(4) 中学生以下の子供の有無

問3-2 中学生以下の子供はいますか。(○は1つ)

【図1-4 中学生以下の子供の有無】



【図1-4-1 子供の年齢・学年】



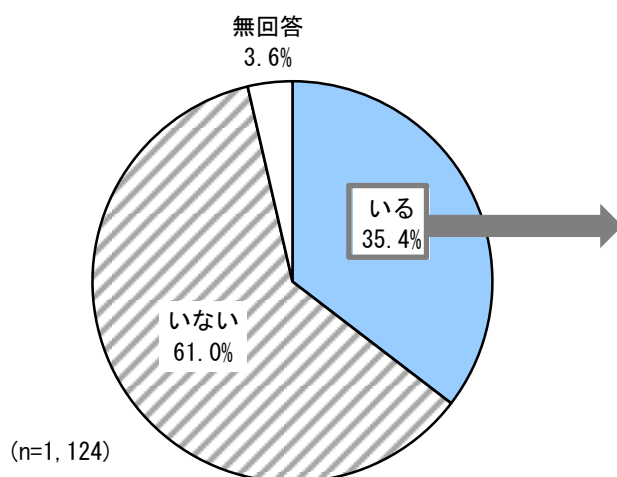
中学生以下の子供の有無については、「いる」が20.3%、「いない」が76.5%となっています。(図1-4)

中学生以下の子供がいると回答した人に、子供の年齢・学年をたずねると、「2～6歳」が39.5%で最も多く、次いで「中学生」が28.9%、「小学4～6年生」が28.1%、「小学1～3年生」が25.9%となっています。(図1-4-1)

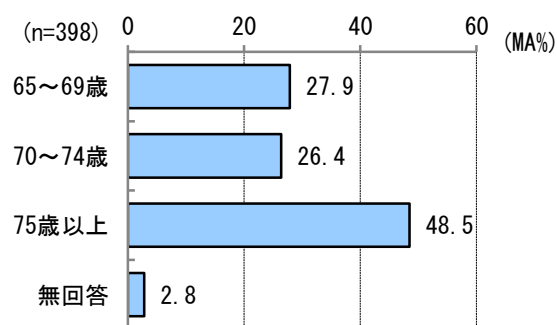
(5) 65歳以上の人の有無

問3-3 65歳以上の方はいますか。(○は1つ)

【図1-5 65歳以上の人の有無】



【図1-5-1 65歳以上の人の年齢】



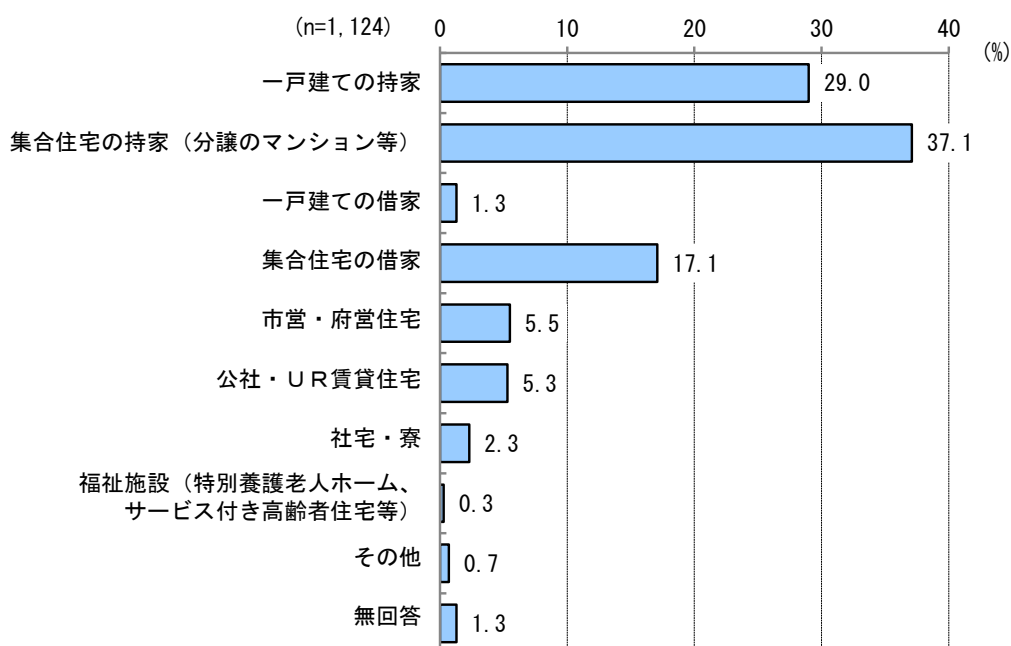
65歳以上の人の有無については、「いる」が35.4%、「いない」が61.0%となっています。(図1-5)

65歳以上の人がいると回答した人に、その同居者の年齢をたずねると、「75歳以上」が48.5%で最も多く、次いで「65～69歳」が27.9%、「70～74歳」が26.4%となっています。(図1-5-1)

(6) 現在の住まい

問4 現在の住まいは、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

【図1-6 現在の住まい】

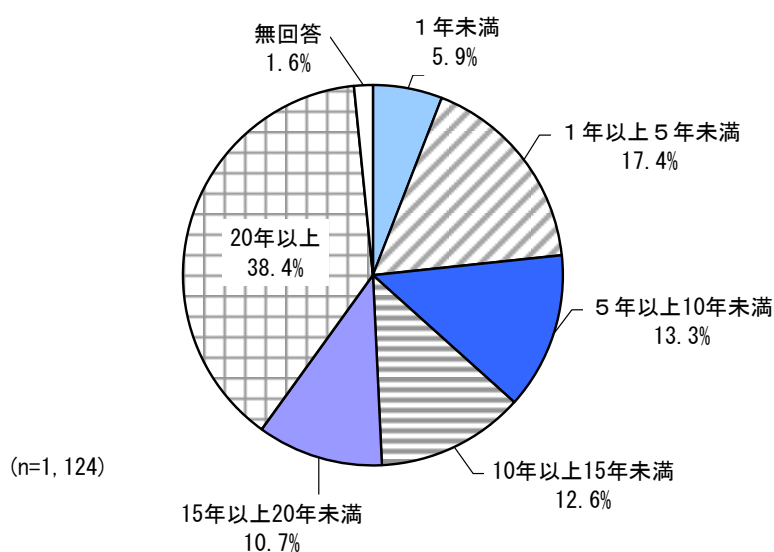


現在の住まいについては、「集合住宅の持家(分譲のマンション等)」が37.1%で最も多く、次いで「一戸建ての持家」が29.0%、「集合住宅の借家」が17.1%となっています。(図1-6)

(7) 現在の住まいでの居住年数

問5 現在の住まいには、何年間お住まいですか。(○は1つ)

【図1-7 現在の住まいでの居住年数】

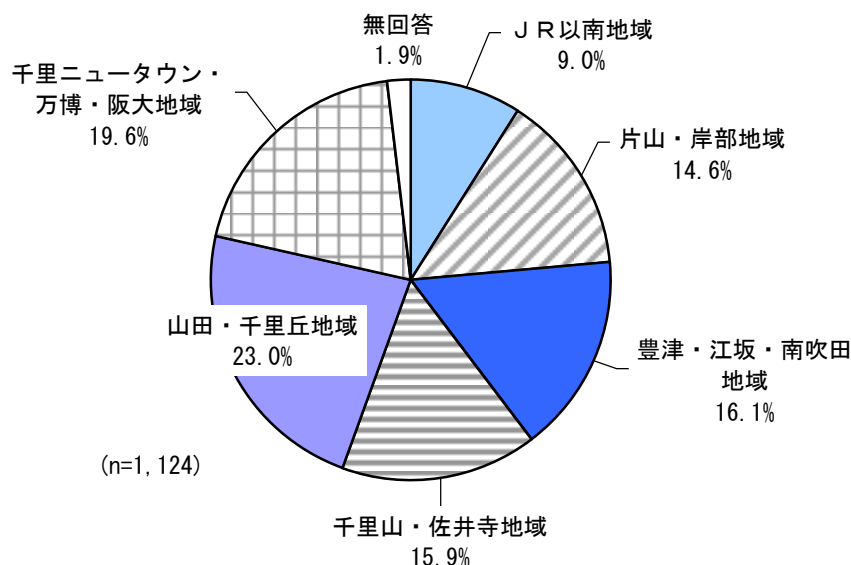


現在の住まいでの居住年数については、「20年以上」が38.4%で最も多く、次いで「1年以上5年未満」が17.4%、「5年以上10年未満」が13.3%となっています。(図1-7)

(8) 居住地域

問6 あなたはどちらの地域にお住まいですか。(1～6の地域のなかから○は1つ)

【図1-8 居住地域】

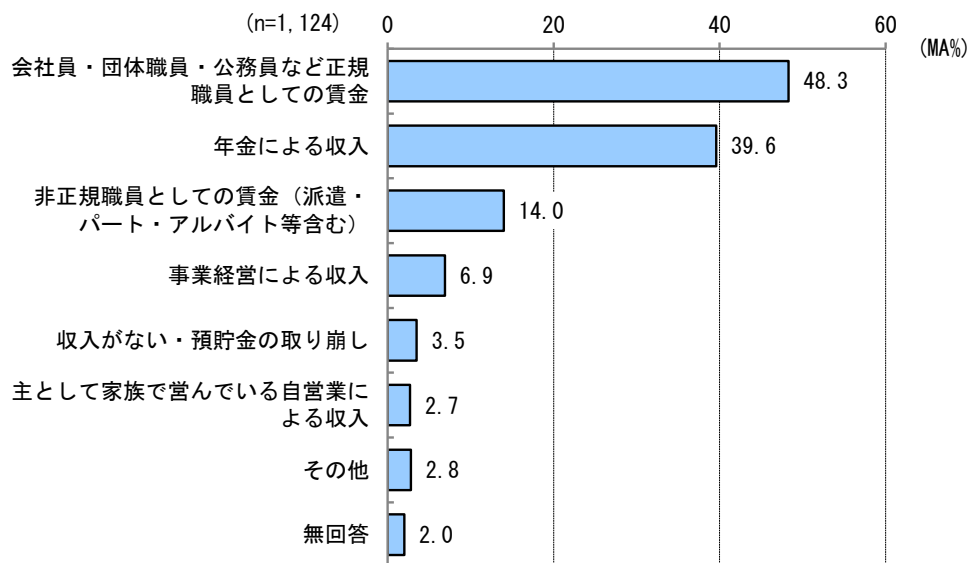


居住地域は、「山田・千里丘地域」が23.0%で最も多く、次いで「千里ニュータウン・万博・阪大地域」が19.6%、「豊津・江坂・南吹田地域」が16.1%、「千里山・佐井寺地域」が15.9%、「片山・岸部地域」が14.6%となっています。(図1-8)

(9) 世帯の主な収入

問7 あなたの世帯の主な収入についてお答えください。(○はいくつでも)

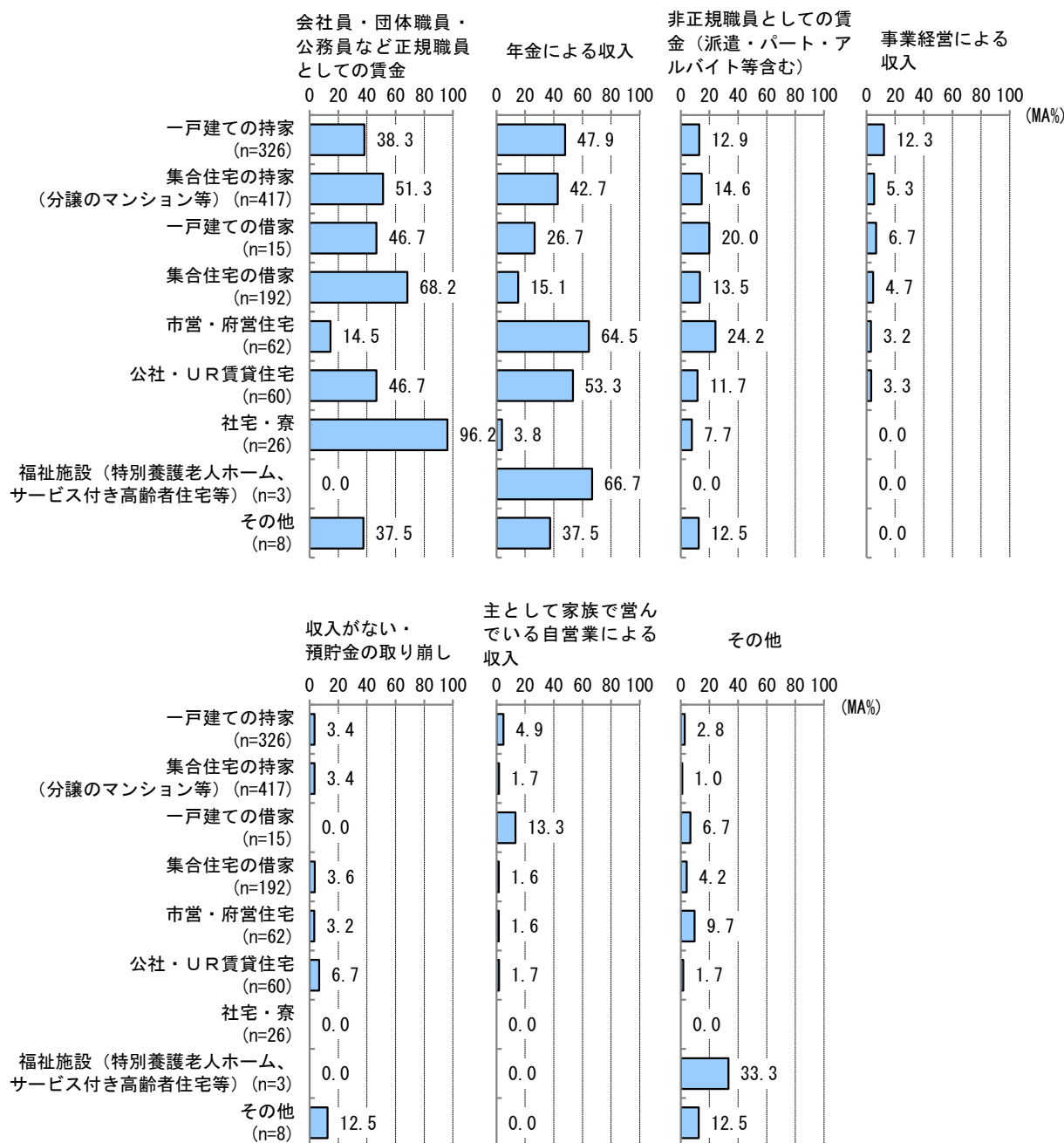
【図1-9 世帯の主な収入】



世帯の主な収入については、「会社員・団体職員・公務員など正規職員としての賃金」が48.3%で最も多く、次いで「年金による収入」が39.6%、「非正規職員としての賃金 (派遣・パート・アルバイト等含む)」が14.0%となっています。(図1-9)

現在の住まい別でみると、一戸建ての持家、市営・府営住宅、公社・UR賃貸住宅では「年金による収入」が最も多くなっています。(図1-9-1)

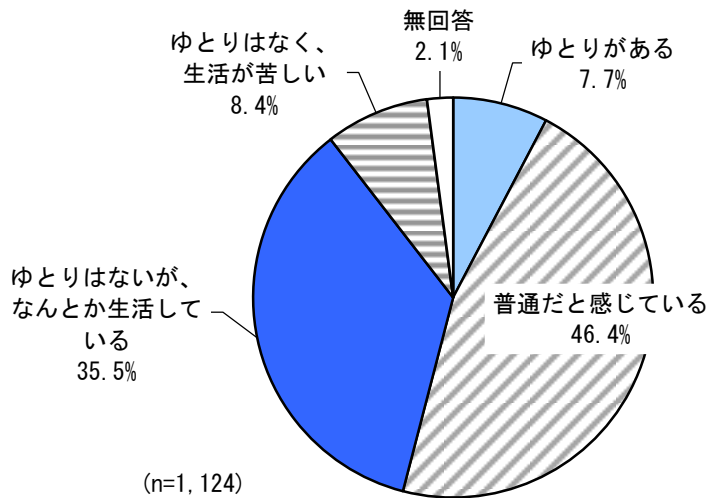
【図1-9-1 現在の住まい別 世帯の主な収入】



(10) 経済的な状況

問8 あなたの生活の経済的な状況について、どのように感じていますか。(○は1つ)

【図1-10 経済的な状況】

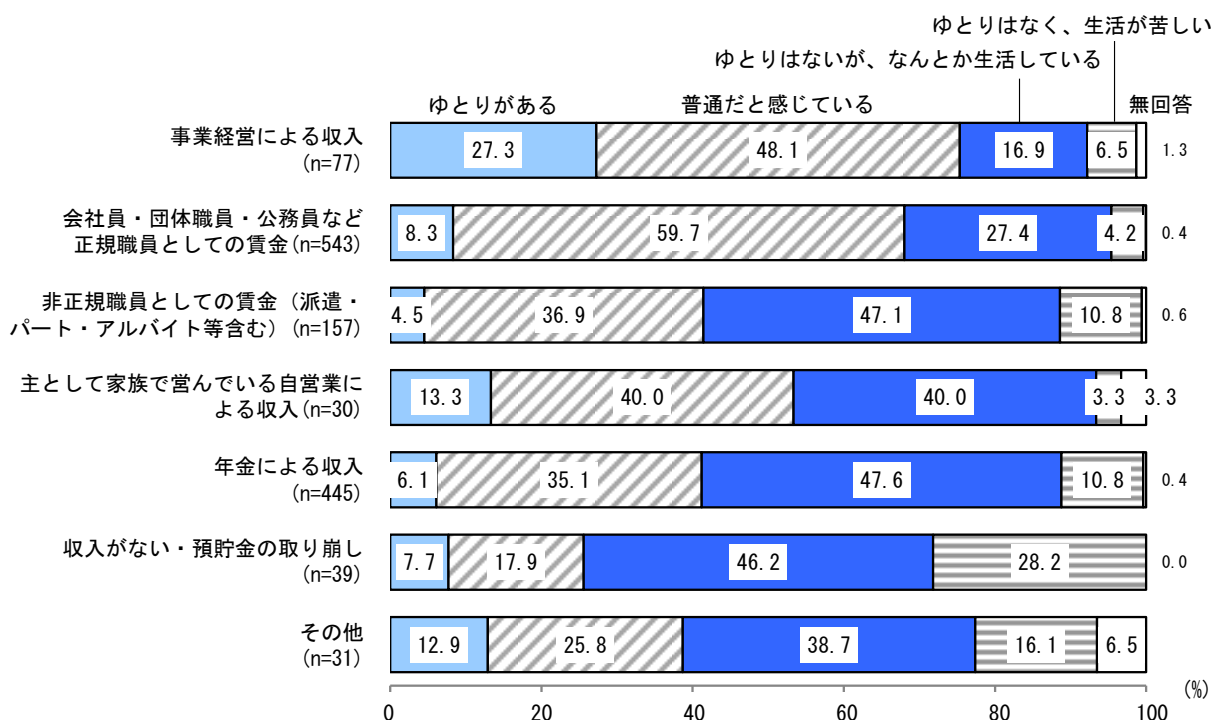


経済的な状況については、「普通だと感じている」が46.4%で最も多く、次いで「ゆとりはないが、なんとか生活している」が35.5%となっており、「ゆとりはないが、なんとか生活している」と「ゆとりはなく、苦しい」をあわせた『ゆとりはない』は43.9%となっています。

(図1-10)

世帯の主な収入別で見ると、「ゆとりがある」は事業経営による収入(27.3%)で最も高く、一方で『ゆとりはない』は収入がない・預貯金の取り崩しで74.4%、年金による収入で58.4%、非正規職員としての賃金(派遣・パート・アルバイト等含む)で57.9%とそれぞれ過半数を占めています。(図1-10-1)

【図1-10-1 世帯の主な収入別 経済的な状況】

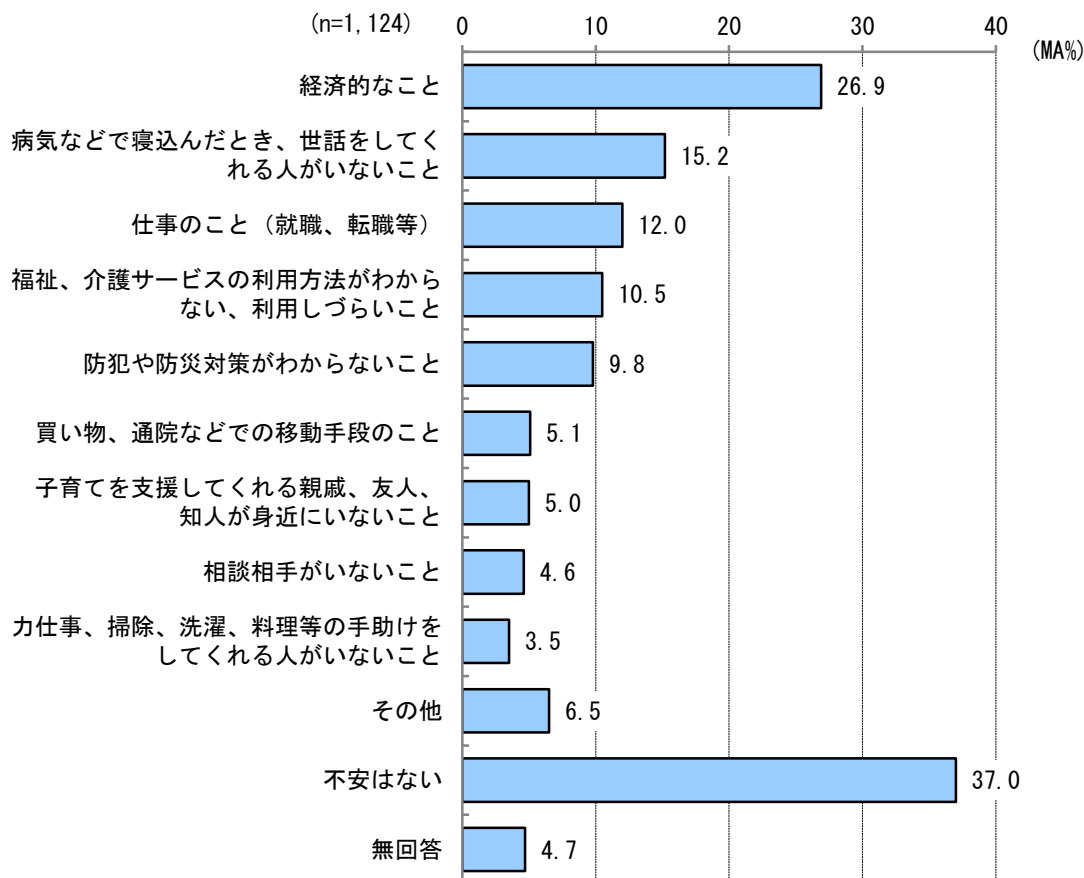


2. 相談や情報の入手などについて

(1) 日常生活で困っていることや不安なこと

問9 日常生活で困っていることや不安なことはありますか。(〇はいくつでも)

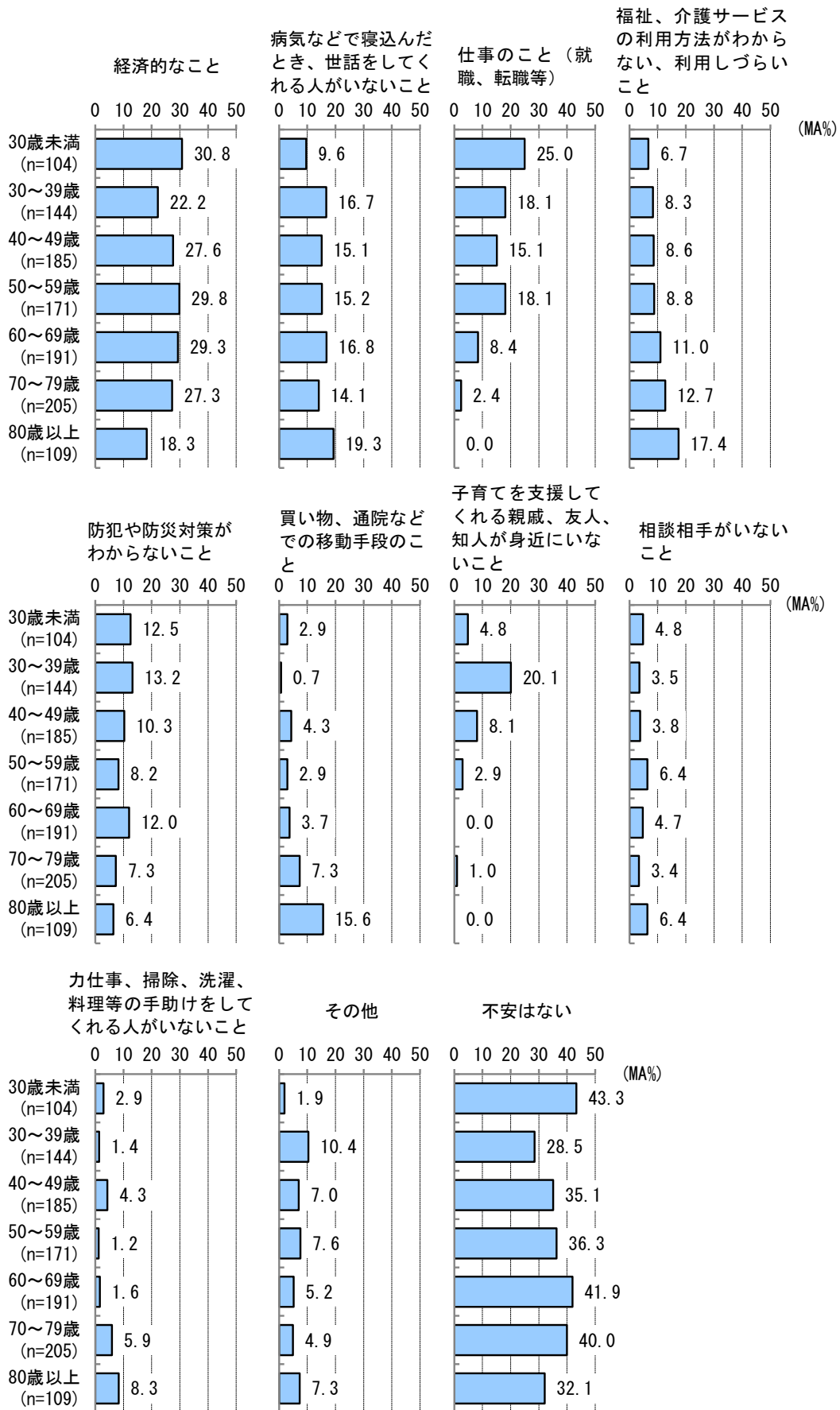
【図2-1 日常生活で困っていることや不安なこと】



日常生活で困っていることや不安なことについては、「不安はない」が37.0%で最も多いですが、不安がある人では「経済的なこと」が26.9%で最も多く、次いで「病気などで寝込んだとき、世話をしてくれる人がいないこと」が15.2%、「仕事のこと（就職、転職等）」が12.0%となっています。（図2-1）

年齢別でみると、「経済的なこと」や「仕事のこと（就職、転職等）」は30歳未満で最も高い。また、「福祉、介護サービスの利用方法がわからない、利用しづらいこと」は高齢になるほど高い割合となっています。（図2-1-1）

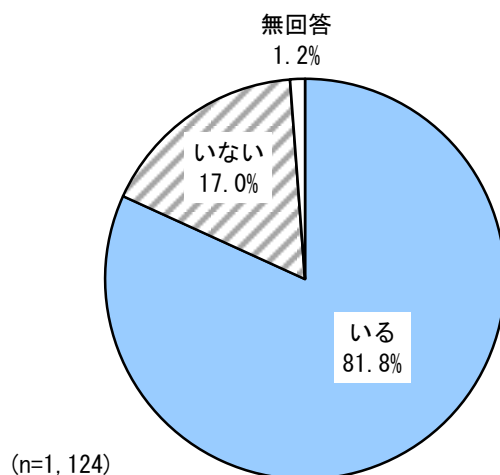
【図2-1-1 年齢別 日常生活で困っていることや不安なこと】



(2) くらしや健康・福祉についての相談相手の有無

問10 あなたは、日頃、くらしや健康・福祉のことで相談できる相手はいますか。(○は1つ)

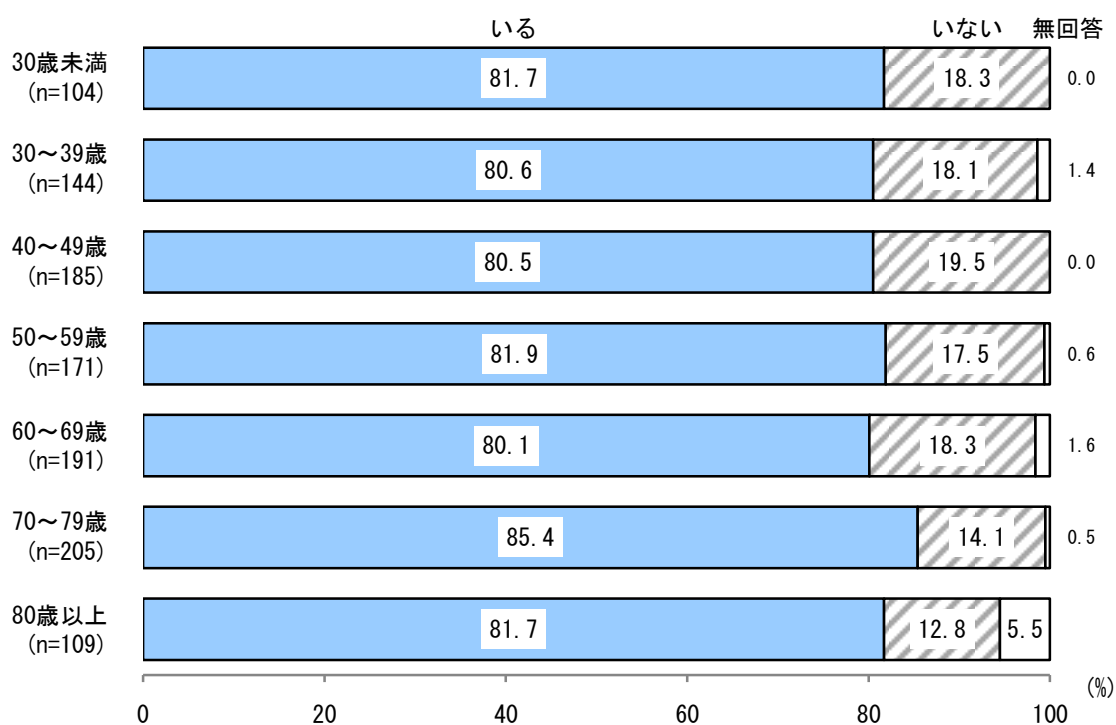
【図2-2 くらしや健康・福祉についての相談相手の有無】



くらしや健康・福祉についての相談相手の有無については、「いる」が81.8%、「いない」が17.0%となっています。(図2-2)

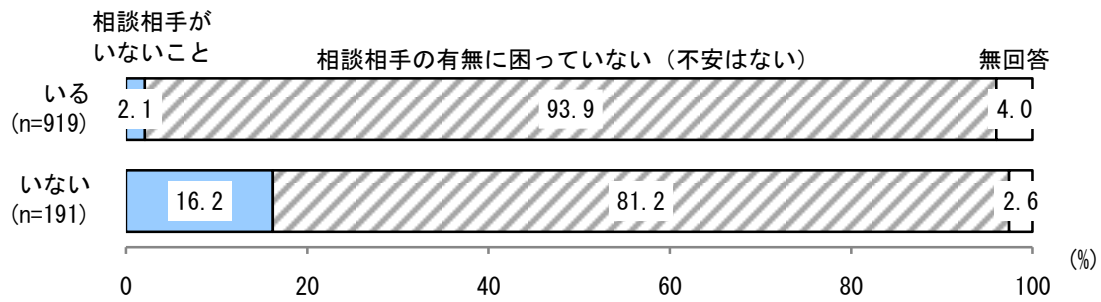
年齢別でみると、「いる」はいずれの年齢も80%強となっており、70～79歳が85.4%で最も高くなっています。(図2-2-1)

【図2-2-1 年齢別 くらしや健康・福祉についての相談相手の有無】



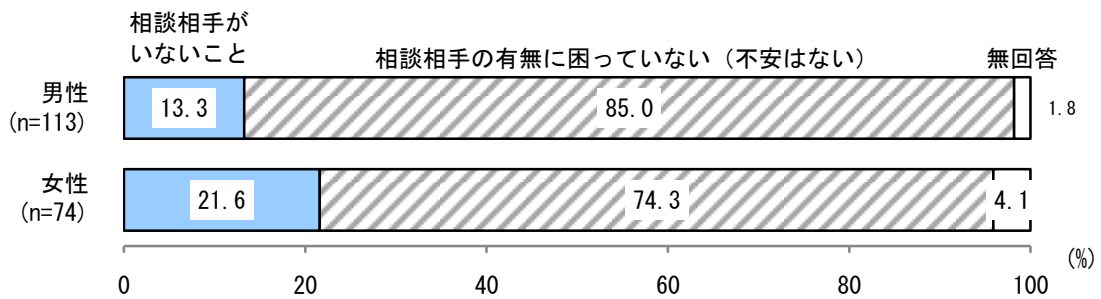
くらしや健康・福祉についての相談相手が「いない」と回答した人で、日常生活で困っていることや不安なことについて「相談相手がいないこと」と回答した人は16.2%で、相談相手がいないことについて困っていない（不安はない）人は81.2%となっています。（図2-2-2）

【図2-2-2 くらしや健康・福祉についての相談相手の有無別 相談相手がいないことに困っているか】



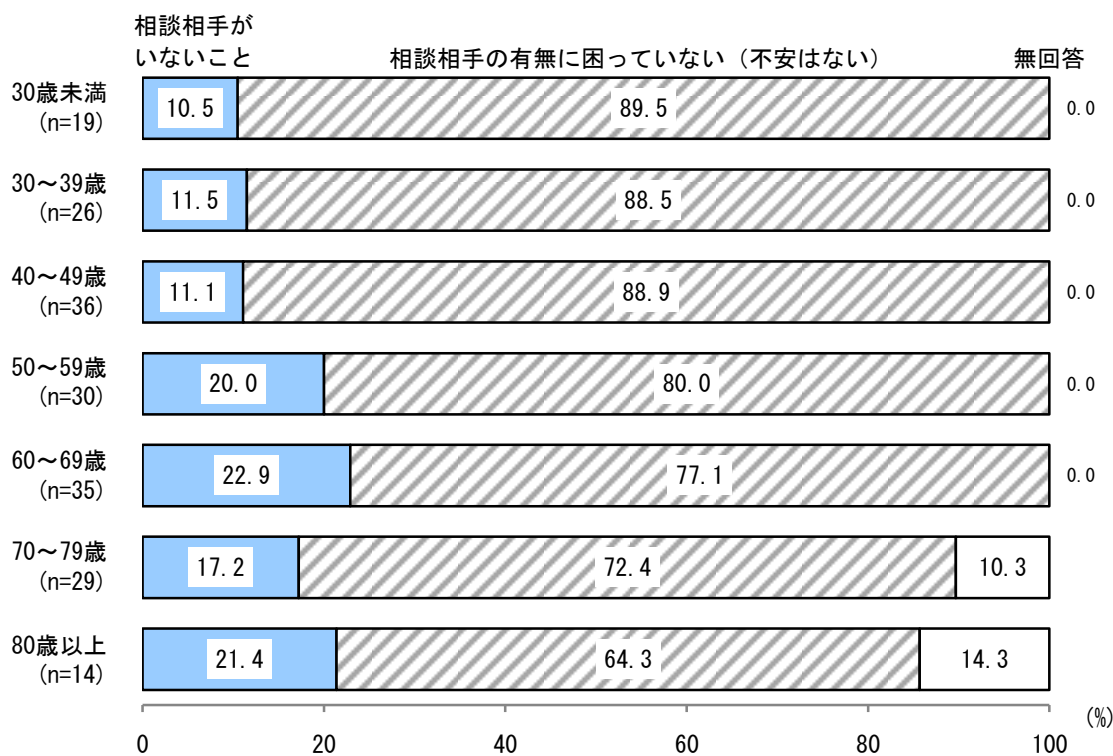
くらしや健康・福祉についての相談相手が「いない」と回答した人について、日常生活で困っていることや不安なことで「相談相手がいないこと」と回答した人を性別で見ると、男性（13.3%）より女性（21.6%）のほうが8.3ポイント低くなっています。（図2-2-3）

【図2-2-3 性別 相談相手がいないことに困っているか（相談相手がいない人のみ）】



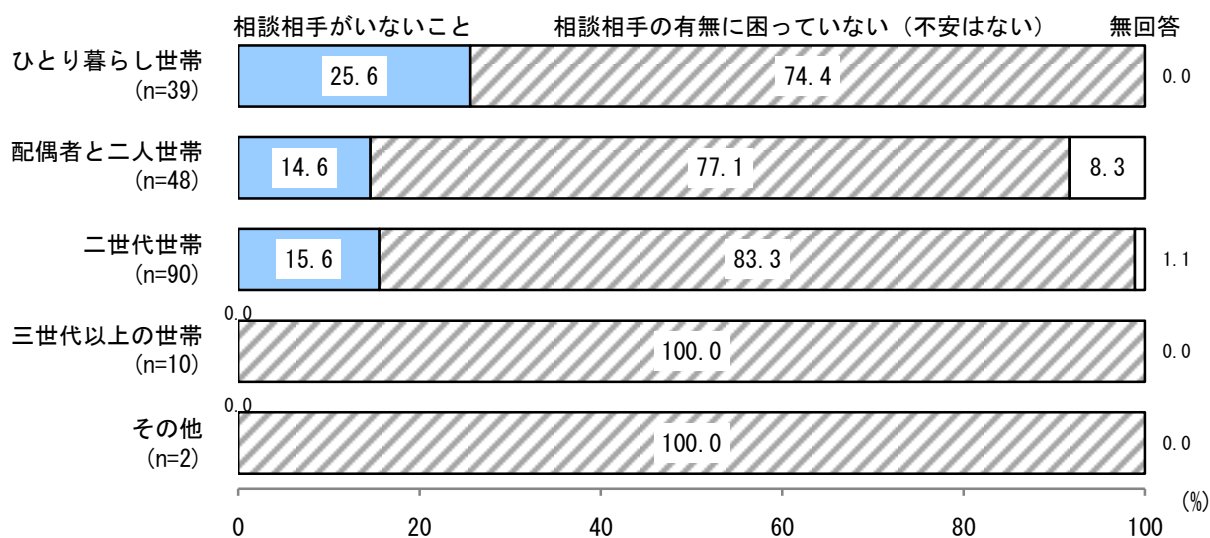
くらしや健康・福祉についての相談相手が「いない」と回答した人について、日常生活で困っていることや不安なことで「相談相手がいないこと」と回答した人を年齢別でみると、60～69歳が22.9%で最も高く、次いで80歳以上が21.4%、50～59歳が20.0%となっています。（図2-2-4）

【図2-2-4 年齢別 相談相手がいないことに困っているか（相談相手がいない人のみ）】



くらしや健康・福祉についての相談相手が「いない」と回答した人について、日常生活で困っていることや不安なことで「相談相手がいないこと」と回答した人を家族構成別でみると、ひとり暮らし世帯が25.6%で最も高く、次いで二世帯世帯が15.6%、配偶者と二人世帯が14.6%となっています。（図2-2-5）

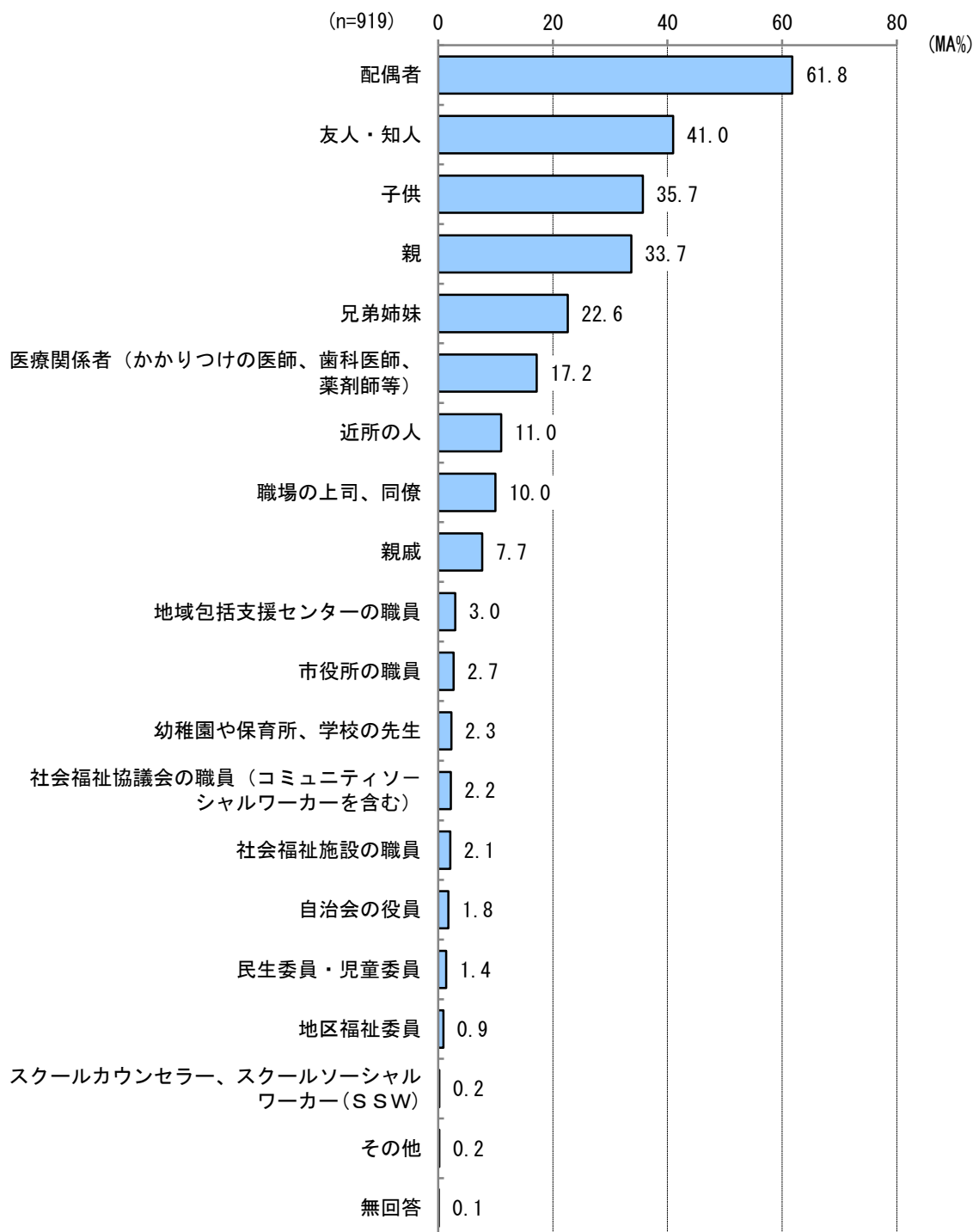
【図2-2-5 家族構成別 相談相手がいないことに困っているか（相談相手がいない人のみ）】



(3) くらしや健康・福祉についての具体的な相談相手

問10-1 問10で「1. いる」と回答した方にお聞きします。
具体的な相談相手はどなたですか。(〇はいくつでも)

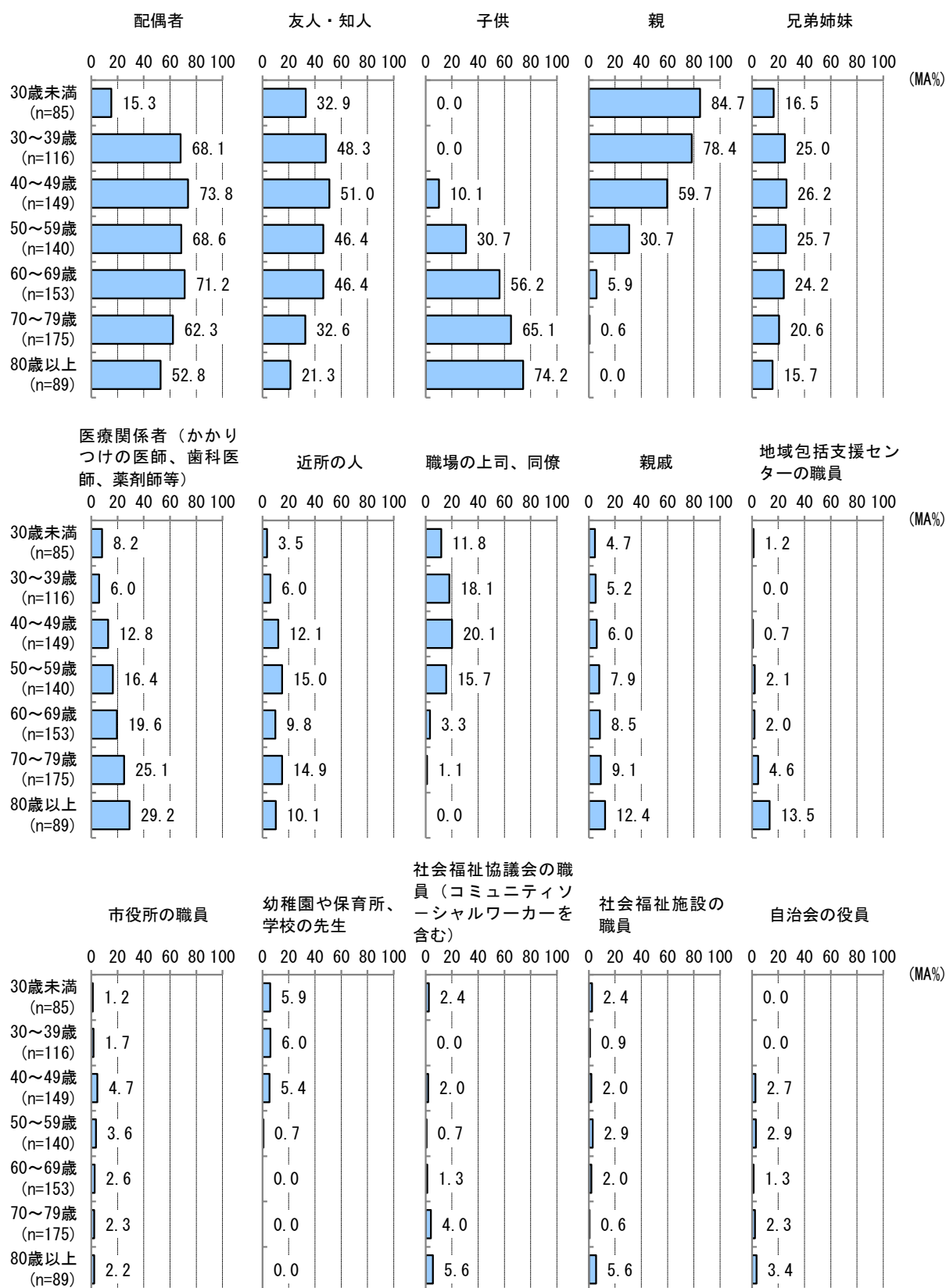
【図2-3 くらしや健康・福祉についての具体的な相談相手】



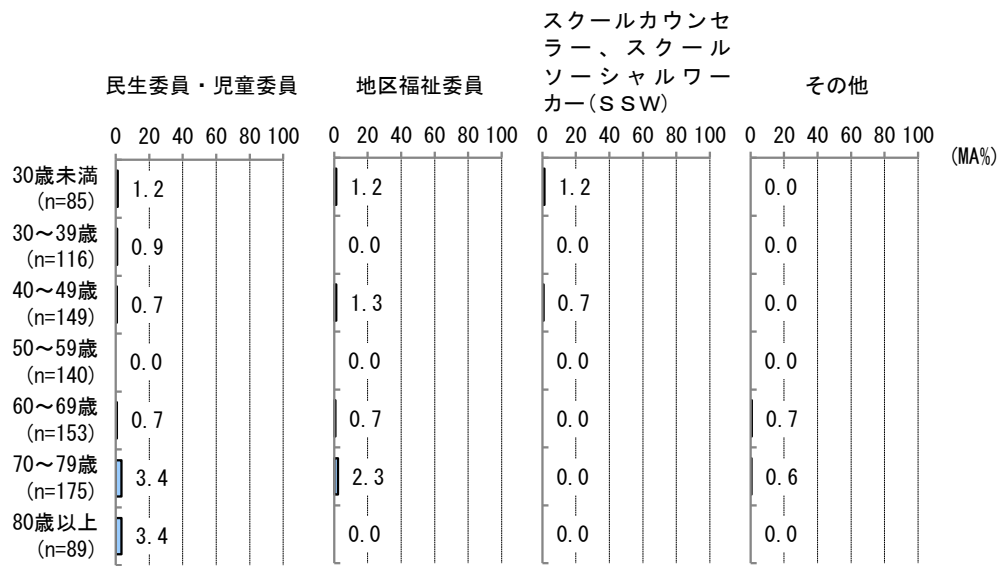
相談相手がいると回答した人に、具体的な相談相手をたずねると、「配偶者」が61.8%で最も多く、次いで「友人・知人」が41.0%、「子供」が35.7%、「親」が33.7%となっています。(図2-3)

年齢別でみると、「配偶者」は30～79歳までの年代で60%を超えています。「子供」は年齢が上がるほど高いですが、「親」は若い年代ほど高くなっています。(図2-3-1)

【図2-3-1 年齢別 くらしや健康・福祉についての具体的な相談相手①】



【図2-3-1 年齢別 くらしや健康・福祉についての具体的な相談相手②】

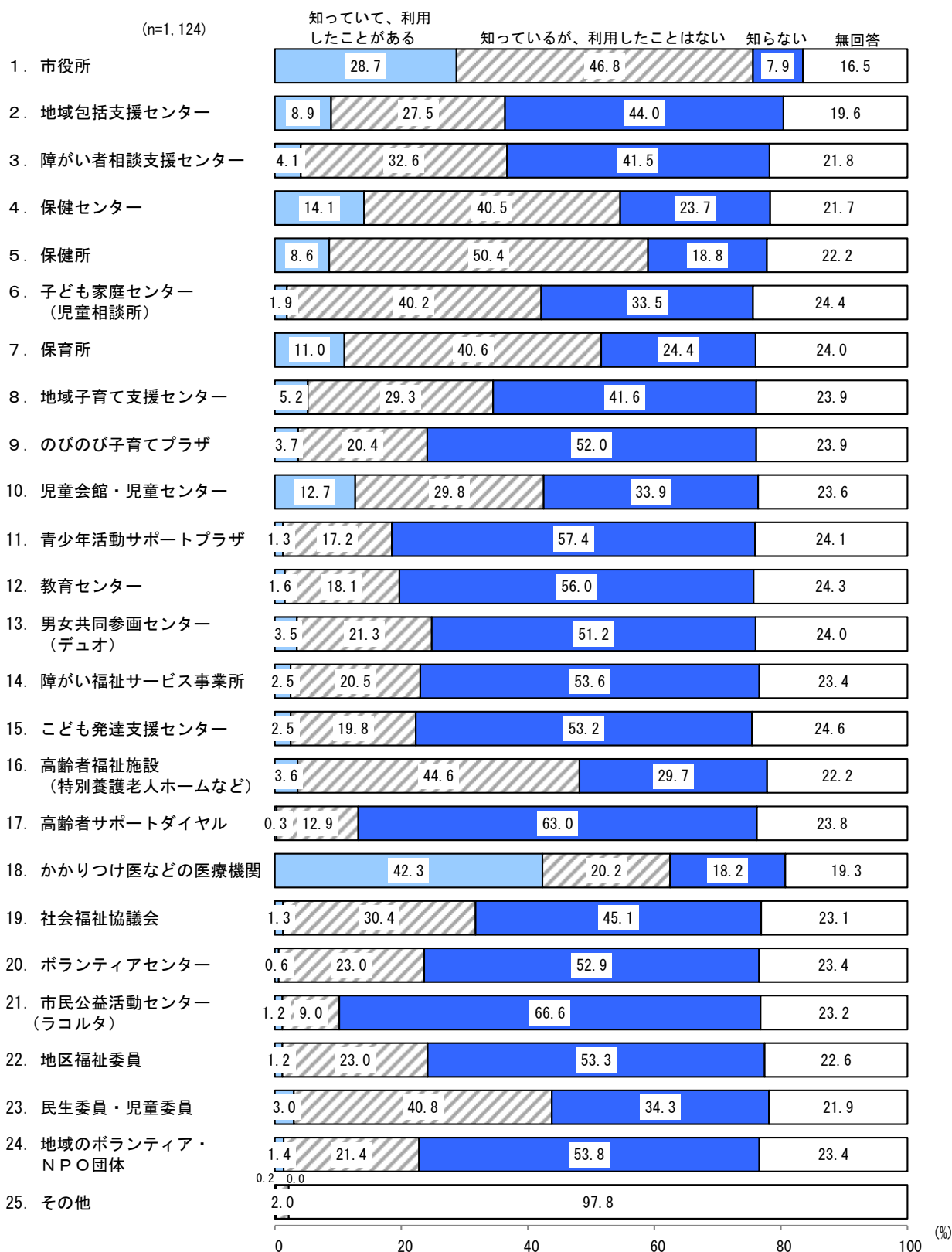


(4) くらしや健康・福祉に関する相談窓口の認知・利用状況

問11 あなたは、くらしや健康・福祉に関わる相談窓口（相談先）として、知っているものや、利用したことがあるものがありますか。

（1～25のそれぞれの相談窓口（相談先）について○を1つずつつけてください。）

【図2-4 くらしや健康・福祉に関する相談窓口の認知・利用状況】



くらしや健康・福祉に関する相談窓口の認知・利用状況についてたずねました。

「知っていて、利用したことがある」は“18. かかりつけ医などの医療機関”（42.3%）で最も高く、次いで“1. 市役所”（28.7%）、“4. 保健センター”（14.1%）となっています。

一方、「知らない」は“21. 市民公益活動センター（ラコルタ）”（66.6%）で最も高く、次いで“17. 高齢者サポートダイヤル”（63.0%）、“11. 青少年活動サポートプラザ”（57.4%）、“12. 教育センター”（56.0%）となっています。

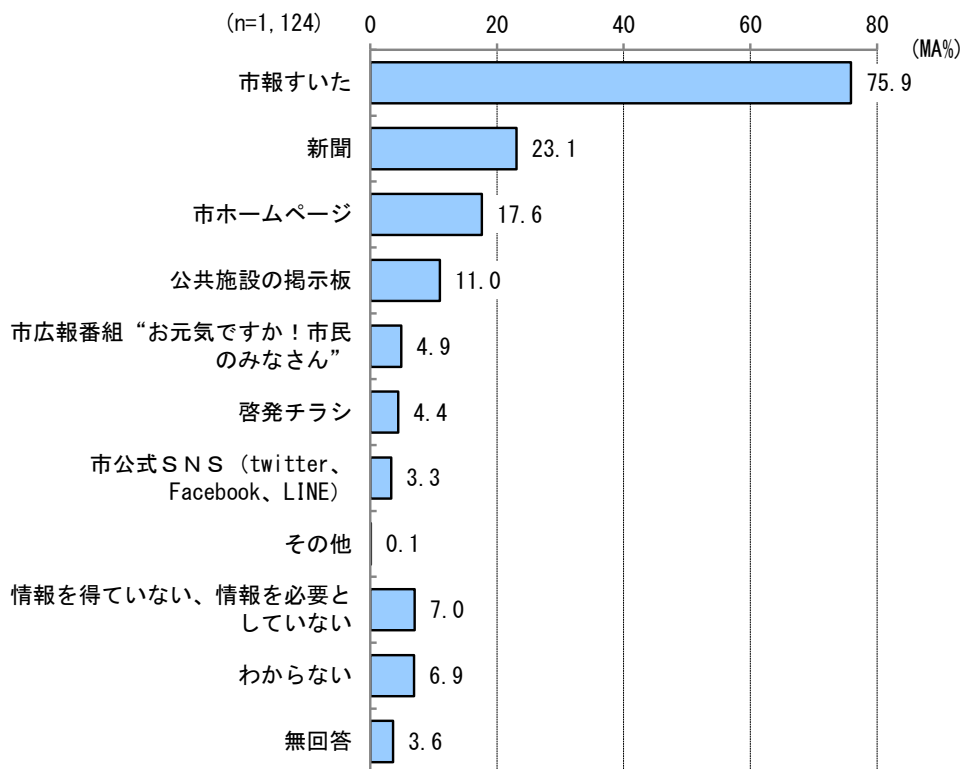
また、「知っているが、利用したことはない」と「知らない」をあわせた『利用したことがない』は“22. 地区福祉委員”（76.3%）が最も高く、次いで“17. 高齢者サポートダイヤル”と“20. ボランティアセンター”（ともに75.9%）が続いています。（図2-4）

(5) くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法

問12 あなたはくらしや健康・福祉に関する情報を何（どこ）から得ていますか。

(1) 市が発信する情報（〇はいくつでも）

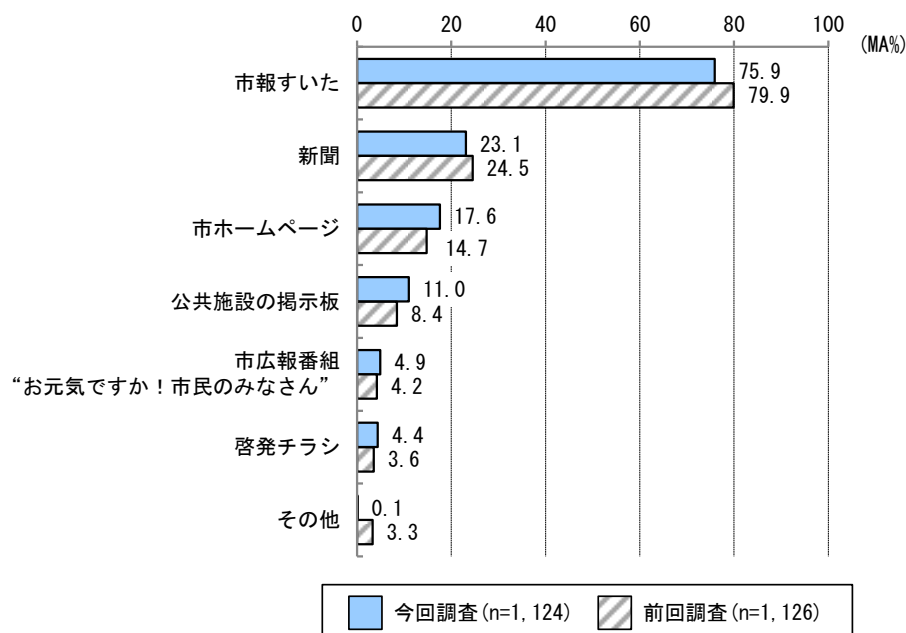
【図2-5-1 くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法（市が発信する情報）】



市が発信するくらしや健康・福祉に関する情報の入手先は、「市報すいた」が75.9%で最も多く、次いで「新聞」が23.1%、「市ホームページ」が17.6%、「公共施設の掲示板」が11.0%となっています。(図2-5-1)

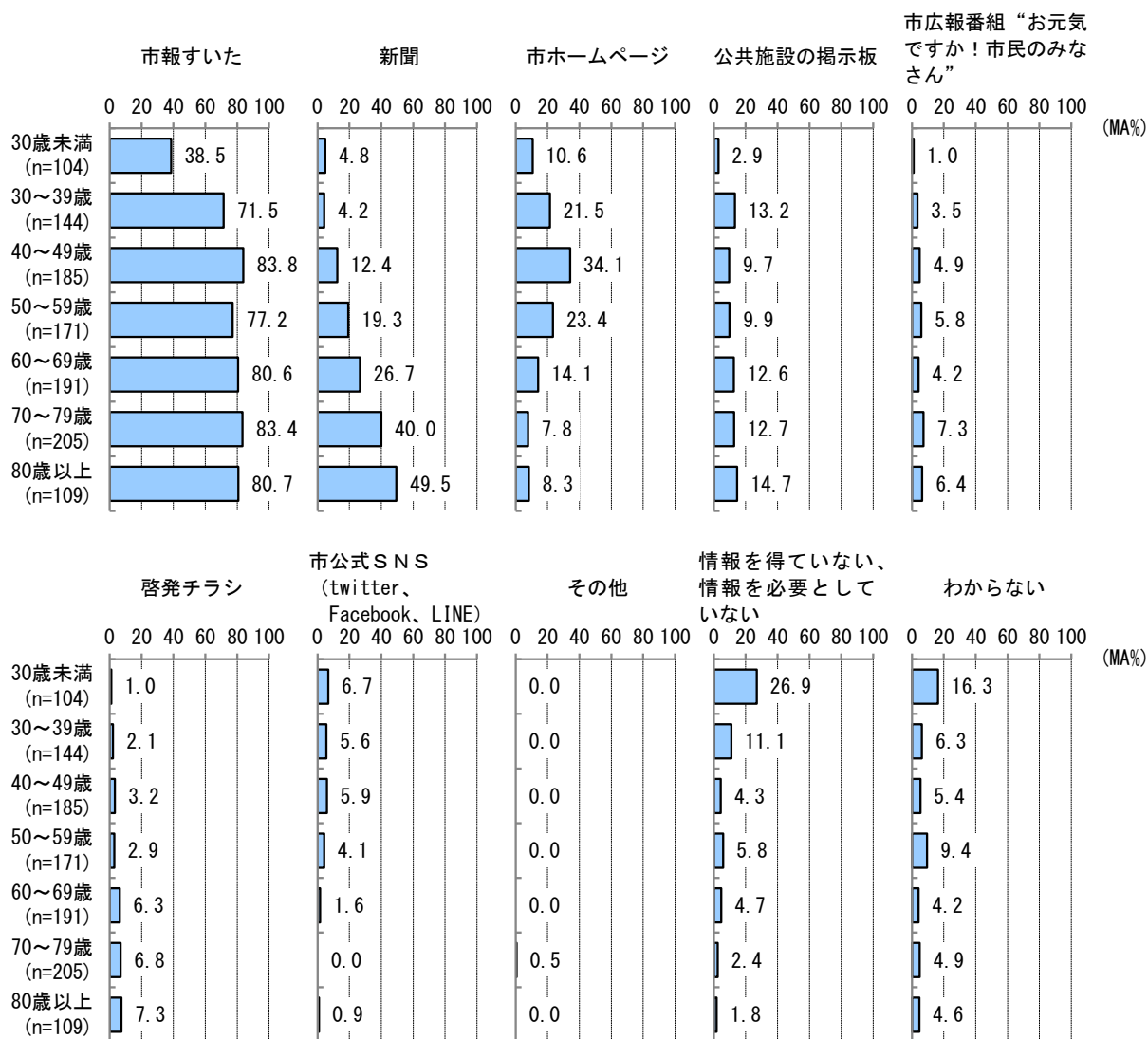
前回調査と比較しても大きな差はみられません。(図2-5-1-1)

【図2-5-1-1 くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法（市が発信する情報）〔前回調査との比較〕】



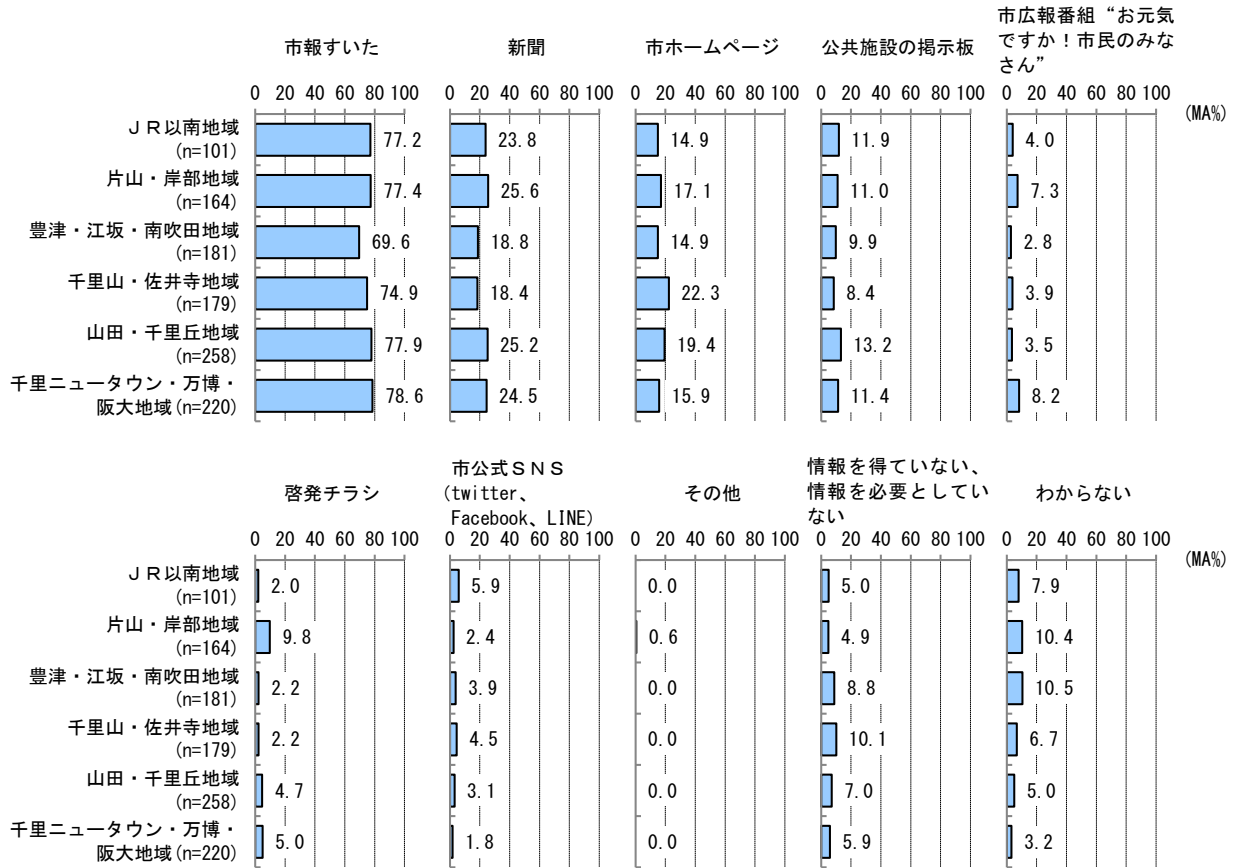
年齢別でみると、「新聞」は年齢が上がるほど割合が高くなっています。「市報すいた」は30歳以上で70%を超えており、市ホームページは40～49歳（34.1%）で最も高くなっています。（図2-5-1-2）

【図2-5-1-2 年齢別 くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法（市が発信する情報）】



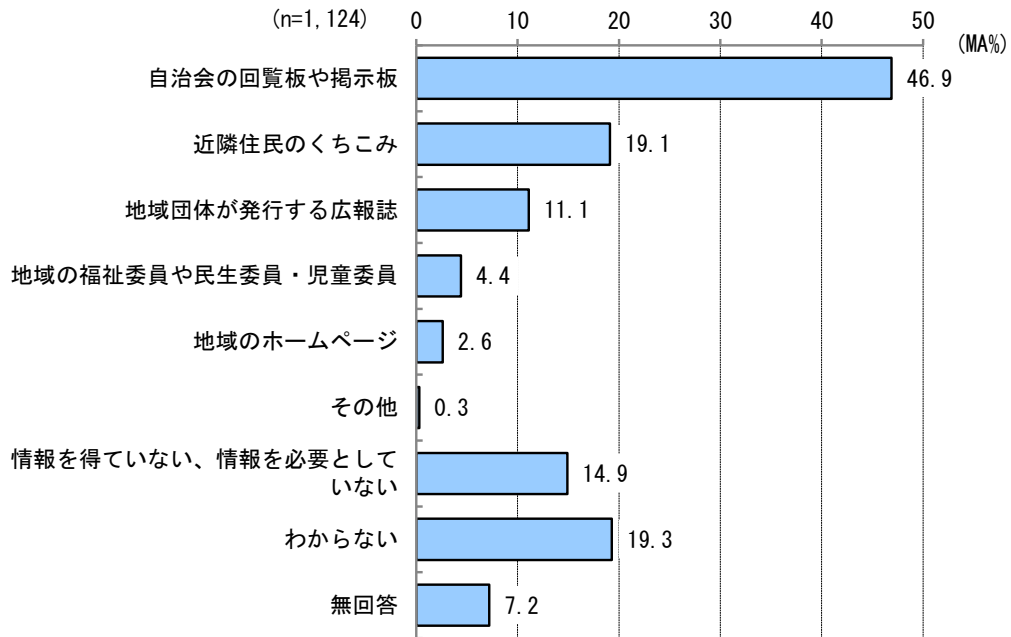
居住地域別でみると、いずれの地域も「市報すいた」が最も多く、地域で大きな差はみられません。(図2-5-1-3)

【図2-5-1-3 居住地域別 くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法（市が発信する情報）】



(2) 地域団体や地域住民が発信する情報 (〇はいくつでも)

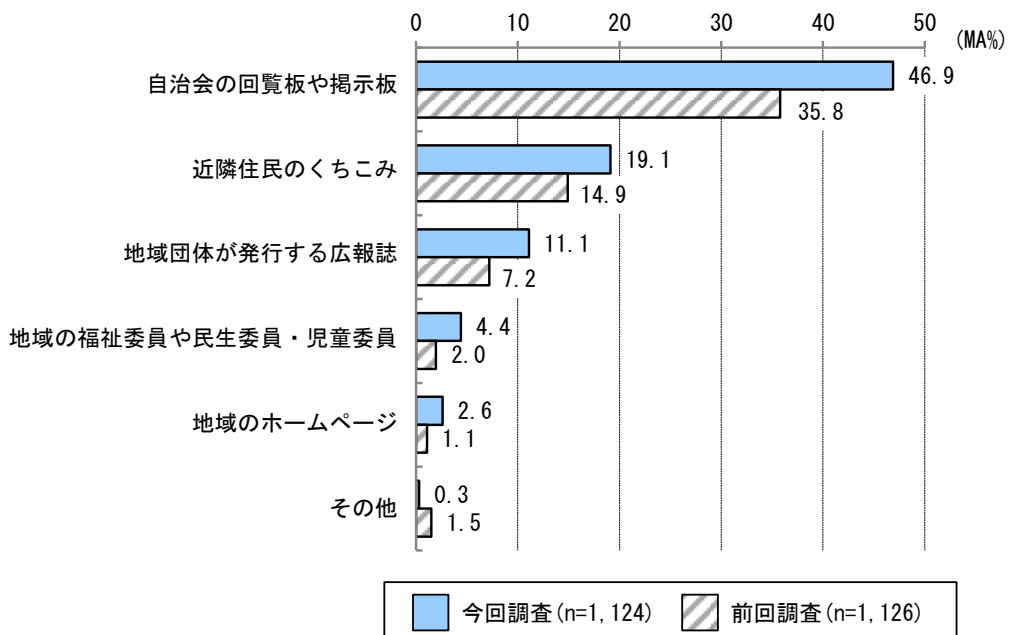
【図2-5-2 暮らしや健康・福祉に関する情報の入手方法 (地域団体や住民が発信する情報)】



地域団体や地域住民が発信する暮らしや健康・福祉に関する情報の入手先は、「自治会の回覧板や掲示板上」が46.9%で最も多く、次いで「近隣住民のくちこみ」が19.1%、「地域団体が発行する広報誌」が11.1%となっています。(図2-5-2)

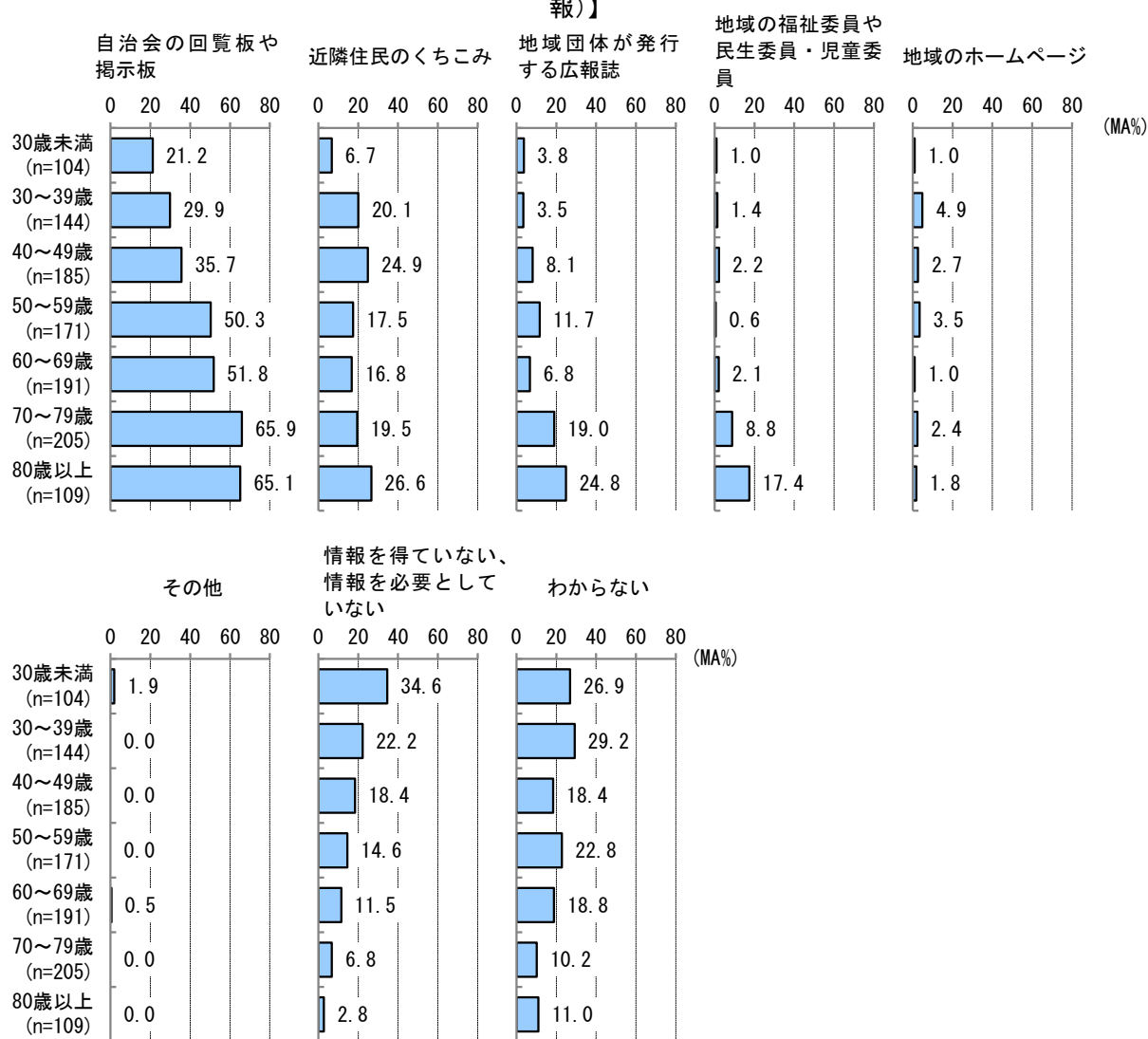
前回調査と比較すると、「自治会の回覧板や掲示板上」は前回 (35.8%) より11.1ポイント高く、「近隣住民のくちこみ」も前回 (14.9%) より4.2ポイント高くなっています。(図2-5-2-1)

【図2-5-2-1 暮らしや健康・福祉に関する情報の入手方法 (地域団体や住民が発信する情報) [前回調査との比較]】



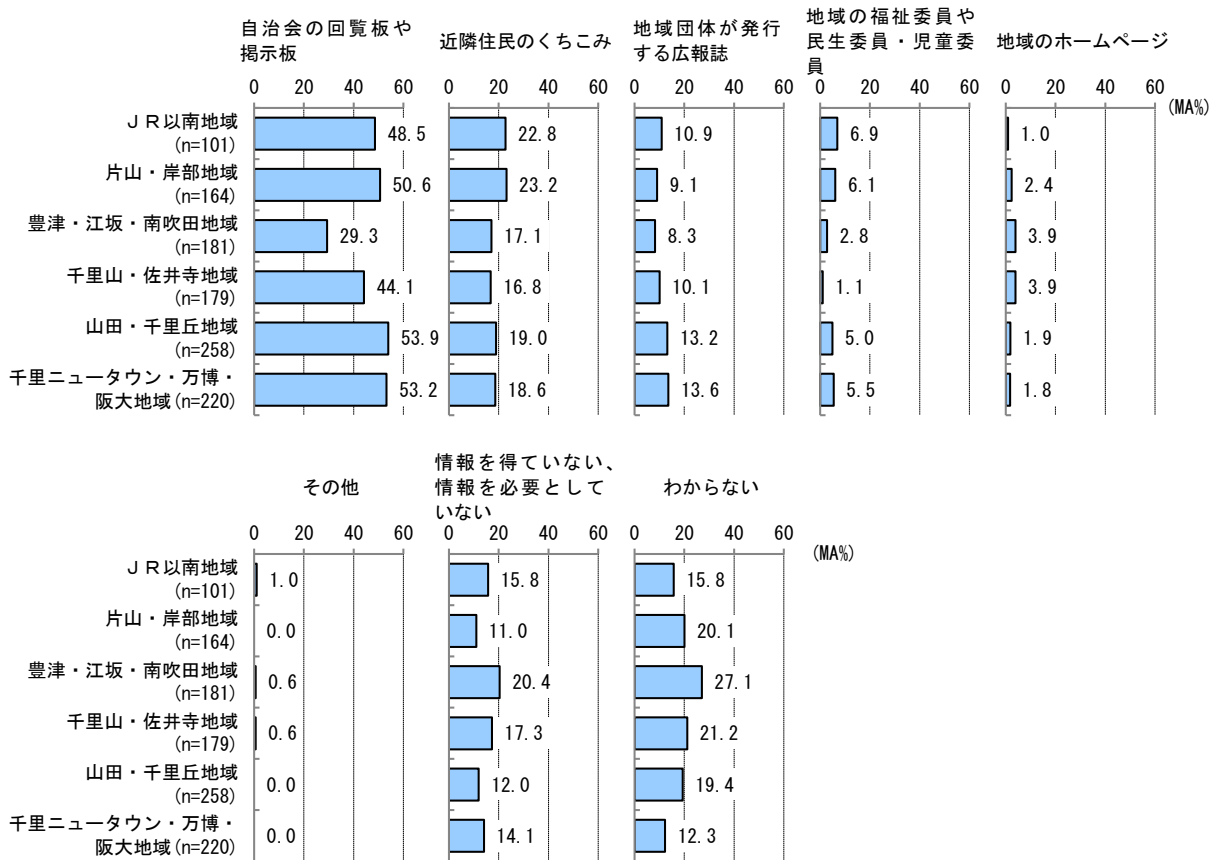
年齢別でみると、「自治会の回覧板や掲示板」は年齢が上がるほど割合が高くなり、70～79歳が65.9%で最も高く、次いで80歳以上の65.1%となっています。一方、「情報を得ていない、情報を必要としていない」は若い年代ほど割合が高く、30歳未満が34.6%で最も高くなっています。(図2-5-2-2)

【図2-5-2-2 年齢別 暮らしや健康・福祉に関する情報の入手方法（地域団体や住民が発信する情報）】



居住地域別でみると、「自治会の回覧板や掲示版」は豊津・江坂・南吹田地域で29.3%と最も低く、豊津・江坂・南吹田地域は「情報を得ていない、情報を必要としていない」(20.4%)、「わからない」(27.1%)で最も高くなっています。(図2-5-2-3)

【図2-5-2-3 居住地域別 くらしや健康・福祉に関する情報の入手方法（地域団体や住民が発信する情報）】

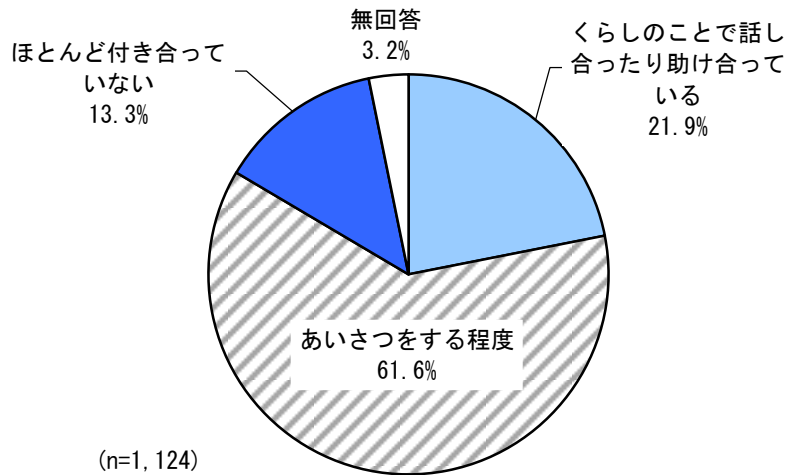


3. 近所付き合いについて

(1) 隣近所との付き合いの程度

問13 あなたの世帯では、日頃、隣近所の方とどのような付き合いをしていますか。(〇は1つ)

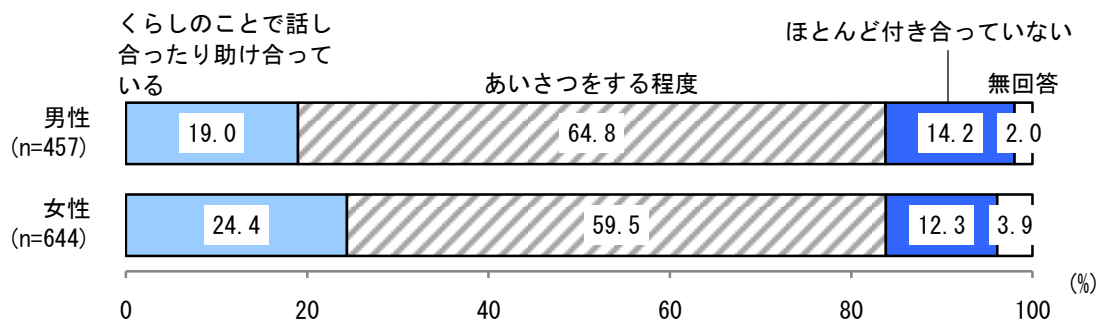
【図3-1 隣近所との付き合いの程度】



隣近所との付き合いの程度については、「あいさつをする程度」が61.6%で最も多く、次いで「くらしのことで話し合ったり助け合っている」が21.9%、「ほとんど付き合いがない」が13.3%となっています。(図3-1)

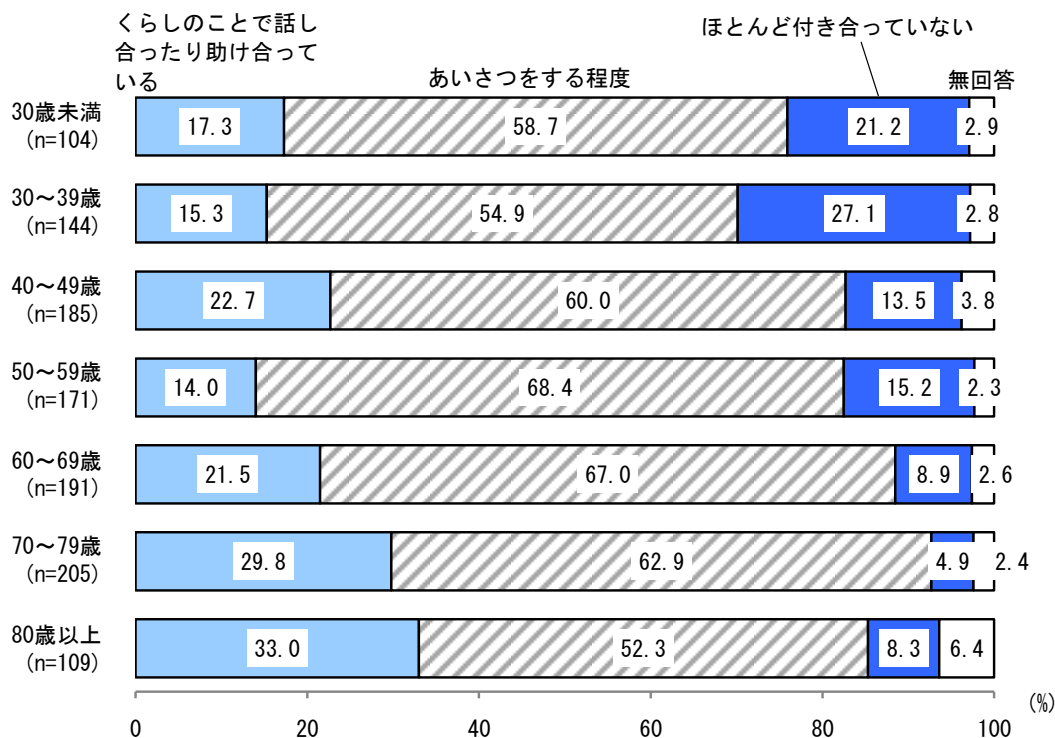
性別でみると、「くらしのことで話し合ったり助け合っている」は男性(19.0%)より女性(24.4%)のほうが5.4ポイント高くなっています。(図3-1-1)

【図3-1-1 性別 隣近所との付き合いの程度】



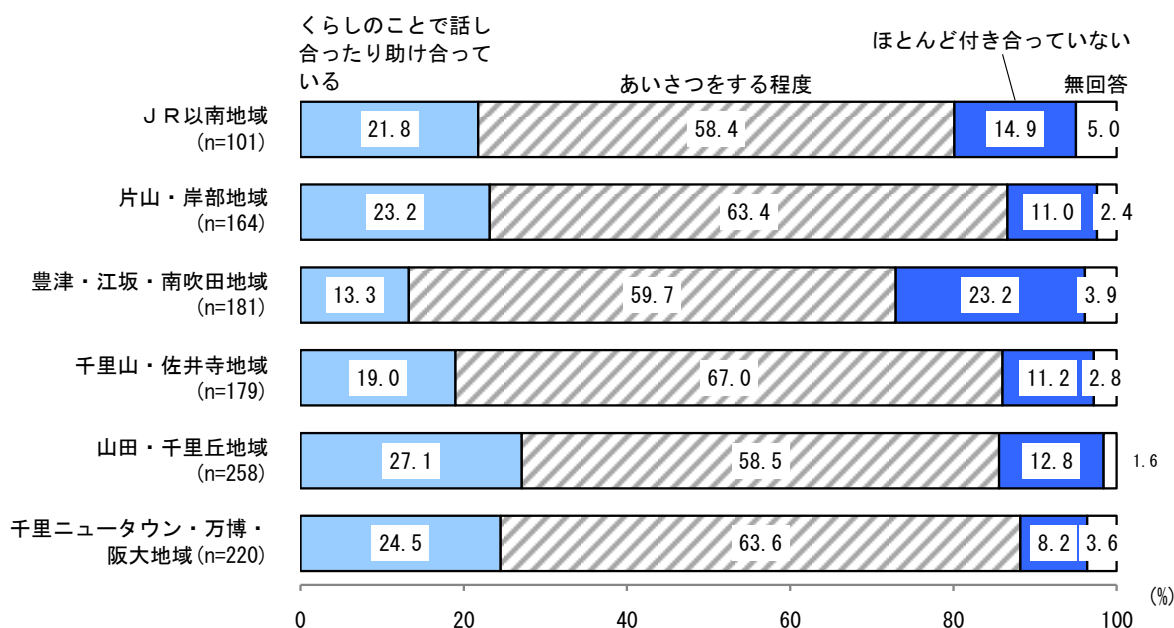
年齢別でみると、「くらしのことで話し合ったり助け合っている」は80歳以上が33.0%で最も高く、次いで70～79歳（29.8%）となっています。一方、「ほとんど付き合っていない」は30～39歳が27.1%で最も高くなっています。（図3-1-2）

【図3-1-2 年齢別 隣近所との付き合いの程度】



居住地域別でみると、「くらしのことで話し合ったり助け合っている」は山田・千里丘地域が27.1%で最も高く、次いで千里ニュータウン・万博・阪大地域（24.5%）となっています。一方、「ほとんど付き合っていない」は豊津・江坂・南吹田地域が23.2%で最も高くなっています。（図3-1-3）

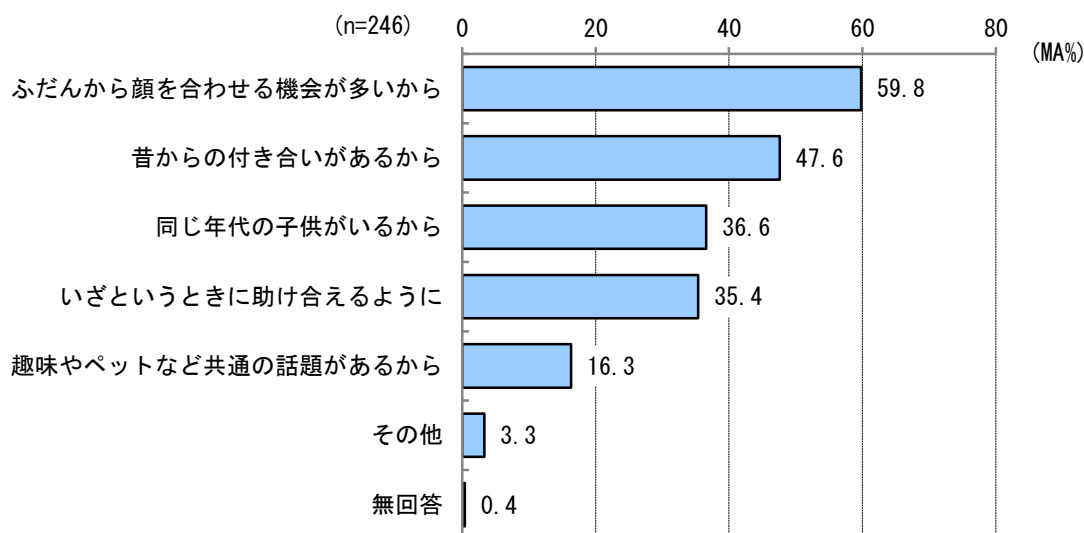
【図3-1-3 居住地域別 隣近所との付き合いの程度】



(2) 付き合っている理由

問13-1 問13で「1. 暮らしのことで話し合ったり助け合っている」と回答した方にお聞きします。そのように付き合っている理由は何ですか。(〇はいくつでも)

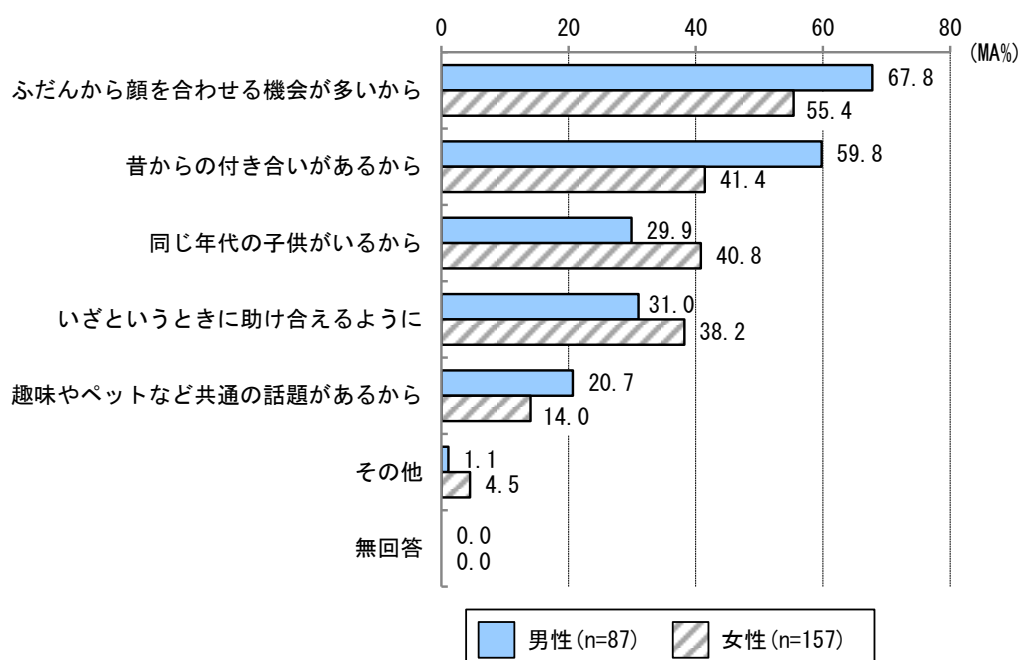
【図3-2 付き合っている理由】



隣近所の人と暮らしのことで話し合ったり助け合っていると回答した人に、付き合っている理由についてたずねると、「ふだんから顔を合わせる機会が多いから」が59.8%で最も多く、次いで「昔からの付き合いがあるから」が47.6%、「同じ年代の子供がいるから」が36.6%、「いざというときに助け合えるように」が35.4%となっています。(図3-2)

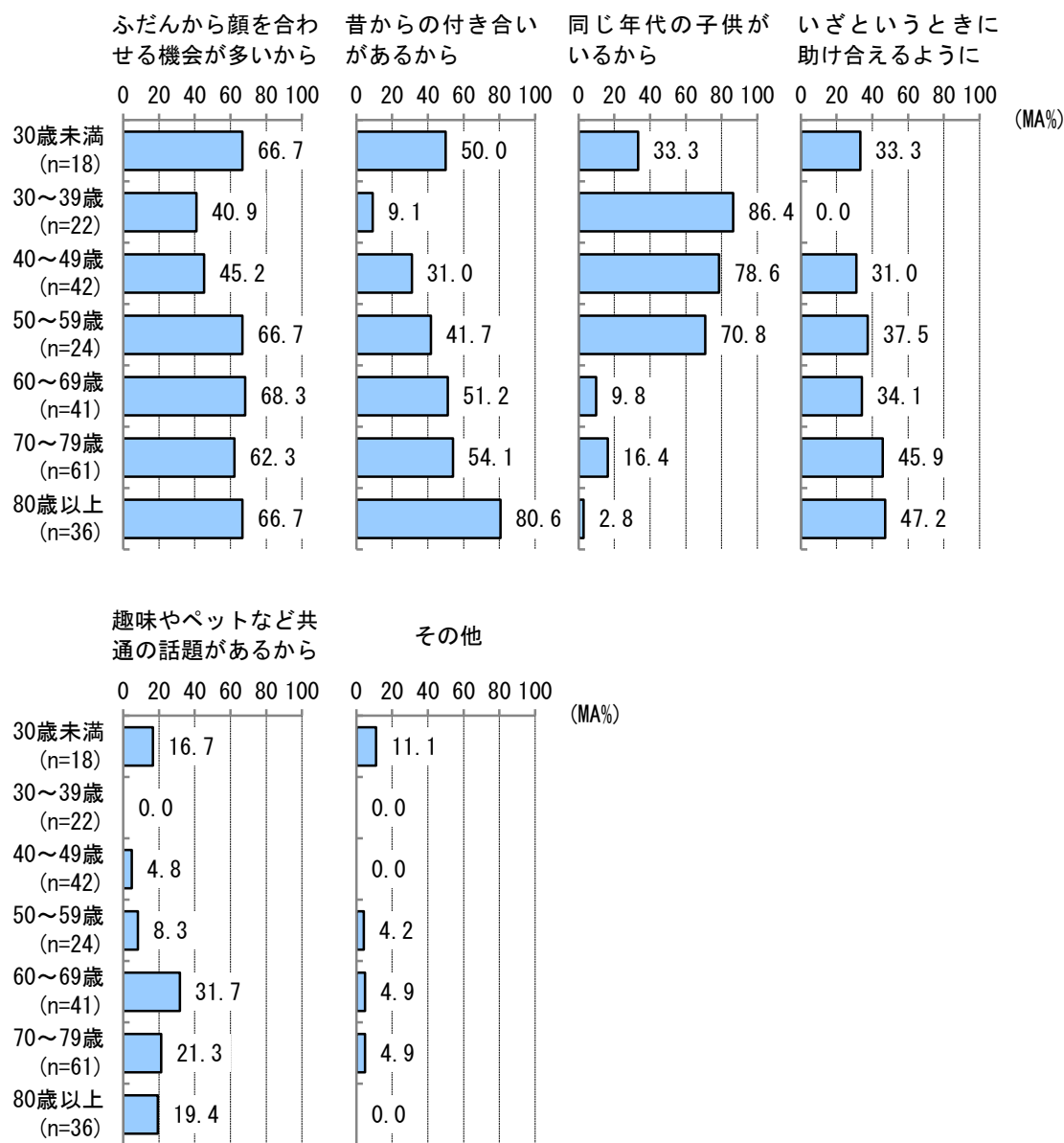
性別でみると、「ふだんから顔を合わせる機会が多いから」は女性(55.4%)より男性(67.8%)のほうが12.4ポイント高く、「昔からの付き合いがあるから」も女性(41.4%)より男性(59.8%)のほうが18.4ポイント高くなっています。(図3-2-1)

【図3-2-1 性別 付き合っている理由】



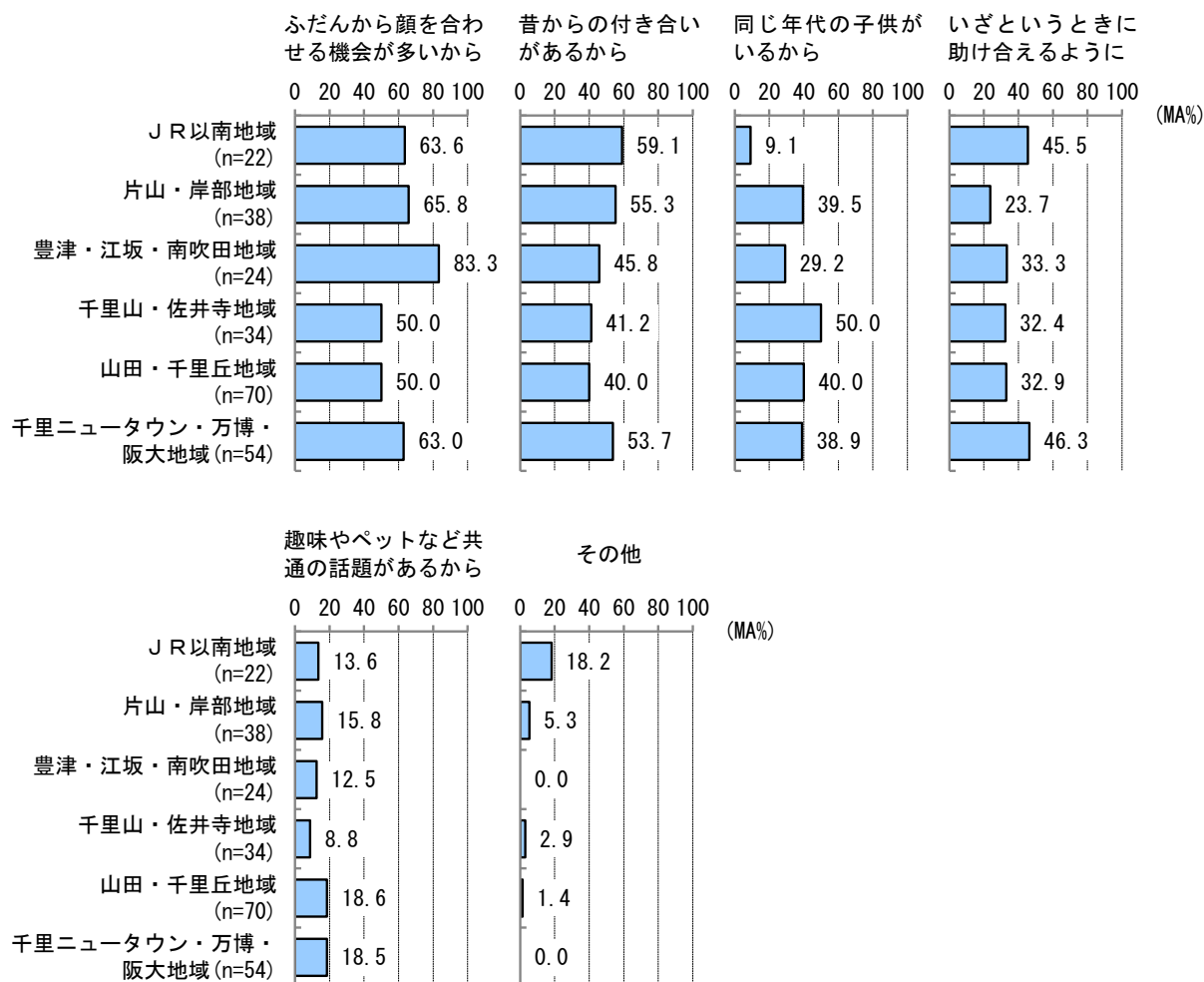
年齢別でみると、30～59歳までの年代は「同じ年代の子供がいるから」が70%以上と最も多く、80歳以上は「昔からの付き合いがあるから」が80.6%で最も多くなっています。(図3-2-2)

【図3-2-2 年齢別 付き合っている理由】



居住地域別でみると、いずれの地域も「ふだんから顔を合わせる機会が多いから」が最も多く、千里山・佐井寺地域は「同じ年代の子供がいるから」も同率（50.0%）で最も多くなっています。（図3-2-3）

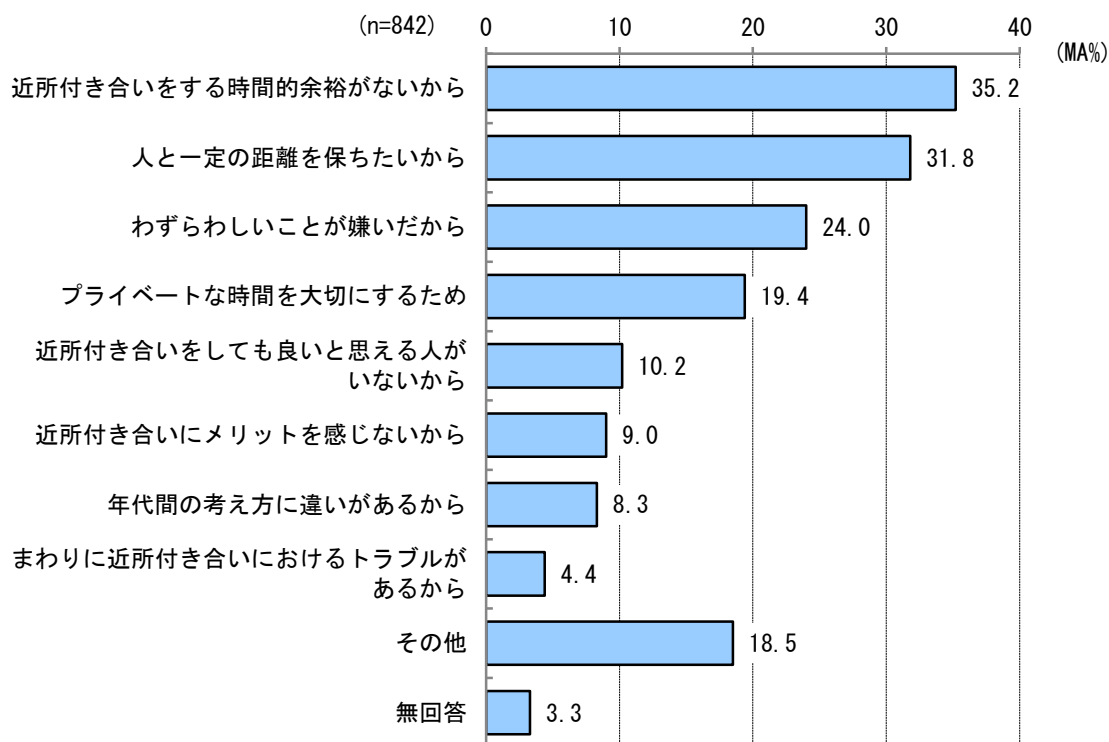
【図3-2-3 居住地域別 付き合っている理由】



(3) 近所付き合いが難しい理由

問13-2 問13で「2. あいさつをする程度」「3. ほとんど付き合いがない」と回答した方にお聞きします。近所付き合いが難しい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

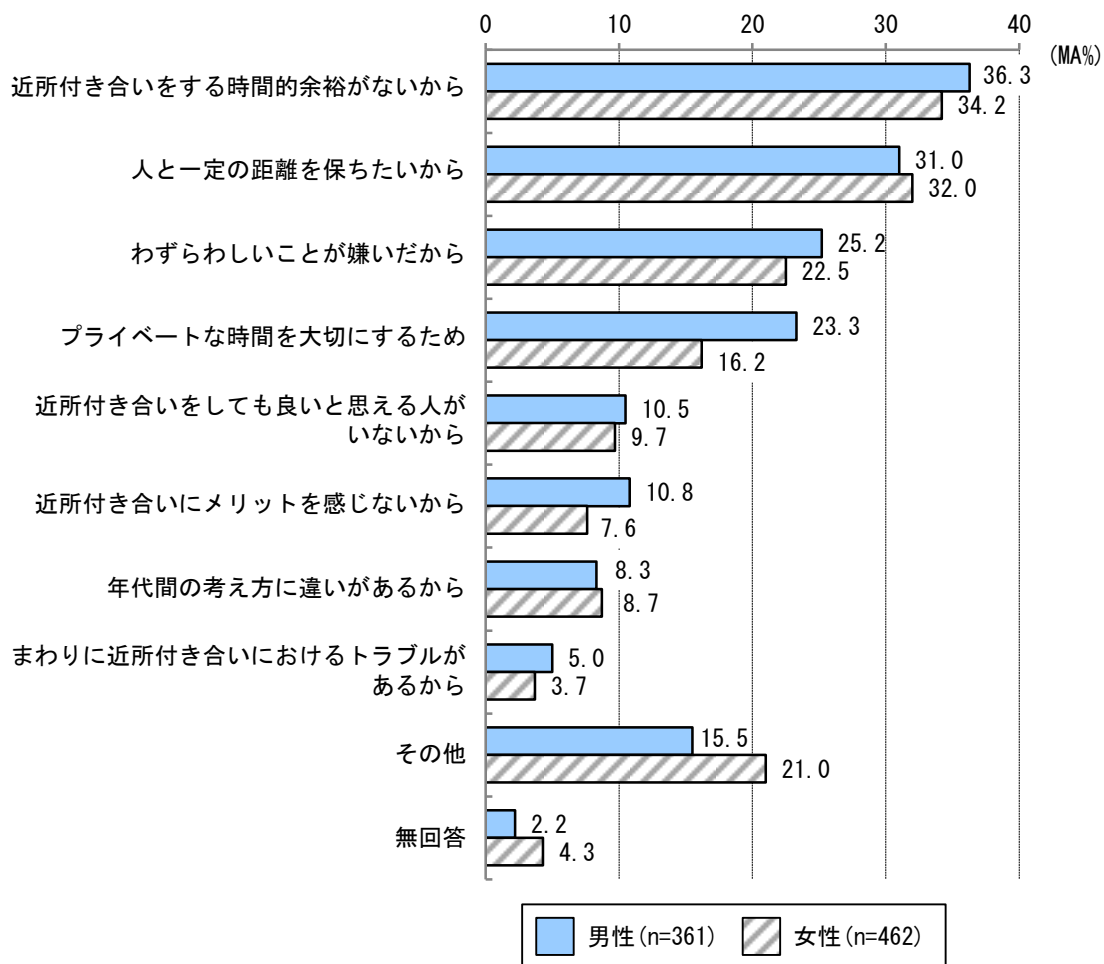
【図3-3 近所付き合いが難しい理由】



隣近所の人とあいさつをする程度、ほとんど付き合いがないと回答した人に、近所付き合いが難しい理由をたずねると、「近所付き合いをする時間的余裕がないから」が35.2%で最も多く、次いで「人と一定の距離を保ちたいから」が31.8%、「わずらわしいことが嫌だから」が24.0%となっています。(図3-3)

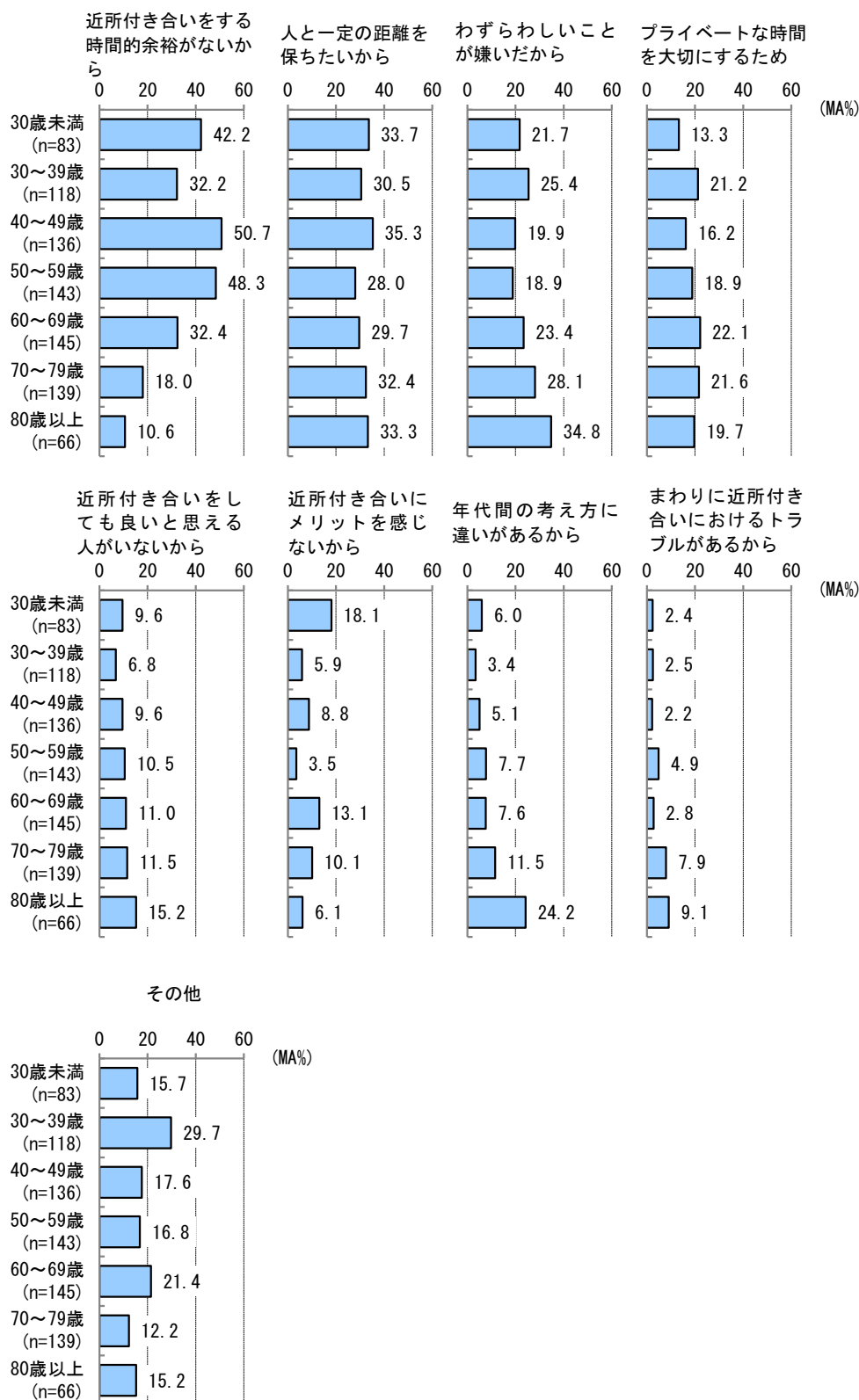
性別でみると、「プライベートな時間を大切にするため」は女性(16.2%)より男性(23.3%)のほうが7.1ポイント高くなっています。(図3-3-1)

【図3-3-1 性別 近所付き合いが難しい理由】



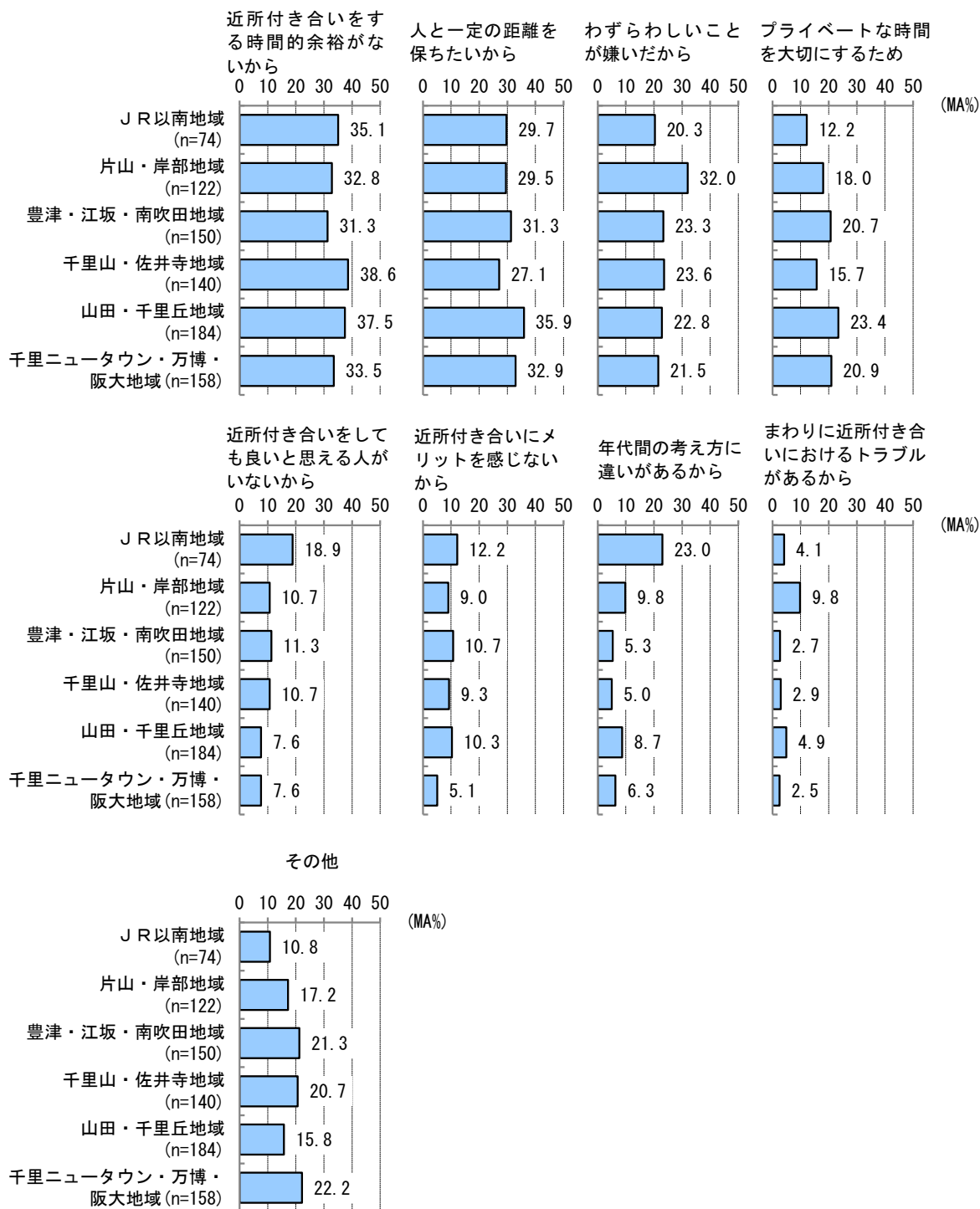
年齢別でみると、「近所付き合いをする時間的余裕がないから」は40～49歳（50.7%）で最も高く、次いで50～59歳（48.3%）となっています。「わずらわしいことが嫌いだから」と「近所付き合いをしても良いと思える人がいないから」、「年代間の考え方に違いがあるから」、「まわりに近所付き合いにおけるトラブルがあるから」はいずれも80歳以上で最も高くなっています。（図3-3-2）

【図3-3-2 年齢別 近所付き合いが難しい理由】



居住地域別でみると、「近所付き合いをしても良いと思える人がいないから」、「近所付き合いにメリットを感じないから」、「年代間の考え方に違いがあるから」はいずれもJR以南地域で最も高くなっています。(図3-3-3)

【図3-3-3 居住地域別 近所付き合いが難しい理由】

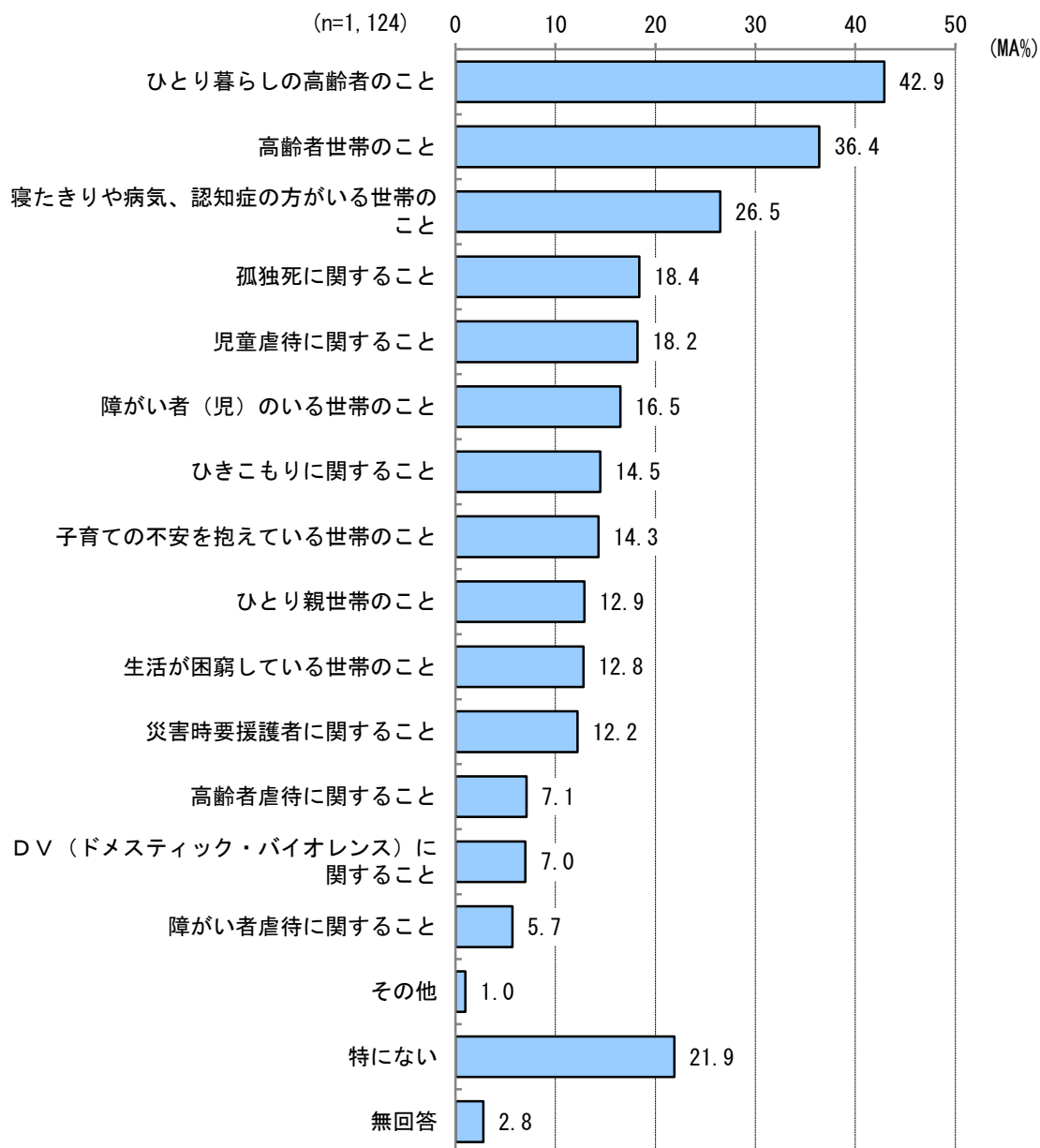


4. 地域で暮らす中での問題等について

(1) 地域生活の中で福祉について気になっていること

問14 あなたが地域で暮らす中で、福祉について、日頃、気になっていることは何ですか。
(〇はいくつでも)

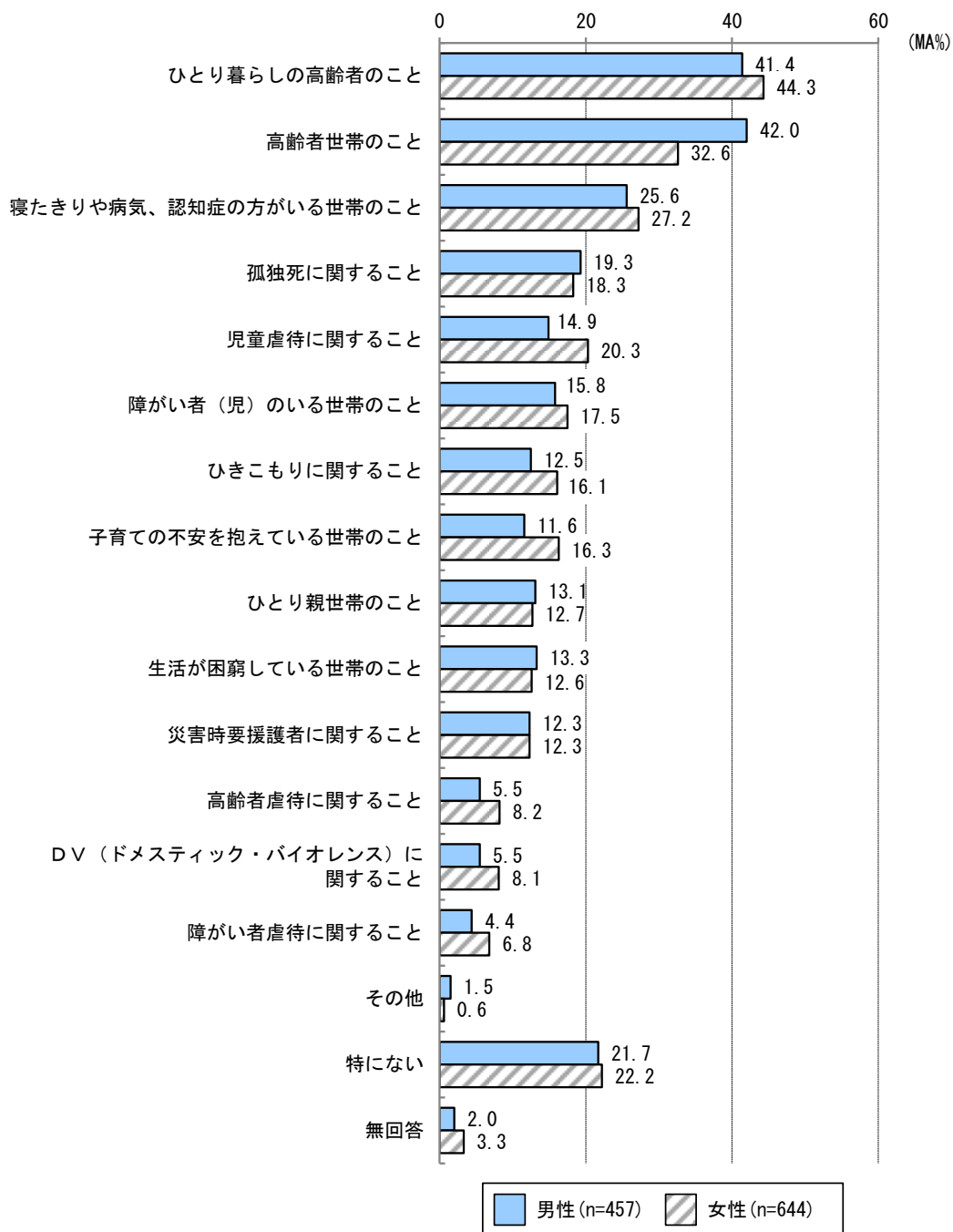
【図4-1 地域生活の中で福祉について気になっていること】



地域生活の中で福祉について気になっていることについては、「ひとり暮らしの高齢者のこと」が42.9%で最も多く、次いで「高齢者世帯のこと」が36.4%、「寝たきりや病気、認知症の方がいる世帯のこと」が26.5%となっています。（図4-1）

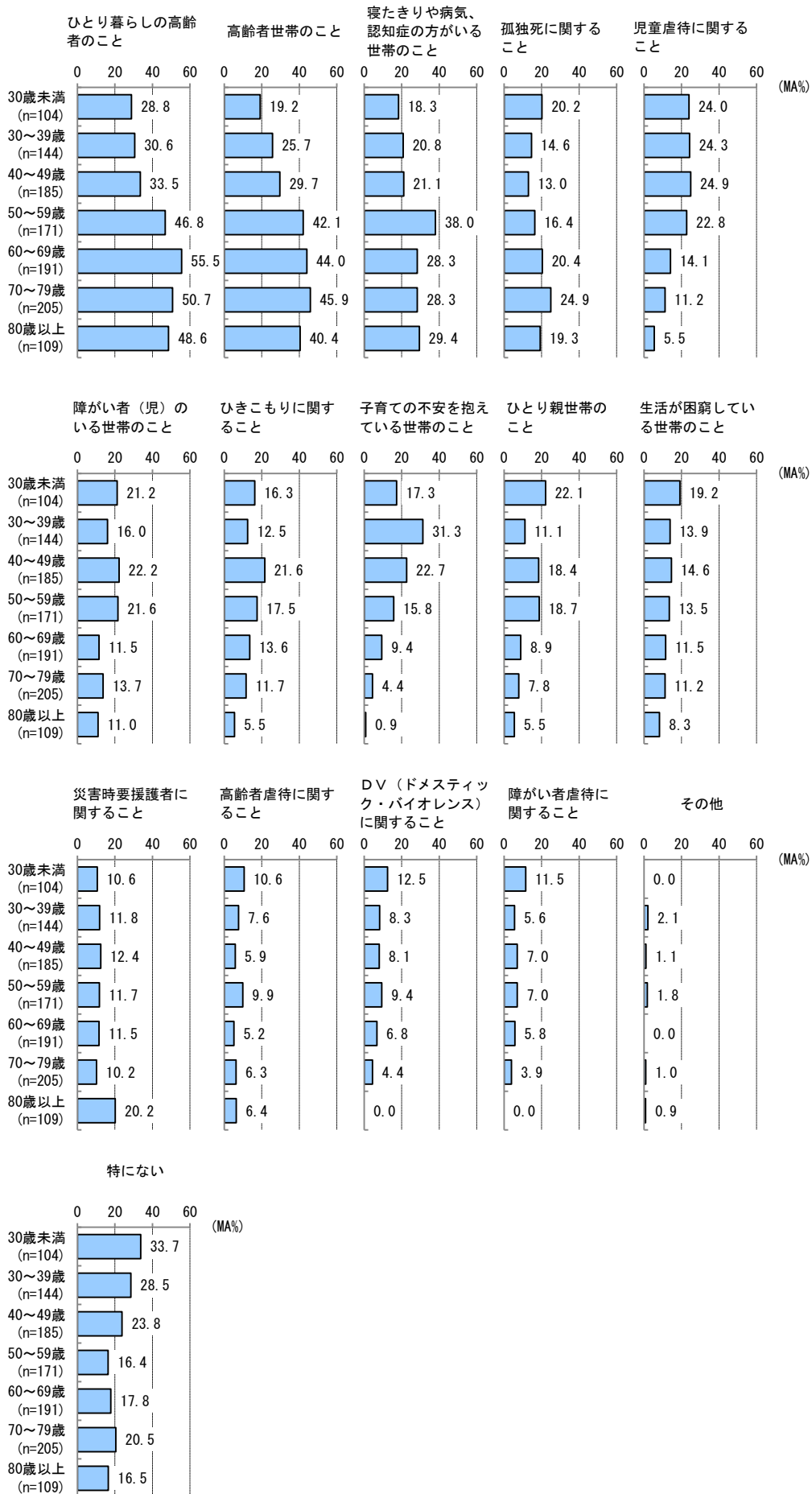
性別でみると、男性は「高齢者世帯のこと」が42.0%で最も多いですが、女性は「ひとり暮らしの高齢者のこと」が44.3%で最も多くなっています。(図4-1-1)

【図4-1-1 性別 地域生活の中で福祉について気になっていること】



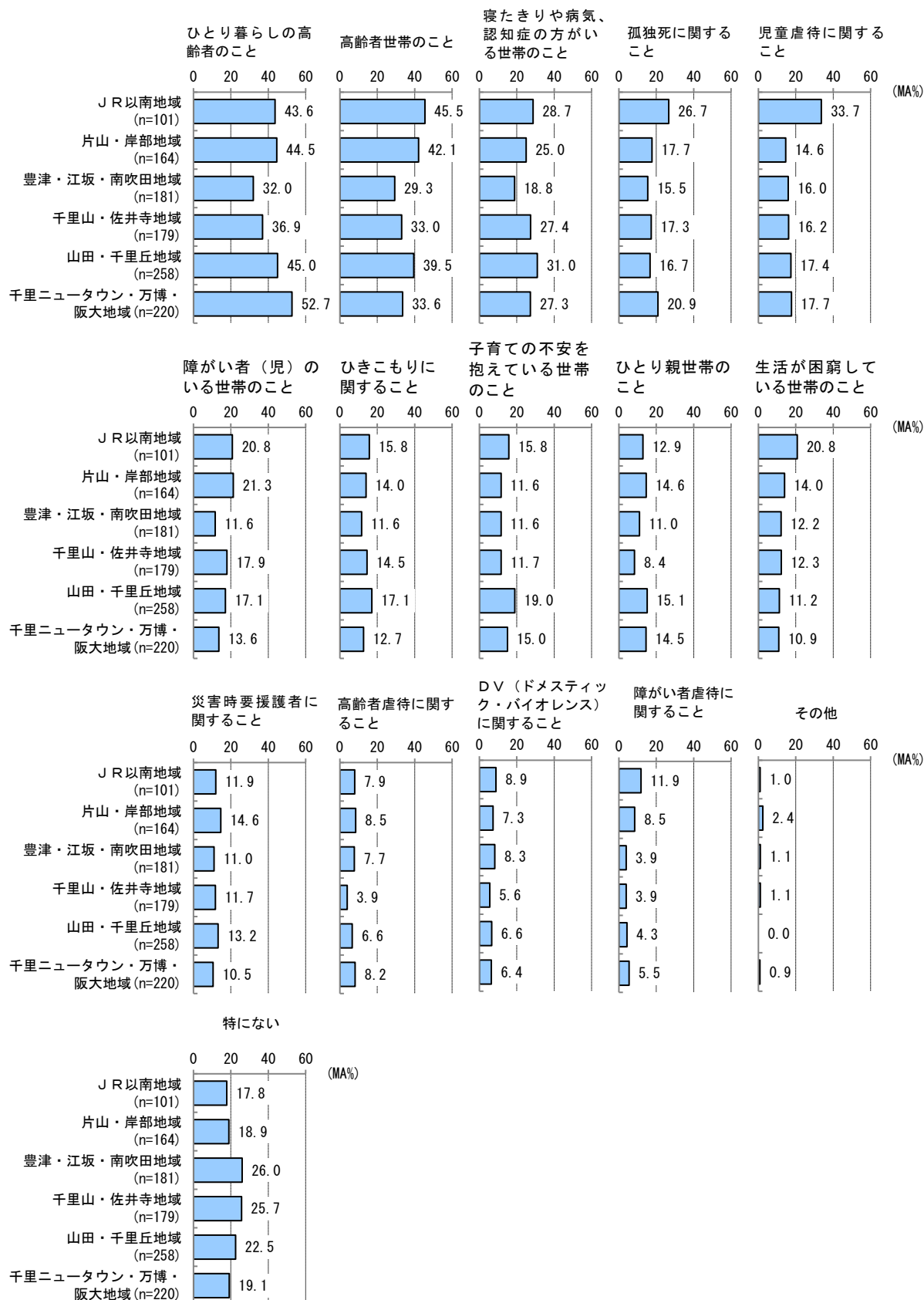
年齢別でみると、「ひとり暮らしの高齢者のこと」は60～69歳(55.5%)で最も高く、「高齢者世帯のこと」は70～79歳(45.9%)で、「寝たきりや病気、認知症の方がいる世帯のこと」は50～59歳(38.0%)で最も高くなっています。(図4-1-2)

【図4-1-2 年齢別 地域生活の中で福祉について気になっていること】



居住地域別でみると、「高齢者世帯のこと」、「孤独死に関すること」、「児童虐待に関すること」、「ひきこもりに関すること」、「生活が困窮している世帯のこと」などではJR以南地域で最も高くなっています。(図4-1-3)

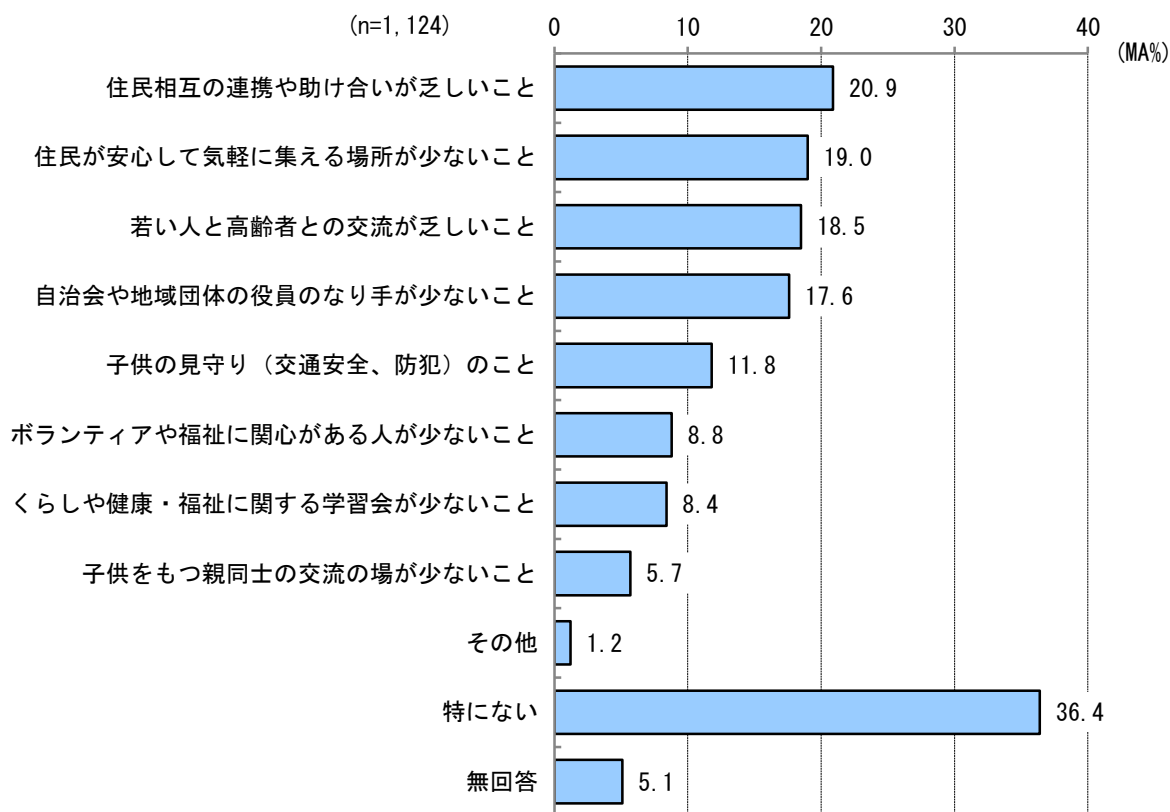
【図4-1-3 居住地域別 地域生活の中で福祉について気になっていること】



(2) 地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること

問15 あなたが地域で暮らす中で、地域住民の交流について、日頃、気になっていることは何ですか。(〇はいくつでも)

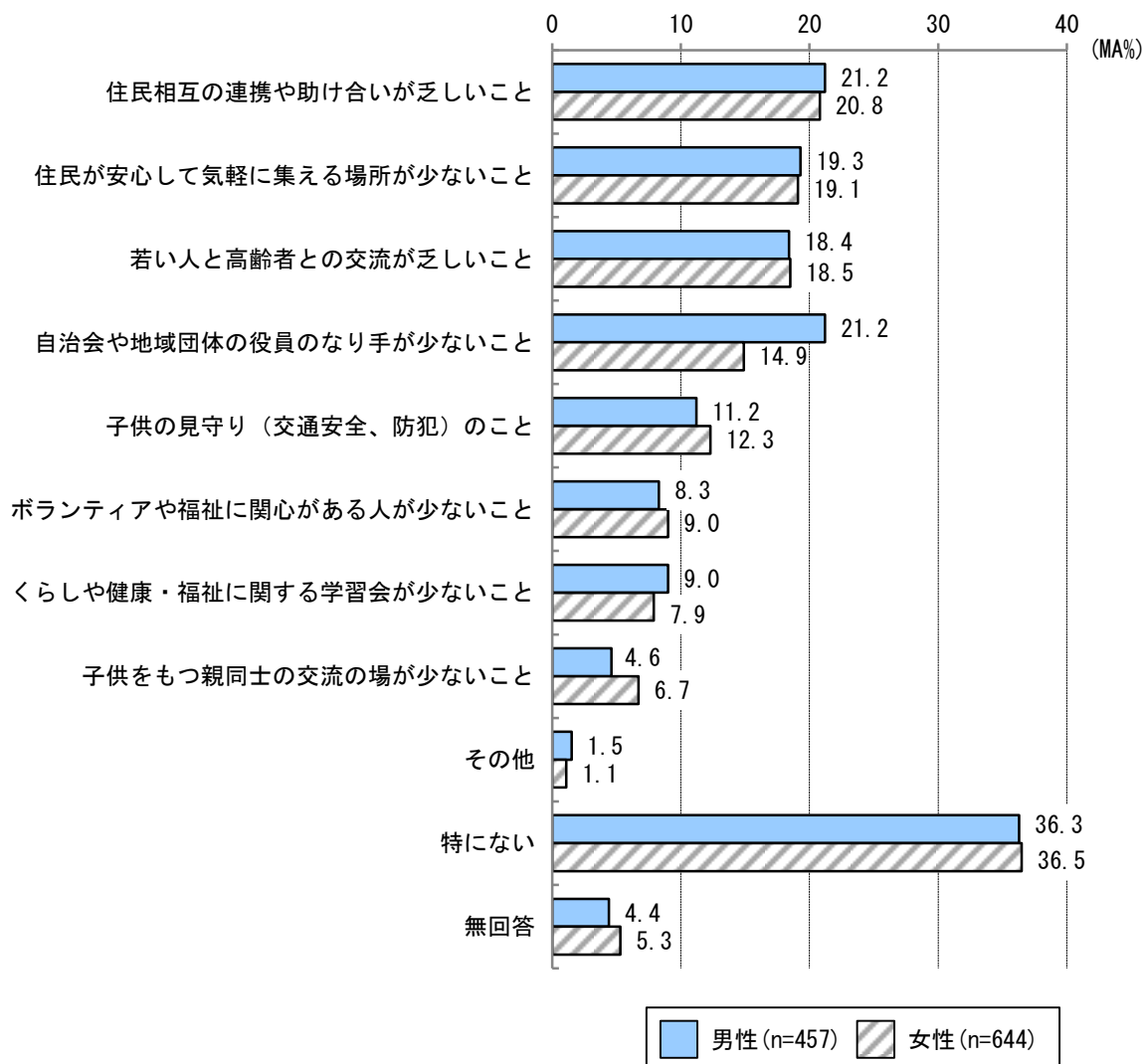
【図4-2 地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること】



地域生活の中で地域住民の交流について気になっていることについては、「特にない」が36.4%で最も多いですが、気になっていることがある人では「住民相互の連携や助け合いが乏しいこと」が20.9%で最も多く、次いで「住民が安心して気軽に集える場所が少ないこと」が19.0%、「若い人と高齢者との交流が乏しいこと」が18.5%となっています。(図4-2)

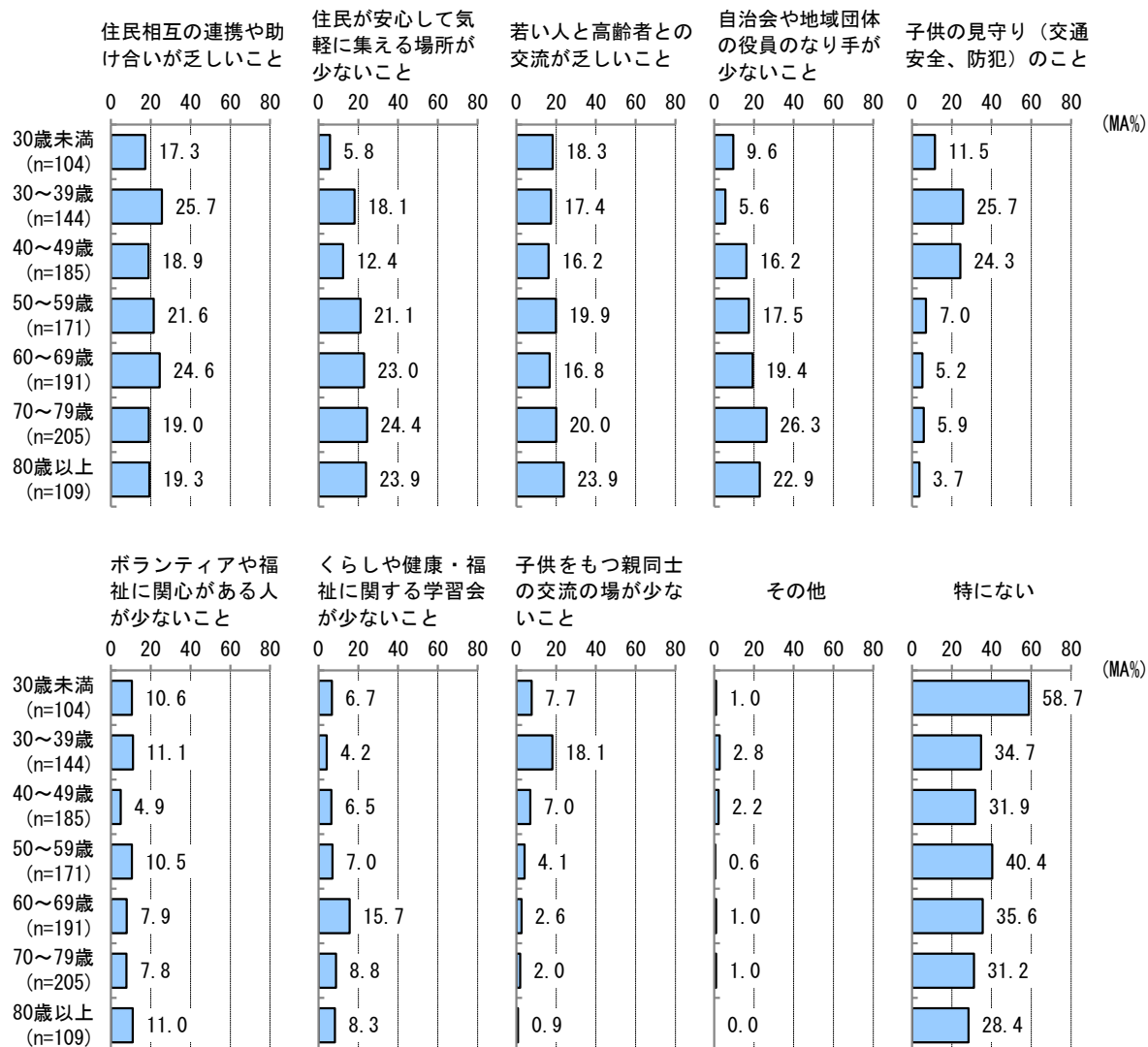
性別で見ると、「自治会や地域団体の役員のなり手が少ないこと」は女性（14.9%）より男性（21.2%）のほうが6.3ポイント高くなっています。（図4-2-1）

【図4-2-1 性別 地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること】



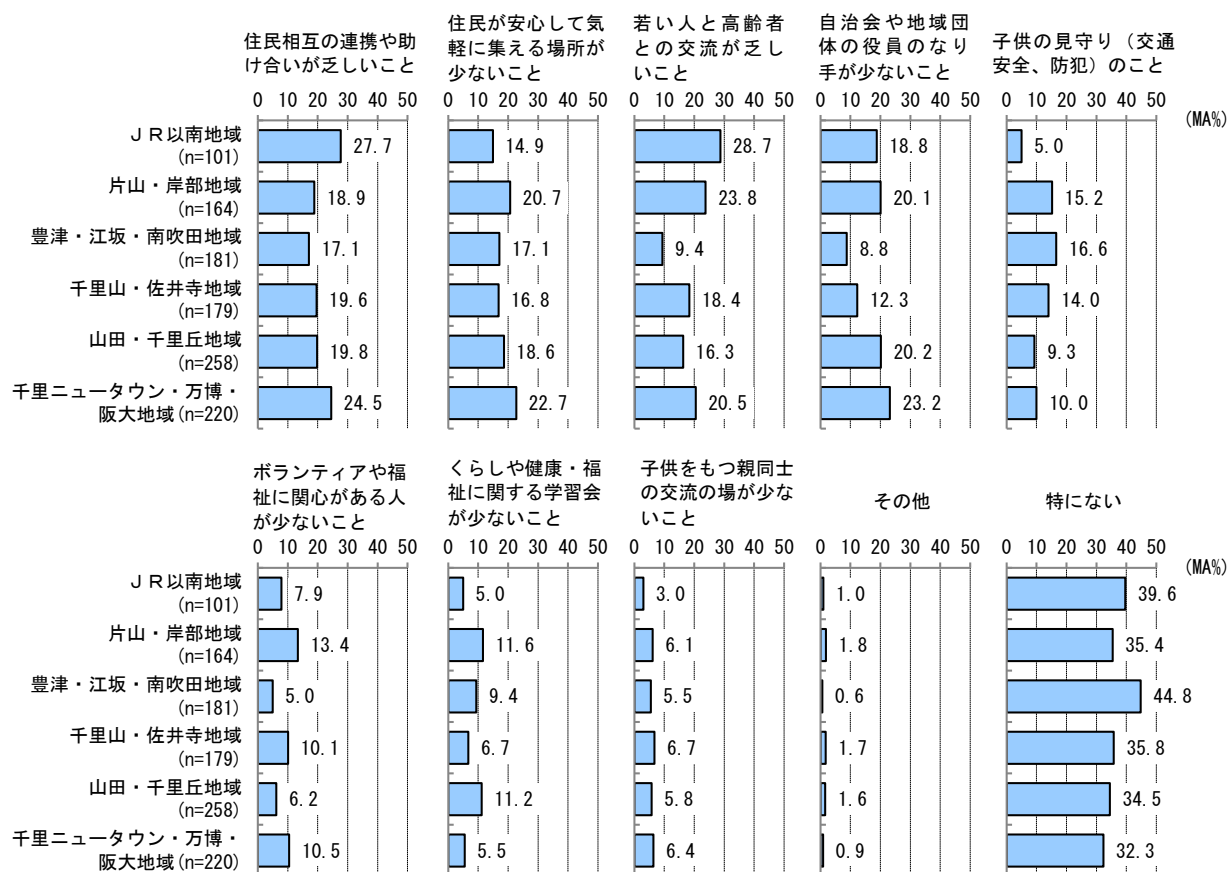
年齢別でみると、「子供の見守り（交通安全、防犯）のこと」は30～39歳（25.7%）と40～49歳（24.3%）で高く、「子供をもつ親同士の交流の場が少ないこと」は30～39歳（18.1%）で最も高くなっています。（図4-2-2）

【図4-2-2 年齢別 地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること】



居住地域別でみると、「住民相互の連携や助け合いが乏しいこと」と「若い人と高齢者との交流が乏しいこと」はJ R以南地域で最も高くなっています。(図4-2-3)

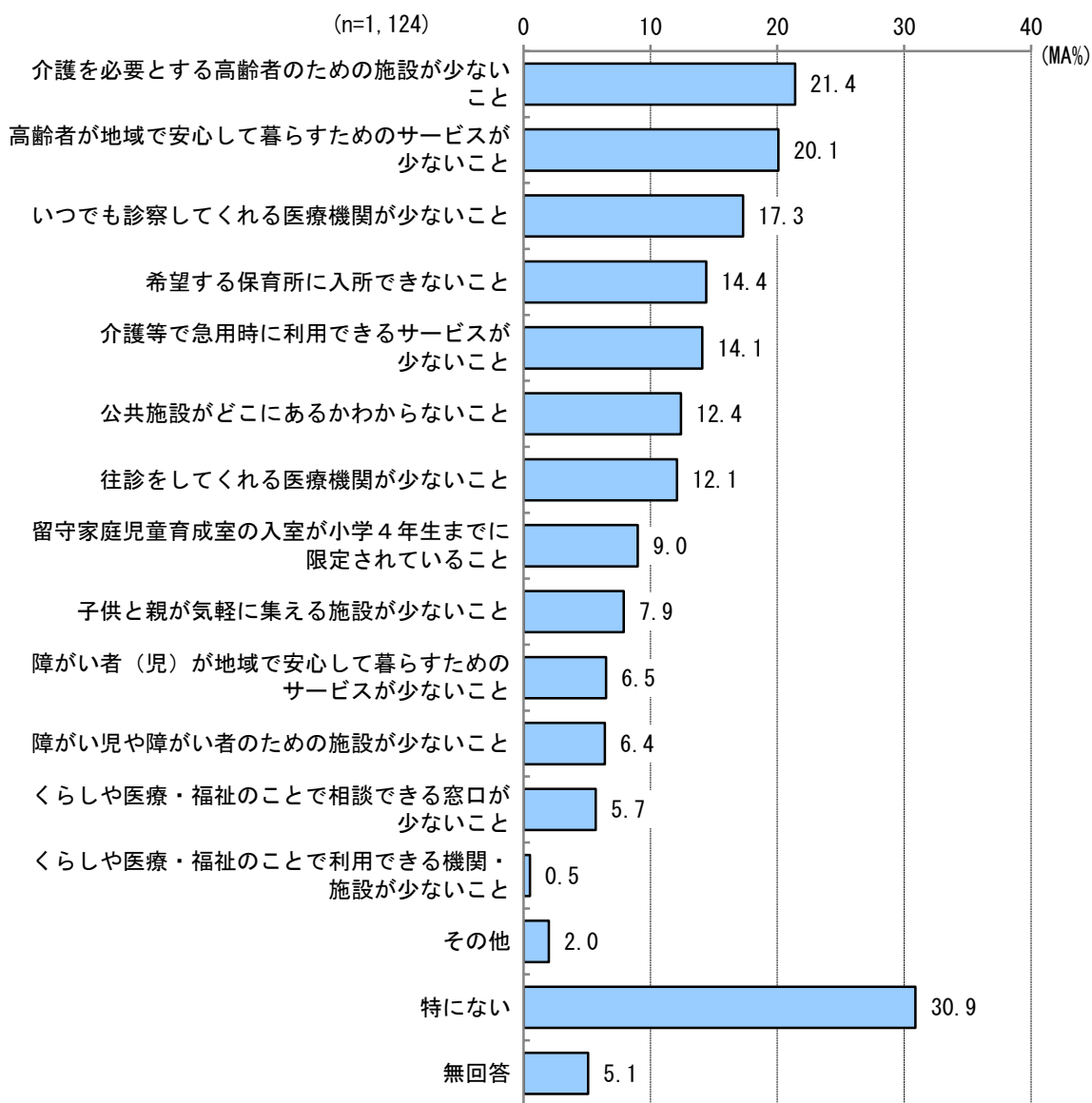
【図4-2-3 居住地域別 地域生活の中で地域住民の交流について気になっていること】



(3) 地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていること

問16 あなたが地域で暮らす中で、福祉に関する制度や施設・サービスについて、日頃、気になっていることは何ですか。(〇はいくつでも)

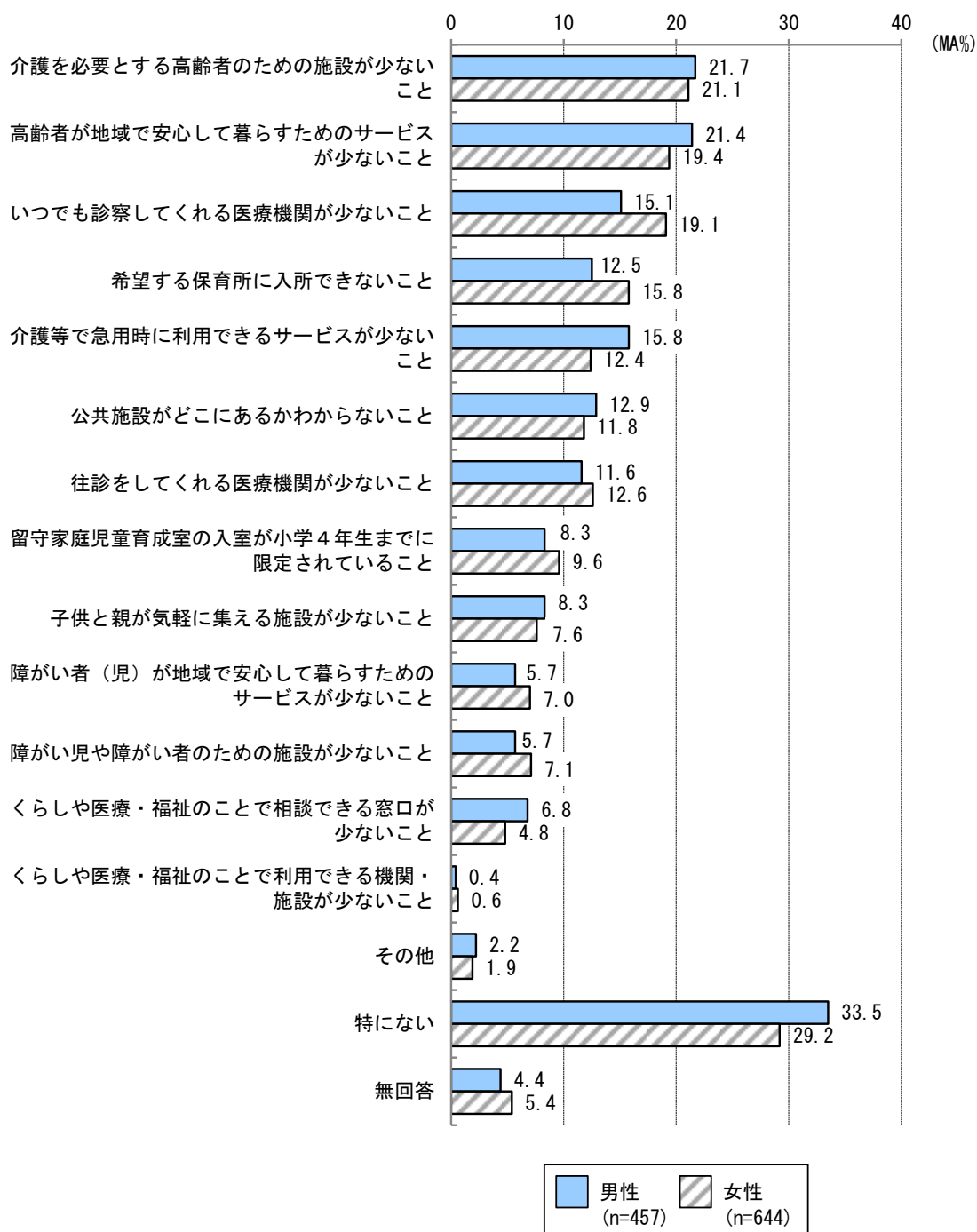
【図4-3 地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていること】



地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていることについては、「特にない」が30.9%で最も多いですが、「介護を必要とする高齢者のための施設が少ないこと」が21.4%で最も多く、次いで「高齢者が地域で安心して暮らすためのサービスが少ないこと」が20.1%、「いつでも診察してくれる医療機関が少ないこと」が17.3%となっています。(図4-3)

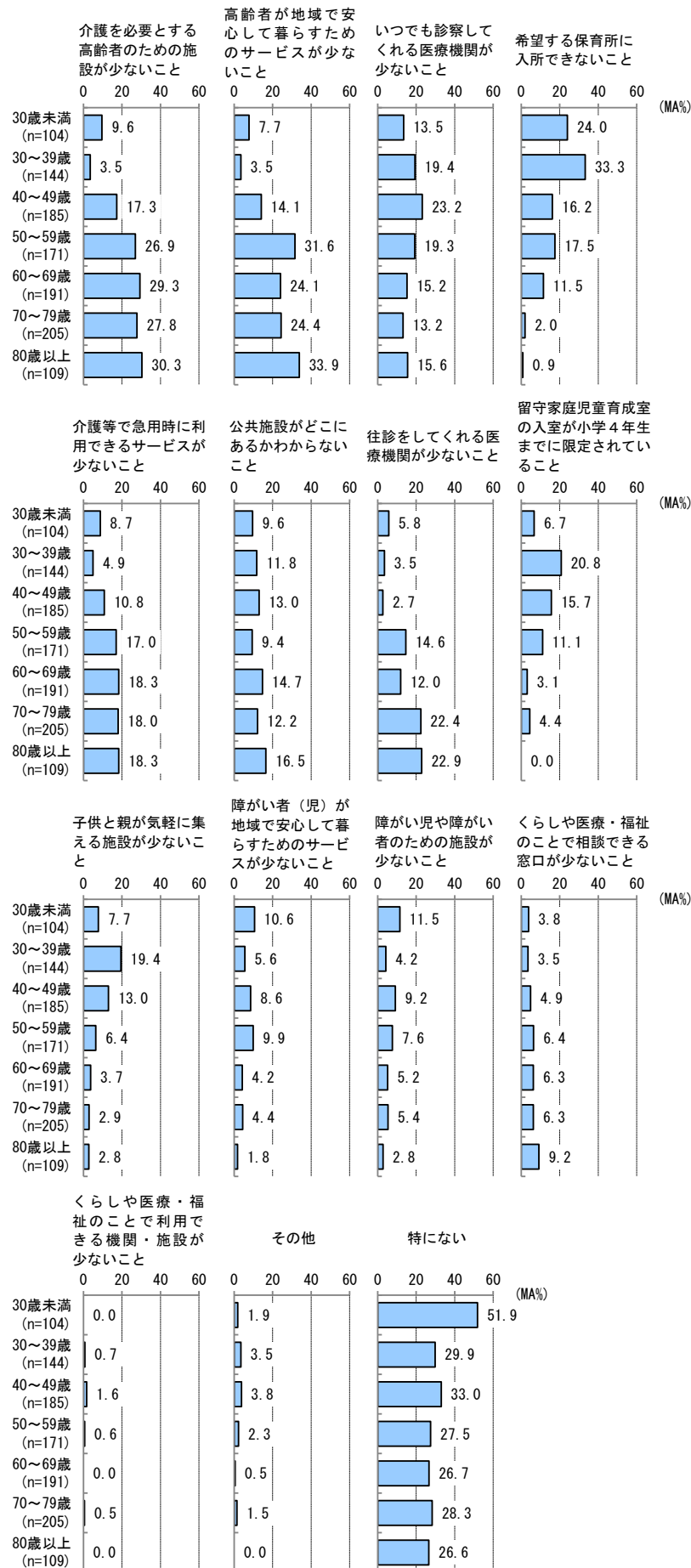
性別で見ると、「いつでも診察してくれる医療機関が少ないこと」は男性（15.1%）より女性（19.1%）のほうが4.0ポイント高くなっています。（図4-3-1）

【図4-3-1 性別 地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていること】



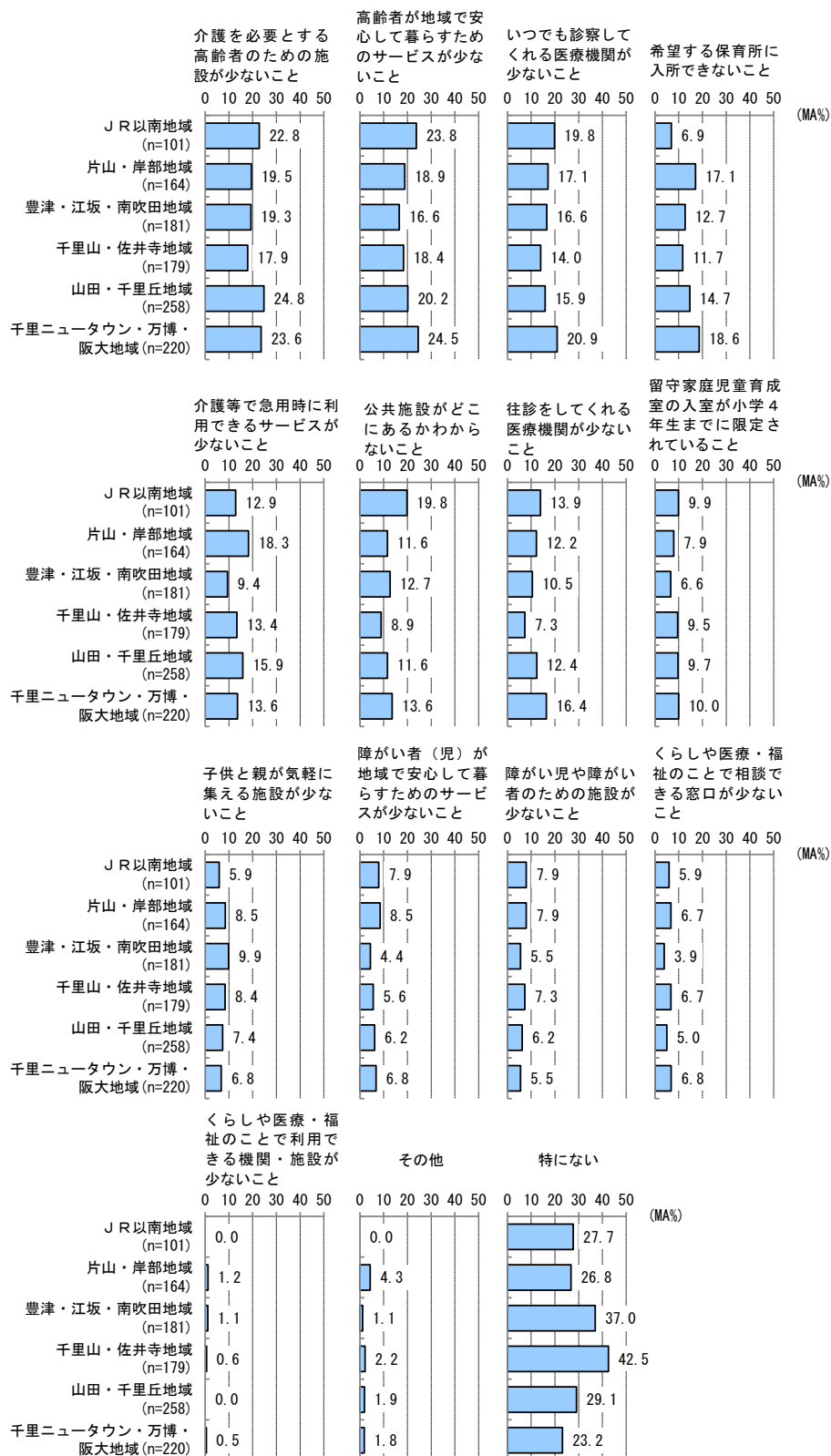
年齢別で見ると、「介護を必要とする高齢者のための施設が少ないこと」、「高齢者が地域で安心して暮らすためのサービスが少ないこと」は80歳以上で最も高く、「希望する保育所に入所できないこと」、「留守家庭児童育成室の入室が小学4年生までに限定されていること」「子供と親が気軽に集える施設が少ないこと」は30～39歳で最も高くなっています。（図4-3-2）

【図4-3-2 年齢別 地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていること】



居住地域別でみると、「高齢者が地域で安心して暮らすためのサービスが少ないこと」、「いつでも診察してくれる医療機関が少ないこと」、「希望する保育所に入所できないこと」、「往診をしてくれる医療機関が少ないこと」、「留守家庭児童育成室の入室が小学4年生までに限定されていること」、「くらしや医療・福祉のことで相談できる窓口が少ないこと」は千里ニュータウン・万博・阪大地域で最も高くなっています。(図4-3-3)

【図4-3-3 居住地域別 地域生活の中で福祉に関する制度や施設・サービスについて気になっていること】

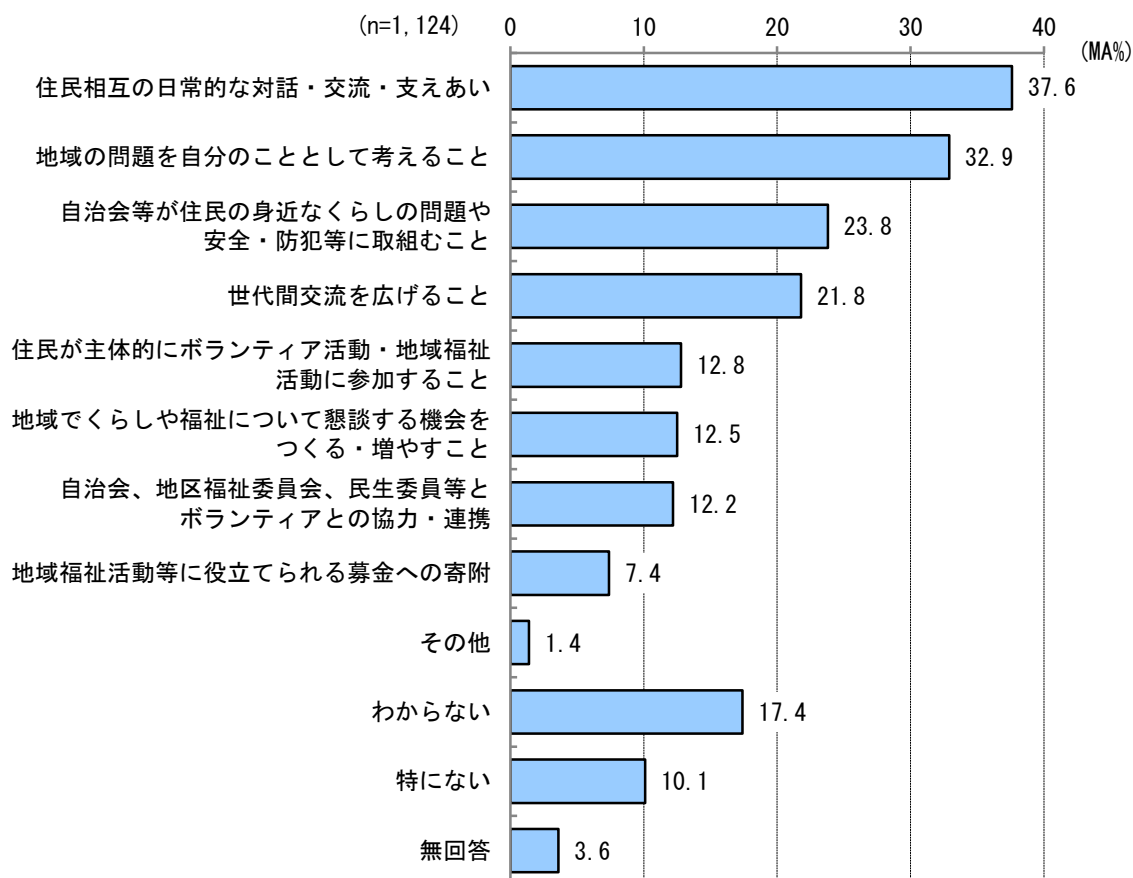


(4) 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（住民の主体的な取組）

問17 あなたは、地域で力を合わせて安心して暮らすために、どんな取組が必要だと考えますか。

(1) 住民が主体的に取り組むことは。(〇はいくつでも)

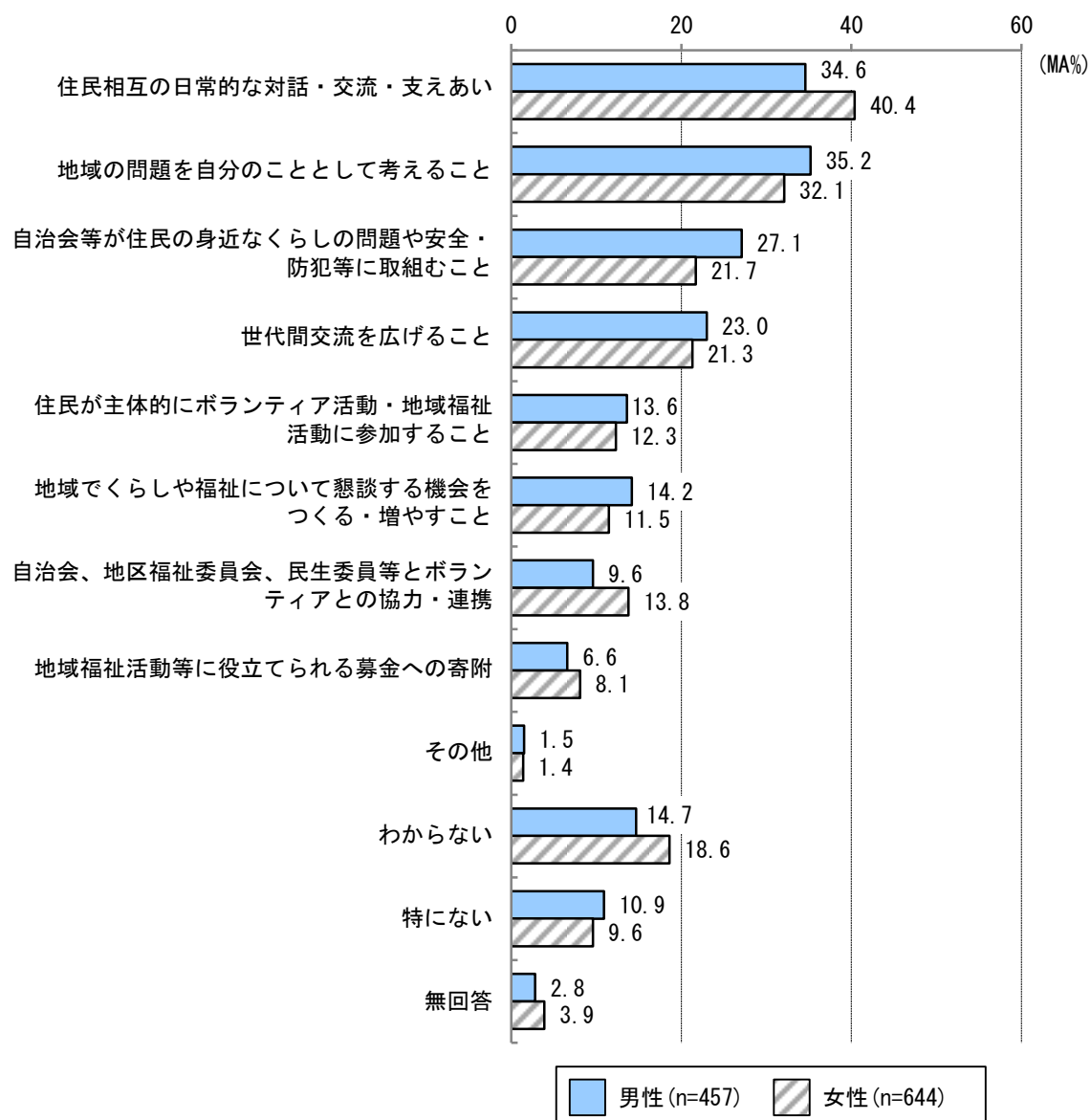
【図4-4 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（住民の主体的な取組）】



地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な住民の主体的な取組については、「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」が37.6%で最も多く、次いで「地域の問題を自分のこととして考えること」が32.9%、「自治会等が住民の身近な暮らしの問題や安全・防犯等に取り組むこと」が23.8%となっています。(図4-4)

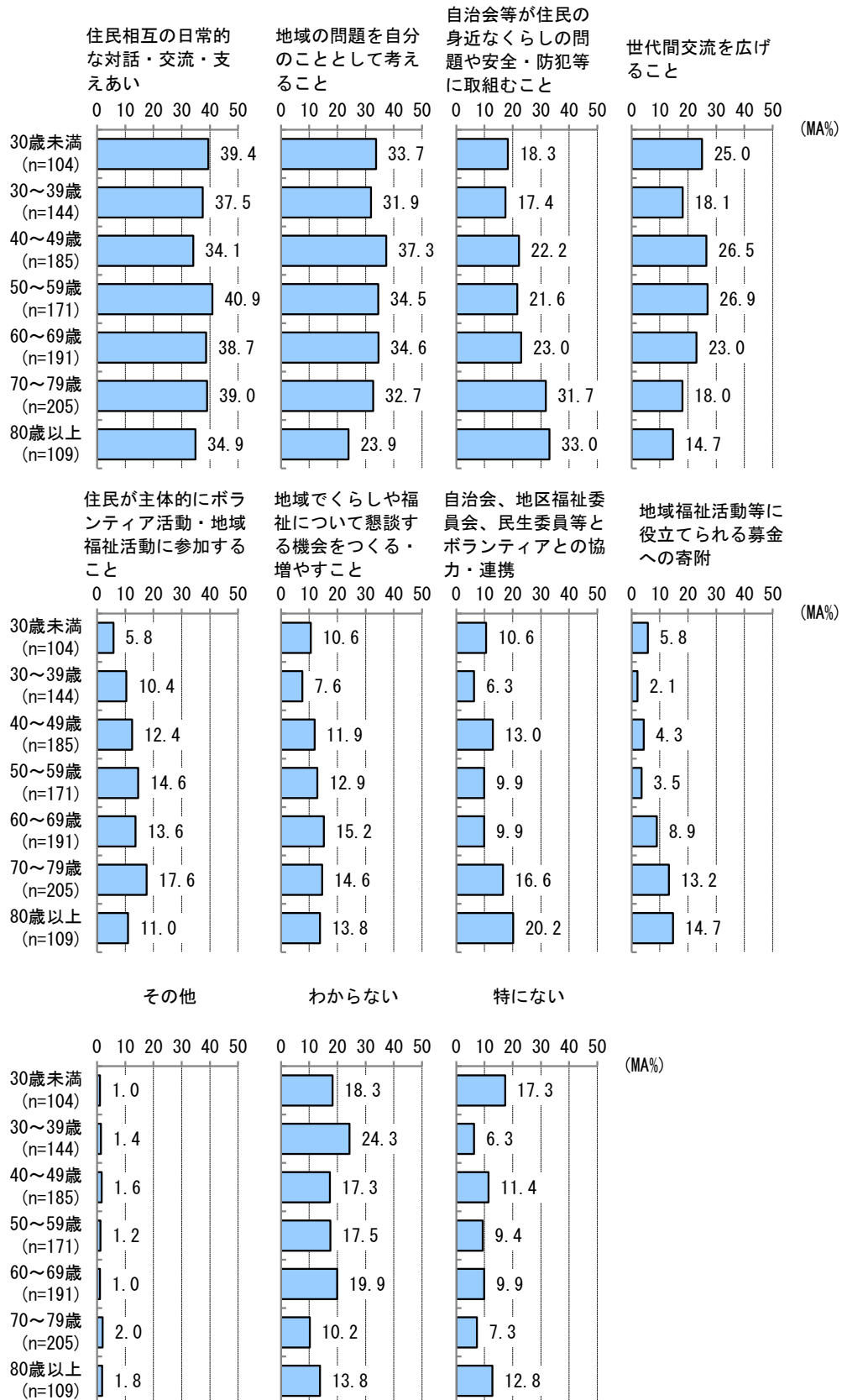
性別でみると、「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」は男性（34.6%）より女性（40.4%）のほうが5.8ポイント高く、「自治会等が住民の身近な暮らしの問題や安全・防犯等に取り組むこと」は女性（21.7%）より男性（27.1%）のほうが5.4ポイント高くなっています。（図4-4-1）

【図4-4-1 性別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（住民の主体的な取組）】



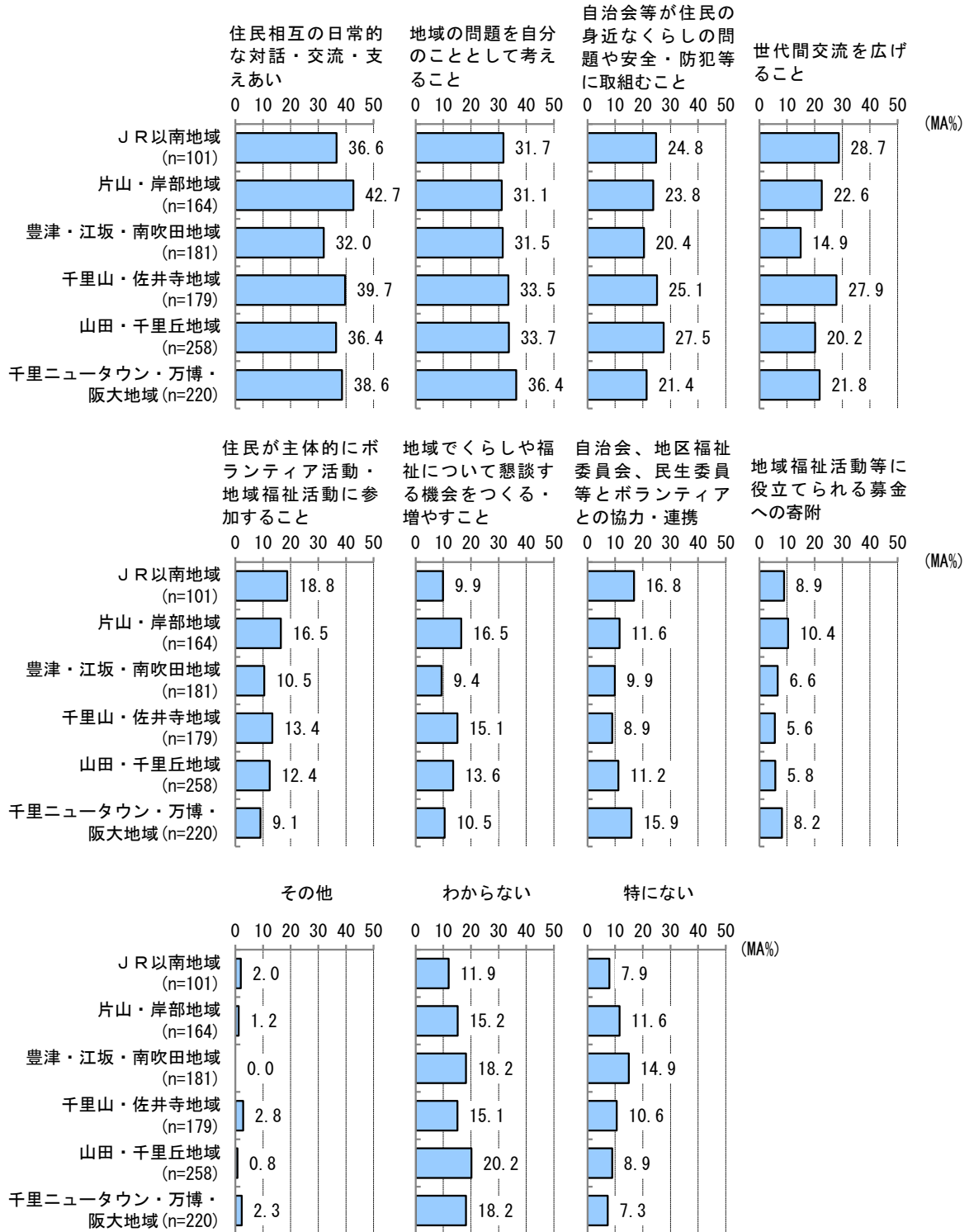
年齢別でみると、「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」は50～59歳（40.9%）で最も高く、「地域の問題を自分のこととして考えること」は40～49歳（37.3%）で最も高くなっています。（図4-4-2）

【図4-4-2 年齢別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（住民の主体的な取組）】



居住地域別でみると、「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」は片山・岸部地域(42.7%)で最も高くなっています。(図4-4-3)

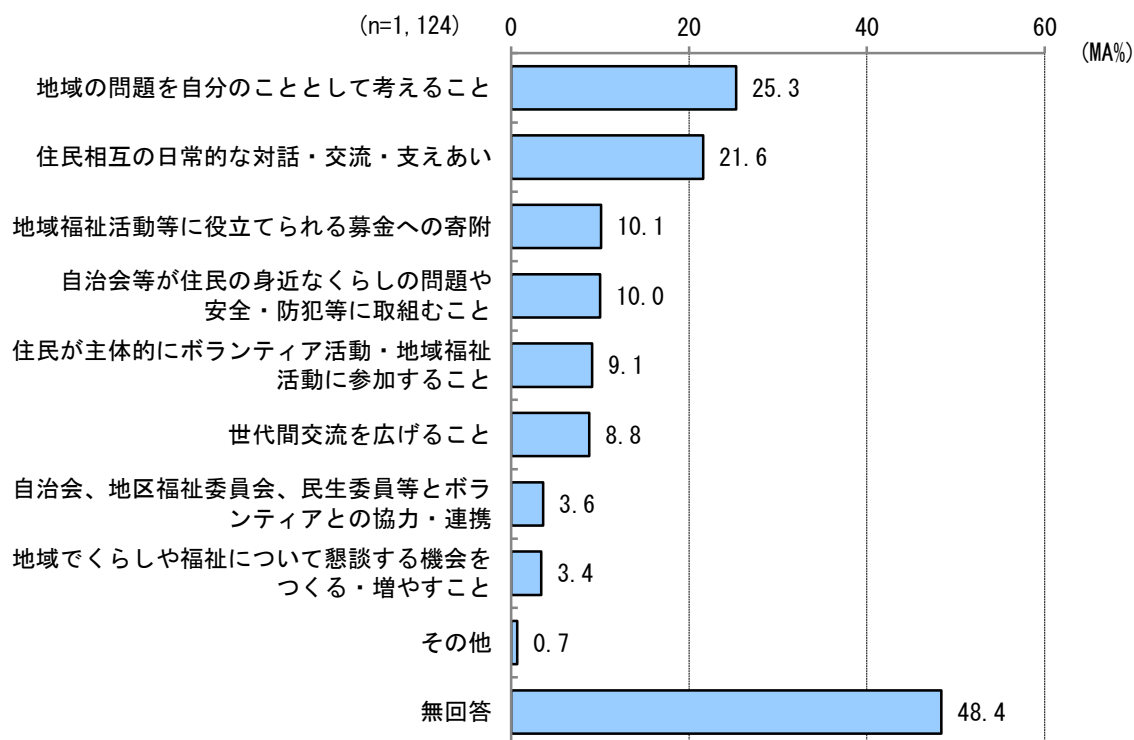
【図4-4-3 居住地域別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（住民の主体的な取組）】



(5) 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（自身ができること）

(2) 問17（前頁）の選択肢の中で、あなたは、どのようなことができそうですか。できるものについて、問17の選択肢の1～9のいずれかの番号をお書きください（番号はいくつでも）

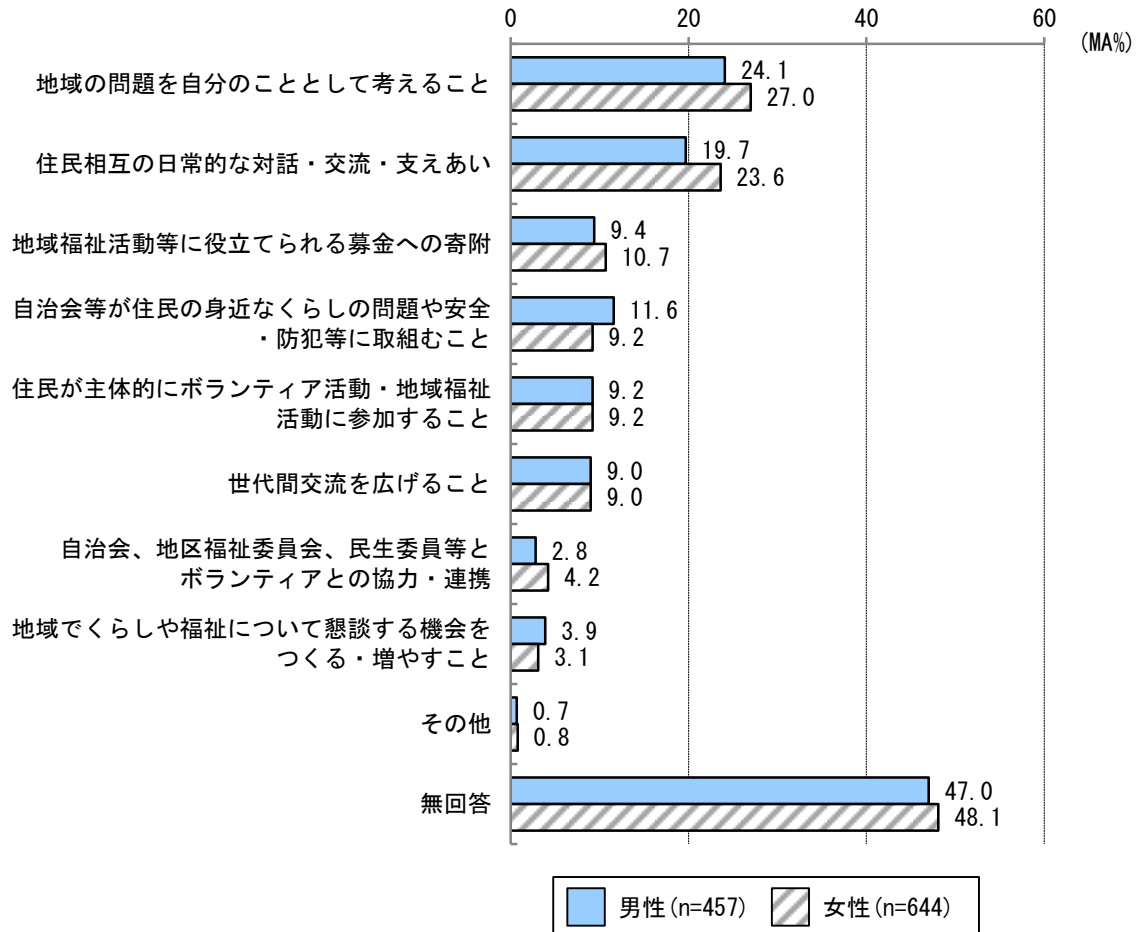
【図4-5 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（自身ができること）】



地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な自身でできる取組については、「地域の問題を自分のこととして考えること」が25.3%で最も多く、次いで「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」が21.6%、「地域福祉活動等に役立てられる募金への寄附」が10.1%となっています。（図4-5）

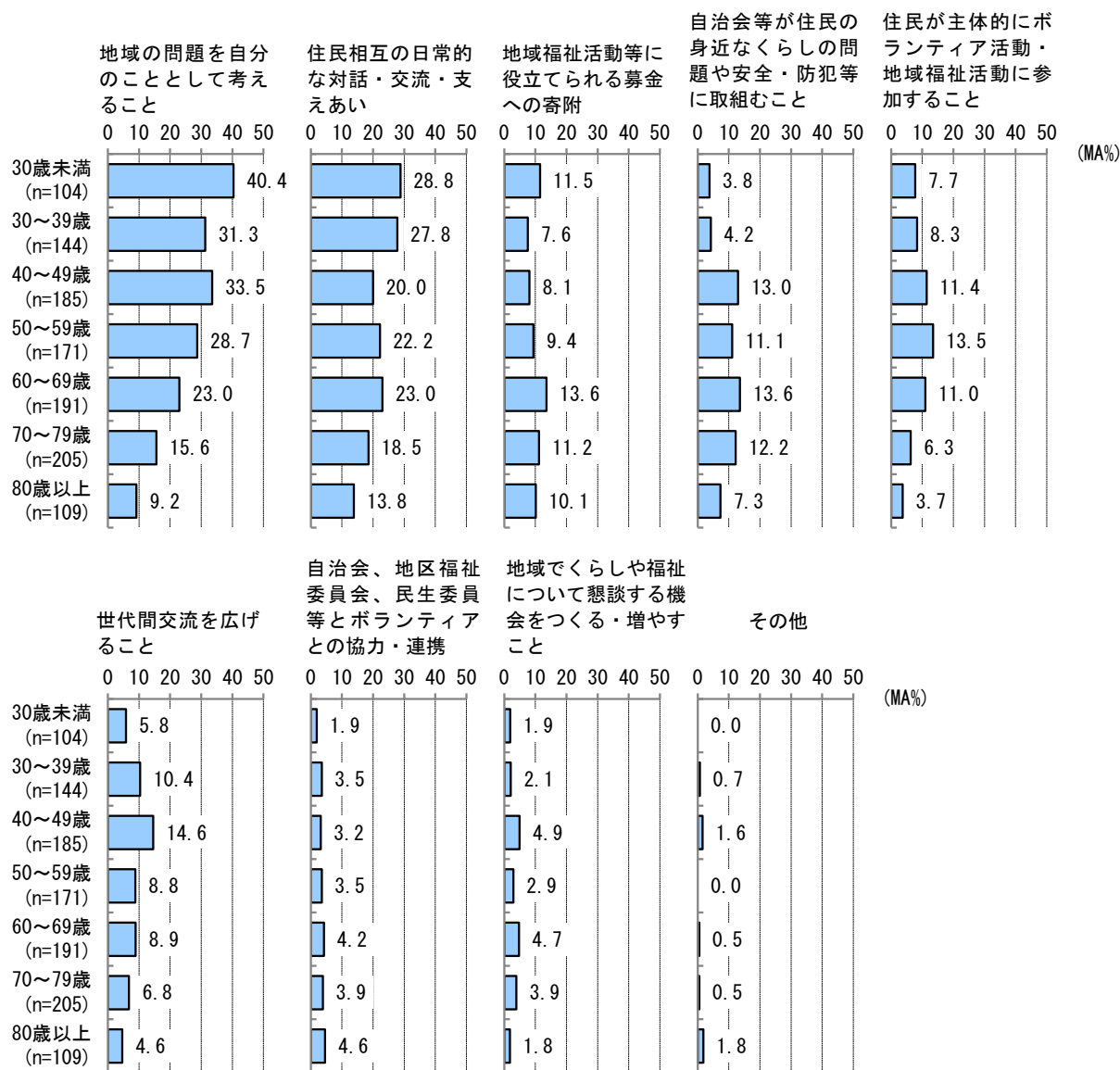
性別で見ると、「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」は男性（19.7%）より女性（23.6%）のほうが3.9ポイント高いですが、それ以外は男女で大きな差はみられません。（図4-5-1）

【図4-5-1 性別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（自身ができること）】



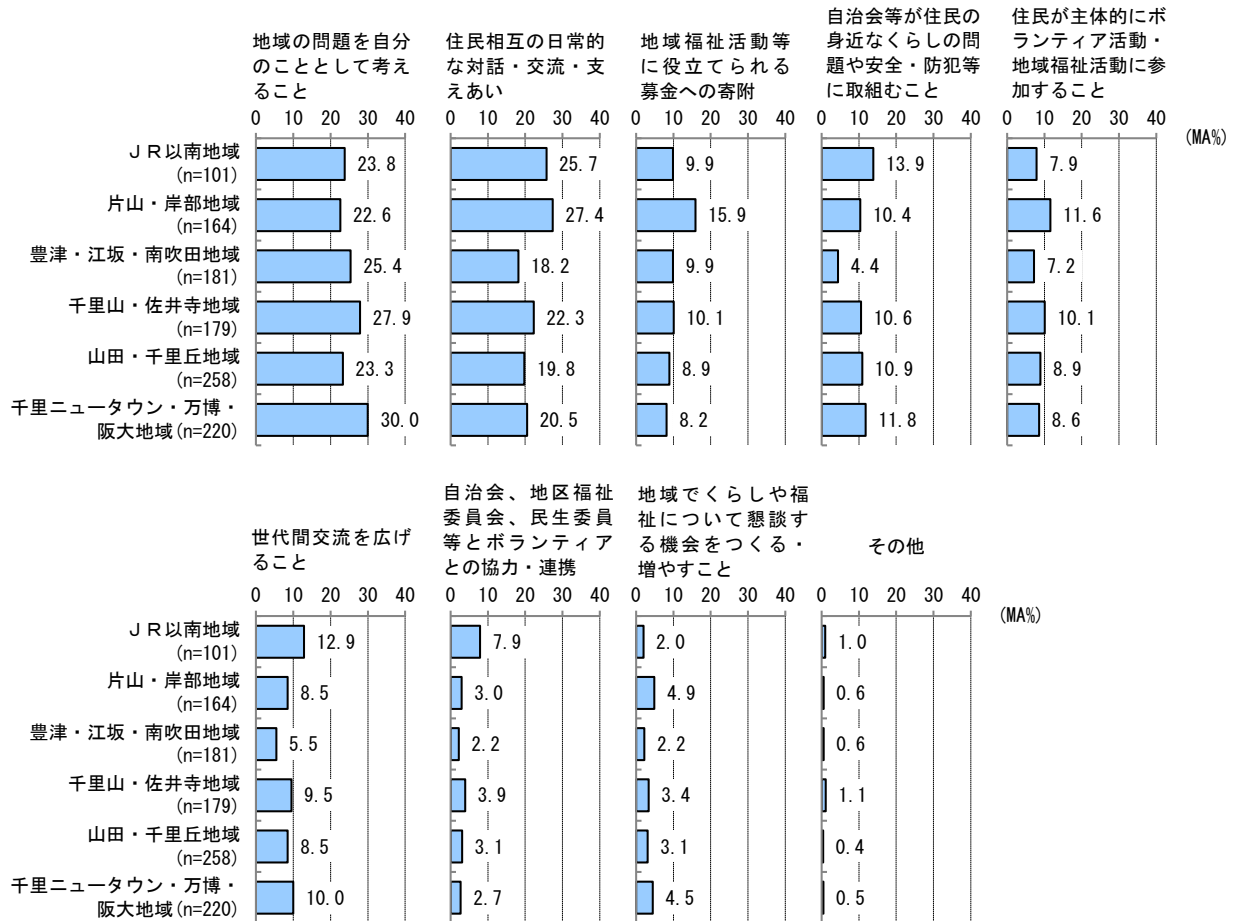
年齢別でみると、「地域の問題を自分のこととして考えること」、「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」は30歳未満で最も高くなっています。(図4-5-2)

【図4-5-2 年齢別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（自身ができること）】



居住地域別でみると、JR以南地域、片山・岸部地域は「住民相互の日常的な対話・交流・支えあい」が最も多く、それ以外の地域は「地域の問題を自分のこととして考えること」が最も多くなっています。(図4-5-3)

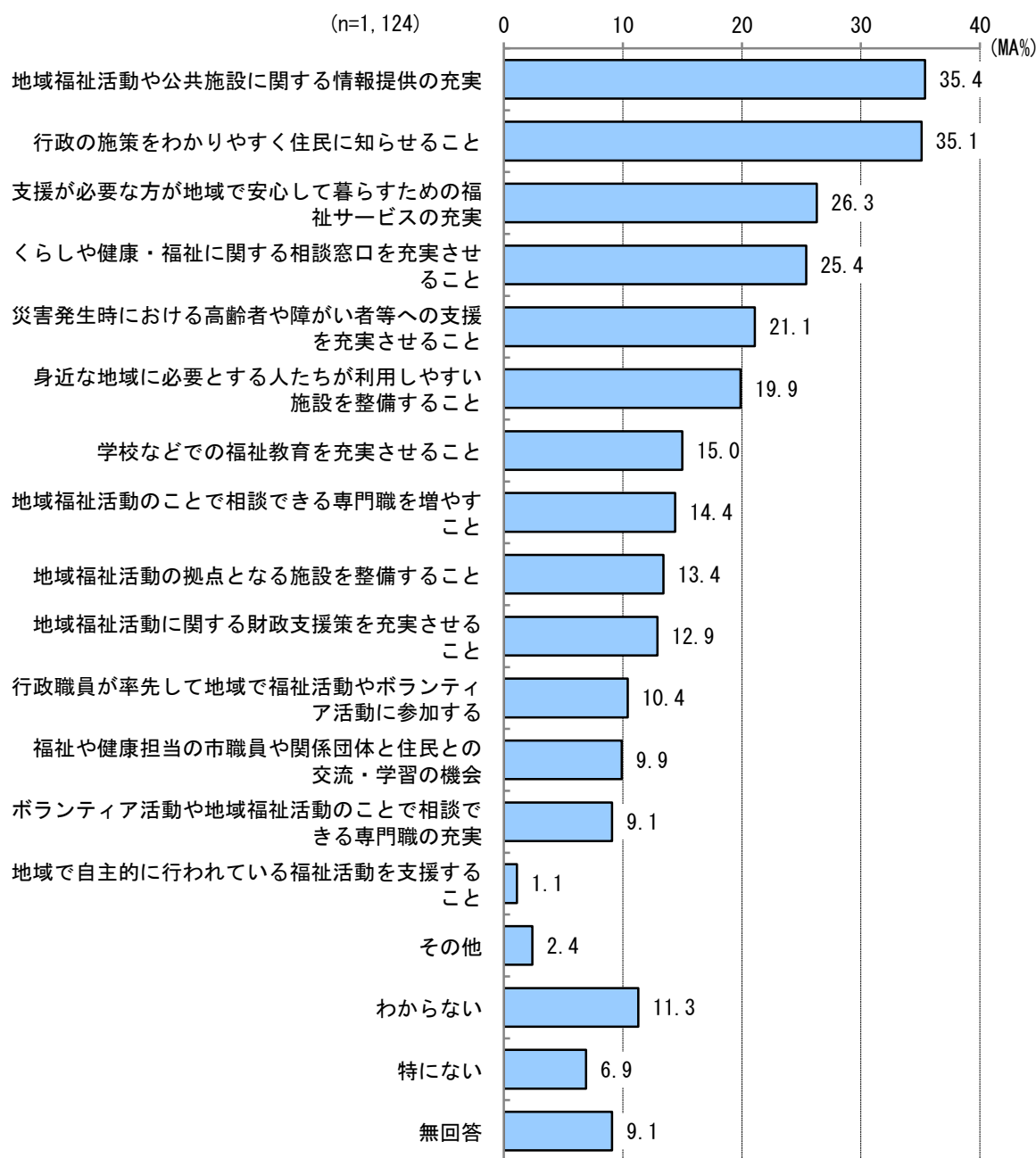
【図4-5-3 居住地域別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（自身ができること）】



(6) 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）

(3) 市役所などの行政が主体的に取り組むことは。(〇はいくつでも)

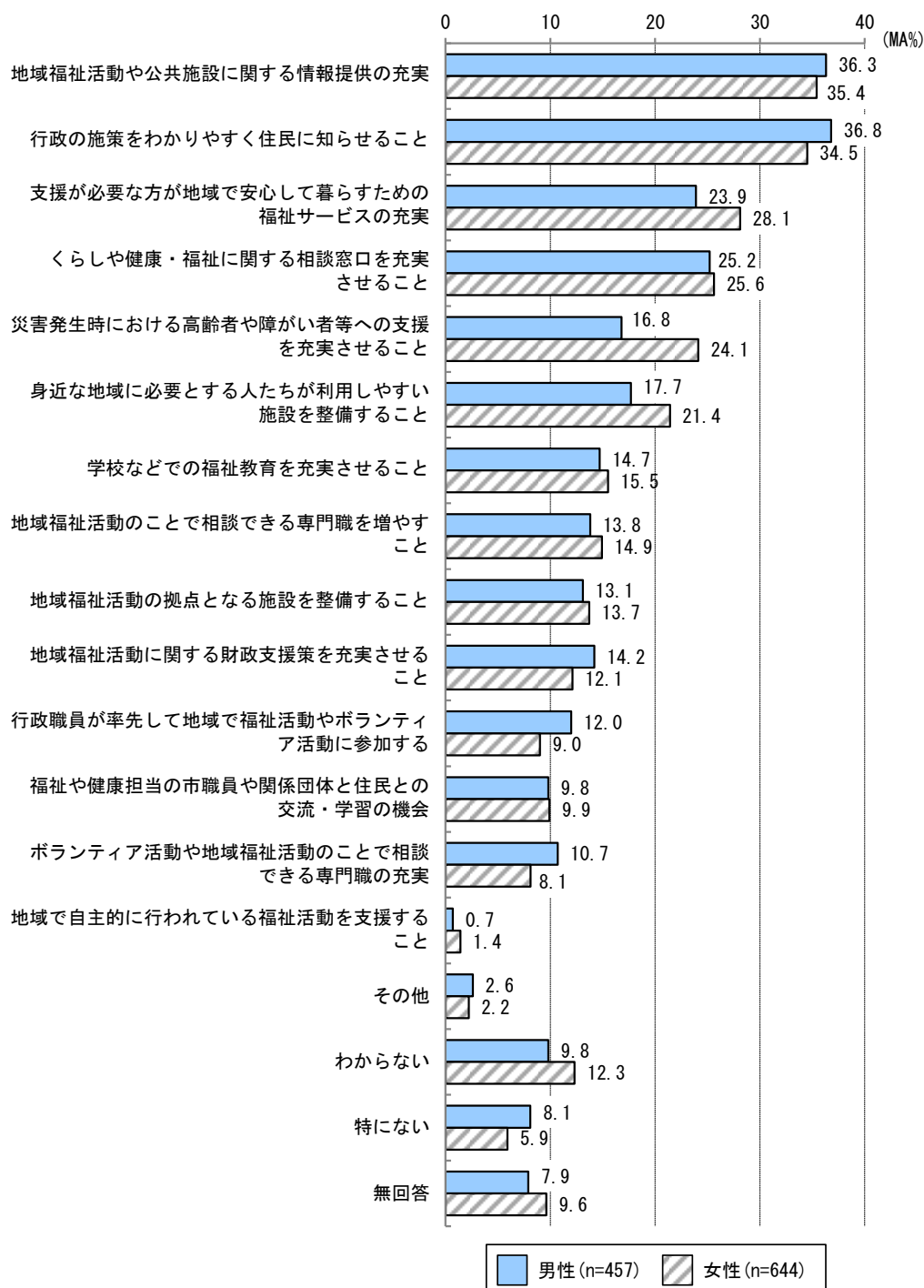
【図4-6 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）】



地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な行政の主体的な取組については、「地域福祉活動や公共施設に関する情報提供の充実」が35.4%で最も多く、次いで「行政の施策をわかりやすく住民に知らせること」が35.1%、「支援が必要な方が地域で安心して暮らすための福祉サービスの充実」が26.3%となっています。(図4-6)

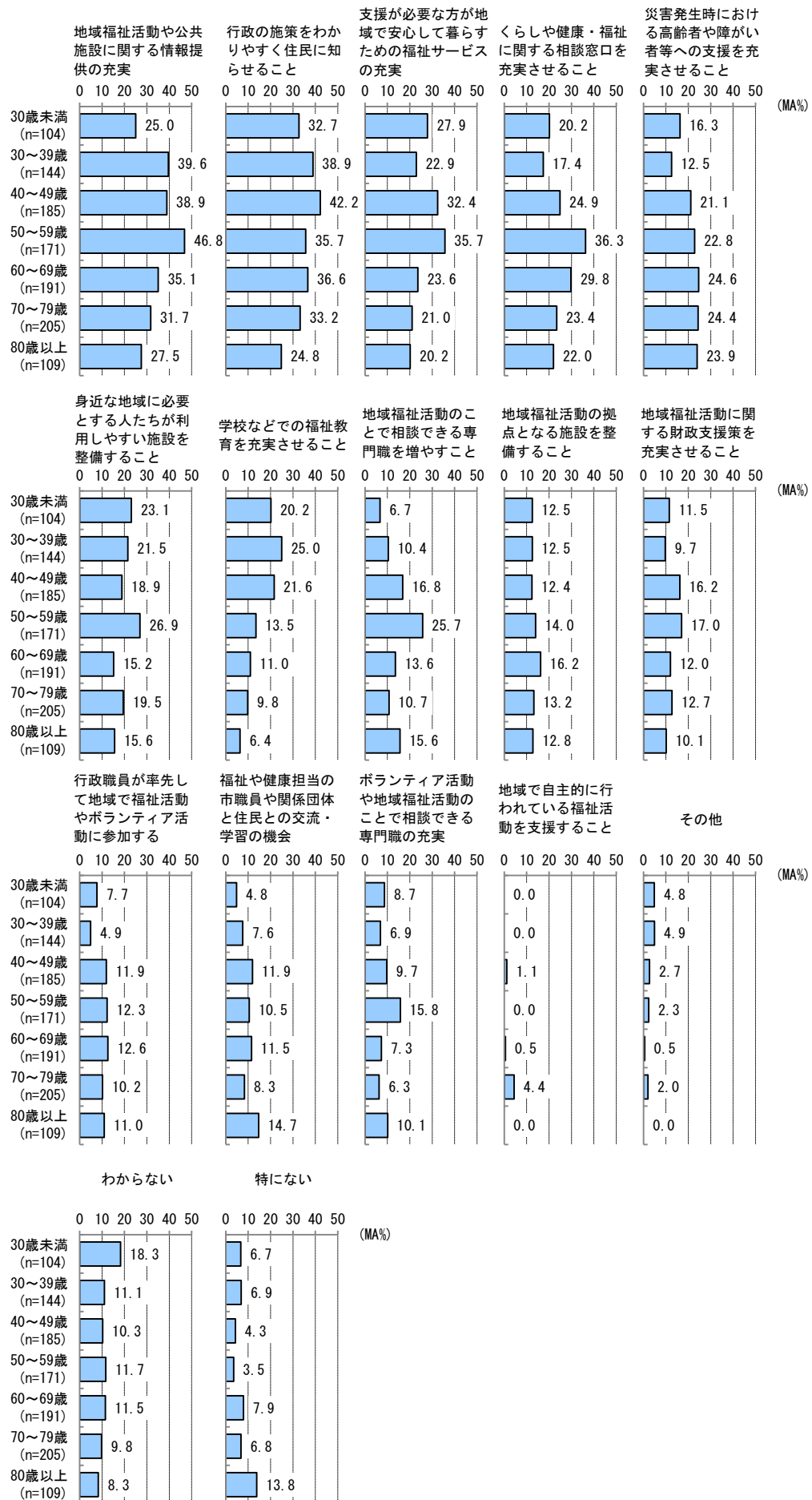
性別でみると、「災害発生時における高齢者や障がい者等への支援を充実させること」では男性（16.8%）より女性（24.1%）のほうが7.3ポイント高くなっています。（図4-6-1）

【図4-6-1 性別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）】



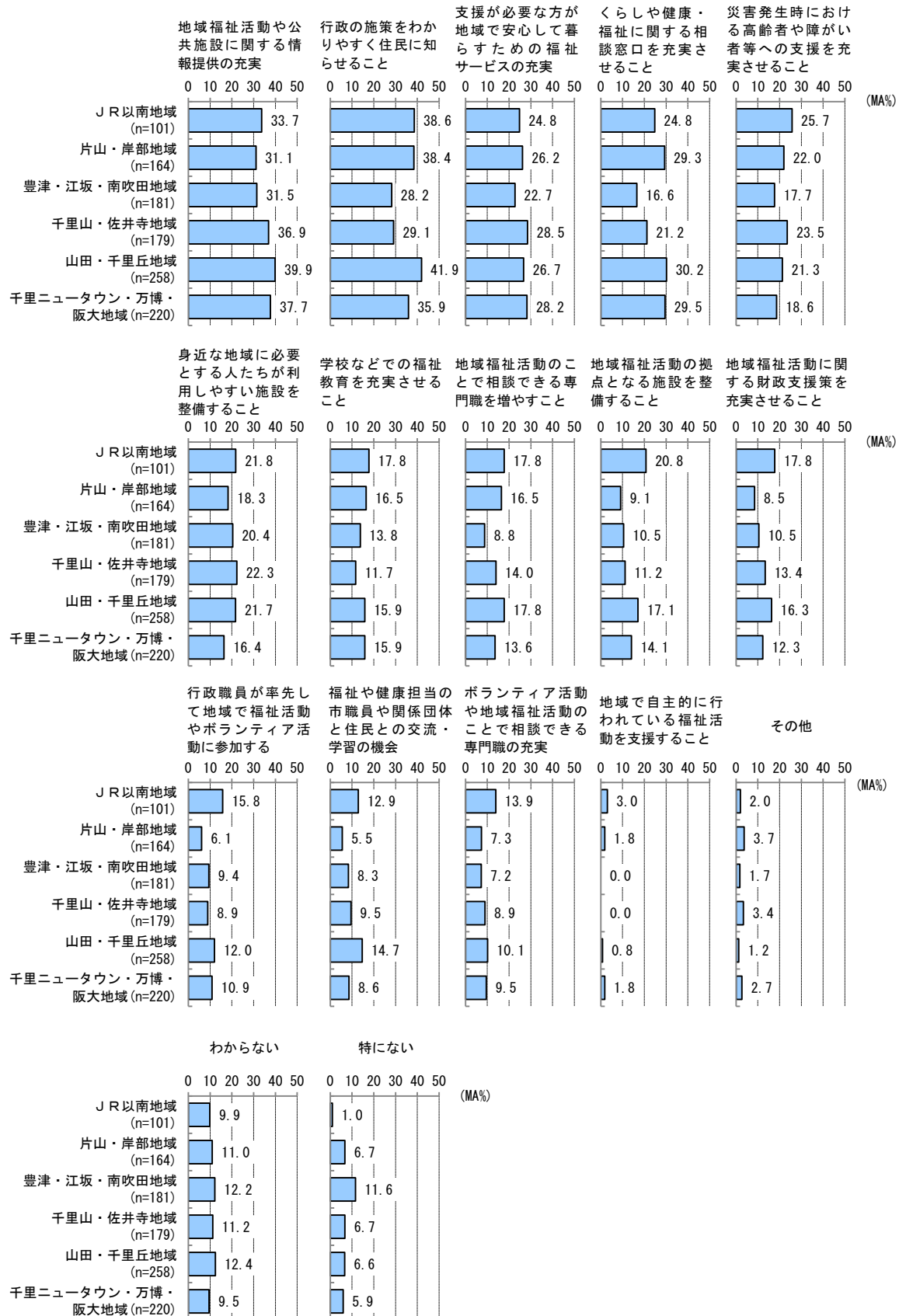
年齢別でみると、「地域福祉活動や公共施設に関する情報提供の充実」や「支援が必要な方が地域で安心して暮らすための福祉サービスの充実」、「くらしや健康・福祉に関する相談窓口を充実させること」、「身近な地域に必要とする人たちが利用しやすい施設を整備すること」、「地域福祉活動のことで相談できる専門職を増やすこと」等は50～59歳で最も高くなっています。（図4-6-2）

【図4-6-2 年齢別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）】



居住地域別でみると、「地域福祉活動や公共施設に関する情報提供の充実」や「行政の施策をわかりやすく住民に知らせること」、「くらしや健康・福祉に関する相談窓口を充実させること」は山田・千里丘地域で最も高くなっています。(図4-6-3)

【図4-6-3 居住地域別 地域で力を合わせて安心して暮らすために必要な取組（行政の主体的な取組）】

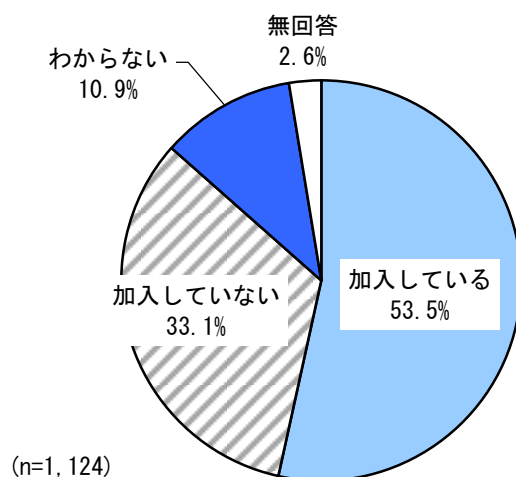


5. 地域活動やボランティア活動について

(1) 自治会への加入状況

問18 あなたの世帯では地域の自治会に加入していますか。(○は1つ)

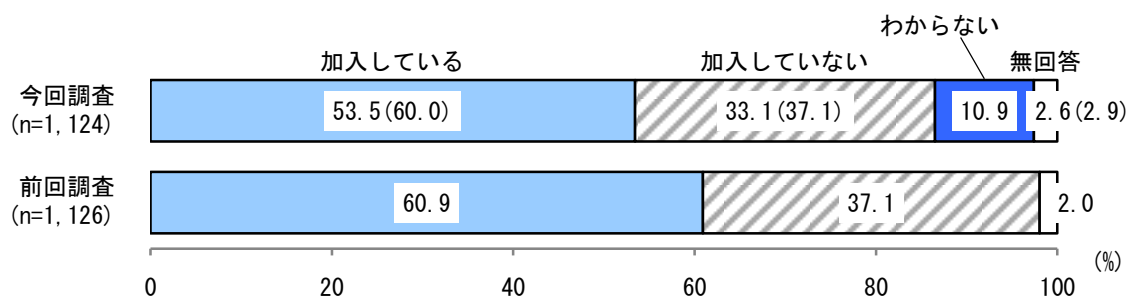
【図5-1 自治会への加入状況】



自治会の加入状況については、「加入している」が53.5%、「加入していない」が33.1%となっています。(図5-1)

前回調査にはなかった「わからない」を除いた割合で前回調査と比較すると、「加入している」は前回調査(60.9%)とほぼ同程度となっています。(図5-1-1)

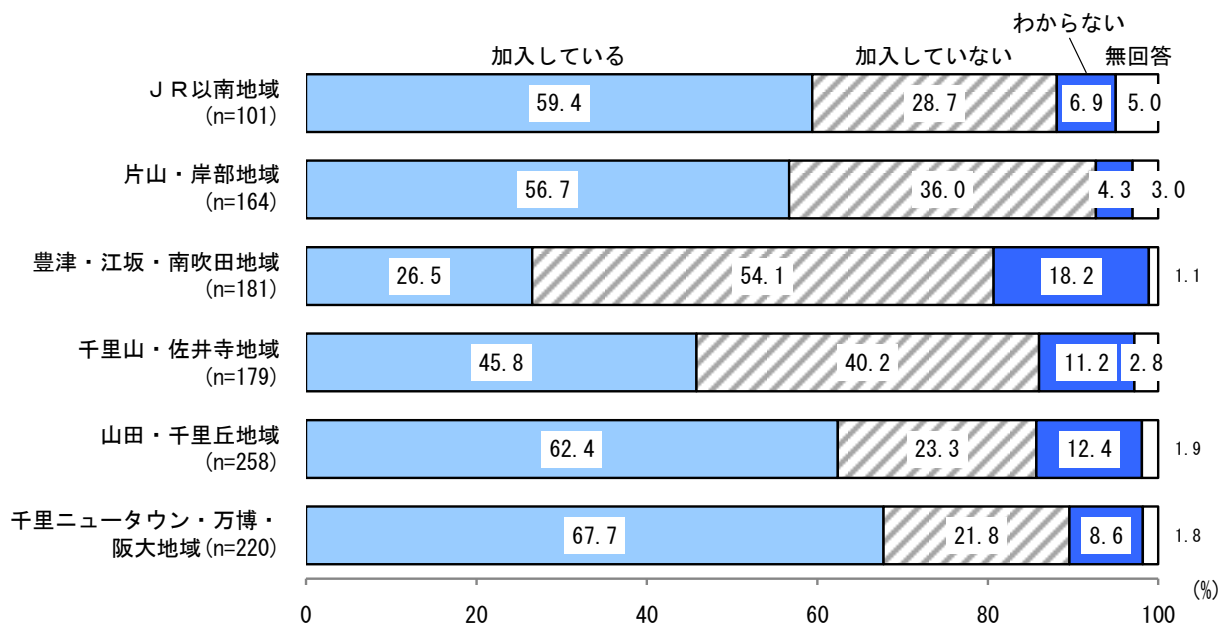
【図5-1-1 自治会への加入状況〔前回調査との比較〕】



※前回調査では「わからない」の選択肢はありませんでした。
 ※今回調査の()内は、「わからない」を除いて算出した割合

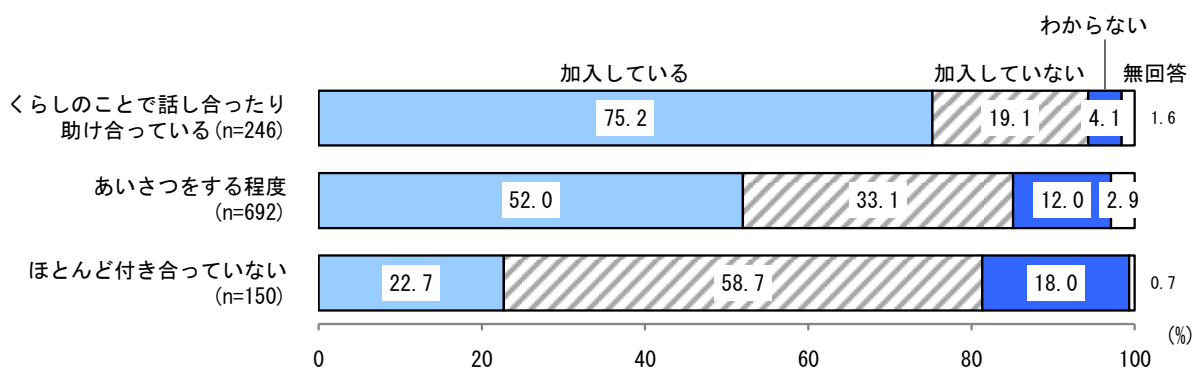
居住地域別でみると、「加入している」は千里ニュータウン・万博・阪大地域が67.7%で最も高く、次いで山田・千里丘地域が62.4%となっています。(図5-1-2)

【図5-1-2 居住地域別 自治会への加入状況】



隣近所との付き合いの程度別でみると、「加入している」は“くらしのことで話し合ったり助け合ったりする”が75.2%と最も高く、近所付き合いがなくなるほど自治会への加入率も低くなっています。(図5-1-3)

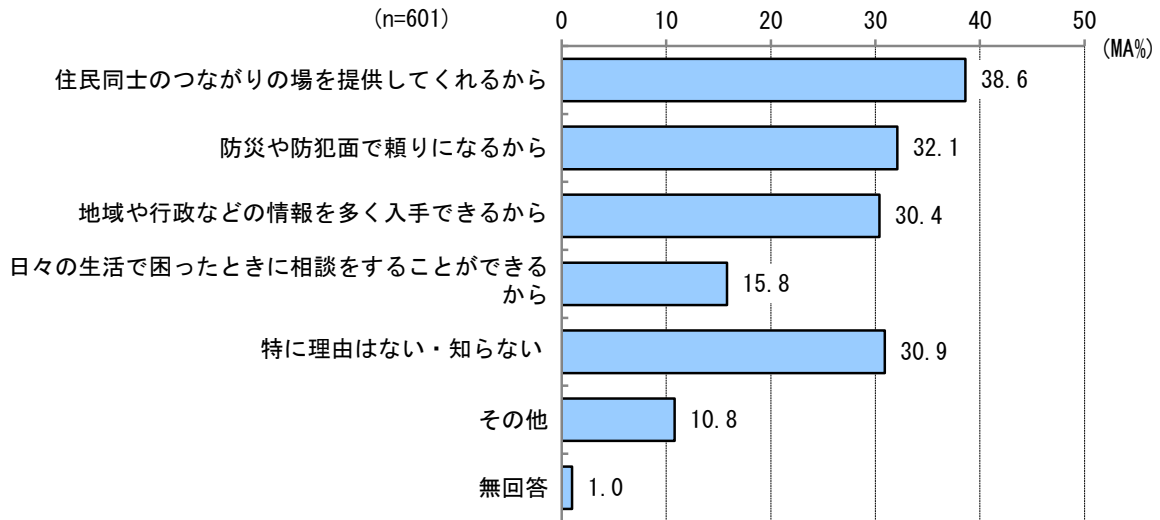
【図5-1-3 隣近所との付き合いの程度別 自治会への加入状況】



(2) 自治会への加入理由

問18-1 問18で「1. 加入している」と回答した方にお聞きします。
その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

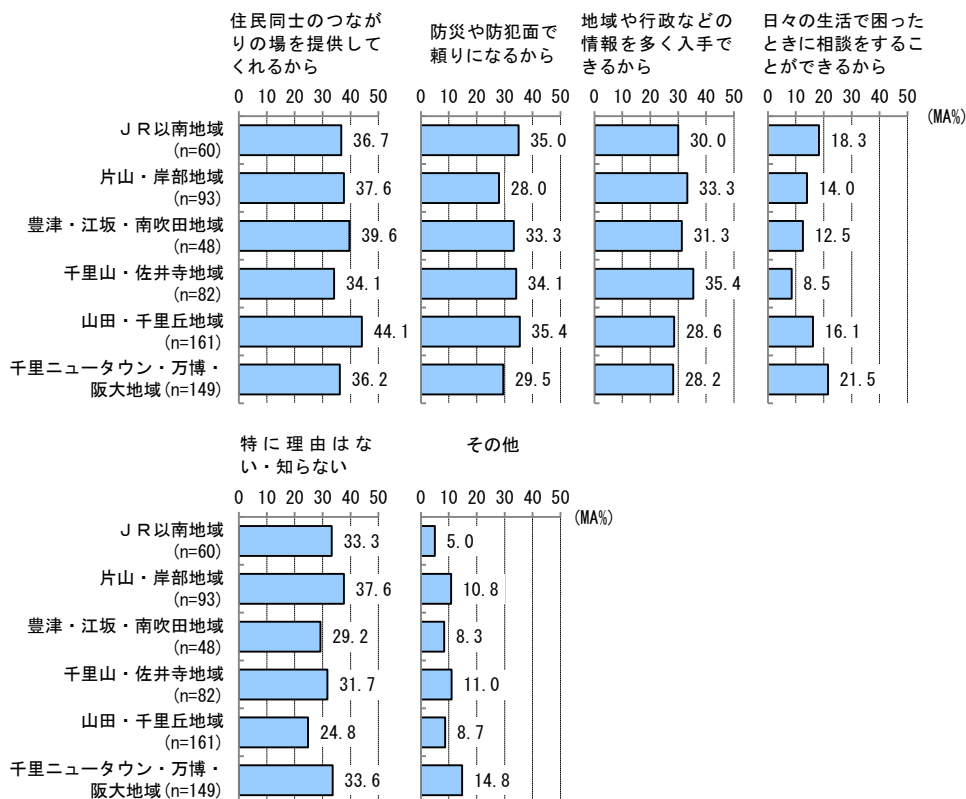
【図5-2 自治会への加入理由】



自治会へ加入していると回答した人に、その理由をたずねると、「住民同士のつながりの場を提供してくれるから」が38.6%で最も多く、次いで「防災や防犯面で頼りになるから」が32.1%、「地域や行政などの情報を多く入手できるから」が30.4%となっています。(図5-2)

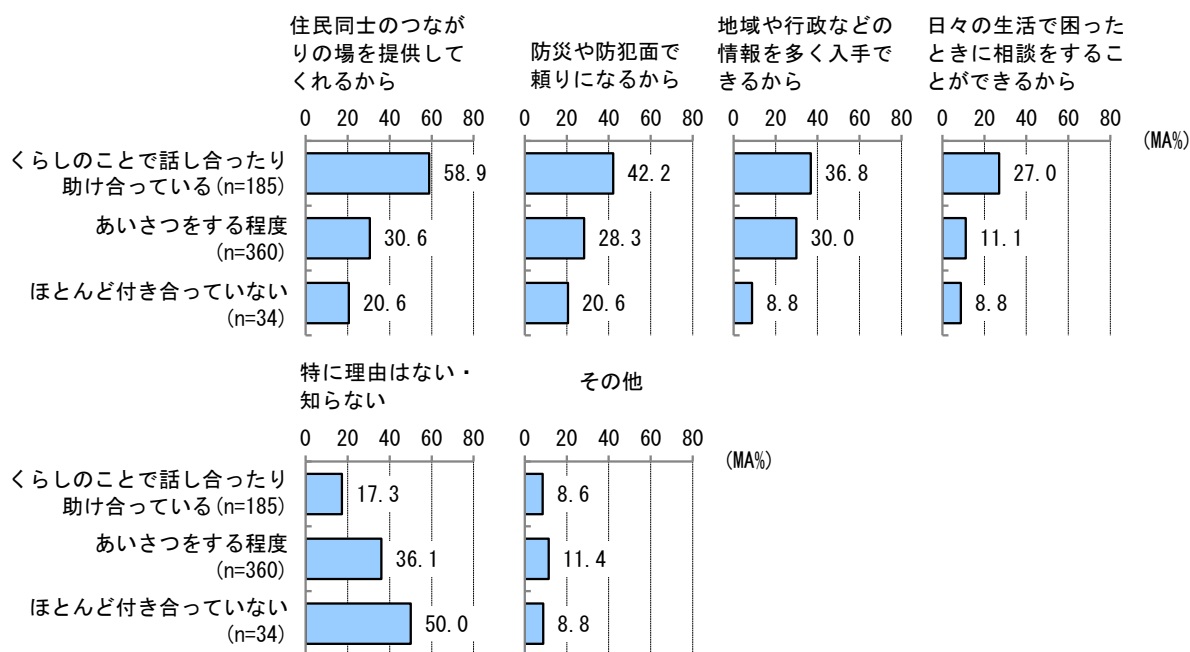
居住地域別でみると、「住民同士のつながりの場を提供してくれるから」、「防災や防犯面で頼りになるから」は山田・千里丘地域で最も高くなっています。(図5-2-1)

【図5-2-1 居住地域別 自治会への加入理由】



隣近所との付き合いの程度別でみると、いずれの理由も“くらしのことで話し合ったり助け合っている”で最も高く、近所付き合いがなくなるほど割合が低くなっています。(図5-2-2)

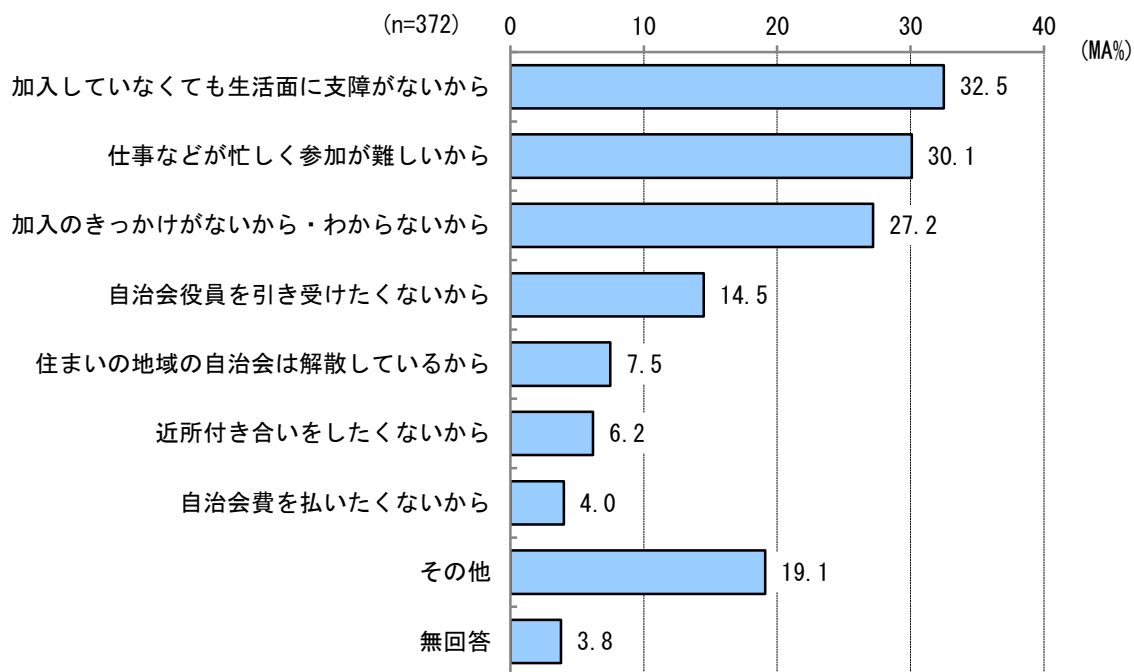
【図5-2-2 隣近所との付き合いの程度別 自治会への加入理由】



(3) 自治会に加入していない理由

問18-2 問18で「2. 加入していない」と回答した方にお聞きします。
その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【図5-3 自治会に加入していない理由】

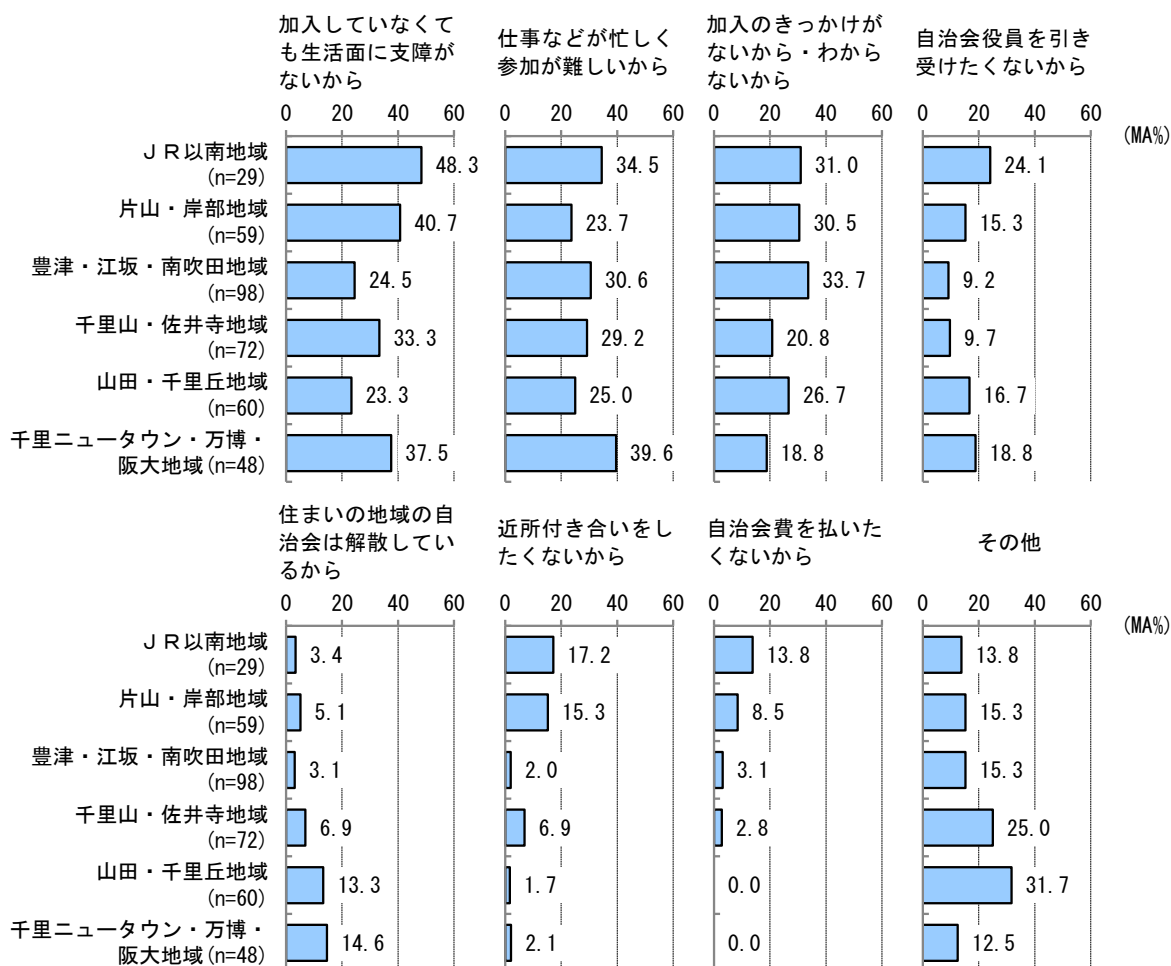


自治会に加入していないと回答した人に、その理由をたずねると、「加入してなくても生活面に支障がないから」が32.5%で最も多く、次いで「仕事などが忙しく参加が難しいから」が30.1%、「加入のきっかけがないから・わからないから」が27.2%となっています。

(図5-3)

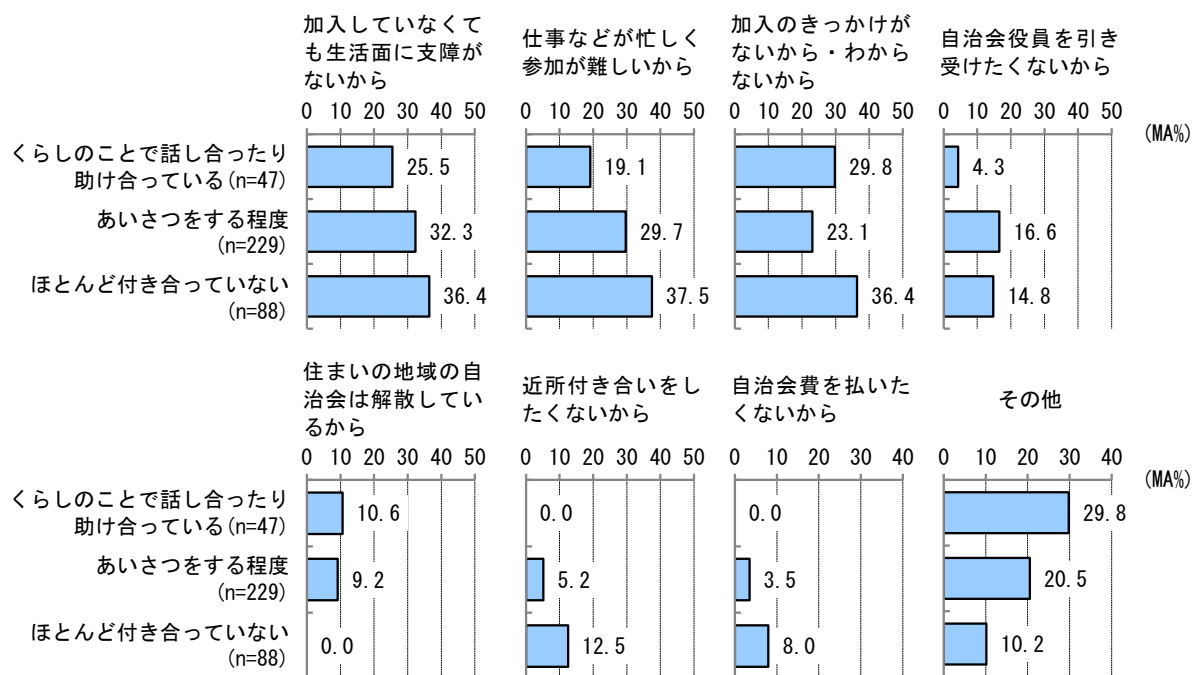
居住地域別でみると、「加入していなくても生活面に支障がないから」はJ R以南地域（48.3%）で最も高く、「仕事などが忙しく参加が難しいから」は千里ニュータウン・万博・阪大地域（39.6%）で最も高くなっています。（図5-3-1）

【図5-3-1 居住地域別 自治会に加入していない理由】



隣近所との付き合いの程度別でみると、「加入していなくても生活面に支障がないから」、「仕事などが忙しく参加が難しいから」、「加入のきっかけがないから・わからないから」、「近所付き合いをしたくないから」、「自治会費を払いたくないから」はそれぞれ“ほとんど付き合っていない”で最も高くなっています。(図5-3-2)

【図5-3-2 隣近所との付き合いの程度別 自治会に加入していない理由】



(4) 地域活動への参加・取組状況

問19 あなたは今、地域活動に参加したり、取り組んだりしていますか。(〇はいくつでも)

【図5-4 地域活動への参加・取組状況】



地域活動への参加・取組状況については、「参加していない」が61.6%で最も多いですが、参加している活動・取組では「自治会の行事」が20.8%で最も多く、次いで「趣味・娯楽の集まり」が6.5%、「P T A 活動」が5.7%となっています。(図5-4)

性別で見ると、男女とも「参加していない」が61%台で最も多く、次いで、男女とも「自治会の行事」、「趣味・娯楽の集まり」、「PTA活動」と続いています。(表5-4-1)

【表5-4-1 性別 地域活動への参加・取組状況（上位5項目）】

(単位：MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男性 (n=457)	参加していない 61.7	自治会の行事 23.0	趣味・娯楽の集まり 6.6	PTA活動 4.8	防犯活動 4.4
女性 (n=644)	参加していない 61.2	自治会の行事 19.3	趣味・娯楽の集まり 6.7	PTA活動 6.5	ボランティア活動 3.9

年齢別で見ると、いずれの年代も「参加していない」が多いですが、次いで30～39歳は「子育て・育児サークル」(11.8%)、40～49歳は「PTA活動」(21.1%)が続いています。(表5-4-2)

【表5-4-2 年齢別 地域活動への参加・取組状況（上位5項目）】

(単位：MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
30歳未満 (n=104)	参加していない 81.7	自治会の行事 4.8	子育て・育児サークル 3.8	ボランティア活動 1.9	防犯活動／スポーツ団体の活動／くらしや健康に関する自主的な学習会 1.0
30～39歳 (n=144)	参加していない 73.6	子育て・育児サークル 11.8	自治会の行事 10.4	PTA活動 8.3	子ども会活動 3.5
40～49歳 (n=185)	参加していない 62.7	PTA活動 21.1	自治会の行事 16.2	子ども会活動 6.5	子育て・育児サークル 3.2
50～59歳 (n=171)	参加していない 69.6	自治会の行事 18.7	PTA活動 4.1	防災活動 3.5	趣味・娯楽の集まり／防犯活動 2.9
60～69歳 (n=191)	参加していない 61.3	自治会の行事 24.1	趣味・娯楽の集まり 9.9	ボランティア活動 7.3	高齢クラブ活動 4.2
70～79歳 (n=205)	参加していない 41.0	自治会の行事 37.6	趣味・娯楽の集まり 17.1	高齢クラブ活動 10.2	スポーツ団体の活動 8.3
80歳以上 (n=109)	参加していない 50.5	自治会の行事 23.9	趣味・娯楽の集まり 10.1	高齢クラブ活動 9.2	防犯活動 4.6

居住地域別でみると、いずれの地域も「参加していない」が多く、次いで「自治会の行事」であり、「参加していない」は豊津・江坂・南吹田地域が76.8%で最も高くなっています。
(表5-4-3)

【表5-4-3 居住地域別 地域活動への参加・取組状況（上位5項目）】

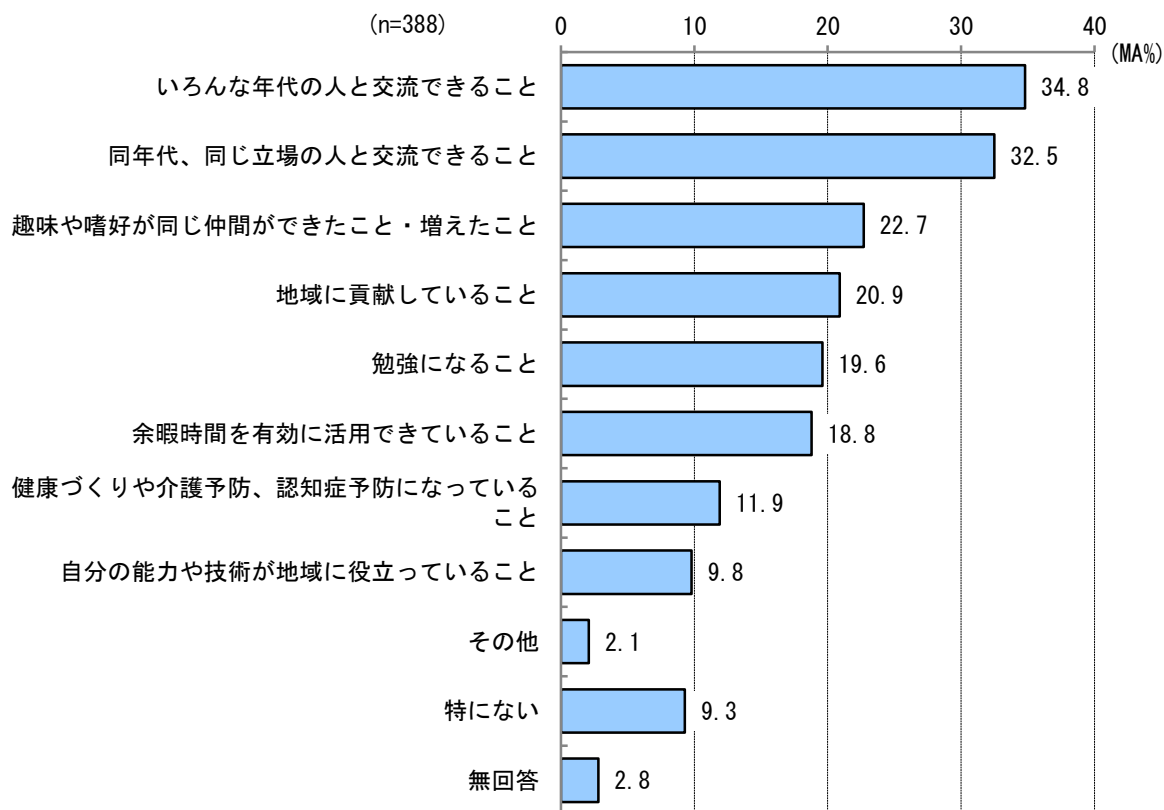
(単位：MA%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
J R以南地域 (n=101)	参加していない 60.4	自治会の行事 25.7	高齢クラブ活動 7.9	趣味・娯楽の集まり 6.9	ボランティア活動 5.9
片山・岸部地域 (n=164)	参加していない 57.3	自治会の行事 22.0	P T A活動 5.5	高齢クラブ活動／ボランティア活動 ／子育て・育児サークル 4.9	
豊津・江坂・ 南吹田地域 (n=181)	参加していない 76.8	自治会の行事 11.6	P T A活動 5.5	高齢クラブ活動 3.9	趣味・娯楽の集まり／防犯活動 ／スポーツ団体の活動／防災活動 2.8
千里山・佐井寺 地域 (n=179)	参加していない 61.5	自治会の行事 17.3	趣味・娯楽の集まり 8.4	P T A活動 6.7	ボランティア活動 5.0
山田・千里丘地域 (n=258)	参加していない 60.5	自治会の行事 22.5	趣味・娯楽の集まり 9.7	P T A活動／スポーツ団体の活動 5.0	
千里ニュータウン ・万博・阪大地域 (n=220)	参加していない 53.6	自治会の行事 25.9	P T A活動 6.8	趣味・娯楽の集まり 5.9	防犯活動 5.5

(5) 地域活動に参加してよかったこと

問19-1 問19で「1」～「16」のいずれかに回答した方にお聞きします。
参加してよかったことは何ですか。(〇はいくつでも)

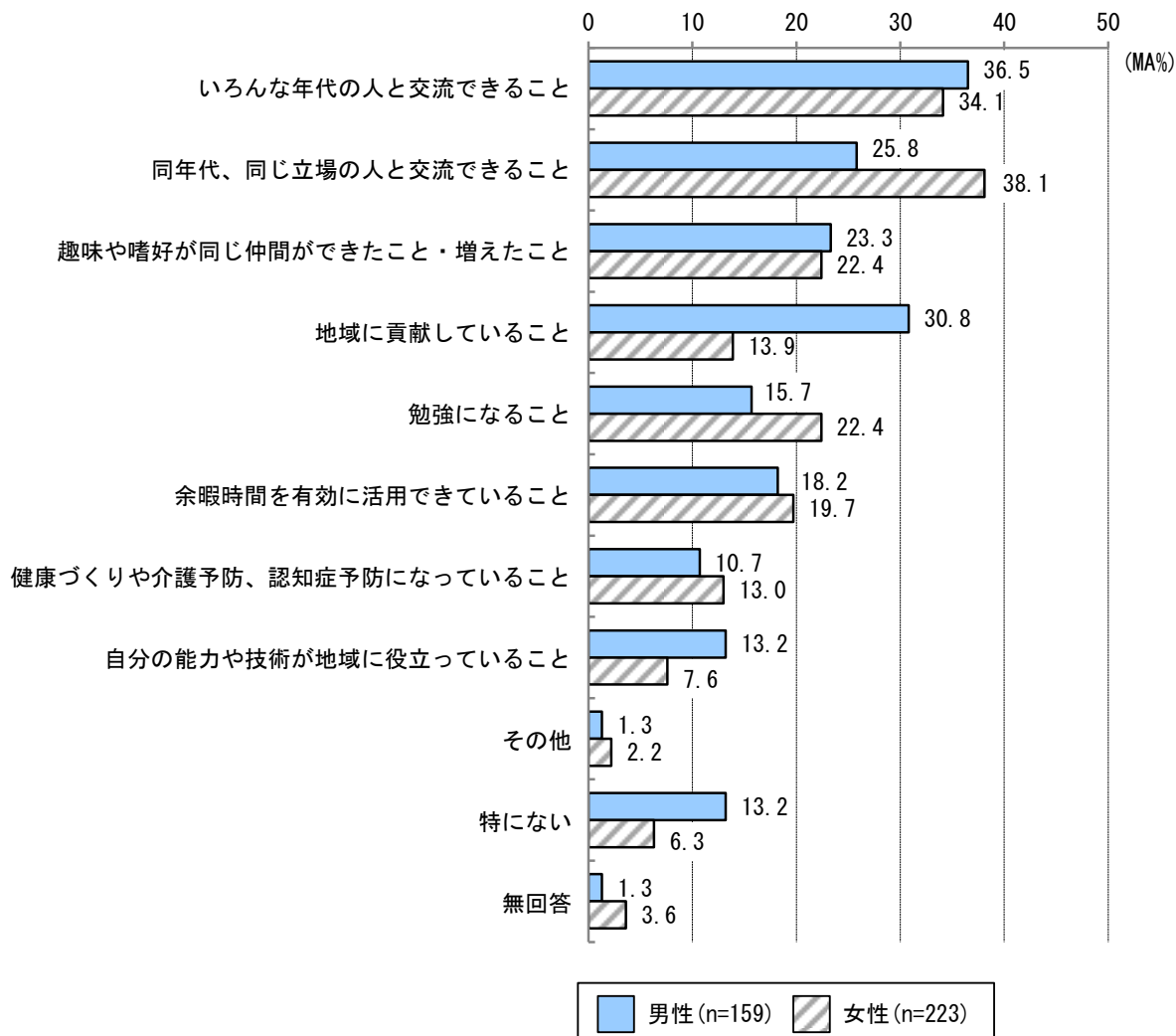
【図5-5 地域活動に参加してよかったこと】



今、何らかの地域活動に参加したり取り組んだりしていると回答した人に、参加してよかったことをたずねると、「いろんな年代の人と交流できること」が34.8%で最も多く、次いで「同年代、同じ立場の人と交流できること」が32.5%、「趣味や嗜好が同じ仲間ができたこと・増えたこと」が22.7%となっています。(図5-5)

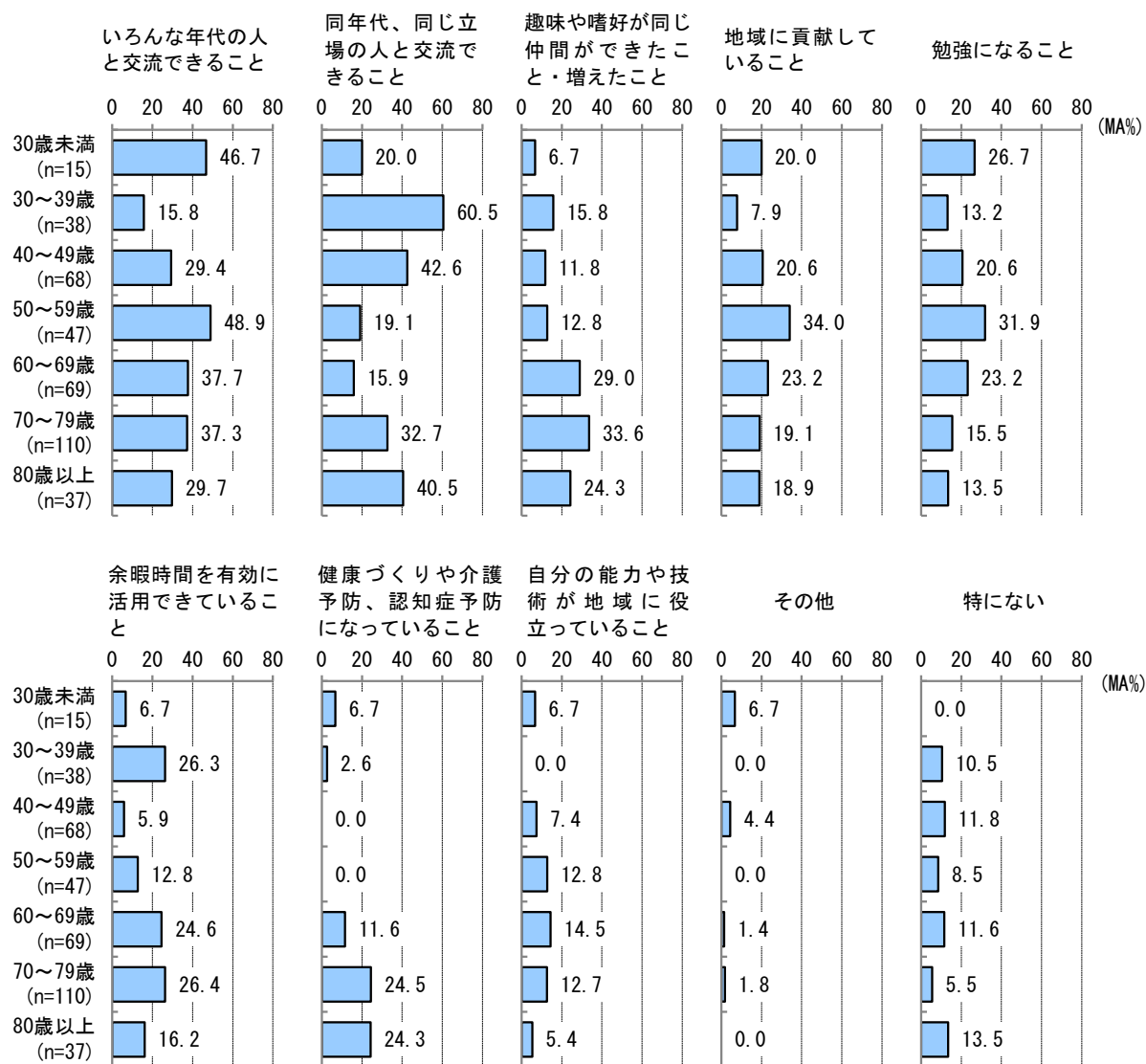
性別でみると、「地域に貢献していること」は女性（13.9%）より男性（30.8%）のほうが16.9ポイント高いですが、「同年代、同じ立場の人と交流できること」は男性（25.8%）より女性（38.1%）のほうが12.3ポイント高くなっています。（図5-5-1）

【図5-5-1 性別 地域活動に参加してよかったこと】



年齢別でみると、「同年代、同じ立場の人と交流できること」は30～39歳（60.5%）で最も高く、「いろんな年代の人と交流できること」、「地域に貢献していること」、「勉強になること」は50～59歳で最も高くなっています。（図5-5-2）

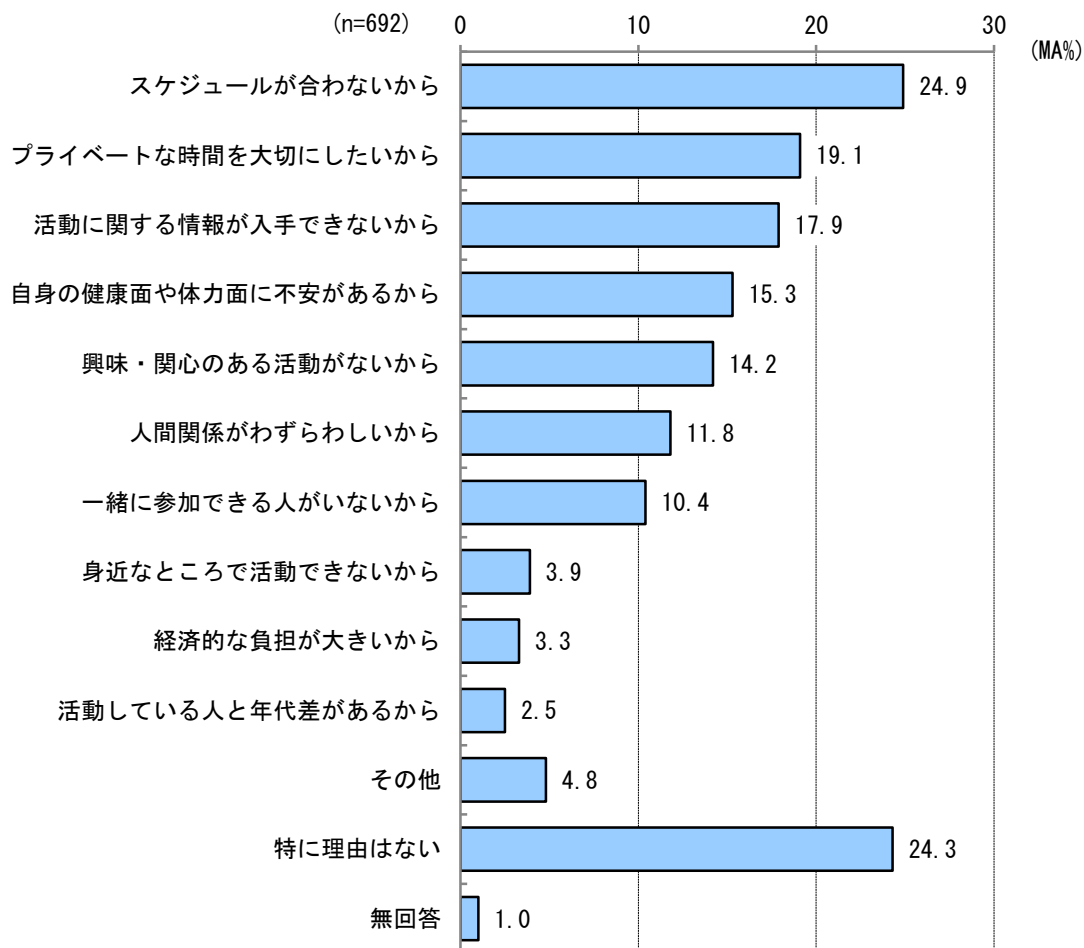
【図5-5-2 年齢別 地域活動に参加してよかったこと】



(6) 地域活動に参加していない理由

問19-2 問19で「17. 参加していない」と回答した方にお聞きします。
参加していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

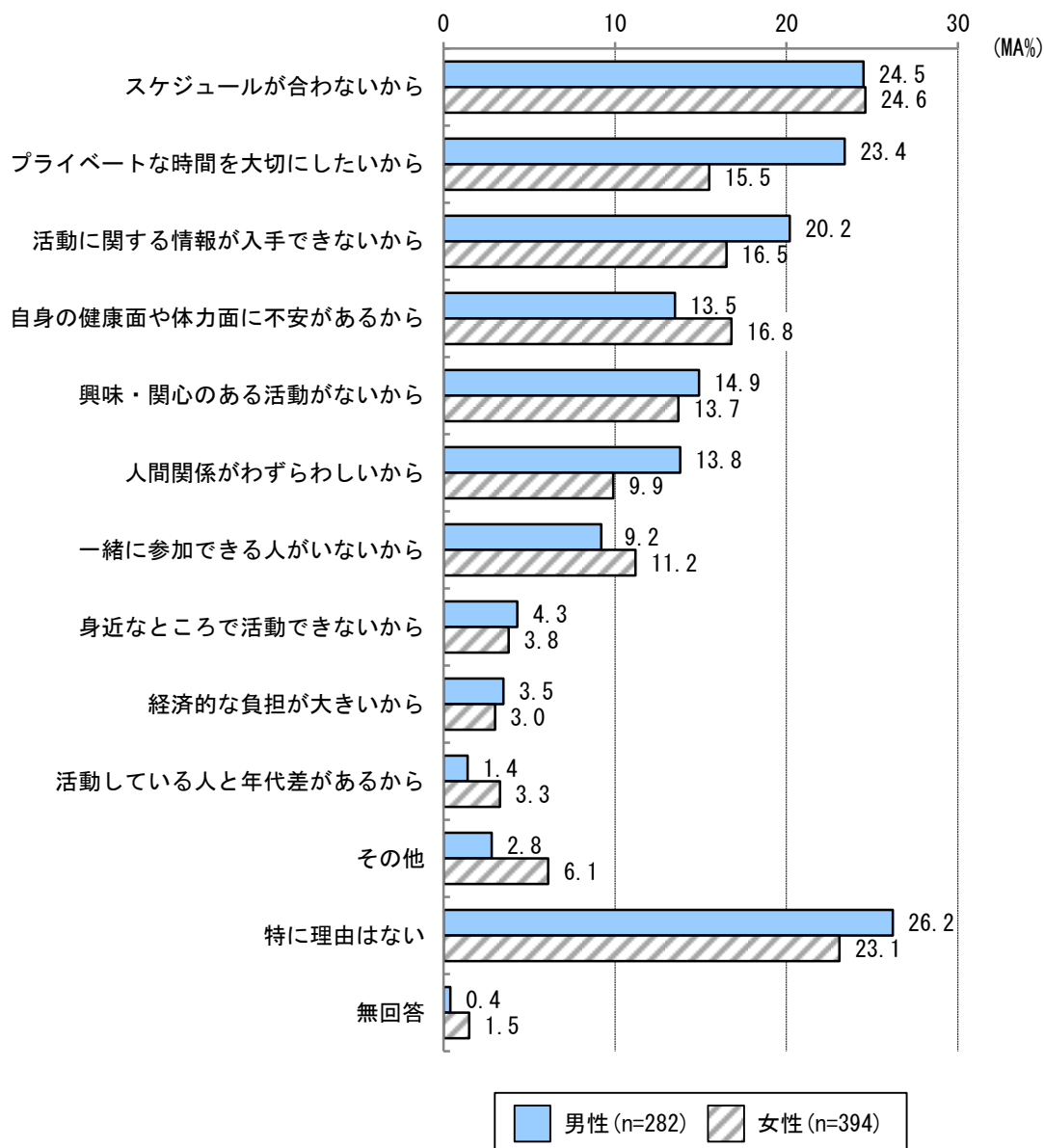
【図5-6 地域活動に参加していない理由】



今、地域活動に参加したり取り組んだりしていないと回答した人に、参加していない理由をたずねると、「スケジュールが合わないから」が24.9%で最も多く、次いで「プライベートな時間を大切にしたいから」が19.1%、「活動に関する情報が入手できないから」が17.9%となっています。(図5-6)

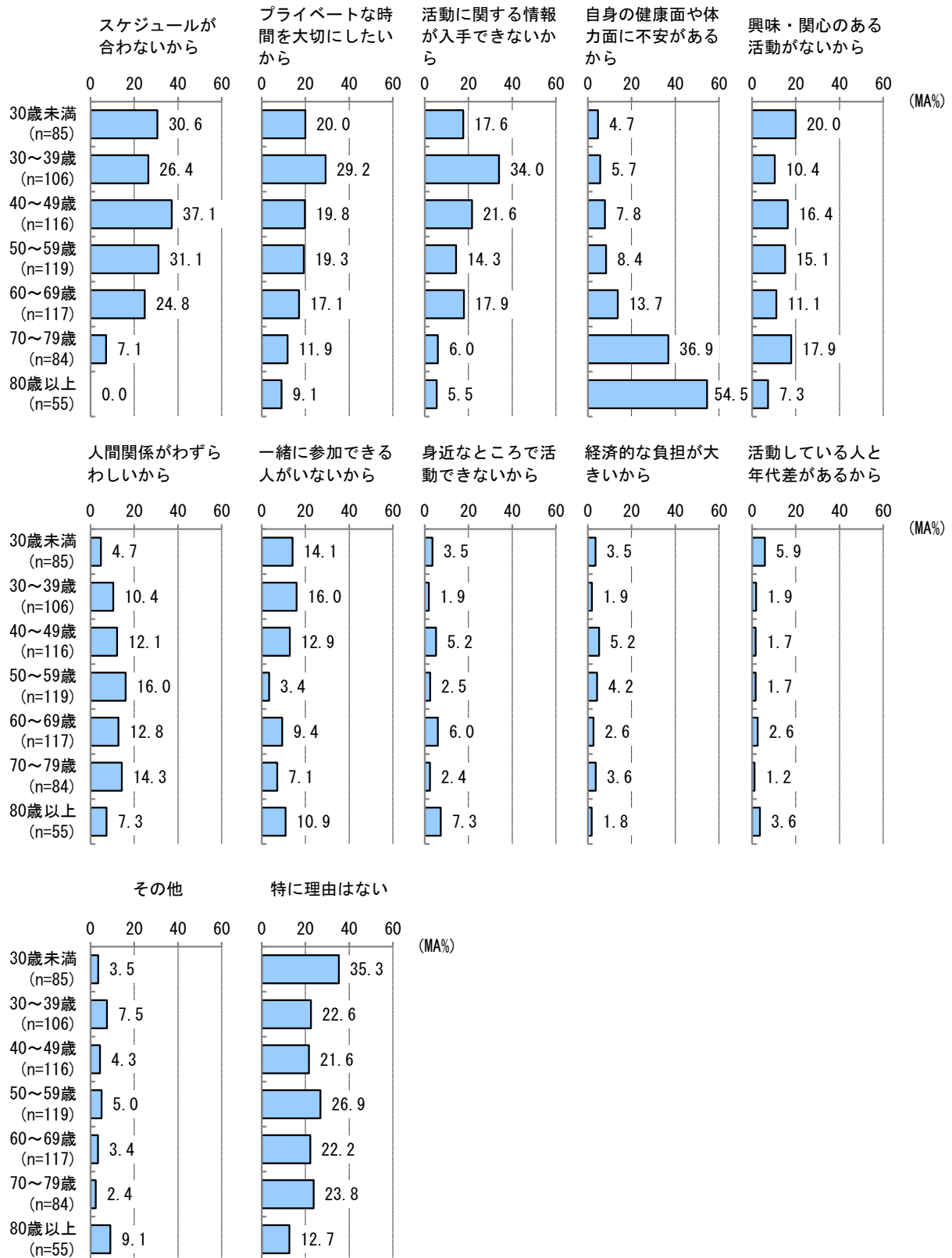
性別でみると、「プライベートな時間を大切にしたいから」は女性（15.5%）より男性（23.4%）のほうが7.9ポイント高くなっています。（図5-6-1）

【図5-6-1 性別 地域活動に参加していない理由】



年齢別でみると、「プライベートな時間を大切にしたいから」、「活動に関する情報が入手できないから」が30～39歳で最も高く、「自身の健康面や体力面に不安があるから」は年齢が上がるほど割合が高く、80歳以上で54.5%となっています。（図5-6-2）

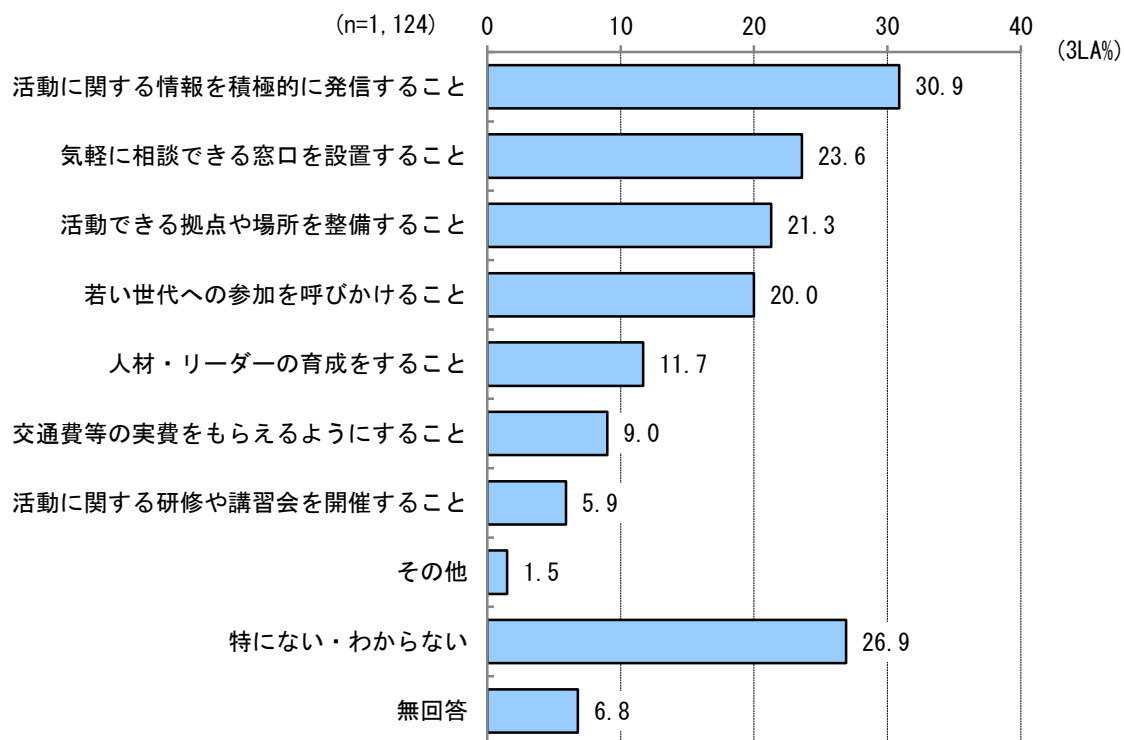
【図5-6-2 年齢別 地域活動に参加していない理由】



(7) 地域活動に参加しやすくするために必要なこと

問20 地域活動に参加しやすくするために必要なことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

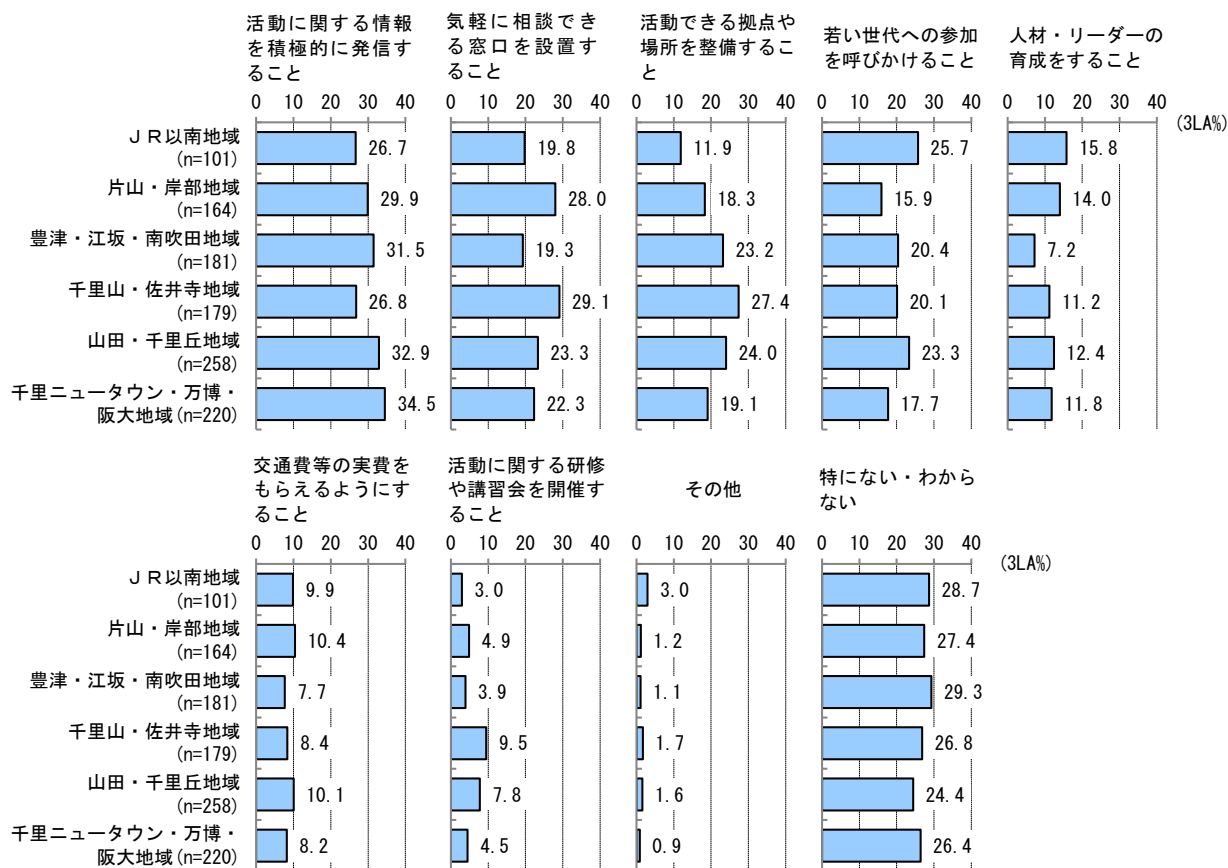
【図5-7 地域活動に参加しやすくするために必要なこと】



地域活動に参加しやすくするために必要なことについては、「活動に関する情報を積極的に発信すること」が30.9%で最も多く、次いで「気軽に相談できる窓口を設置すること」が23.6%、「活動できる拠点や場所を整備すること」が21.3%、「若い世代への参加を呼びかけること」が20.0%となっています。(図5-7)

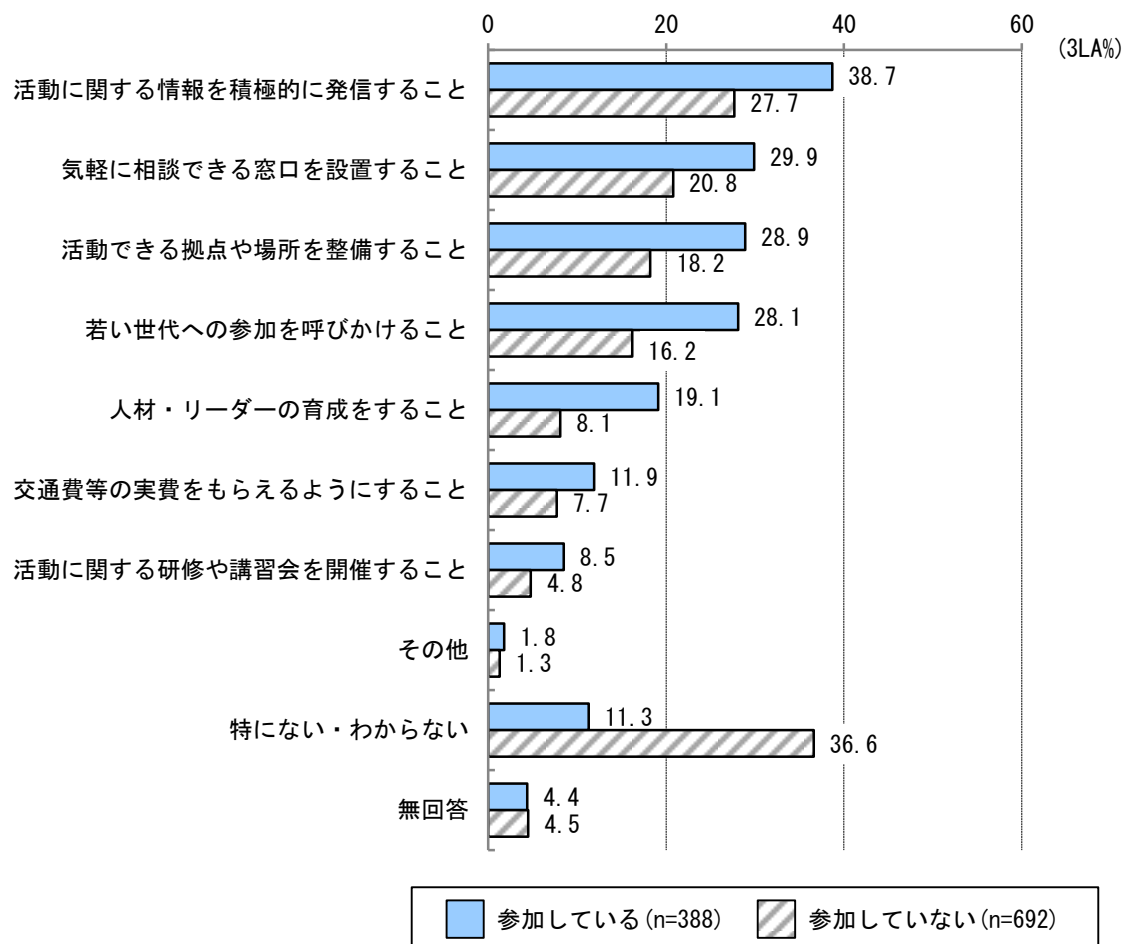
居住地域別でみると、「活動に関する情報を積極的に発信すること」は千里ニュータウン・万博・阪大地域 (34.5%) で最も高く、「気軽に相談できる窓口を設置すること」、「活動できる拠点や場所を整備すること」、「活動に関する研修や講習会を開催すること」は千里山・佐井寺地域で最も高くなっています。(図5-7-1)

【図5-7-1 居住地域別 地域活動に参加しやすくするために必要なこと】



地域活動への参加有無別でみると、いずれの項目も参加していない人より参加している人のほうが割合が高くなっています。(図5-7-2)

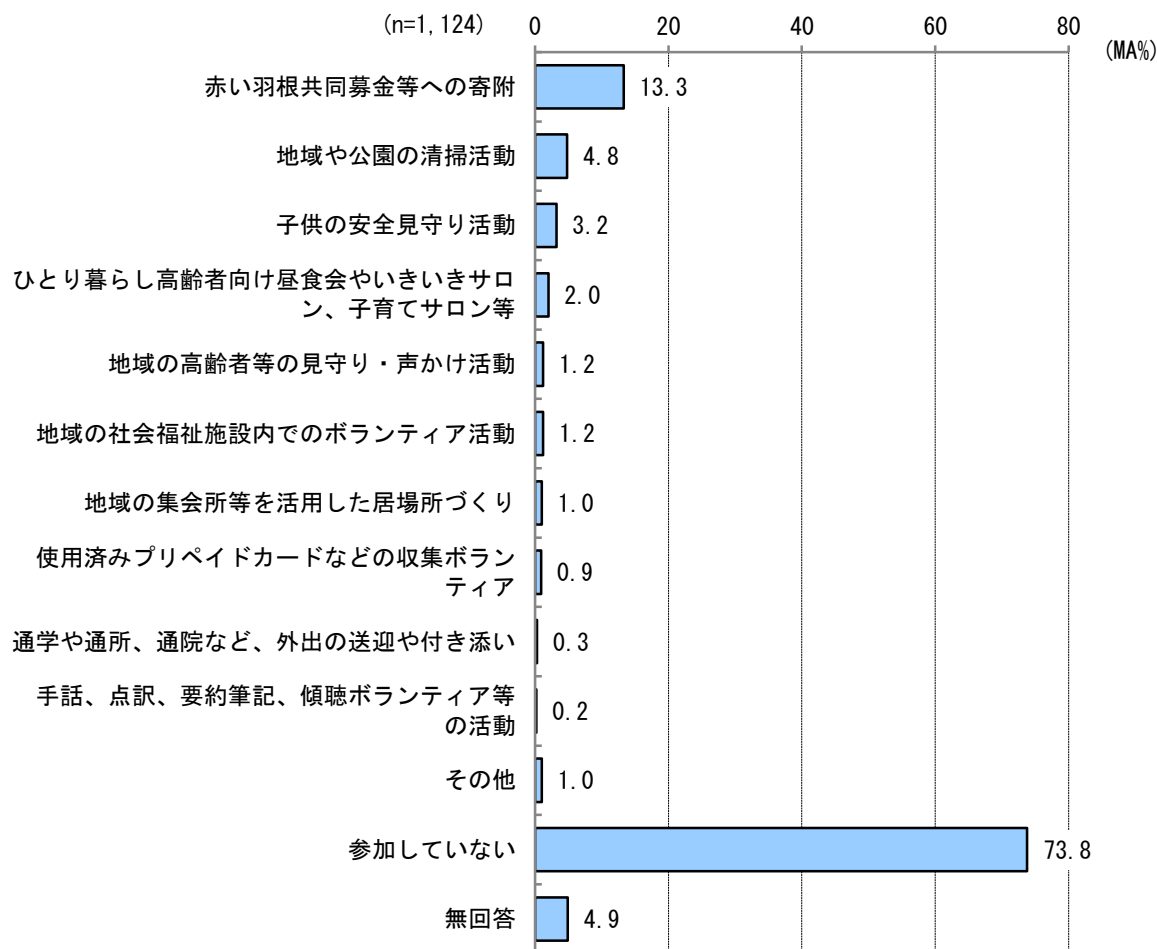
【図5-7-2 地域活動への参加有無別 地域活動に参加しやすくするために必要なこと】



(8) 福祉ボランティア活動への参加・取組状況

問21 あなたは、現在、福祉ボランティア活動に参加したり、取り組んだりしていますか。
(○はいくつでも)

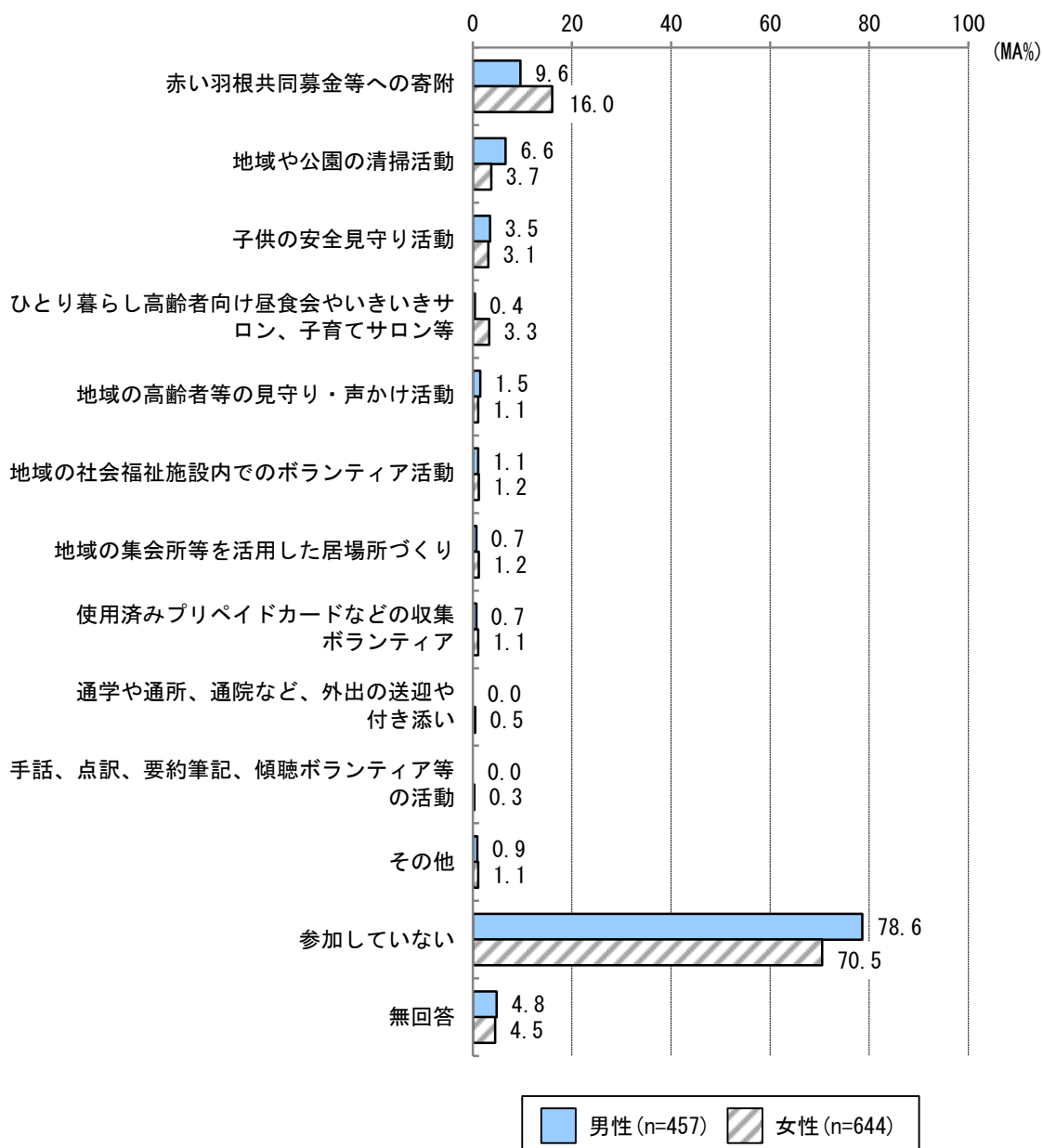
【図5-8 福祉ボランティア活動への参加・取組状況】



福祉ボランティア活動への参加・取組状況については、「参加していない」が73.8%を占めていますが、参加している人では「赤い羽根共同募金等への寄附」が13.3%で最も多く、次いで「地域や公園の清掃活動」が4.8%、「子供の安全見守り活動」が3.2%となっています。(図5-8)

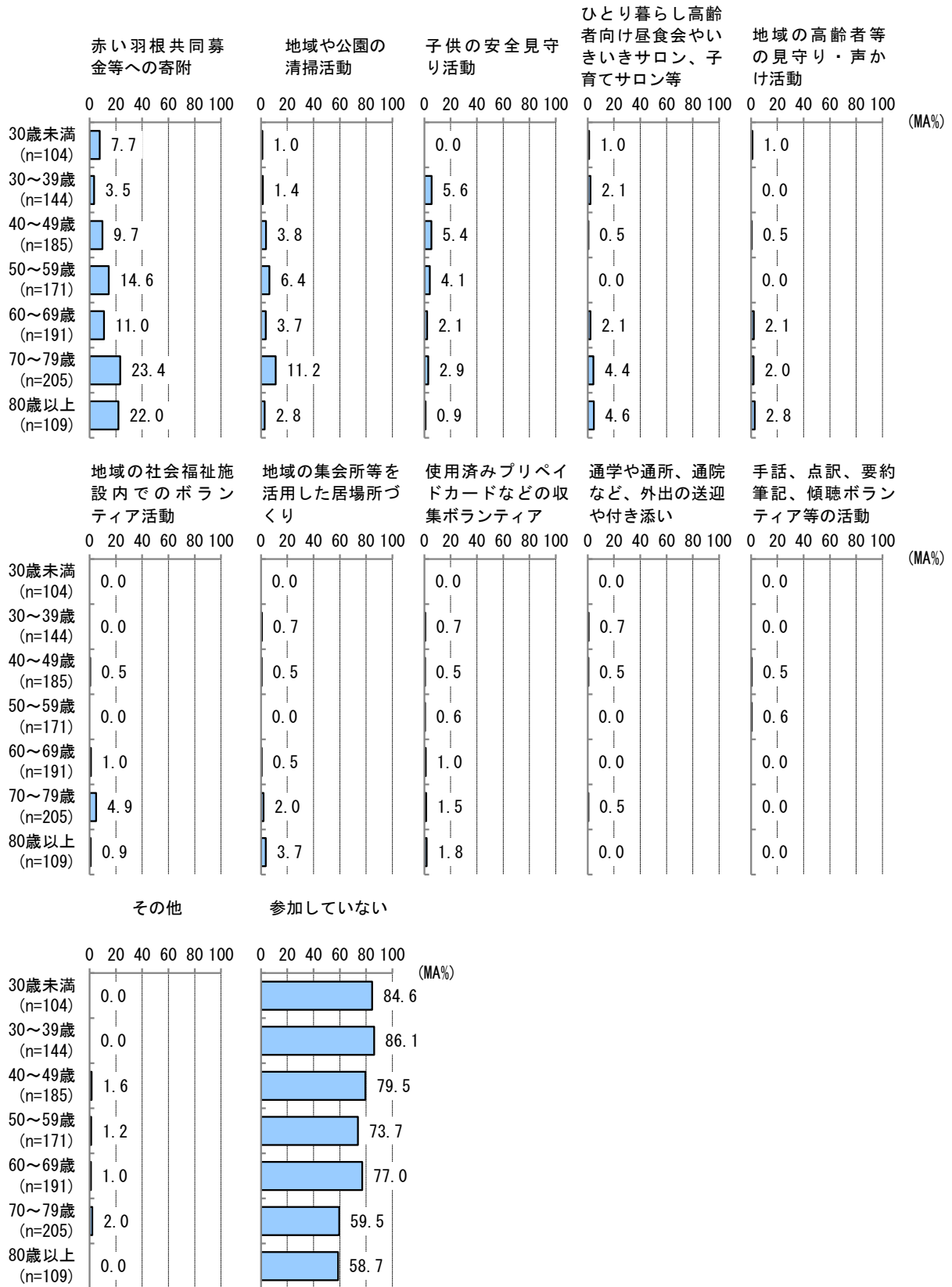
性別でみると、「赤い羽根共同募金等への寄附」は男性（9.6%）より女性（16.0%）のほうが6.4ポイント高くなっています。（図5-8-1）

【図5-8-1 性別 福祉ボランティア活動への参加・取組状況】



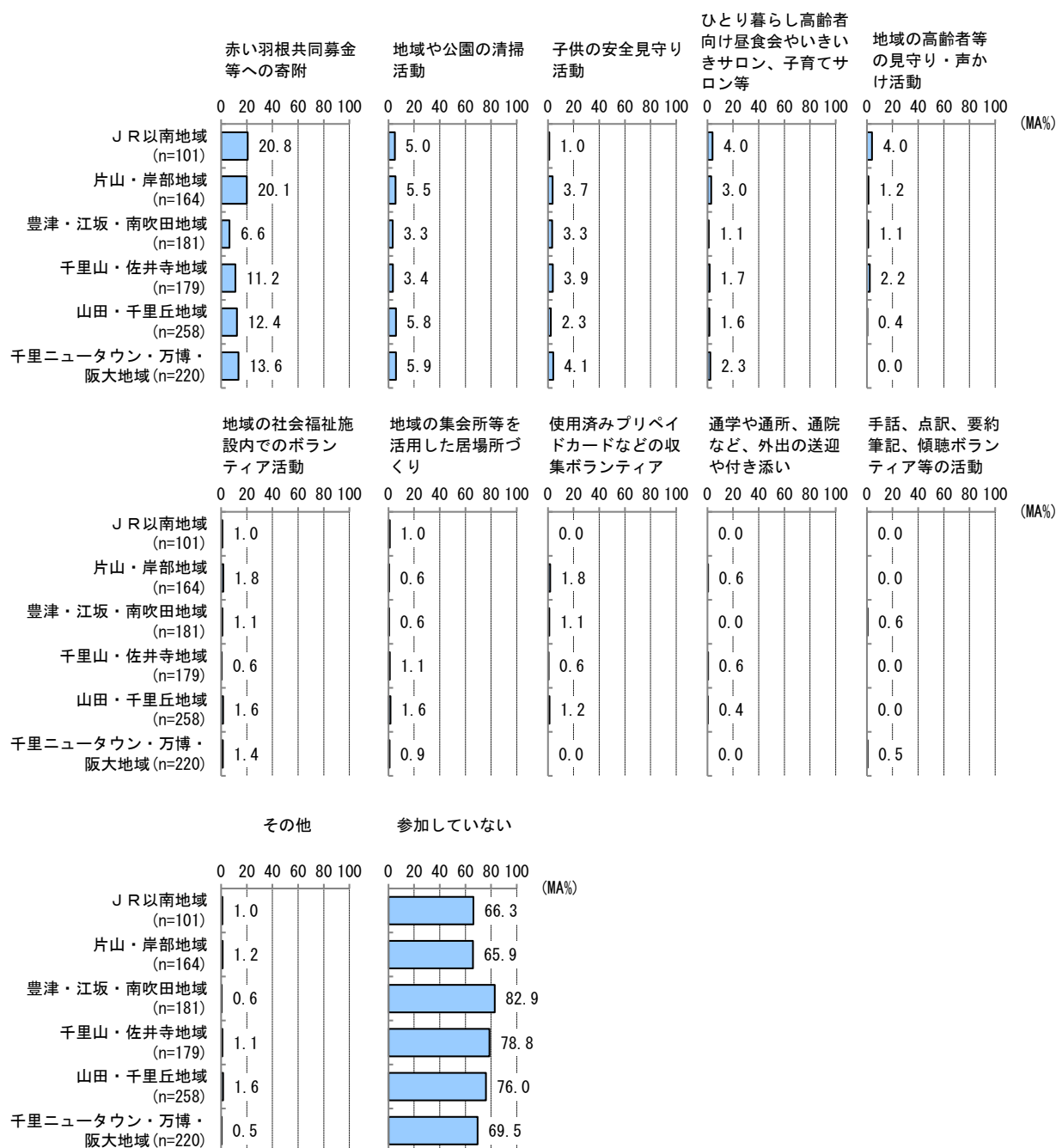
年齢別でみると、「赤い羽根共同募金等への寄附」は70～79歳（23.4%）で最も高く、「参加していない」は30歳未満、30～39歳では80%台と高くなっています。（図5-8-2）

【図5-8-2 年齢別 福祉ボランティア活動への参加・取組状況】



居住地域別でみると、「赤い羽根共同募金等への寄附」はJR以南地域（20.8%）で最も高く、「参加していない」は豊津・江坂・南吹田地域（82.9%）で最も高くなっています。（図5-8-3）

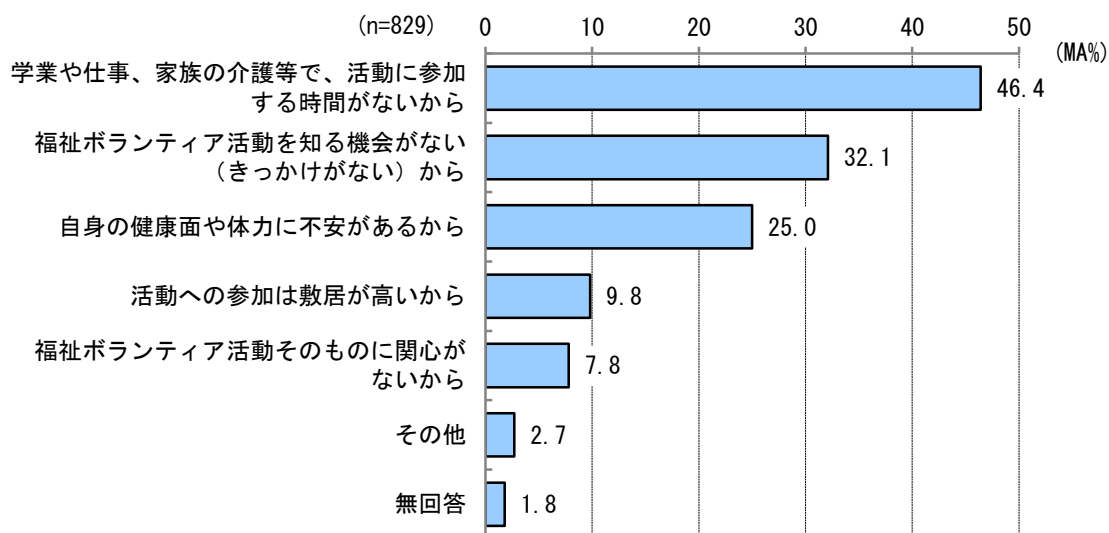
【図5-8-3 居住地域別 福祉ボランティア活動への参加・取組状況】



(9) 福祉ボランティア活動に参加していない理由

問21-1 問21で「12. 参加していない」と回答した方にお聞きします。
参加していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

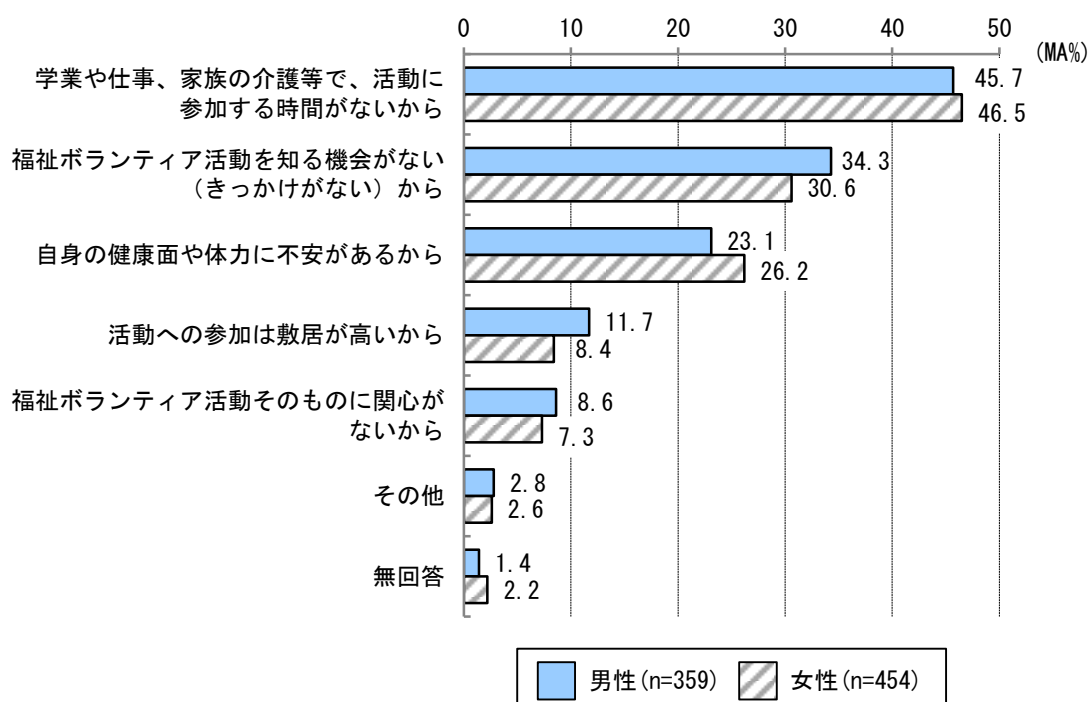
【図5-9 福祉ボランティア活動に参加していない理由】



福祉ボランティア活動に参加していないと回答した人に、参加していない理由をたずねると、「学業や仕事、家族の介護等で、活動に参加する時間がないから」が46.4%で最も多く、次いで「福祉ボランティア活動を知る機会がない(きっかけがない)から」が32.1%、「自身の健康面や体力に不安があるから」が25.0%となっています。(図5-9)

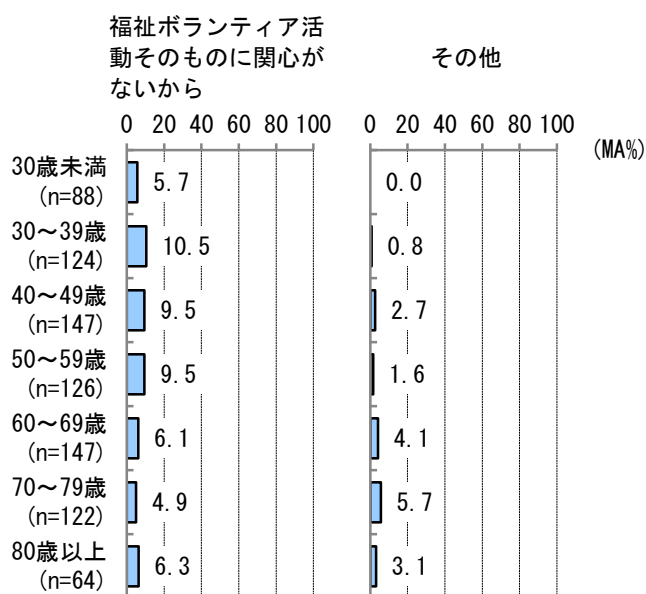
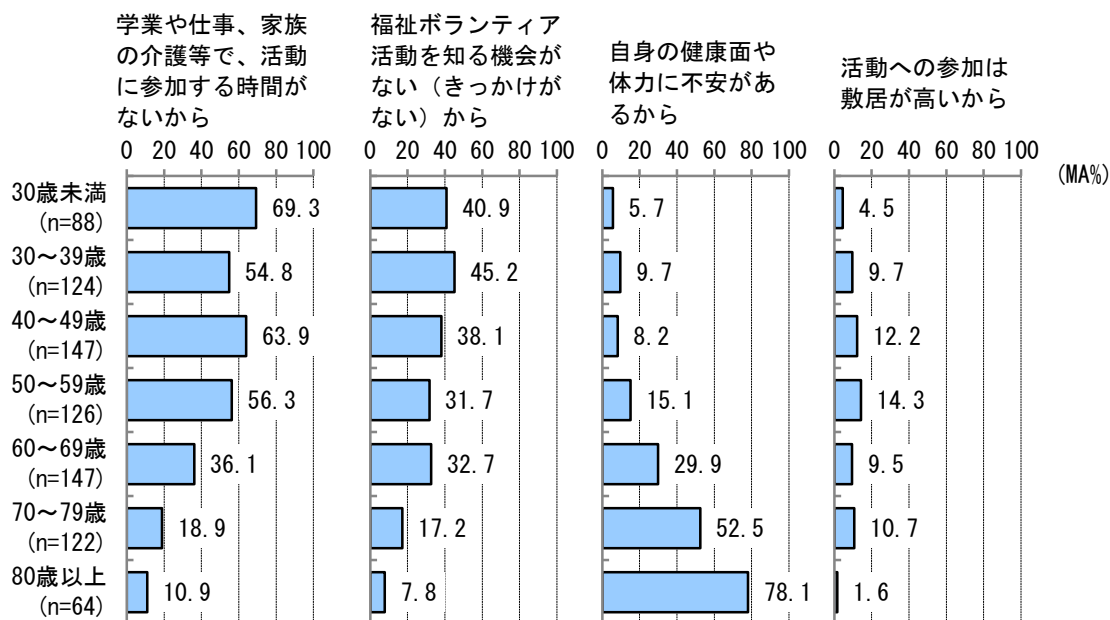
性別でみると、「福祉ボランティア活動を知る機会がない(きっかけがない)から」は女性(30.6%)より男性(34.3%)のほうが3.7ポイント高くなっています。(図5-9-1)

【図5-9-1 性別 福祉ボランティア活動に参加していない理由】



年齢別でみると、「学業や仕事、家族の介護等で、活動に参加する時間がないから」は59歳以下の年代で過半数を占めています。「自身の健康面や体力に不安があるから」は70歳以上の年代で過半数を占めており、80歳以上で78.1%と高くなっています。(図5-9-2)

【図5-9-2 年齢別 福祉ボランティア活動に参加していない理由】

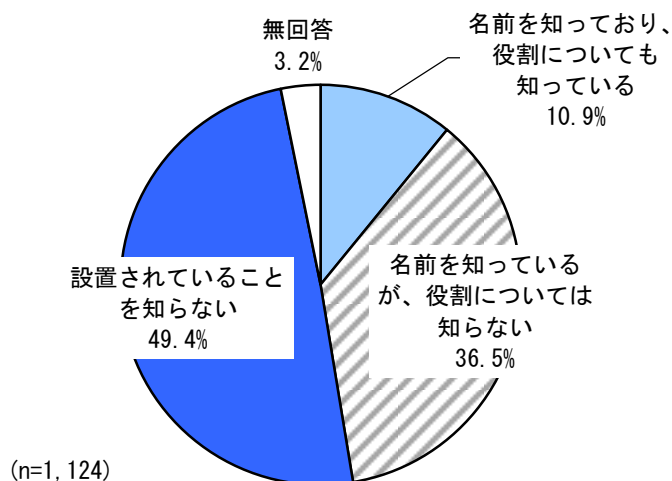


6. 社会福祉協議会やCSWについて

(1) 社会福祉協議会の認知状況

問22 市内に社会福祉協議会が設置されていることを知っていますか。(〇は1つ)

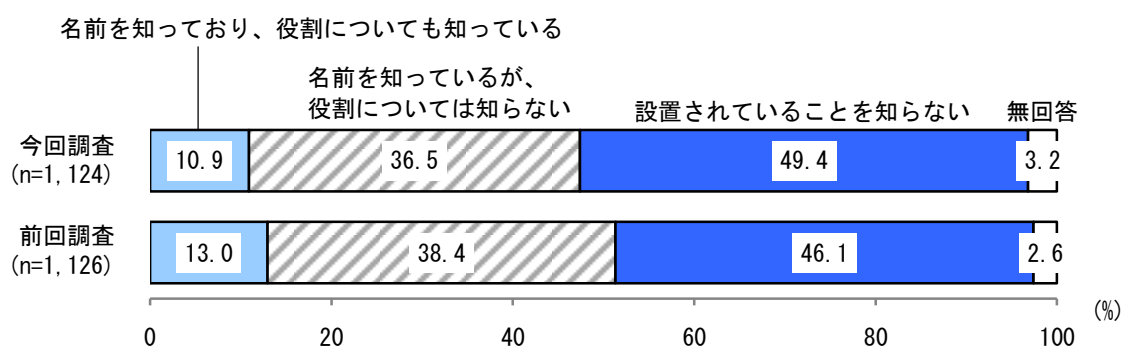
【図6-1 社会福祉協議会の認知状況】



社会福祉協議会の認知状況については、「設置されていることを知らない」が49.4%で最も多くなっています。次いで「名前を知っているが、役割については知らない」が36.5%、「名前を知っており、役割についても知っている」が10.9%となっており、両者をあわせた認知度は47.4%となっています。(図6-1)

前回調査と比較すると、認知度は前回(51.4%)より4.0ポイント低くなっています。(図6-1-1)

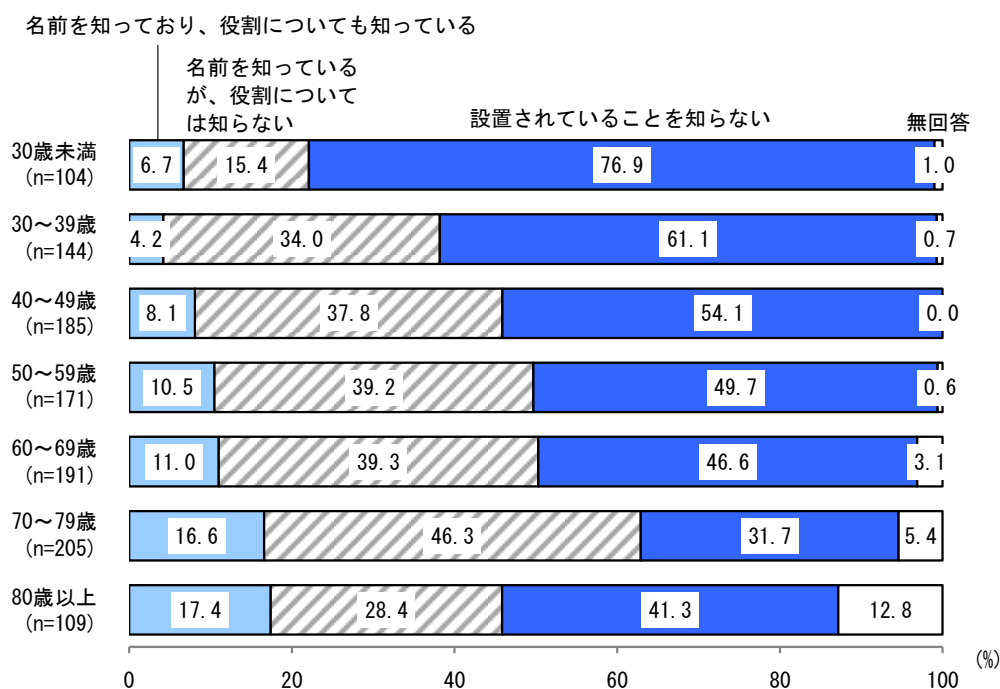
【図6-1-1 社会福祉協議会の認知状況〔前回調査との比較〕】



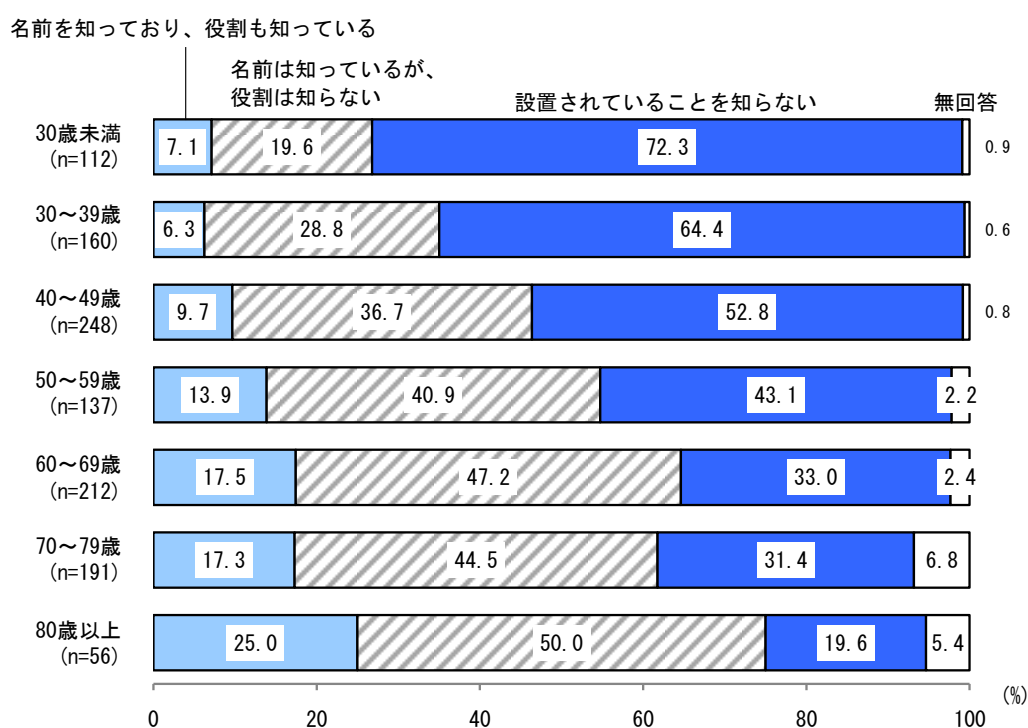
年齢別でみると、認知度は70～79歳で62.9%と最も高く、30歳未満（22.1%）で最も低くなっています。（図6-1-2）

前回調査と比較すると、認知度は30～39歳と70～79歳は前回よりも割合が高くなっていますが、それ以外の年代は低くなっています。（図6-1-2-1）

【図6-1-2 年齢別 社会福祉協議会の認知状況】

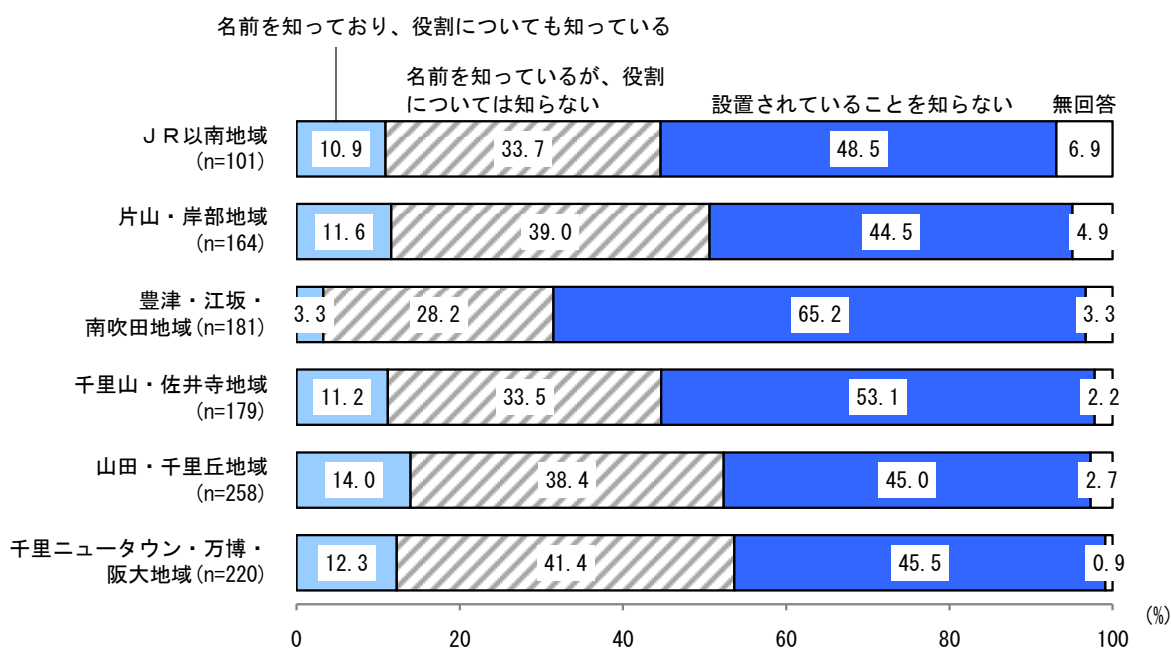


【図6-1-2-1 年齢別 社会福祉協議会の認知状況〔前回調査〕】



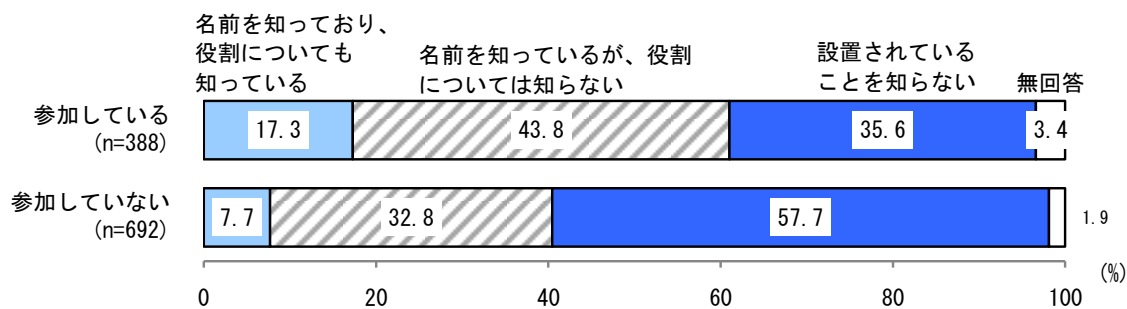
居住地域別でみると、認知度は豊津・江坂・南吹田地域で31.5%と最も低くなっています。
 (図6-1-3)

【図6-1-3 居住地域別 社会福祉協議会の認知状況】



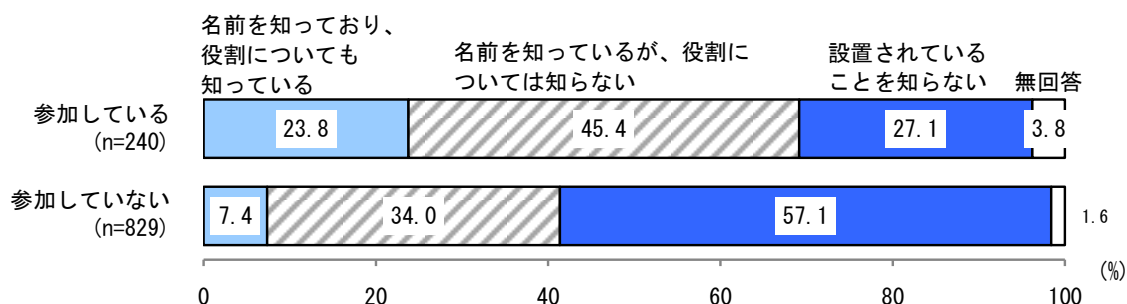
地域活動への参加有無別でみると、認知度は参加していない人 (40.5%) より参加している人 (61.1%) のほうが20.6ポイント高くなっています。(図6-1-4)

【図6-1-4 地域活動への参加有無別 社会福祉協議会の認知状況】



福祉ボランティア活動への参加有無別でみると、認知度は参加していない人 (41.4%) より参加している人 (69.2%) のほうが27.8ポイント高くなっています。(図6-1-5)

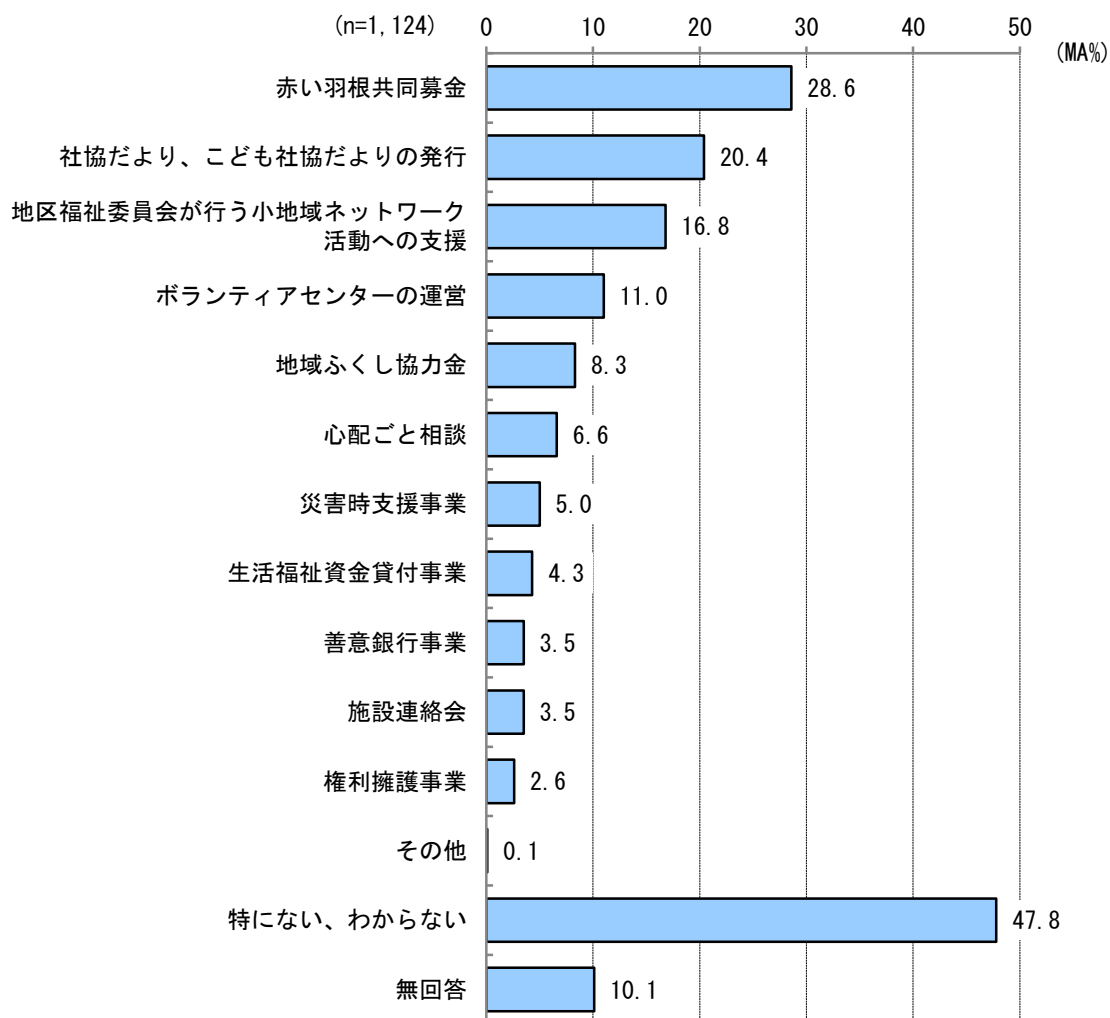
【図6-1-5 福祉ボランティア活動への参加有無別 社会福祉協議会の認知状況】



(2) 社会福祉協議会の取組として知っているもの

問23 社会福祉協議会の取組として知っているものをあげてください。(〇はいくつでも)

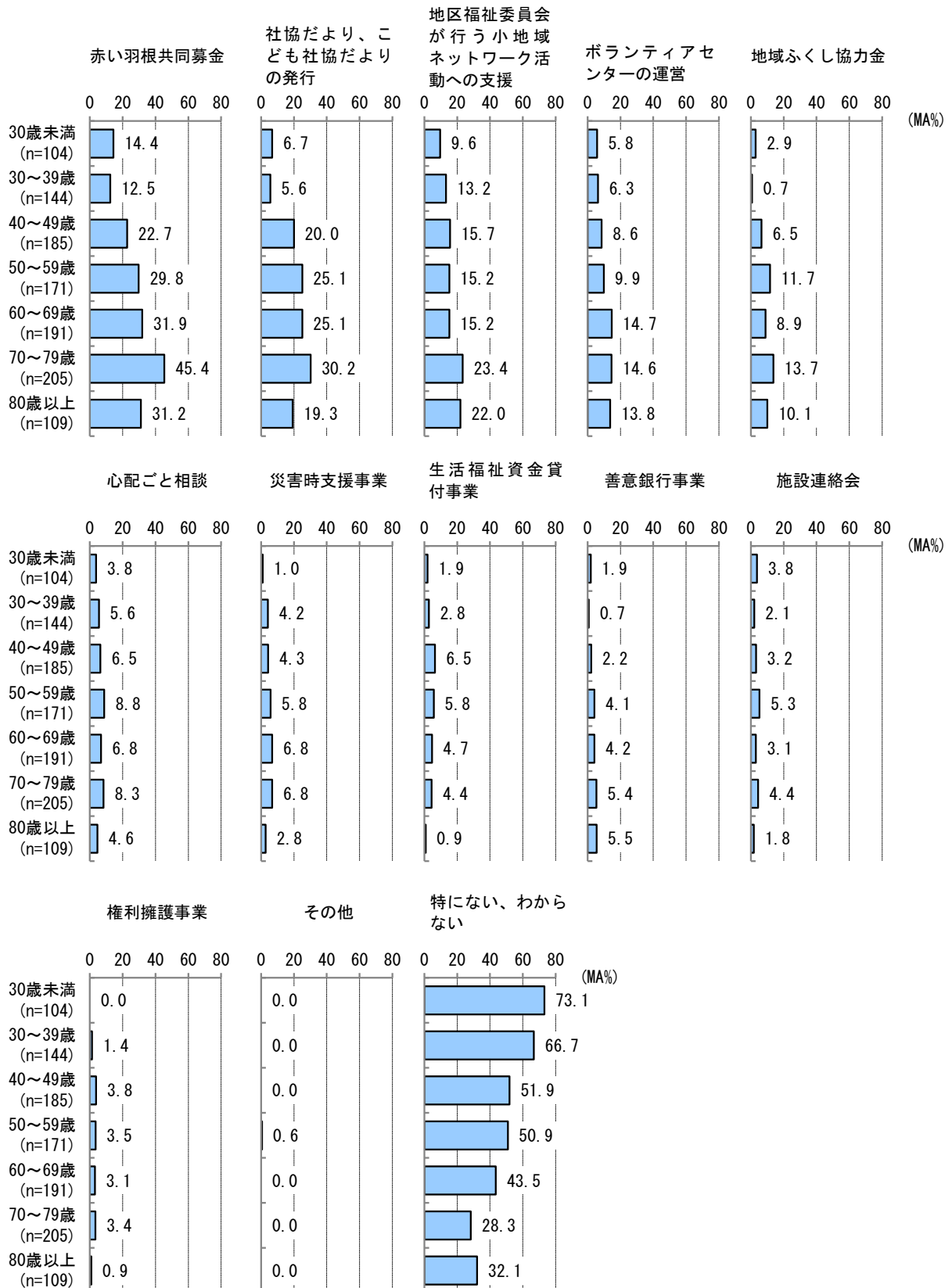
【図6-2 社会福祉協議会の取組として知っているもの】



社会福祉協議会の取組として知っているものについては、「特にない、わからない」が47.8%で最も多いですが、知っているものでは「赤い羽根共同募金」が28.6%で最も多く、次いで「社協だより、こども社協だよりの発行」が20.4%、「地区福祉委員会が行う小地域ネットワーク活動への支援」が16.8%となっています。(図6-2)

年齢別でみると、「赤い羽根共同募金」、「社協だより、こども社協だよりの発行」、「地区福祉委員会が行う小地域ネットワーク活動への支援」、「地域ふくし協力金」では70～79歳で最も高くなっています。(図6-2-1)

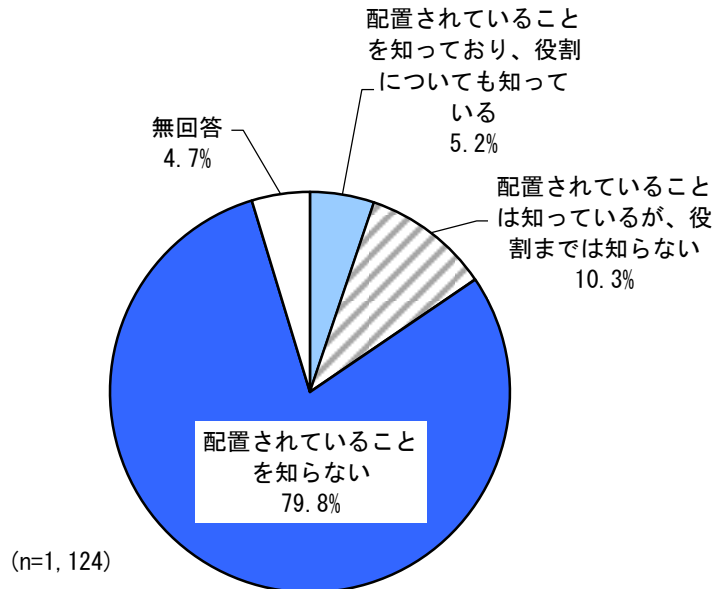
【図6-2-1 年齢別 社会福祉協議会の取組として知っているもの】



(3) CSWの認知状況

問24 あなたは、社会福祉協議会にCSWが配置されていることを知っていますか。(〇は1つ)

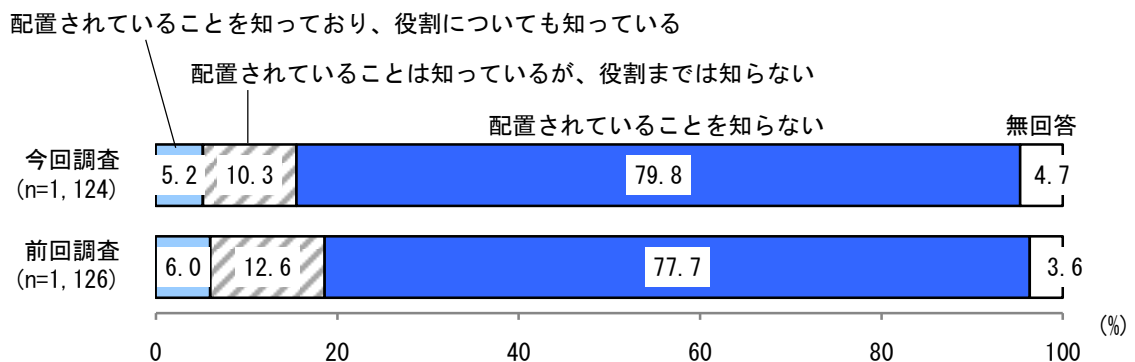
【図6-3 CSWの認知状況】



CSWの認知状況については、「配置されていることを知らない」が79.8%で最も多くなっています。次いで「配置されていることは知っているが、役割までは知らない」が10.3%、「配置されていることを知っており、役割についても知っている」が5.2%であり、両者をあわせた認知度は15.5%となっています。(図6-3)

前回調査と比較すると、認知度は前回調査(18.6%)より3.1ポイント低くなっています。(図6-3-1)

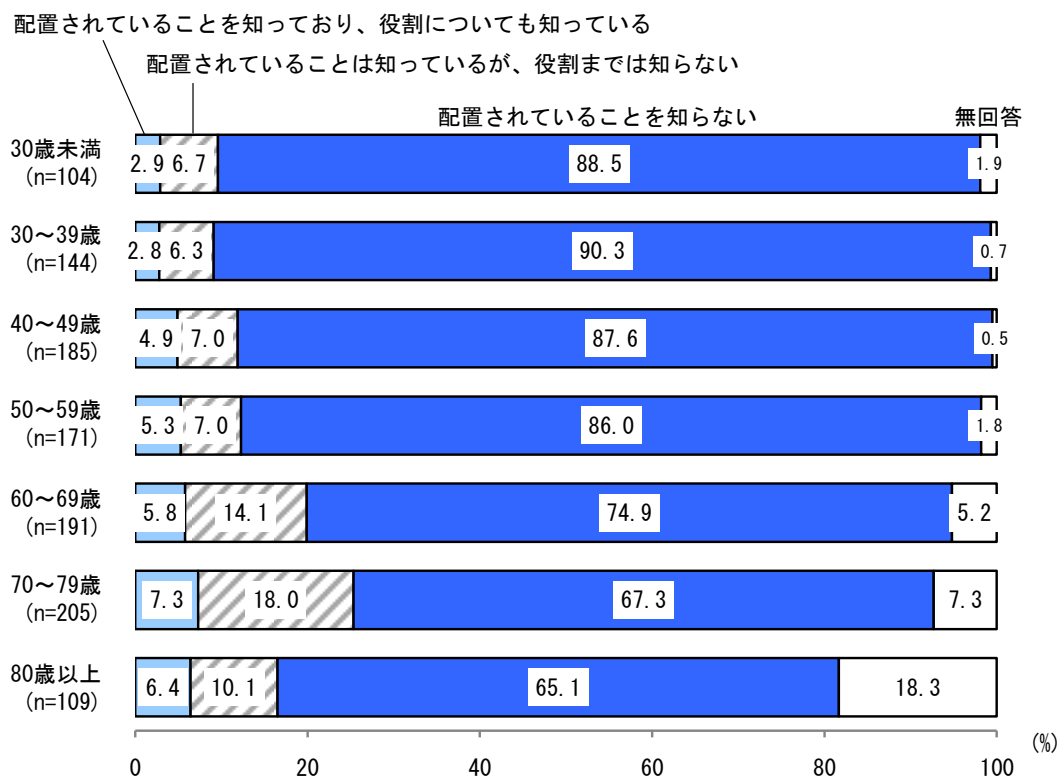
【図6-3-1 CSWの認知状況〔前回調査との比較〕】



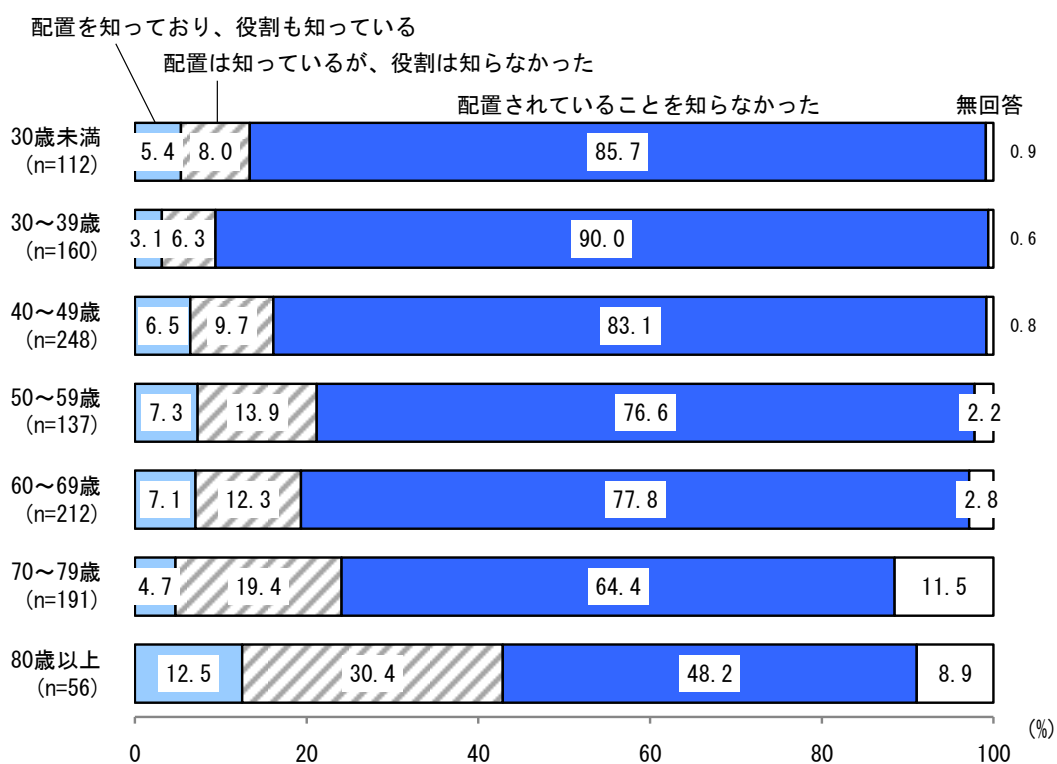
年齢別で見ると、認知度は70～79歳（25.3%）で最も高く、30～39歳（9.1%）で最も低くなっています。（図6-3-2）

前回調査と比較すると、認知度は60～69歳と70～79歳が前回より高い割合となっています。（図6-3-2-1）

【図6-3-2 年齢別 CSWの認知状況】

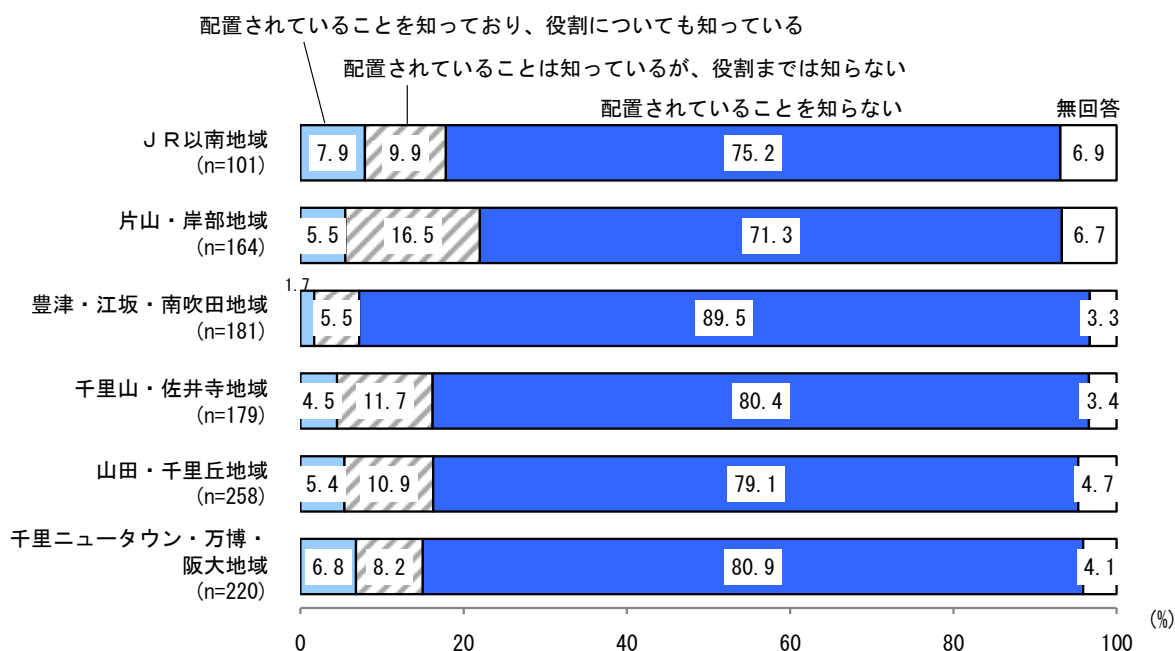


【図6-3-2-1 年齢別 CSWの認知状況〔前回調査〕】



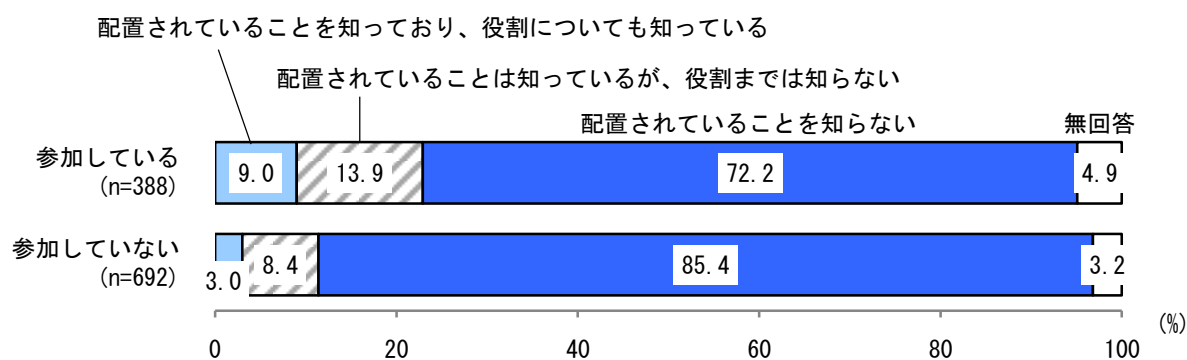
居住地域別でみると、認知度は片山・岸部地域（22.0％）で最も高く、豊津・江坂・南吹田地域（7.2％）で最も低くなっています。（図6-3-3）

【図6-3-3 居住地域別 CSWの認知状況】



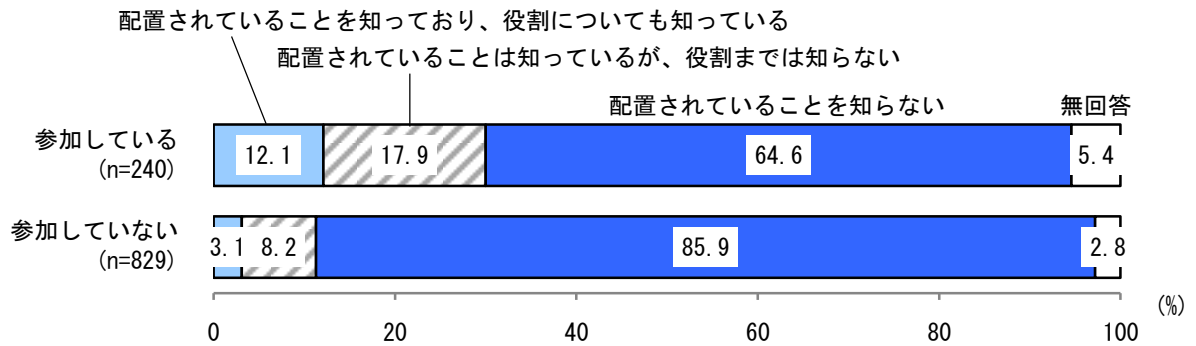
地域活動の参加有無別でみると、認知度は参加していない人（11.4％）より参加している人（22.9％）のほうが11.5ポイント高くなっています。（図6-3-4）

【図6-3-4 地域活動への参加有無別 CSWの認知状況】



福祉ボランティア活動への参加有無別でみると、認知度は参加していない人（11.3%）より参加している人（30.0%）のほうが18.7ポイント高くなっています。（図6-3-5）

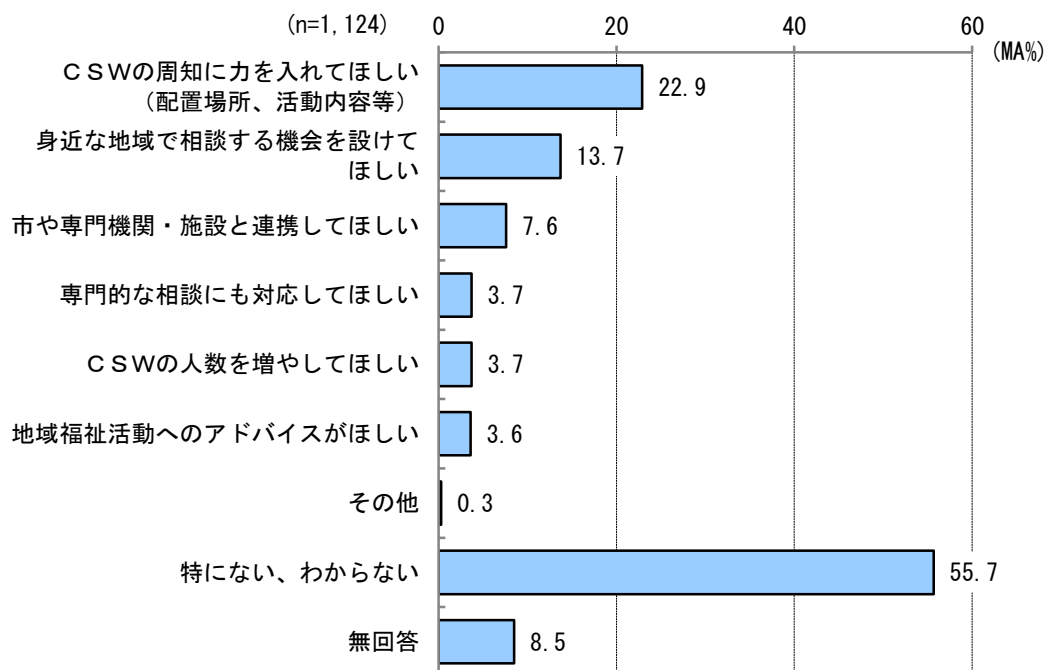
【図6-3-5 福祉ボランティア活動への参加有無別 CSWの認知状況】



(4) CSWに期待すること

問25 CSWに今後どのようなことを期待されますか。(〇はいくつでも)

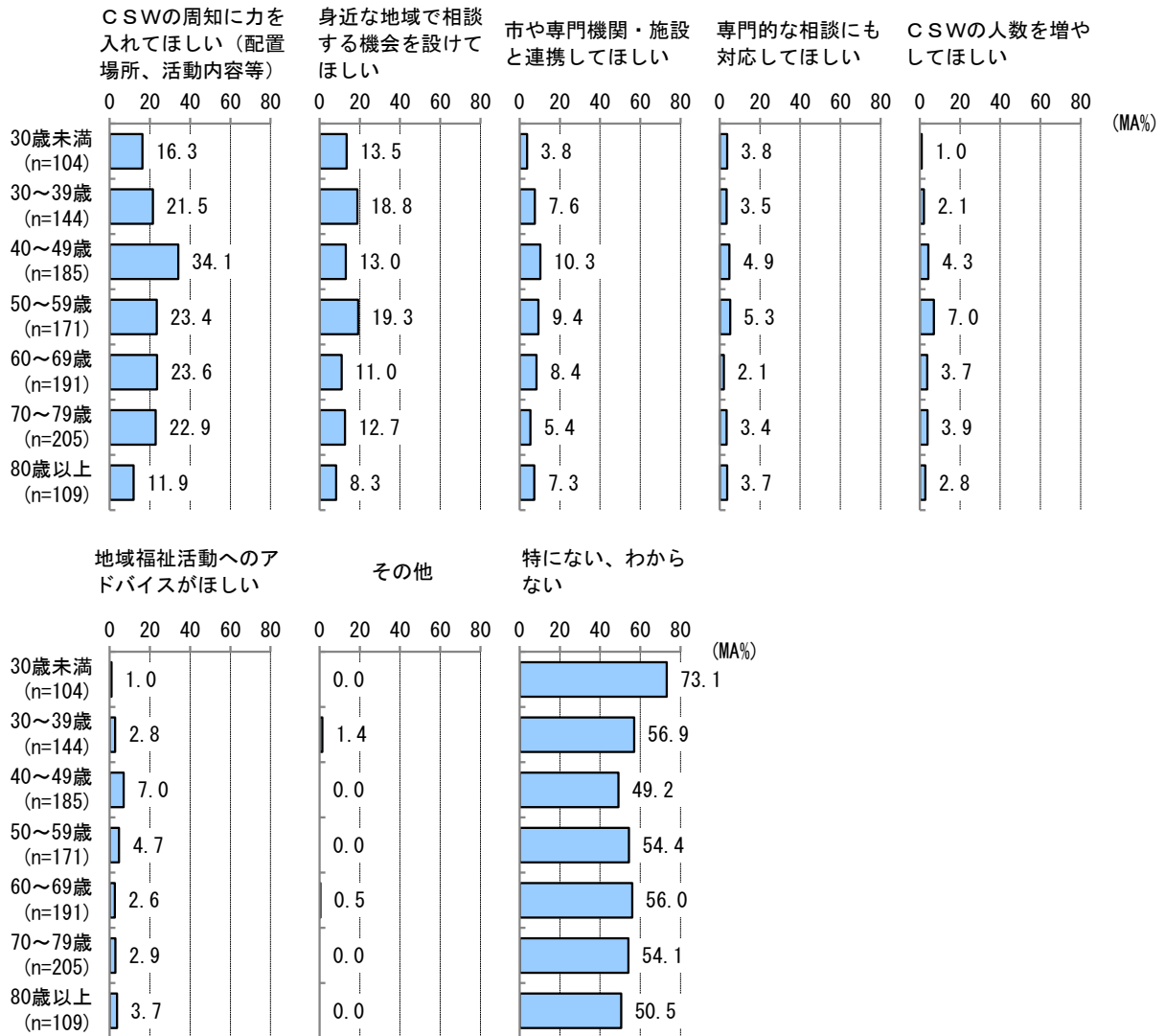
【図6-4 CSWに期待すること】



CSWに期待することについては、「特になし、わからない」が55.7%で最も多いですが、期待することがある人では「CSWの周知に力を入れてほしい(配置場所、活動内容等)」が22.9%で最も多く、次いで「身近な地域で相談する機会を設けてほしい」が13.7%、「市や専門機関・施設と連携してほしい」が7.6%となっています。(図6-4)

年齢別でみると、「CSWの周知に力を入れてほしい（配置場所、活動内容等）」は40～49歳（34.1%）で最も高くなっています。（図6-4-1）

【図6-4-1 年齢別 CSWに期待すること】

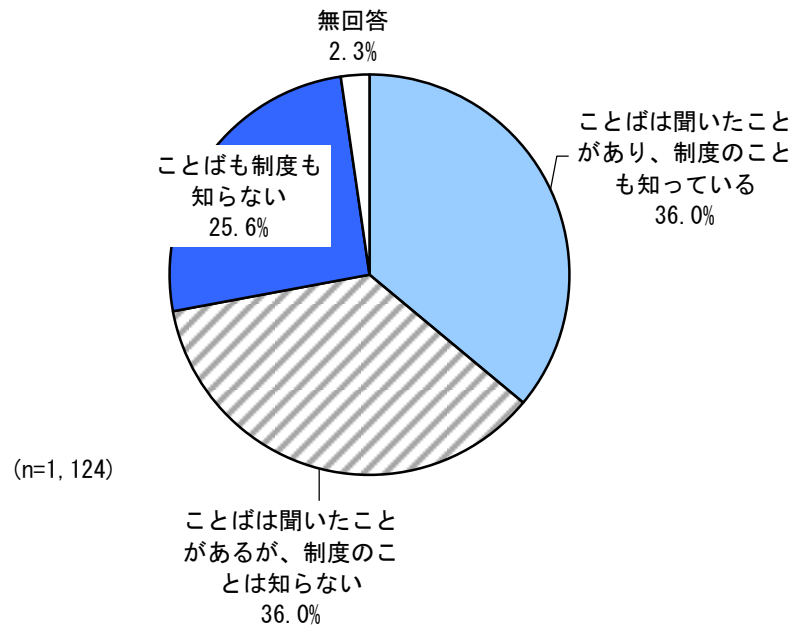


7. 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知状況

問26 あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。(○は1つ)

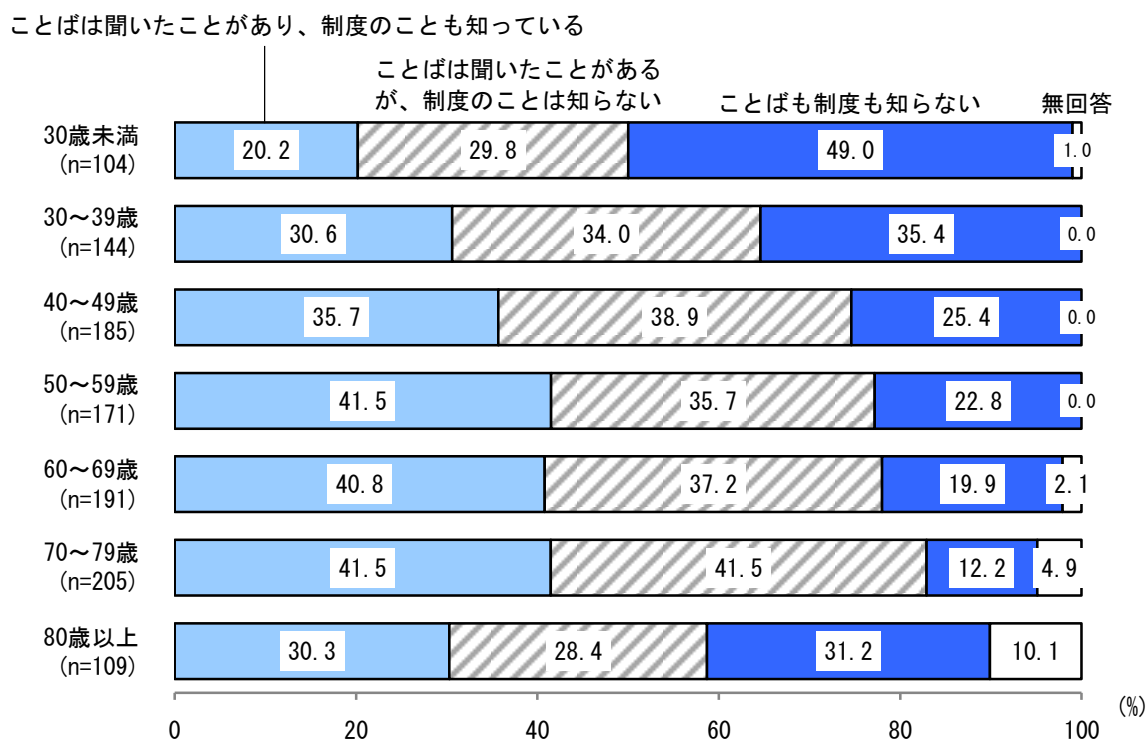
【図7-1 成年後見制度の認知状況】



成年後見制度の認知状況については、「ことばは聞いたことがあり、制度のことも知っている」と「ことばは聞いたことがあるが、制度のことは知らない」がそれぞれ36.0%で最も多く、両者をあわせた認知度は72.0%となっています。一方、「ことばも制度も知らない」が25.6%となっています。(図7-1)

年齢別で見ると、「ことばも制度も知らない」は30歳未満が49.0%で最も高く、認知度も30歳未満が最も低くなっています。一方、「ことばは聞いたことがあり、制度のことも知っている」は50～79歳で40%台と高くなっています。(図7-1-1)

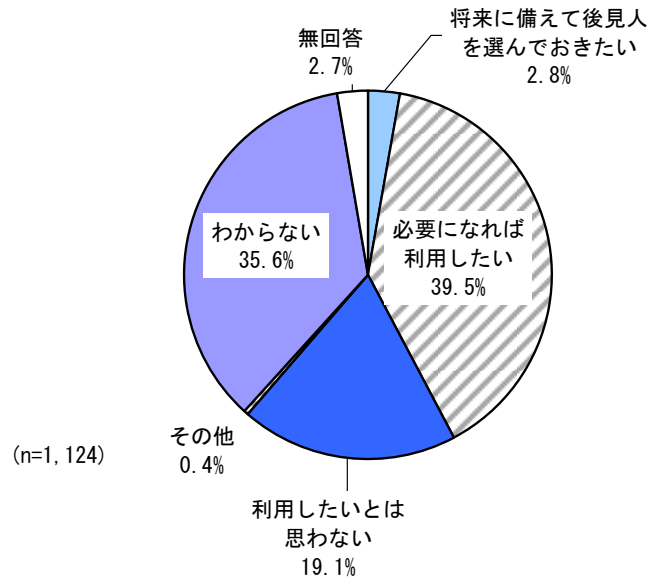
【図7-1-1 年齢別 成年後見制度の認知状況】



(2) 成年後見制度の利用意向

問27 あなたは支援が必要になったときには、成年後見制度を利用したいと思いますか。
(○は1つ)

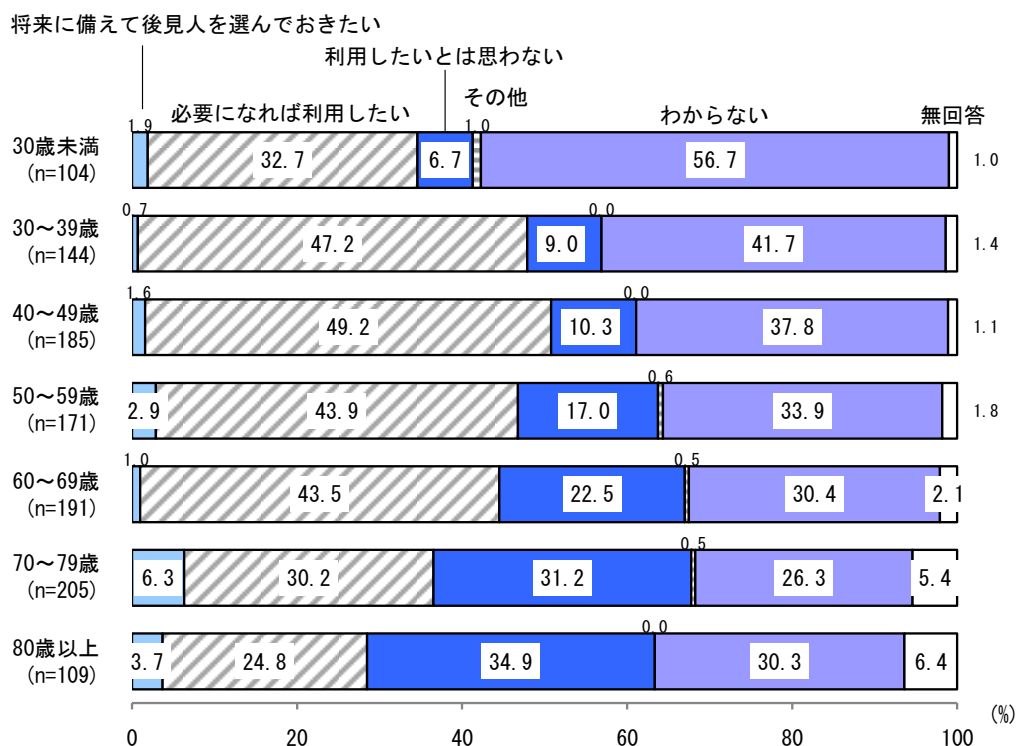
【図7-2 成年後見制度の利用意向】



成年後見制度の利用意向については、「必要になれば利用したい」が39.5%で最も多く、次いで「わからない」が35.6%、「利用したいとは思わない」が19.1%となっています。「将来に備えて後見人を選んでおきたい」(2.8%)と「必要になれば利用したい」をあわせた利用意向がある人は42.3%となっています。(図7-2)

年齢別でみると、「利用したいとは思わない」は年齢が上がるほど割合が高く、80歳以上(34.9%)で最も高くなっています。(図7-2-1)

【図7-2-1 年齢別 成年後見制度の利用意向】

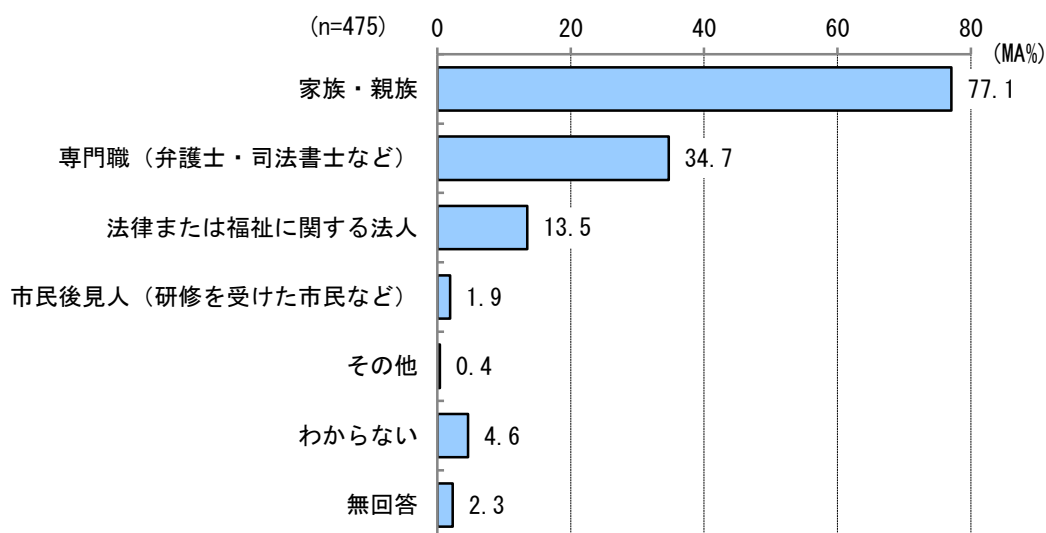


(3) 援助者になってほしい人

問27-1 問27で「1. 将来に備えて後見人を選んでおきたい」「2. 必要になれば利用したい」と回答した方にお聞きします。

援助者にはだれになってもらいたいですか。(〇はいくつでも)

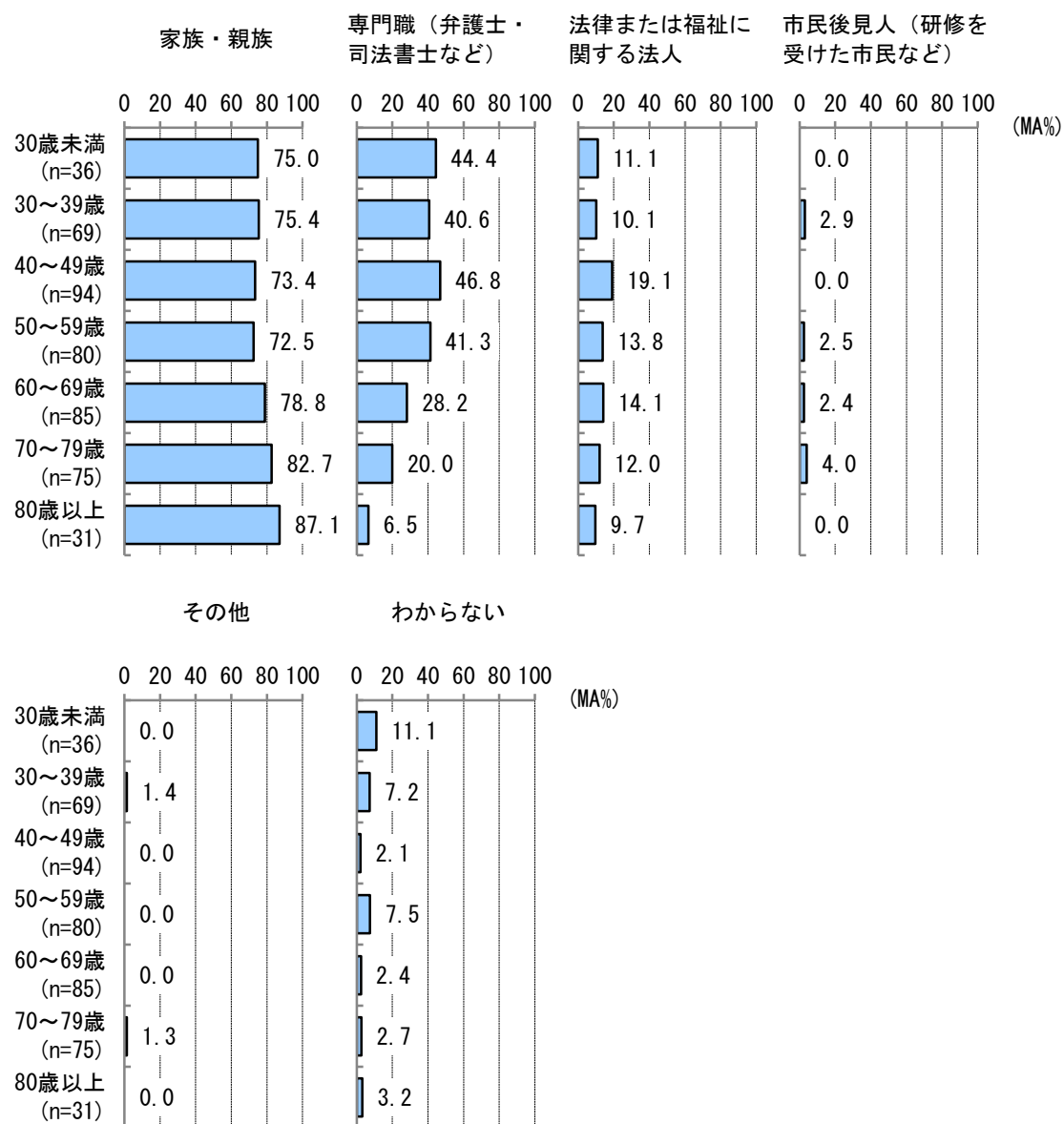
【図7-3 援助者になってほしい人】



成年後見制度の利用意向がある人に、援助者になってほしい人についてたずねると、「家族・親族」が77.1%で最も多く、次いで「専門職（弁護士・司法書士など）」が34.7%、「法律または福祉に関する法人」が13.5%となっています。(図7-3)

年齢別でみると、「家族・親族」はいずれも70%以上と高いですが、70歳以上の年代で80%を超えています。「専門職（弁護士・司法書士など）」は59歳までの年代で40%台と高くなっています。（図7-3-1）

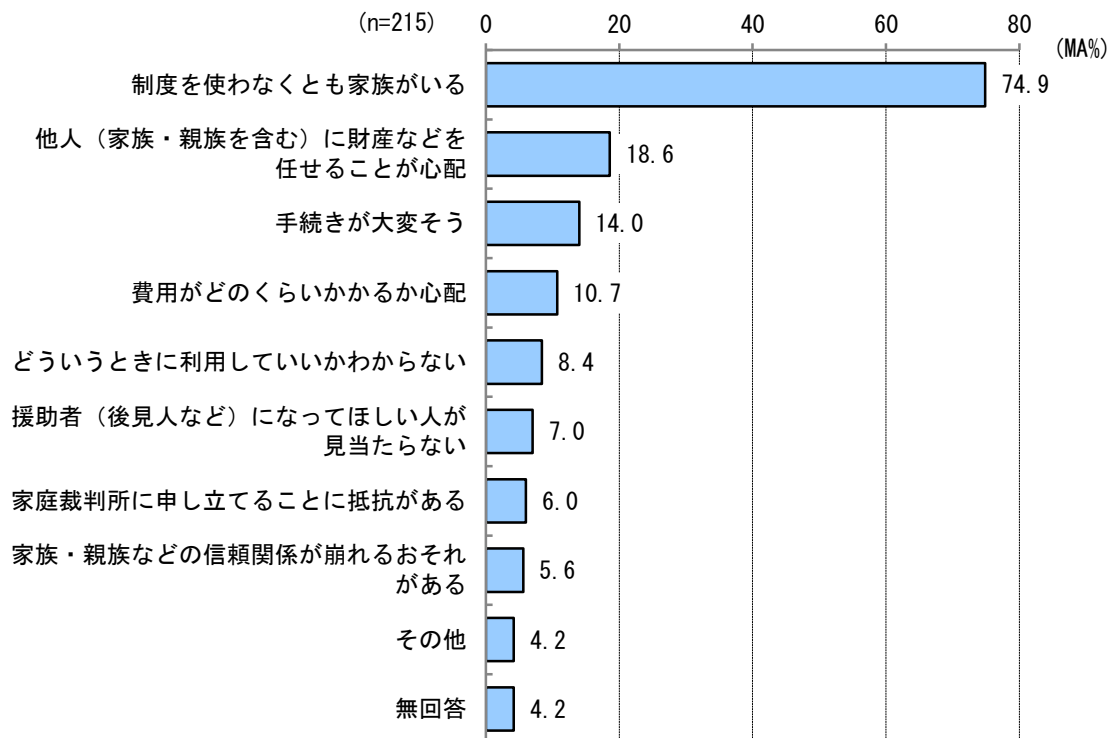
【図7-3-1 年齢別 援助者になってほしい人】



(4) 利用したいと思わない理由

問27-2 問27で「3. 利用したいとは思わない」と回答した方にお聞きします。
その理由として、あなたの考えに近いものは何ですか。(〇はいくつでも)

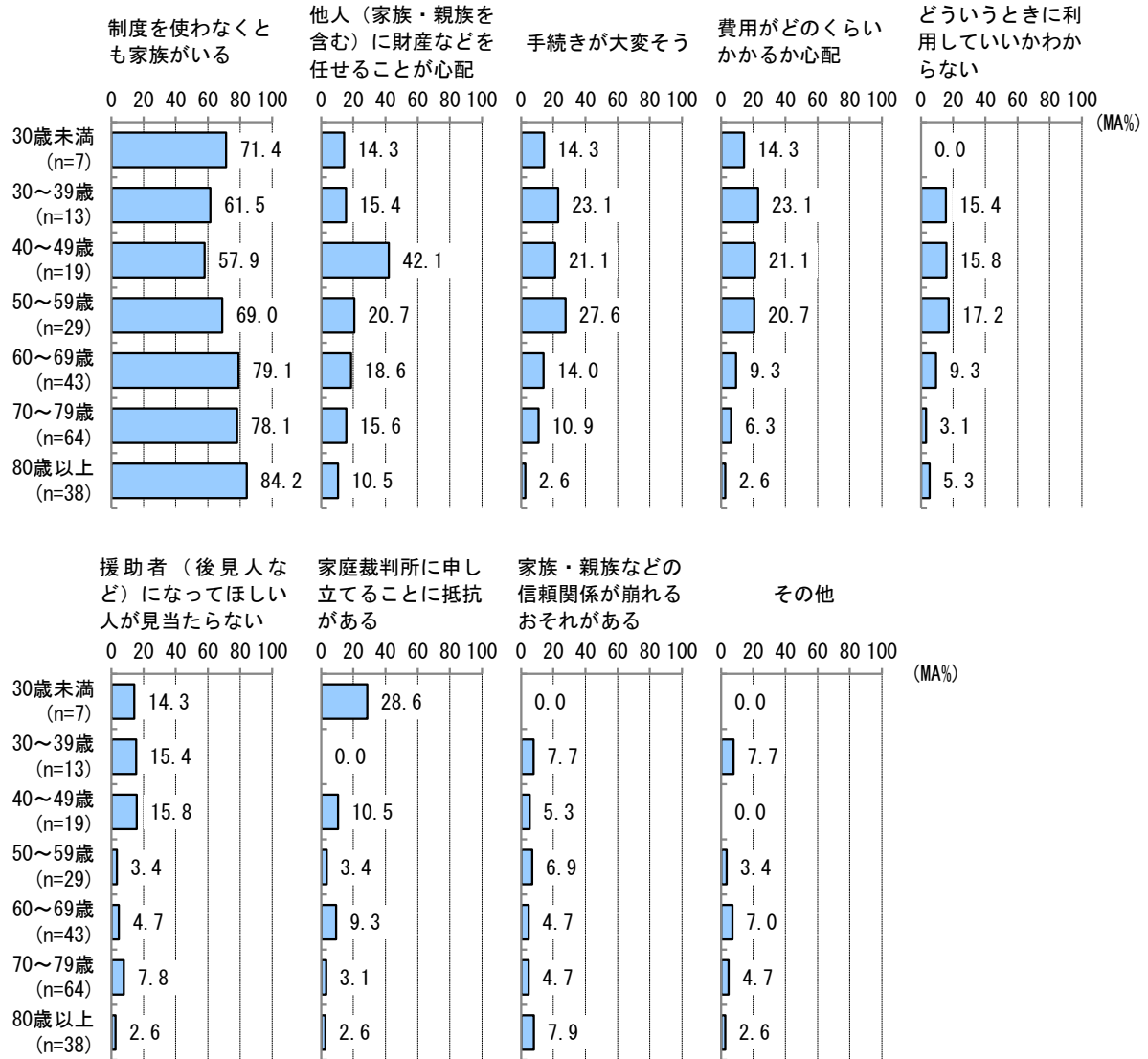
【図7-4 利用したいと思わない理由】



成年後見制度を利用したいと思わないと回答した人に、その理由をたずねると、「制度を使わなくとも家族がいる」が74.9%で最も多く、次いで「他人(家族・親族を含む)に財産などを任せることが心配」が18.6%、「手続きが大変そう」が14.0%となっています。(図7-4)

年齢別でみると、いずれの年代も「制度を使わなくとも家族がいる」が最も多く、80歳以上で84.2%と最も高くなっています。(図7-4-1)

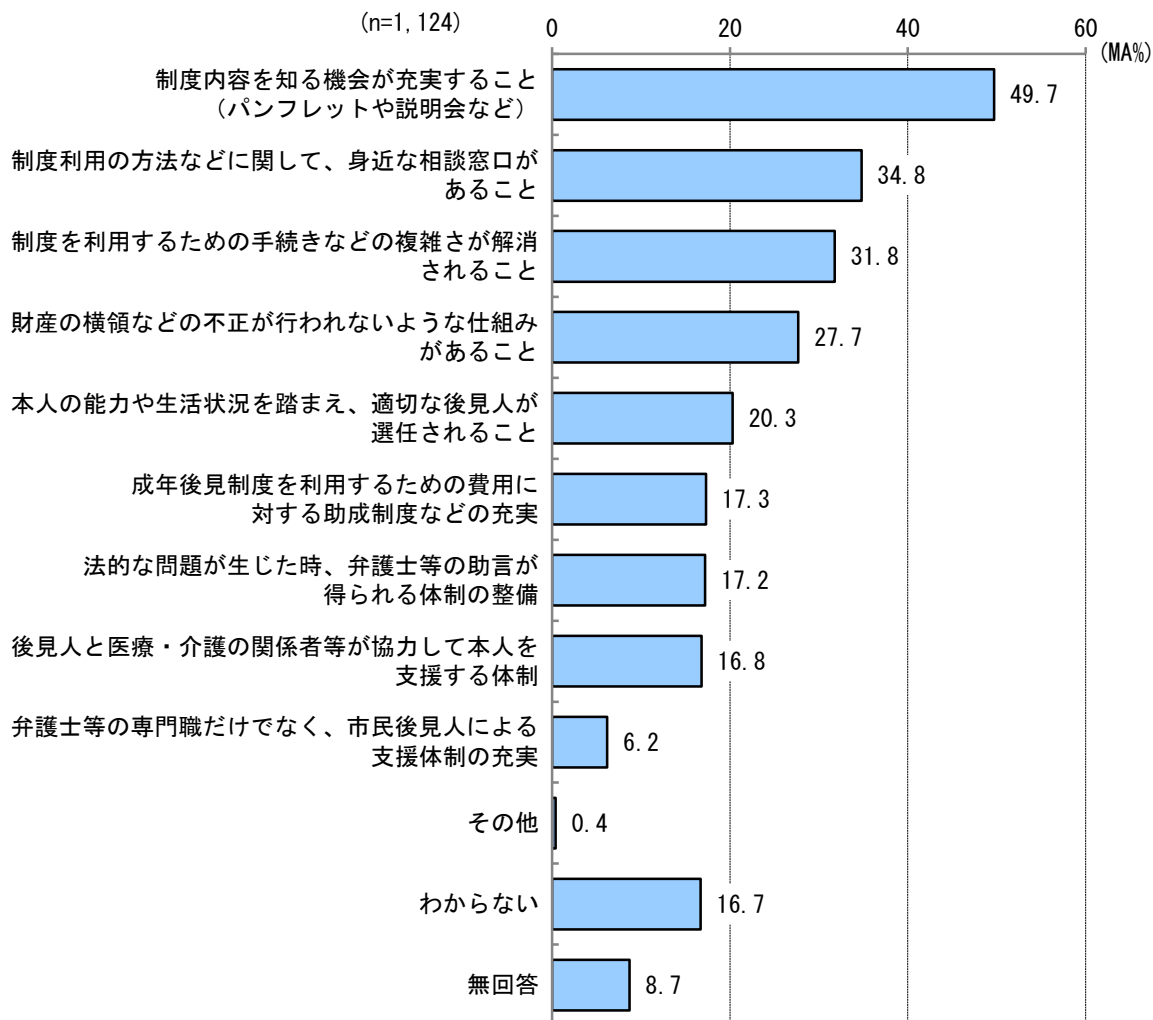
【図7-4-1 年齢別 利用したいと思わない理由】



(5) 成年後見制度が利用しやすいものとなるために重要なこと

問28 成年後見制度が利用しやすいものとなるためには、どのようなことが重要であると思いますか。(〇はいくつでも)

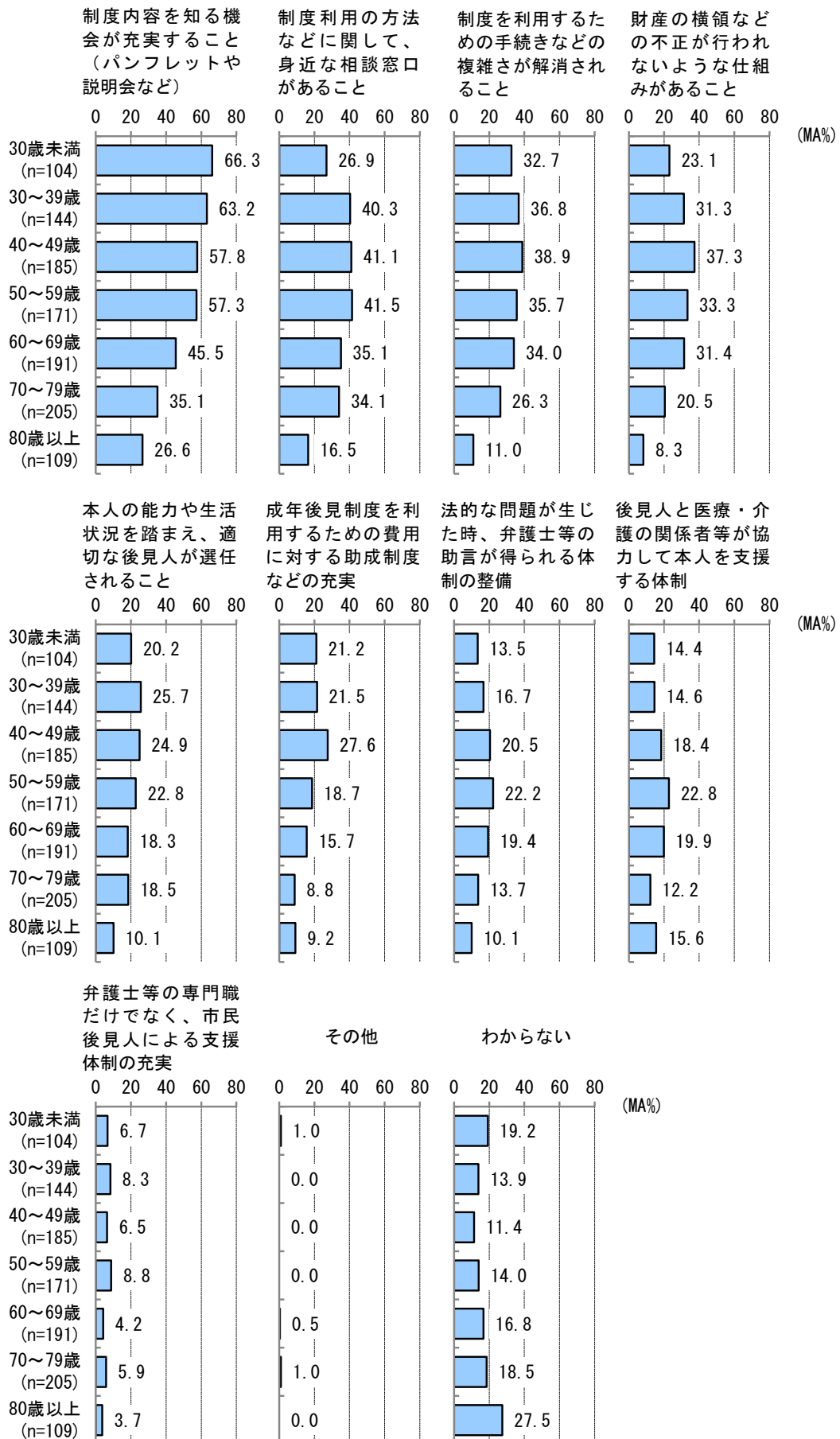
【図7-5 成年後見制度が利用しやすいものとなるために重要なこと】



成年後見制度が利用しやすいものとなるために重要なことについては、「制度内容を知る機会が充実すること（パンフレットや説明会など）」が49.7%で最も多く、次いで「制度利用の方法などに関して、身近な相談窓口があること」が34.8%、「制度を利用するための手続きなどの複雑さが解消されること」が31.8%となっています。（図7-5）

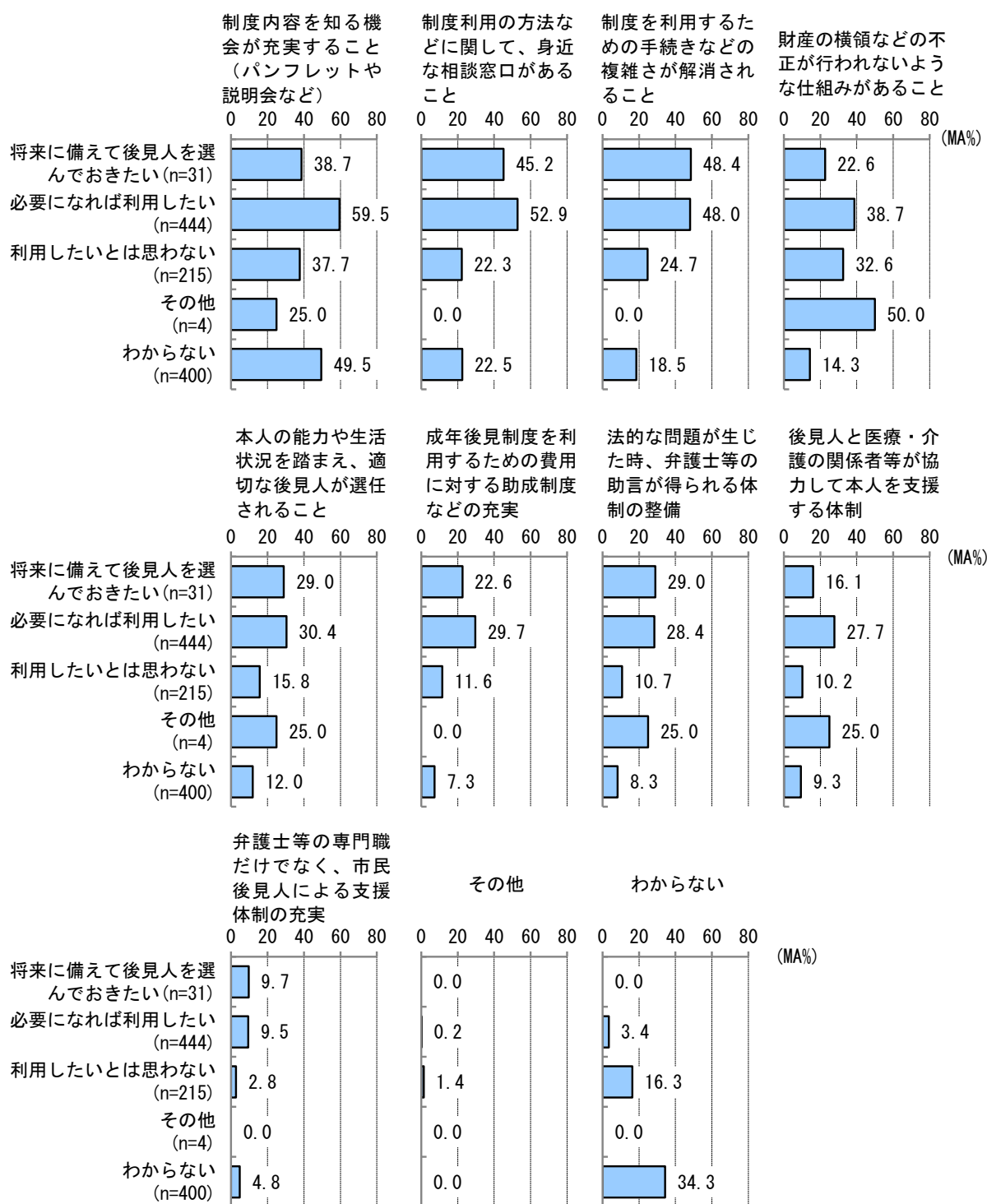
年齢別でみると、「制度内容を知る機会が充実すること（パンフレットや説明会など）」は若い年代ほど割合が高く、「制度利用の方法などに関して、身近な相談窓口があること」は30～59歳の年代で40%台と高くなっています。（図7-5-1）

【図7-5-1 年齢別 成年後見制度が利用しやすいものとなるために重要なこと】



成年後見制度の利用意向別でみると、“将来に備えて後見人を選んでおきたい”は「制度を利用するための手続きなどの複雑さが解消されること」(48.4%)が、“必要になれば利用したい”は「制度内容を知る機会が充実すること(パンフレットや説明会など)」(59.5%)が最も多くなっています。(図7-5-2)

【図7-5-2 成年後見制度の利用意向別 成年後見制度が利用しやすいものとなるために重要なこと】

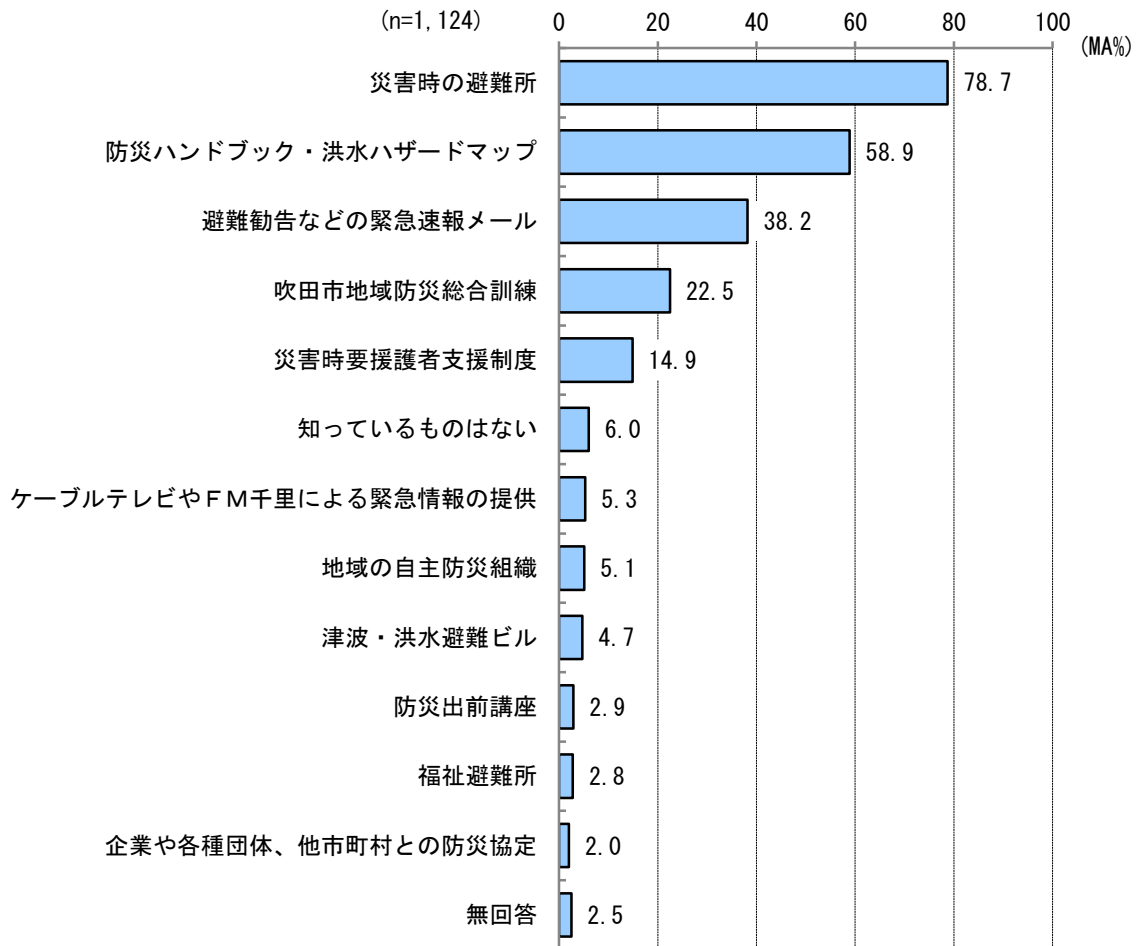


8. 災害から生命を守る取組等について

(1) 防災に関する取組や情報について知っているもの

問29 防災に関する取組や情報について、あなたが知っているものはありますか。(〇はいくつでも)

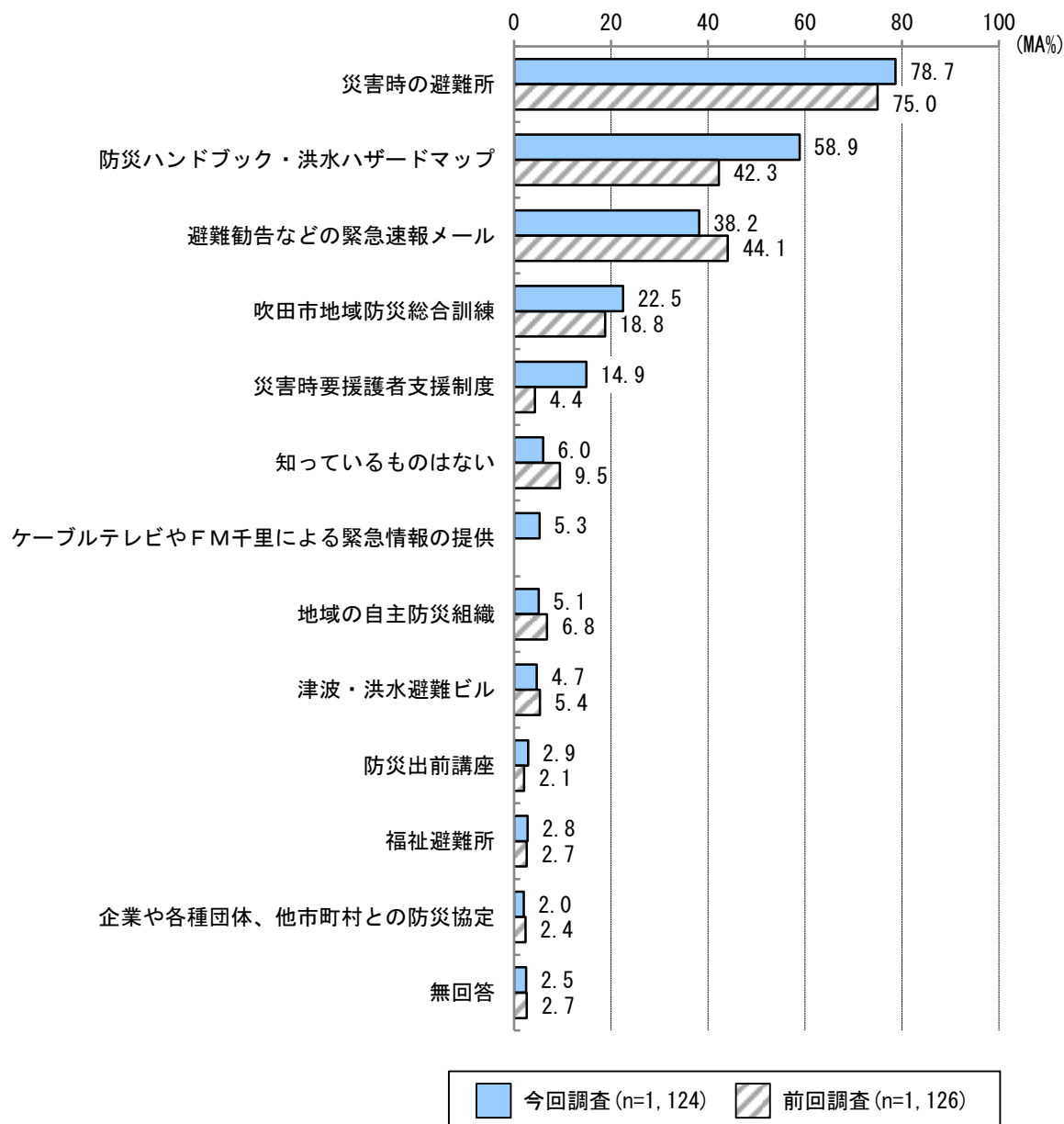
【図8-1 防災に関する取組や情報について知っているもの】



防災に関する取組や情報について知っているものについては、「災害時の避難所」が78.7%で最も多く、次いで「防災ハンドブック・洪水ハザードマップ」が58.9%、「避難勧告などの緊急速報メール」が38.2%となっています。(図8-1)

前回調査と比較すると、「防災ハンドブック・洪水ハザードマップ」は前回（42.3%）より16.6ポイント高くなっています。（図8-1-1）

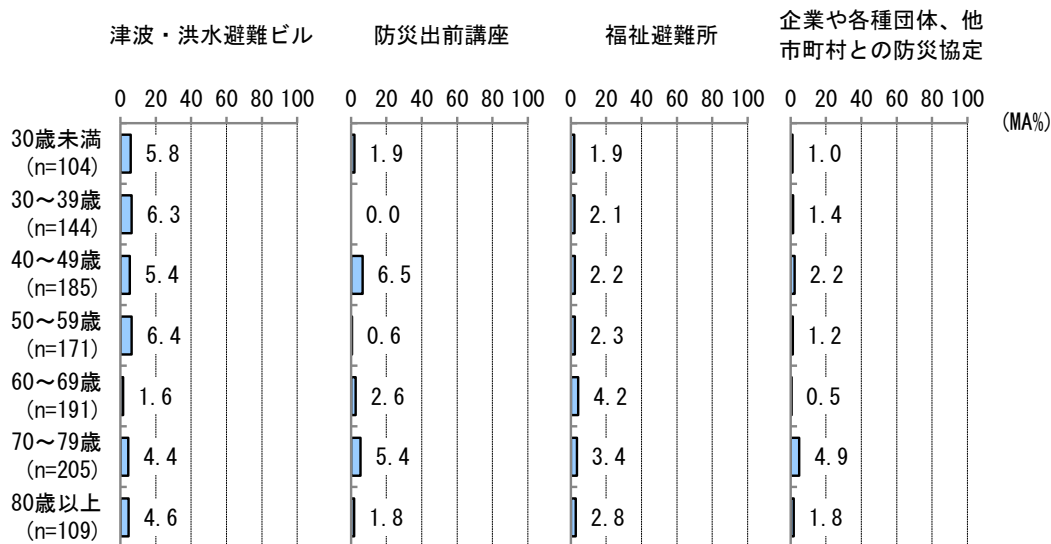
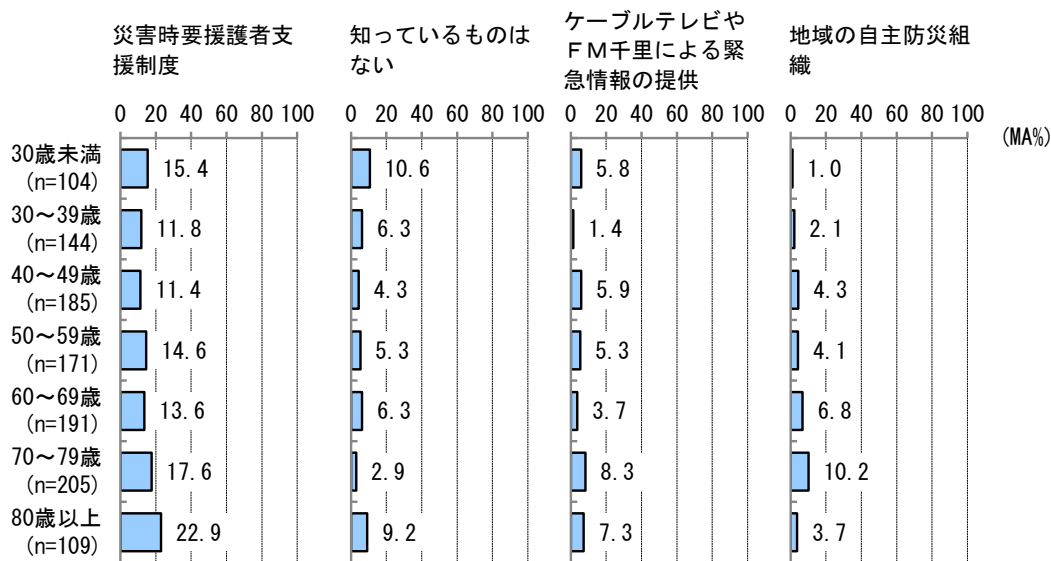
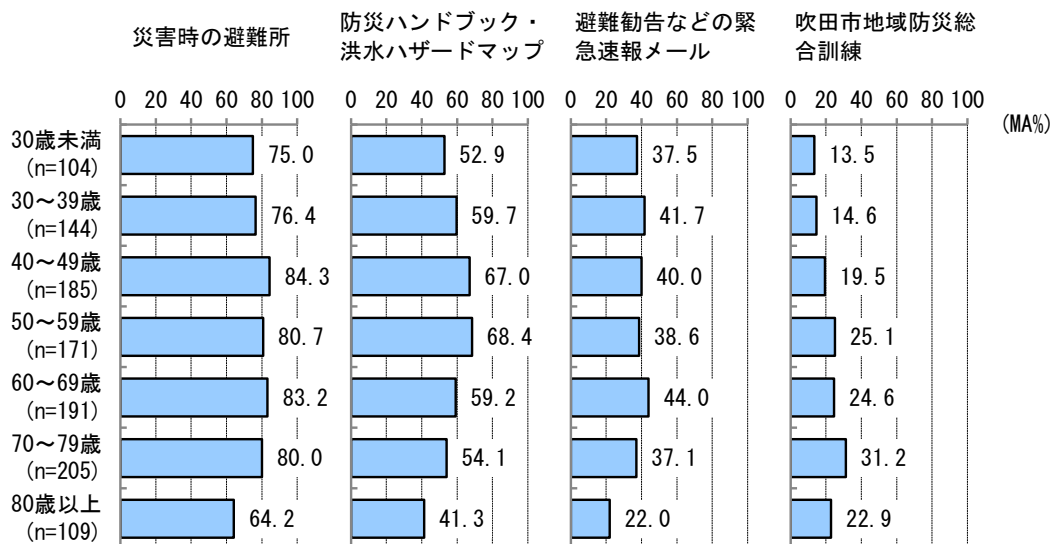
【図8-1-1 防災に関する取組や情報について知っているもの〔前回調査との比較〕】



※前回調査では「ケーブルテレビやFM千里による緊急情報の提供」の選択肢はありませんでした。

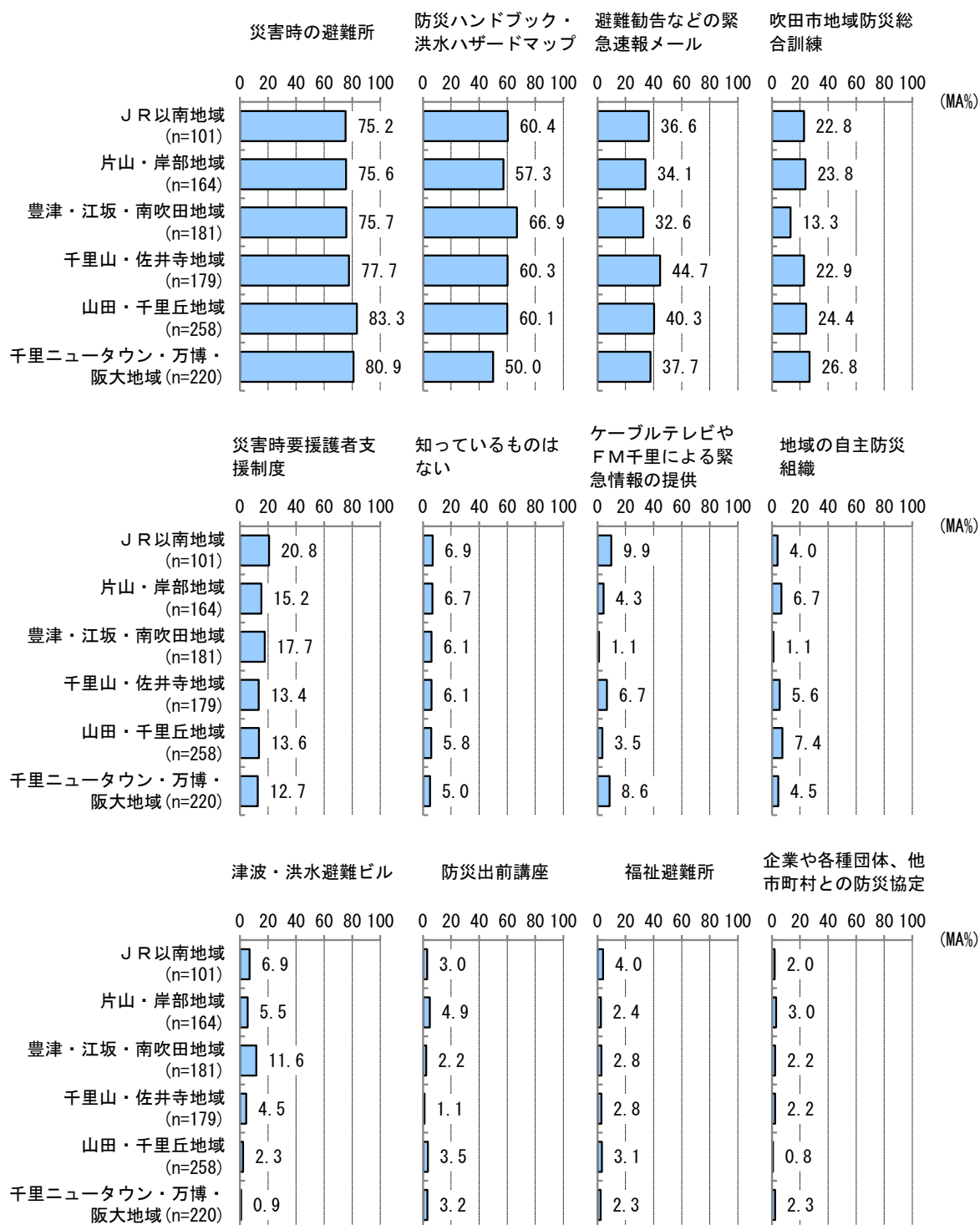
年齢別でみると、いずれの年代も「災害時の避難所」が最も多く、次いで「防災ハンドブック・洪水ハザードマップ」が続いていますが、80歳以上で最も低い割合となっています。(図8-1-2)

【図8-1-2 年齢別 防災に関する取組や情報について知っているもの】



居住地域別でみると、「災害時の避難所」は山田・千里丘地域（83.3%）で最も高く、「防災ハンドブック・洪水ハザードマップ」は豊津・江坂・南吹田地域（66.9%）で最も高くなっています。（図8-1-3）

【図8-1-3 居住地域別 防災に関する取組や情報について知っているもの】

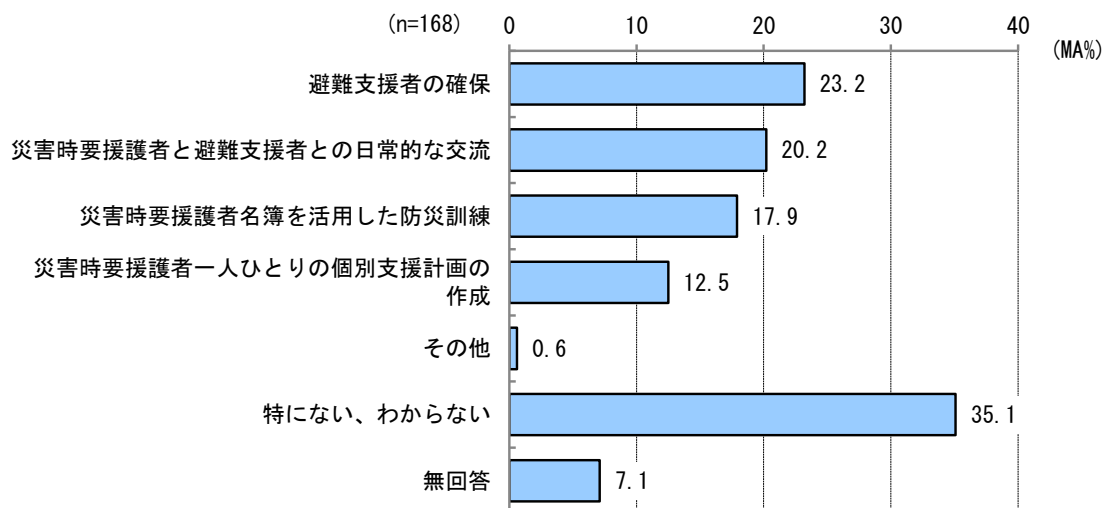


(2) 災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき地域の取組

問29-1 問29で「3. 災害時要援護者支援制度」と回答した方にお聞きします。

「災害時要援護者」への支援を進めるうえで、優先すべき、地域の取組は何だと思えますか。(〇は1つ)

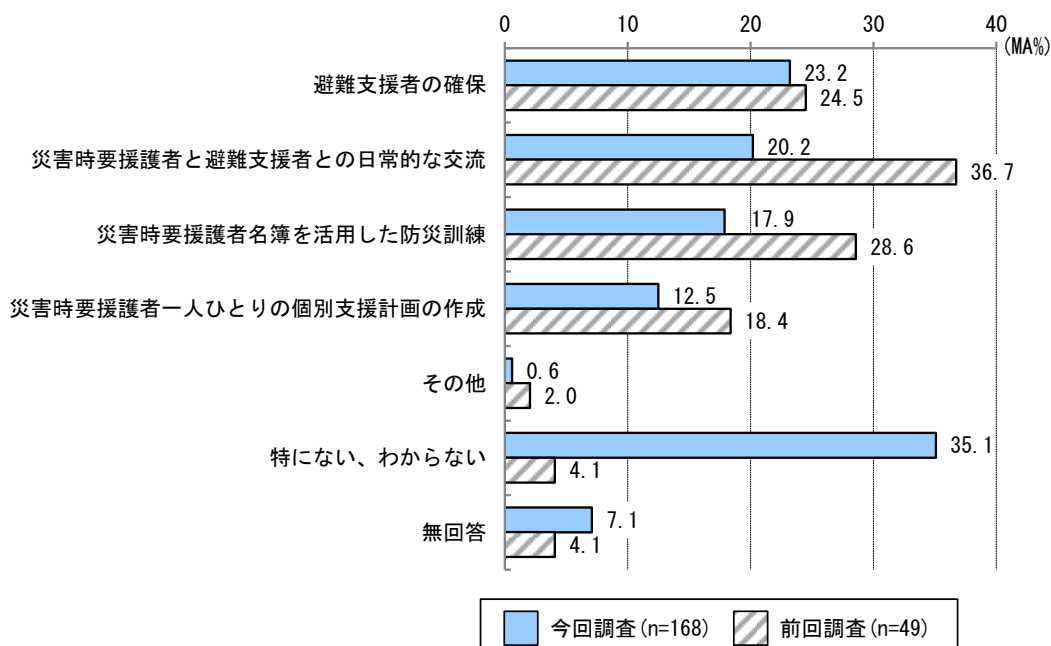
【図8-2 災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき地域の取組】



災害時要援護者支援制度について知っているとは回答した人に、災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき地域の取組についてたずねると、「避難支援者の確保」が23.2%で最も多く、次いで「災害時要援護者と避難支援者との日常的な交流」が20.2%、「災害時要援護者名簿を活用した防災訓練」が17.9%となっています。一方で、「特にない、わからない」は35.1%となっています。(図8-2)

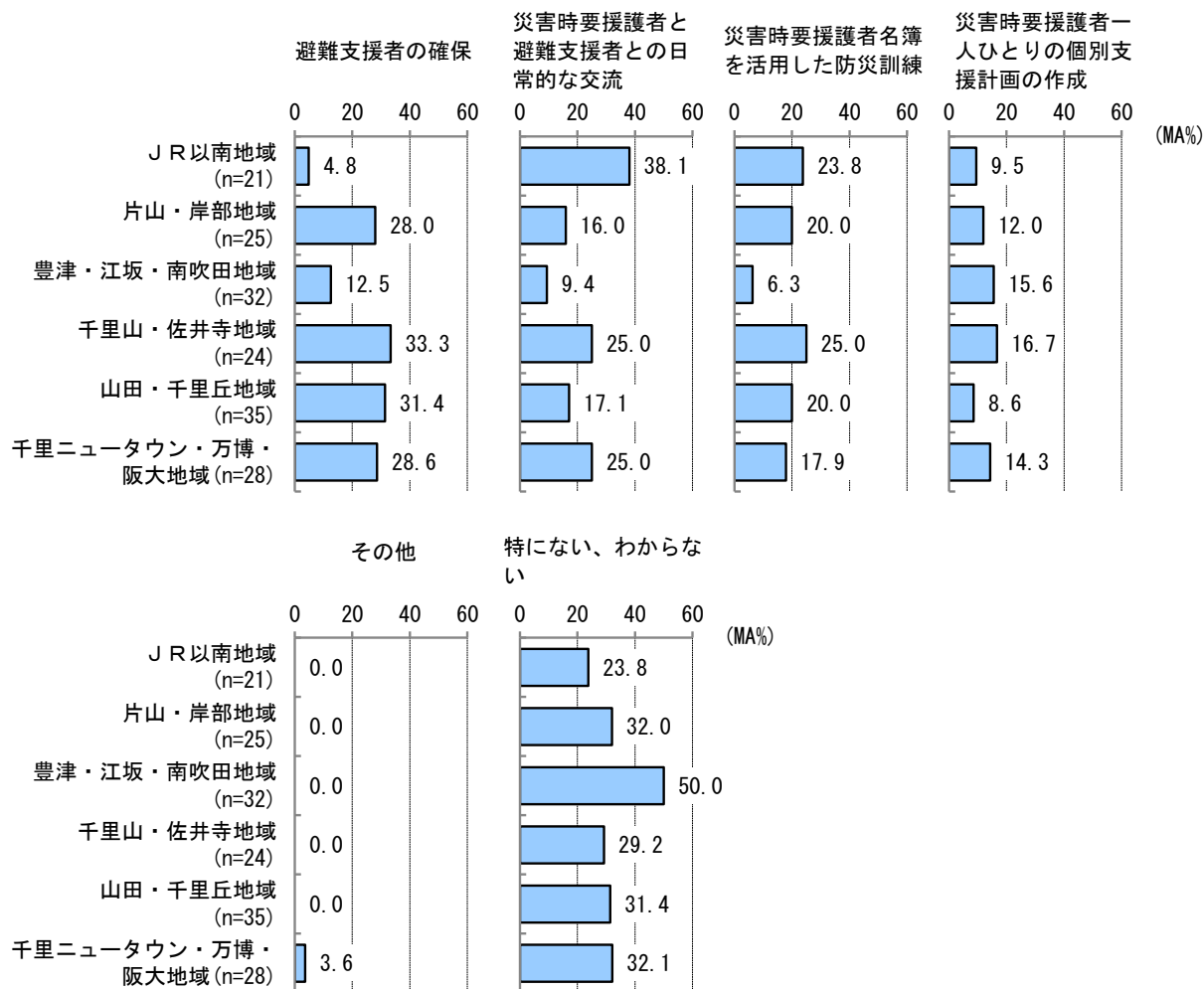
前回調査と比較すると、「災害時要援護者と避難支援者との日常的な交流」は前回調査(36.7%)より16.5ポイント、「災害時要援護者名簿を活用した防災訓練」は前回調査(28.6%)より10.7ポイント低くなっています。(図8-2-1)

【図8-2-1 災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき地域の取組〔前回調査との比較〕】



居住地域別でみると、JR以南地域は「災害時要援護者と避難支援者との日常的な交流」(38.1%)が最も多く、豊津・江坂・南吹田地域では「災害時要援護者一人ひとりの個別支援計画の作成」(15.6%)が最も多いですが、それ以外の地域では「避難支援者の確保」が最も多くなっています。(図8-2-2)

【図8-2-2 居住地域別 災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき地域の取組】

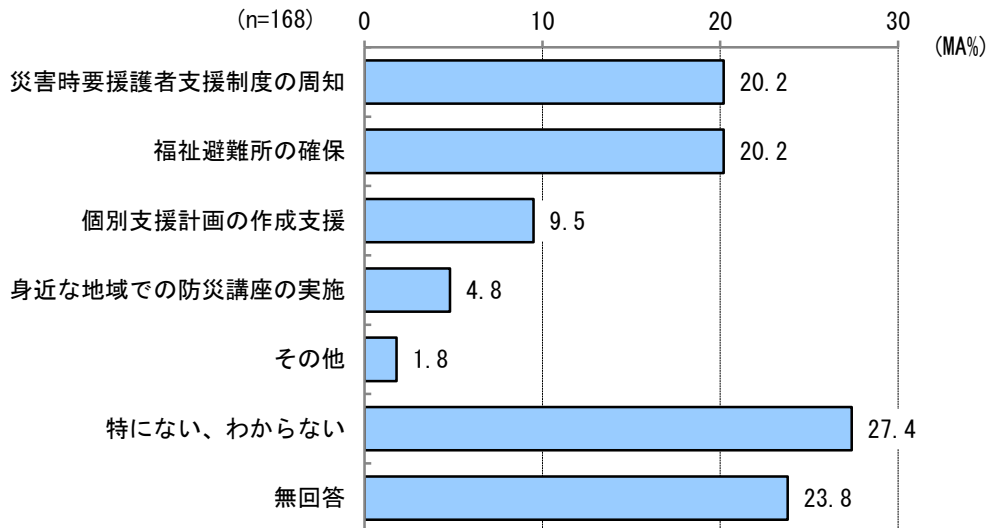


(3) 災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき行政の取組

問29-2 問29で「3. 災害時要援護者支援制度」と回答した方にお聞きします。

「災害時要援護者」への支援を進めるうえで、優先すべき、行政の取組は何だと思えますか。(〇は1つ)

【図8-3 災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき行政の取組】

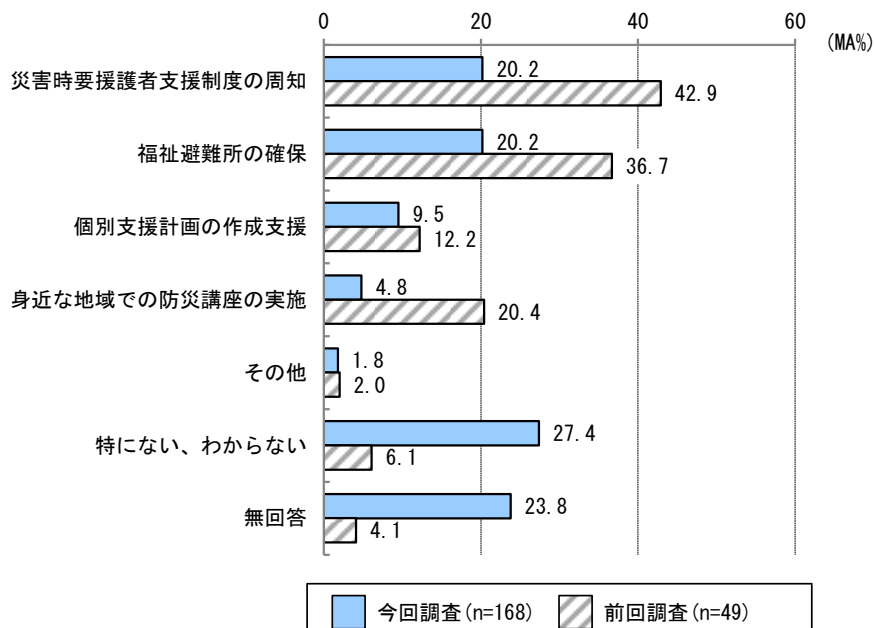


災害時要援護者支援制度について知っているとは回答した人に、災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき行政の取組についてたずねると、「災害時要援護者支援制度の周知」と「福祉避難所の確保」がそれぞれ20.2%で最も多く、次いで「個別支援計画の作成支援」が9.5%となっています。一方で、「特にない、わからない」は27.4%となっています。

(図8-3)

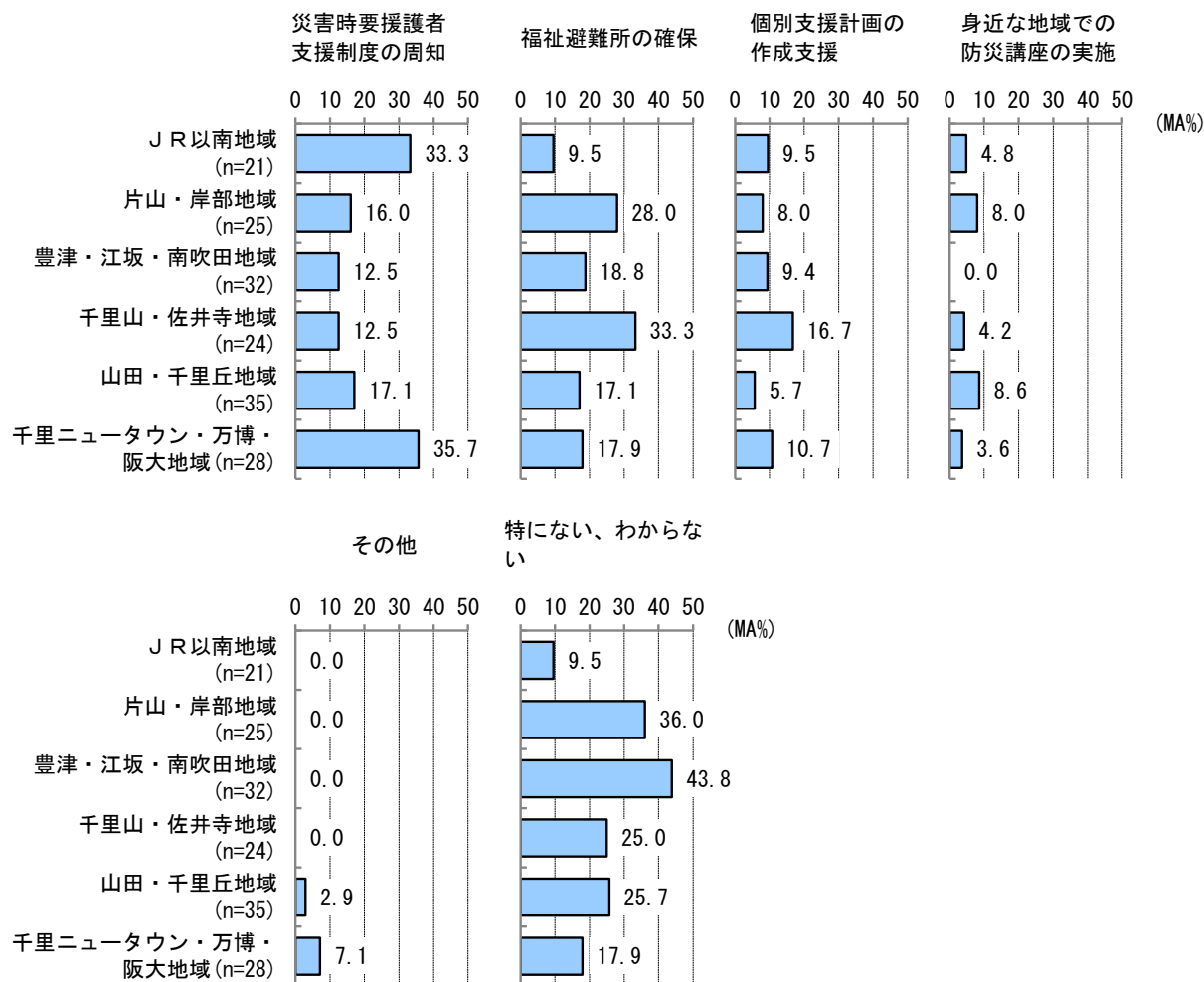
前回調査と比較すると、すべての項目で前回調査より割合が低くなっています。(図8-3-1)

【図8-3-1 災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき行政の取組〔前回調査との比較〕】



居住地域別でみると、「災害時要援護者支援制度の周知」はJR以南地域（33.3%）と千里ニュータウン・万博・阪大地域（35.7%）で高く、「福祉避難所の確保」では片山・岸部地域（28.0%）と山田・千里丘地域（33.3%）で高くなっています。（図8-3-2）

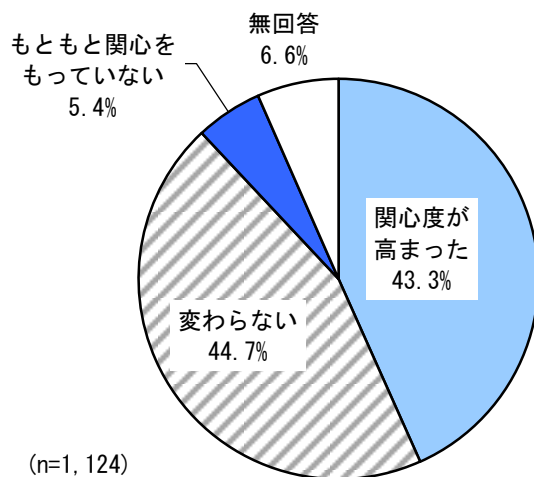
【図8-3-2 居住地域別 災害時要援護者への支援を進めるうえでの優先すべき行政の取組】



(4) 大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動に対する関心度の変化

問30 平成30年（2018年）6月18日の大阪府北部地震の前後で、地域の人同士による助け合い活動（地域での見守り・ボランティア・災害支援・寄附等）について、あなた自身の関心度に変化がありましたか。（○は1つ）

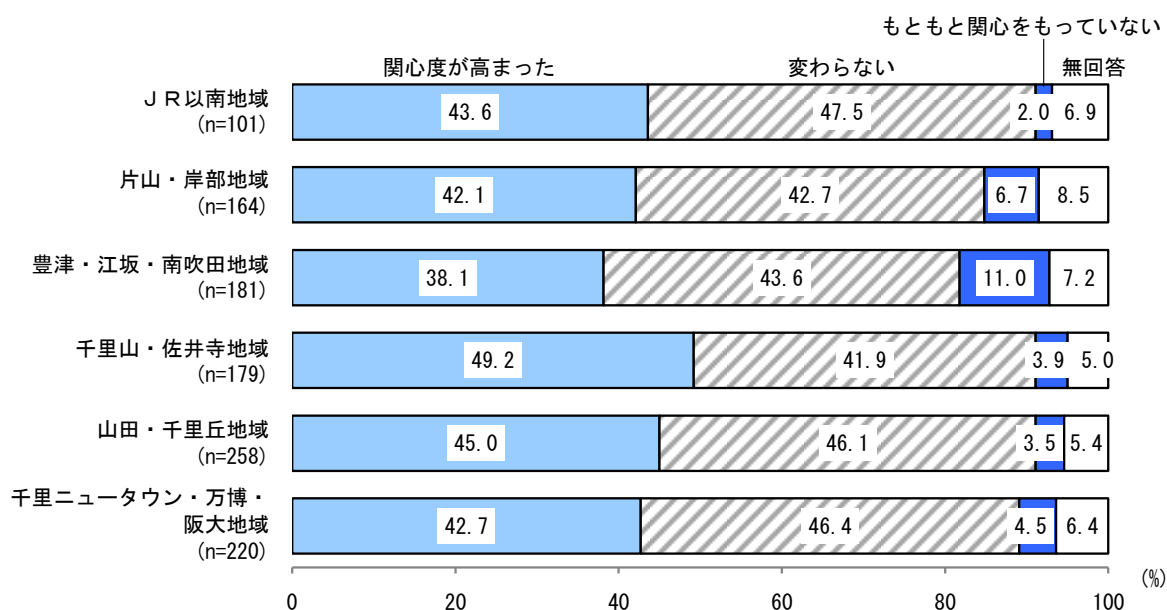
【図8-4 大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動に対する関心度の変化】



大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動に対する関心度の変化については、「変わらない」が44.7%で最も多く、次いで「関心度が高まった」が43.3%、「もともと関心をもっていない」が5.4%となっています。（図8-4）

居住地域別でみると、「関心度が高まった」は千里山・佐井寺地域（49.2%）で最も高く、「もともと関心をもっていない」は豊津・江坂・南吹田地域（11.0%）で最も高くなっています。（図8-4-1）

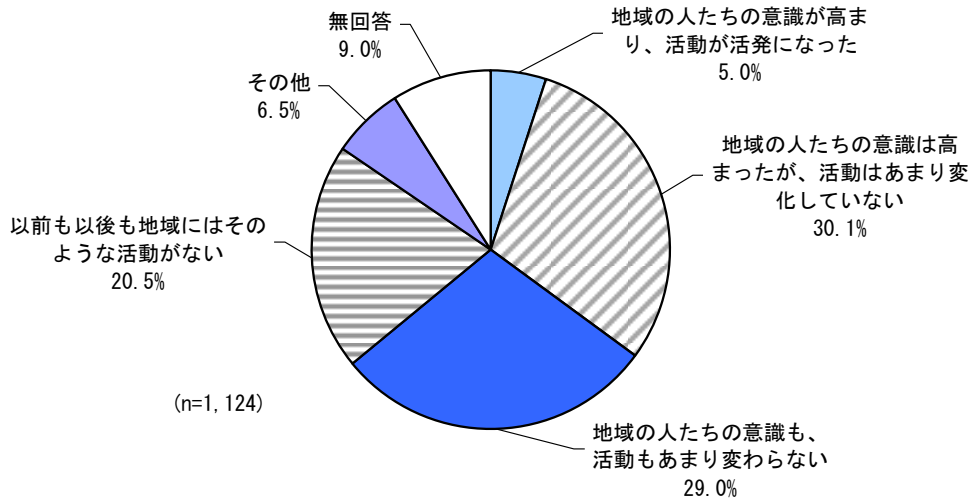
【図8-4-1 居住地域別 大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動に対する関心度の変化】



(5) 大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動の変化の状況

問31 平成30年（2018年）6月18日の大阪府北部地震の前後で、あなたがお住まいの地域では、地域の人同士による助け合い活動（地域での見守り・ボランティア・災害支援・寄附等）に何か変化がありましたか。（○は1つ）

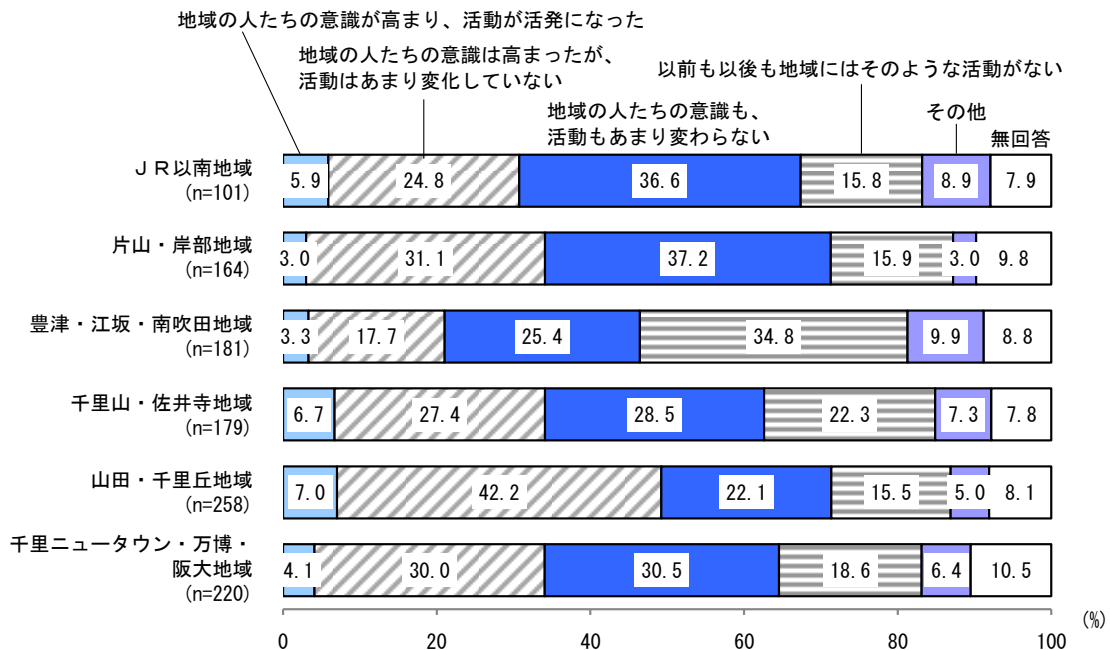
【図8-5 大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動の変化の状況】



大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動の変化の状況については、「地域の人たちの意識は高まったが、活動はあまり変化していない」が30.1%で最も多く、次いで「地域の人たちの意識も、活動もあまり変わらない」が29.0%、「以前も以後も地域にはそのような活動がない」が20.5%となっています。（図8-5）

居住地域別でみると、山田・千里丘地域は「地域の人たちの意識は高まったが、活動はあまり変化していない」(42.2%)が最も多く、豊津・江坂・南吹田地域では「以前も以後も地域にはそのような活動がない」(34.8%)が、それ以外の地域では「地域の人たちの意識も、活動もあまり変わらない」が最も多くなっています。（図8-5-1）

【図8-5-1 居住地域別 大阪府北部地震の前後での地域の助け合い活動の変化の状況】

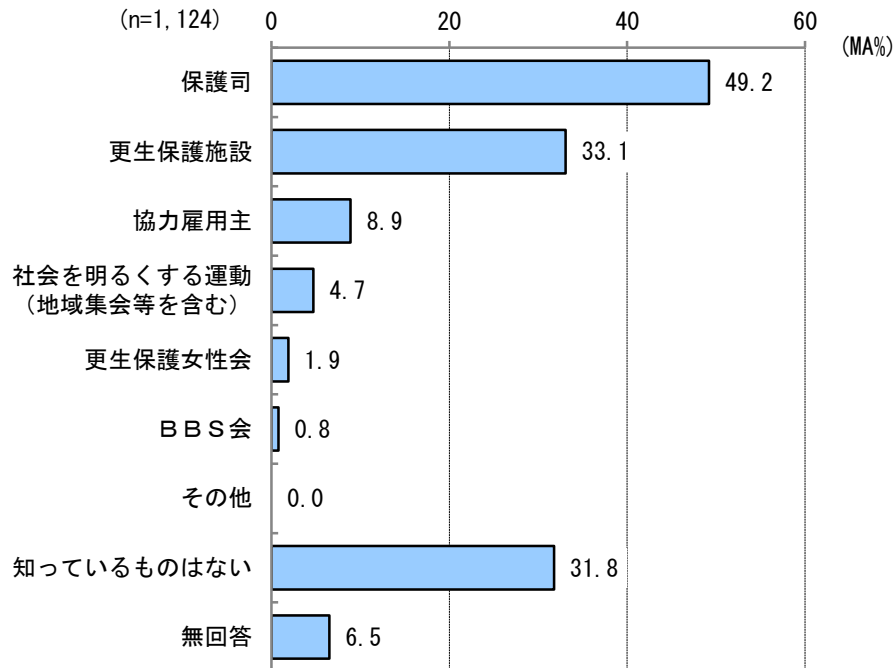


9. 再犯防止の取組等について

(1) 再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているもの

問32 再犯防止に関する民間協力者や取組で、あなたが知っているものはありますか。(〇はいくつでも)

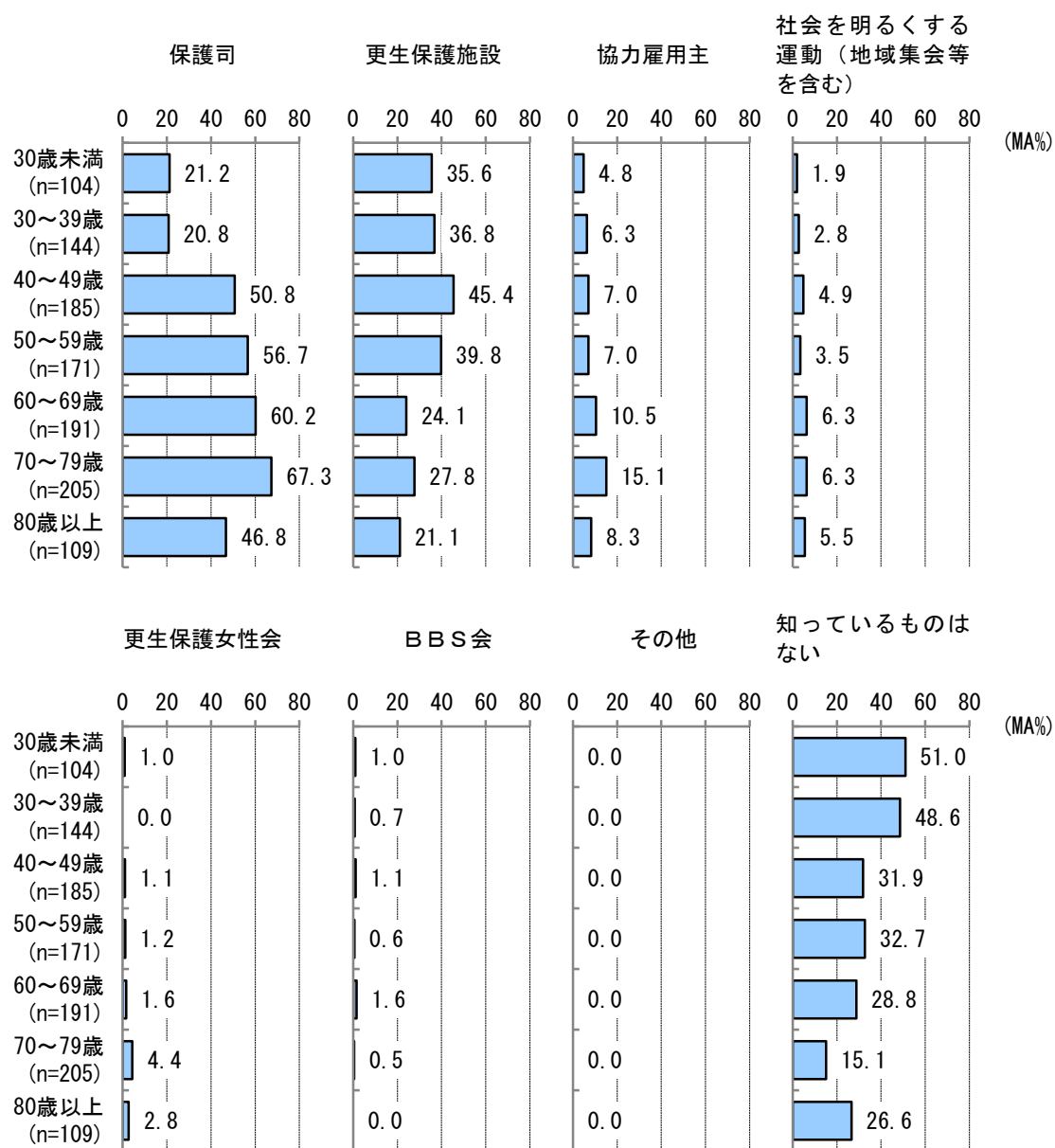
【図9-1 再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているもの】



再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているものについては、「保護司」が49.2%で最も多く、次いで「更生保護施設」が33.1%となっており、「知っているものはない」は31.8%となっています。(図9-1)

年齢別でみると、「保護司」は40～79歳の年代で50%以上を占めており、「更生保護施設」は59歳以下の年代で30%以上を占めています。（図9-1-1）

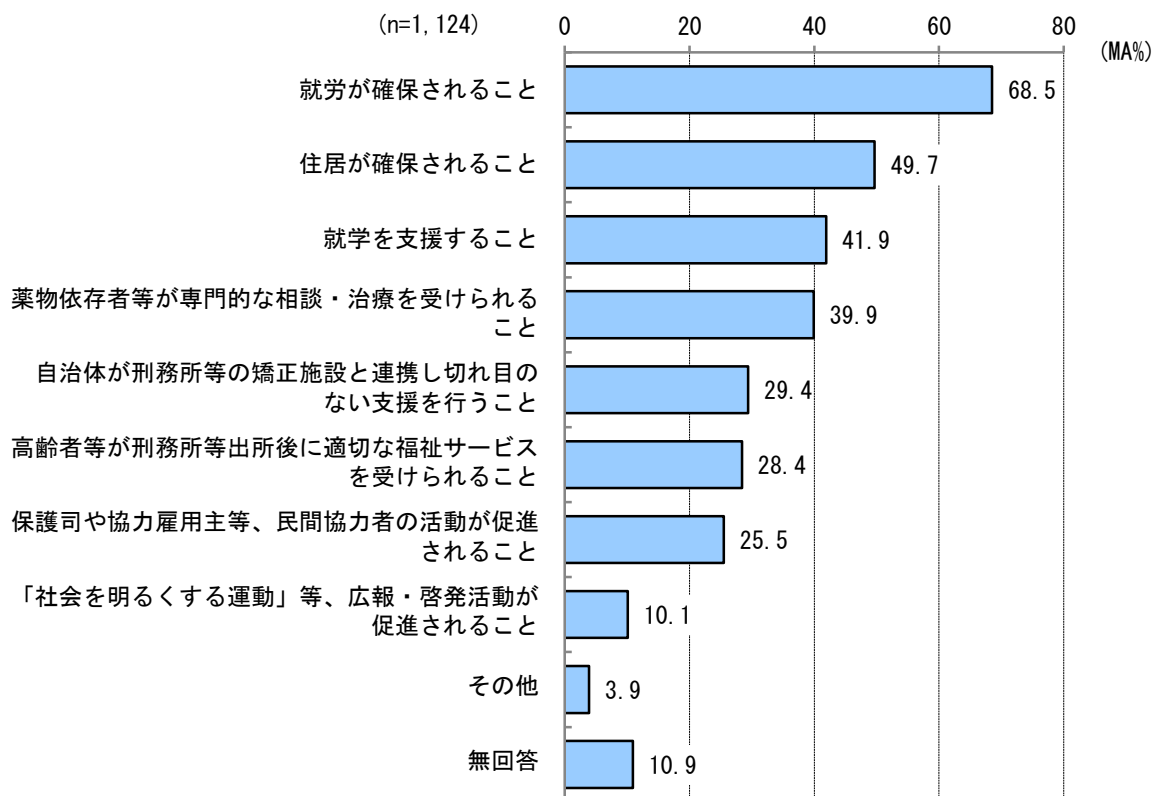
【図9-1-1 年齢別 再犯防止に関する民間協力者や取組で知っているもの】



(2) 再犯や再非行を防止するために必要なこと

問33 再犯や再非行を防止するためにどのようなことが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

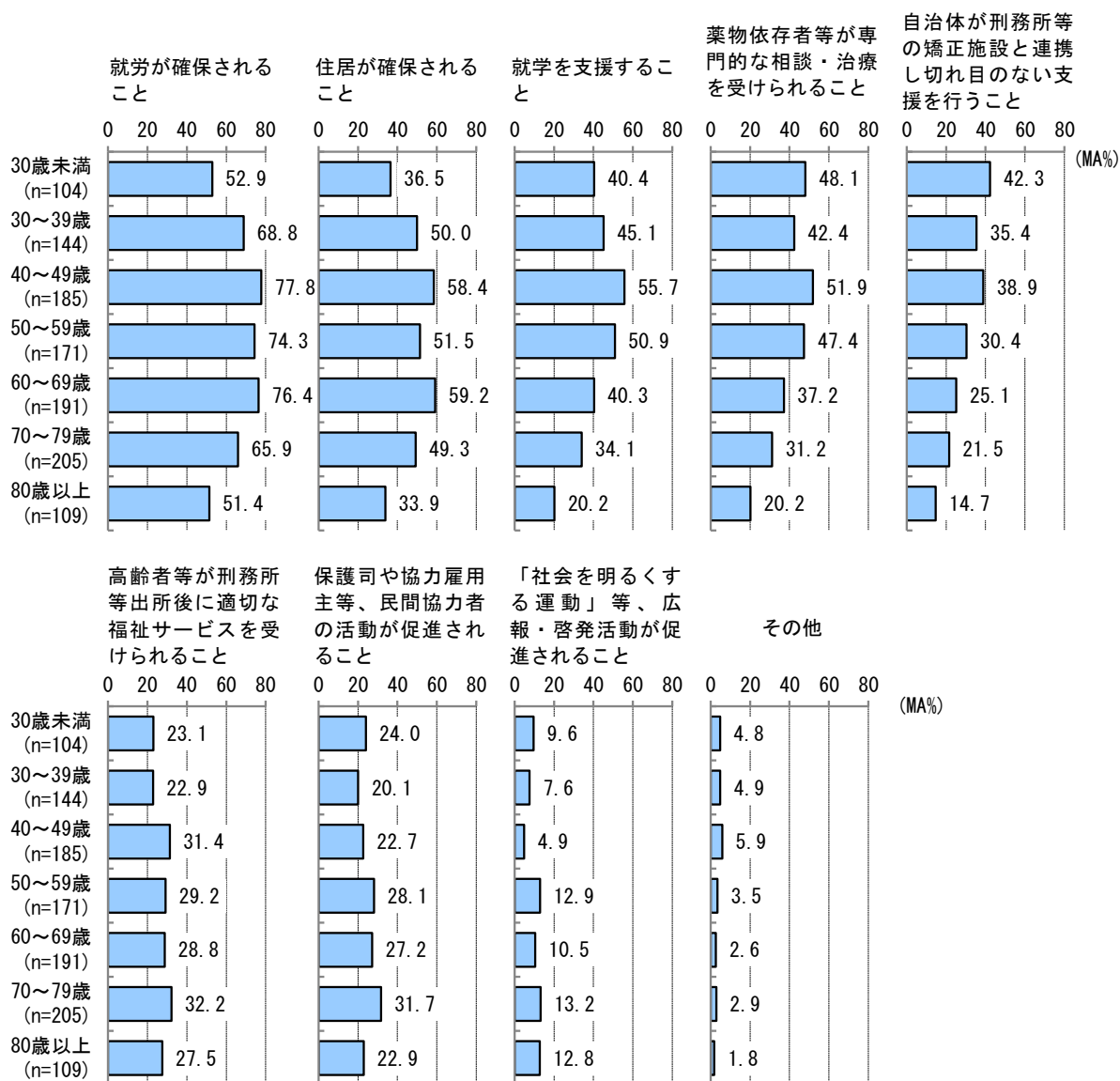
【図9-2 再犯や再非行を防止するために必要なこと】



再犯や再非行を防止するために必要なことについては、「就労が確保されること」が68.5%で最も多く、次いで「住居が確保されること」が49.7%、「就学を支援すること」が41.9%となっています。(図9-2)

年齢別でみると、いずれの年代も「就労が確保されること」が最も多いですが、「就労が確保されること」、「住居が確保されること」、「就学を支援すること」、「薬物依存者等が専門的な相談・治療を受けられること」、「自治体が刑務所等の矯正施設と連携し切れ目のない支援を行うこと」はいずれも80歳以上で最も低くなっています。(図9-2-1)

【図9-2-1 年齢別 再犯や再非行を防止するために必要なこと】



10. 自由意見

回答者のうち、270人から要望や意見が寄せられ、延べ件数は370件でした。
主な意見を整理すると次のとおりとなっています。

行政施策・職員対応について	116 件
<ul style="list-style-type: none">●情報入手手段がわからない、情報発信方法の工夫を(情報ツール、インターネット以外等)(18件)●相談窓口について(相談先がわからない、気軽に相談できる場所の充実、周知、職員の対応等)(14件)●市長、職員への不満(9件)●節税し、無駄をなくす(6件)●住みよい吹田であってほしい(5件)●税金、国保が高い(5件)●とにかく行動してほしい。町に出て動いてほしい(3件)●国会議員への不満(不正をなくす。国会中継がひどい)(3件)●SNSをもっと活用してほしい(2件)●市民のために予算を使ってほしい(2件)●高齢者や子育て世代のどちらにも該当しない世代は税金が高いだけで何の恩恵も受けられない(2件)●受動喫煙防止対策の充実(2件)●その他(45件)<ul style="list-style-type: none">・地域の声を聞く市政に共感する・いろいろ考えているが結果が出ていない・ネットで手続きができるようにしてほしい・外国人との共生のための啓発や対応も重要・「NATS」の活用を地域的施策に活用すべき・社会的弱者や被災者で不自由な生活を余儀なくされている人への経済的支援を など	
子育て支援について	47 件
<ul style="list-style-type: none">●待機児童問題の解消、入園したい人が皆入れるように(8件)●児童虐待、児童養護施設の子供の支援に注力してほしい(3件)●高齢者より子育て支援を優先してほしい(2件)●子供たちが思いっきり遊べる場を各地域につくってほしい(2件)●1学級定員を25~30名に。定員を減らす(2件)●中学校や高校で地域福祉を教えてほしい(2件)●その他(28件)<ul style="list-style-type: none">・小中学校の先生の質の向上をしてほしい・保育士への待遇をよくしてほしい・公的な病後児保育施設の充実・駅前に病児保育、一時預かりの施設をつくってほしい・高校生以上にも支援があればいい など	
高齢者施策について	41 件
<ul style="list-style-type: none">●高齢者が入れる施設やグループホームをつくってほしい(6件)●高齢者が暮らしやすい世の中にしてほしい(5件)●老後が不安(3件)●高齢者にバス、電車の無料(割引)パスを支給してほしい(2件)	

- 世代間交流が必要（2件）
- 高齢者支援を充実させてほしい（2件）
- 高齢者で低所得者への支援の充実（医療費、年金増額等）（2件）
- 介護業界の待遇の改善（2件）
- その他（17件）
 - ・マッサージ施術をデイサービスに組み込んでほしい
 - ・後期高齢者に印章やリボン等で年齢がわかるようにしたら、助け合いやすい
 - ・自身が健康寿命を延ばすことが大事
 - ・65歳以上の市民に万博公園や民博等を無料開放しては など

都市整備について

23件

- 公共交通機関（循環バス等）の整備（バス停まで距離がある。通院、買い物が不便）（6件）
- 空地の再利用（農業体験等）（2件）
- その他（15件）
 - ・吹田駅の自転車用自動スロープの設置
 - ・万博にコンサート会場を作るのはやめてほしい
 - ・小学校の空き教室を行政が利用して福祉の場にする
 - ・山田駅周辺のバリアフリー化 など

防災・災害時の対応について

20件

- 災害対策を推進する組織の充実。迅速な対応（3件）
- 避難所に全員が入れないのでは等、ハード面に不安（3件）
- 災害時の情報収集に不安（広報車の声が聞き取りにくい。スーパーや駅で街頭放送しては）（2件）
- 災害に対する情報の周知（2件）
- その他（10件）
 - ・避難所までの道が危険
 - ・ペットや認知症高齢者は分けて避難できるようにしてほしい
 - ・公園に井戸を掘ったり、発電機を設置してほしい など

保健・医療・福祉全般について

13件

- 20歳以下（高校卒業まで）の子供は医療費を安くしてほしい（4件）
- その他（9件）
 - ・病院に行かない健康な70歳以上の高齢者に還付金を出してあげるべき
 - ・市民病院への交通の便を考えてほしい
 - ・市民病院患者用巡回バスがいつも満車で乗車できない
 - ・健診の医療機関がわかりにくい。受けられる期間が短い など

地域活動について

13件

- 高齢化により、住民の助け合いに期待するのは無理がある。若い人に頼るのは負担が大きいのでは（2件）
- 高齢化・多国籍化により自治会運営が困難になってきた（2件）
- その他（9件）
 - ・地域交流のありがたみ、必要性を明確にすればよいのでは
 - ・吹田市内の大学の大学生に積極的に呼びかけては
 - ・若く、新しい人材育成が必要 など

障害者支援について

10件

- 障害者が入れる施設やグループホームをつかってほしい（2件）
- その他（8件）

- ・発達障害や知的障害者に対して、偏見の目を持たず、理解のある社会にしてほしい
- ・障害者の福祉サービスの拡充に期待している
- ・手帳のない障害児への補助も考えてほしい
- ・吹田市内の子供が皆同じ支援学校に通えるようにしてほしい など

就労支援について

7件

●その他 (7件)

- ・雇用を増やし、引きこもりを出して働かせてほしい
- ・外国人に頼らず、もっと元気な高齢者を働かせてほしい
- ・高次脳機能障害や精神障害者の働く場への支援が少ない など

防犯について

6件

●その他 (6件)

- ・防犯カメラの設置を増やしてほしい
- ・岸辺駅からの帰宅経路に外灯が少なく町が暗い
- ・犯罪被害者より加害者のほうが優遇されています。被害者に対する支援を など

ボランティアについて

6件

●ボランティアの情報をどこで調べたらいいかわからない (3件)

●その他 (3件)

- ・市の職員が率先してボランティア活動をして、市民の手本になる
- ・災害時等ボランティアの受け入れ方法を明確にしておいてほしい など

生活保護について

5件

●生活保護の認定基準や認定後の管理を厳しくしてほしい (2件)

●生活保護は現物支給にすべき (2件)

●その他 (1件)

- ・国民年金より生活保護費のほうが高いのはおかしい

地域福祉について

3件

●その他 (3件)

- ・地域福祉サービスに従事する人の待遇改善 など

アンケートについて

52件

●調査後どのように協議し活動されるか、反映されたか、教えてほしい (7件)

●アンケートでサービス等を初めて知った (7件)

●項目が多く、答えるのに時間がかかった。とても疲れた。難しかった (7件)

●ご苦労様、遅くなった等 (5件)

●無作為抽出なはずなのにアンケートが何度も送られてくる (5件)

●調査方法の改善 (マークシート方式・インターネット) (4件)

●アンケートに答えても何も改善されない (3件)

●高齢のため協力できない (3件)

●行政に関心がなかったことに気づいた (2件)

●QOLが低下している人への設問や子供に関する設問がない (2件)

●その他 (7件)

- ・ふりがながあって読みづらい
- ・用語説明一覧とふりがながあってよかった
- ・吹田市の人口に対して調査対象者数が少ないのでは など

その他

8件

●回答者の状況 (8件)